岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第396集

沢田（さわだ）2遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石遠野線沢田地区緊急整備事業関連遺跡発掘調査

岩手県釜石地方振興局土木部
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

沢田（さわだ）2遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石遠野線沢田地区緊急整備事業関連発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら先人たちの創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。開発によって遺跡が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面、それまで闇に包まれていた先人の営みに光明が当たるのも事実であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、㈶岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘を行い、記録保存する処置をとってきました。

本書は、釜石市栗林町沢田地区の「主要地方道釜石遠野線緊急地方整備事業」の施行に伴い、平成11年度と13年度にかけて発掘調査を実施した沢田２遺跡の調査結果をまとめたものであります。

遺跡は、縄文時代の集落跡で、縄文時代前期前葉から中葉にかけての竪穴住居跡や土坑が検出されております。発掘調査例の少ない鵜住居川流域に広がる当遺跡は、釜石市内はもちろん、岩手県沿岸地域における縄文時代の人々の生活を解明する上で、貴重な資料となりうると確信しております。

本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに、埋蔵文化財に対する関心と理解を一層深めることに役立つことを願う次第であります。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にご協力と援助を賜りました釜石市教育委員会をはじめとする関係機関、屋外・室内作業員など関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成14年２月

財団法人岩手県文化振興事業団
理事長　村　上　勝　治

例　　言

1．本書は、主要地方道釜石遠野線沢田地区緊急地方整備事業にかかる釜石市栗林町第11地割１番地１ほかに所在する沢田２遺跡の発掘調査報告書である。本遺跡の岩手県遺跡台帳番号はＭＧ31－2270で、略号はＳＤ２－99・01となっている。

2．発掘調査は平成11年８月16日から10月30日、平成13年８月６日から11月14日に実施され、室内整理は平成12年11月１日から３月31日、平成13年11月１日から３月31日まで行われた。調査面積は平成11年度が1,442㎡、平成13年度が2,112㎡である。

3．今回の発掘調査による成果の一部は、平成11年度及び平成13年度の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第340集及び397集の「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報」で公表済みまたは公表するが、本書を正式な報告書とする。

4．発掘調査は平成11年度は鳥居達人・中田迪、平成13年度は鳥居達人・亀大二郎が担当した。

5．室内整理は鳥居達人・亀大二郎が担当した。

6．執筆編集で、Ⅰ 調査に至る経過は釜石地方振興局土木部、Ⅳ２ 近世の遺構と遺物は亀大二郎が執筆し、ほかは鳥居が担当している。

7．航空写真・基準点測量及び実測・鑑定業務は次の方々に依頼した。

航空写真	東邦航空株式会社
基準点測量	釜石測量設計株式会社
石質鑑定	花崗岩研究所
石器実測	株式会社アルカ（代表　角張淳一）
鉄製品保存処理	岩手県立博物館

8．本報告書挿図中に使用した土色表記は、農林省農林水産技術会議事務局作成、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色貼」９版1989年によっている。

9．本報告書の作成にあたり、次の方々に協力・ご指導いただいた。

岩手県教育委員会生涯学習文化課　小田野哲憲

宮城県教育長文化財保護課　相原淳一

釜石市教育委員会社会教育課　中村公一　手塚新太　森一欽

釜石市立郷土資料館　平田祐彌

遠野市教育委員会　小向裕明　長谷川浩

10．発掘調査による出土遺物及び記録資料は岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

[本　文　目　次]

序
例言
目次
Ⅰ　調査に至る経過 …… 5
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 5
Ⅲ　調査と整理の方法 …… 12
Ⅳ　検出された遺構と遺物 …… 15
1　縄文時代の遺構と遺物 …… 15
（1）竪穴住居跡 …… 15
（2）土坑 …… 45
（3）遺物包含層 …… 67
（4）出土縄文土器 …… 68
（5）出土石器、石製品、土製品 …… 76
（6）小結 …… 140
①　竪穴住居跡の変遷 …… 140
②　まとめ …… 141
2　近代の遺構と遺物 …… 143
（1）鍛冶場跡 …… 143
（2）土坑 …… 143
（3）出土遺物 …… 143
（4）小結 …… 144
3　時代不明の遺構 …… 144
Ⅴ　まとめと考察 …… 149
1　遺物のまとめ …… 149
2　終わりに …… 150

[表　目　次]

表1　近隣の遺跡分布 …… 10
表2　遺構名称変更表 …… 14
表3　縄文時代の遺構一覧表 …… 65
表3　遺物観察表 縄文土器 …… 123
表4　遺物観察表 石器・石製品・土製品 …… 135
表5　遺物観察表 近世の遺物 その他 …… 148

[図 版 目 次]

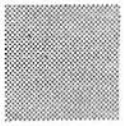
第１図　岩手県全図……1
第２図　遺跡の位置図……2
第３図　地形区分図と地質図……3
第４図　周辺の地形と調査区……4
第５図　周辺の遺跡図①②……8
第６図　基本層序柱状図……11
第７図　グリッド設定図……11
第８図　遺構配置図……16
第９図　ＲＡ01・02竪穴住居跡……18
第10図　ＲＡ03・05竪穴住居跡……20
第11図　ＲＡ04・06竪穴住居跡……21
第12図　ＲＡ07竪穴住居跡……22
第13図　ＲＡ09竪穴住居跡……24
第14図　ＲＡ08・10・11竪穴住居跡……26
第15図　ＲＡ12・15竪穴住居跡……28
第16図　ＲＡ13竪穴住居跡……30
第17図　ＲＡ14竪穴住居跡……31
第18図　ＲＡ16・17・18竪穴住居跡……32
第19図　ＲＡ19・26竪穴住居跡……36
第20図　ＲＡ20竪穴住居跡……37
第21図　ＲＡ21・23竪穴住居跡……38
第22図　ＲＡ22・24竪穴住居跡……40
第23図　ＲＡ25・27竪穴住居跡……42
第24図　ＲＤ01・02・04・06土坑……44
第25図　ＲＤ07・08・10・13・22～27土坑……47
第26図　ＲＤ15・16・21・28・30・31土坑……49
第27図　ＲＤ14・17～20・29土坑……55
第28図　ＲＤ32～37土坑……56
第29図　ＲＤ38・39・46土坑……58
第30図　ＲＤ40～45土坑……60
第31図　ＲＤ47～50　土坑……62
第32図　遺物包含層平面図……66
第33図　遺物包含層断面図……69
第34図　各区域土層図……70
第35図　遺構内出土土器１……77
第36図　遺構内出土土器２……78
第37図　遺構内出土土器３……79
第38図　遺構内出土土器４……80
第39図　遺構内出土土器５……81
第40図　遺構内出土土器６……82
第41図　遺構内出土土器７……83
第42図　遺構内出土土器８……84
第43図　遺構内出土土器９……85
第44図　遺構内出土土器10……86
第45図　遺構内出土土器11……87
第46図　遺構内出土土器12……88
第47図　遺構内出土土器13……89
第48図　遺構内出土土器14……90
第49図　遺構内出土土器15……91
第50図　遺構外出土土器１……92
第51図　遺構外出土土器２……93
第52図　遺構外出土土器３……94
第53図　遺構外出土土器４……95
第54図　遺構外出土土器５……96
第55図　遺構外出土土器６……97
第56図　遺構外出土土器７……98
第57図　遺構外出土土器８……99
第58図　遺構外出土土器９……100
第59図　遺構外出土土器10……101
第60図　遺構外出土土器11……102
第61図　遺構外出土土器12……103
第62図　遺構外出土土器13……104
第63図　遺構外出土土器14……105
第64図　遺構外出土土器15……106
第65図　遺構外出土土器16……107
第66図　遺構外出土土器17……108
第67図　出土石器１……109
第68図　出土石器２……110

第69図　出土石器３ ……111
第70図　出土石器４ ……112
第71図　出土石器５ ……113
第72図　出土石器６ ……114
第73図　出土石器７ ……115
第74図　出土石器８ ……116
第75図　出土石器９ ……117
第76図　出土石器10 ……118
第77図　出土石器11 ……119
第78図　出土石器12 ……120
第79図　出土石器13 ……121
第80図　出土石器14 ……122
第81図　近世の鍛冶炉跡 ……142
第82図　近世の土坑 ……145
第83図　時代不明の掘立柱建物跡 ……146
第84図　近世の出土遺物 ……147

［写真図版目次］

写真図版１　航空写真 ……153
写真図版２　基本土層ほか ……154
写真図版３　ＲＡ01竪穴住居跡 ……155
写真図版４　ＲＡ02 竪穴住居跡 ……156
写真図版５　ＲＡ03竪穴住居跡 ……157
写真図版６　ＲＡ04竪穴住居跡 ……158
写真図版７　ＲＡ05・06竪穴住居跡 ……159
写真図版８　ＲＡ07竪穴住居跡 ……160
写真図版９　ＲＡ07遺物出土状況 ……161
写真図版10　ＲＡ08・10竪穴住居跡 ……162
写真図版11　ＲＡ09竪穴住居跡 ……163
写真図版12　ＲＡ11・12竪穴住居跡 ……164
写真図版13　ＲＡ13・14竪穴住居跡 ……165
写真図版14　ＲＡ15・16竪穴住居跡 ……166
写真図版15　ＲＡ17・18・19竪穴住居跡 ……167
写真図版16　ＲＡ20竪穴住居跡 ……168
写真図版17　ＲＡ21竪穴住居跡 ……169
写真図版18　ＲＡ22・24竪穴住居跡 ……170
写真図版19　ＲＡ23・25竪穴住居跡 ……171
写真図版20　ＲＡ26・27竪穴住居跡 ……172
写真図版21　ＲＤ01・02・04・06土坑 ……173
写真図版22　ＲＤ07・08・10土坑 ……174
写真図版23　ＲＤ13～16土坑 ……175
写真図版24　ＲＤ17～20土坑 ……176
写真図版25　ＲＤ21～24土坑 ……177
写真図版26　ＲＤ25～28土坑 ……178
写真図版27　ＲＤ29～32土坑 ……179
写真図版28　ＲＤ33～36土坑 ……180
写真図版29　ＲＤ37～40土坑 ……181
写真図版30　ＲＤ41～44土坑 ……182
写真図版31　ＲＤ45～50土坑 ……183
写真図版32　遺物包含層１ ……184
写真図版33　遺物包含層２ ……185
写真図版34　近世の焼土 ……186
写真図版35　近世の土坑・不明の掘立柱建物跡　187
写真図版36　出土遺物（縄文土器１）……188
写真図版37　出土遺物（縄文土器２）……189
写真図版38　出土遺物（縄文土器３）……190
写真図版39　出土遺物（縄文土器４）……191
写真図版40　出土遺物（縄文土器５）……192
写真図版41　出土遺物（縄文土器６）……193
写真図版42　出土遺物（縄文土器７）……194
写真図版43　出土遺物（縄文土器８）……195
写真図版44　出土遺物（縄文土器９）……196
写真図版45　出土遺物（縄文土器10）……197
写真図版46　出土遺物（縄文土器11）……198
写真図版47　出土遺物（縄文土器12）……199
写真図版48　出土遺物（縄文土器13）……200
写真図版49　出土遺物（縄文土器14）……201
写真図版50　出土遺物（縄文土器15）……202
写真図版51　出土遺物（縄文土器16）……203
写真図版52　出土遺物（縄文土器17）……204

写真図版53　出土遺物（縄文土器18）……205
写真図版54　出土遺物（縄文土器19）……206
写真図版55　出土遺物（縄文土器20）……207
写真図版56　出土遺物（縄文土器21）……208
写真図版57　出土遺物（縄文土器22）……209
写真図版58　出土遺物（縄文土器23・石器１）…210
写真図版59　出土遺物（石器２）……211
写真図版60　出土遺物（石器３）……212
写真図版61　出土遺物（石器４）……213
写真図版62　出土遺物（石器５）……214
写真図版63　出土遺物（石器６）……215
写真図版64　出土遺物（石器７）……216
写真図版65　出土遺物（石器８）……217
写真図版66　出土遺物（石器９）……218
写真図版67　出土遺物
（石器10・石製品・土製品）……219
写真図版68　出土遺物（近世１）……220
写真図版69　出土遺物（近世２）……221
写真図版70　出土遺物（近世３）……222


焼土

炭化物

-------- 推定線

S 礫

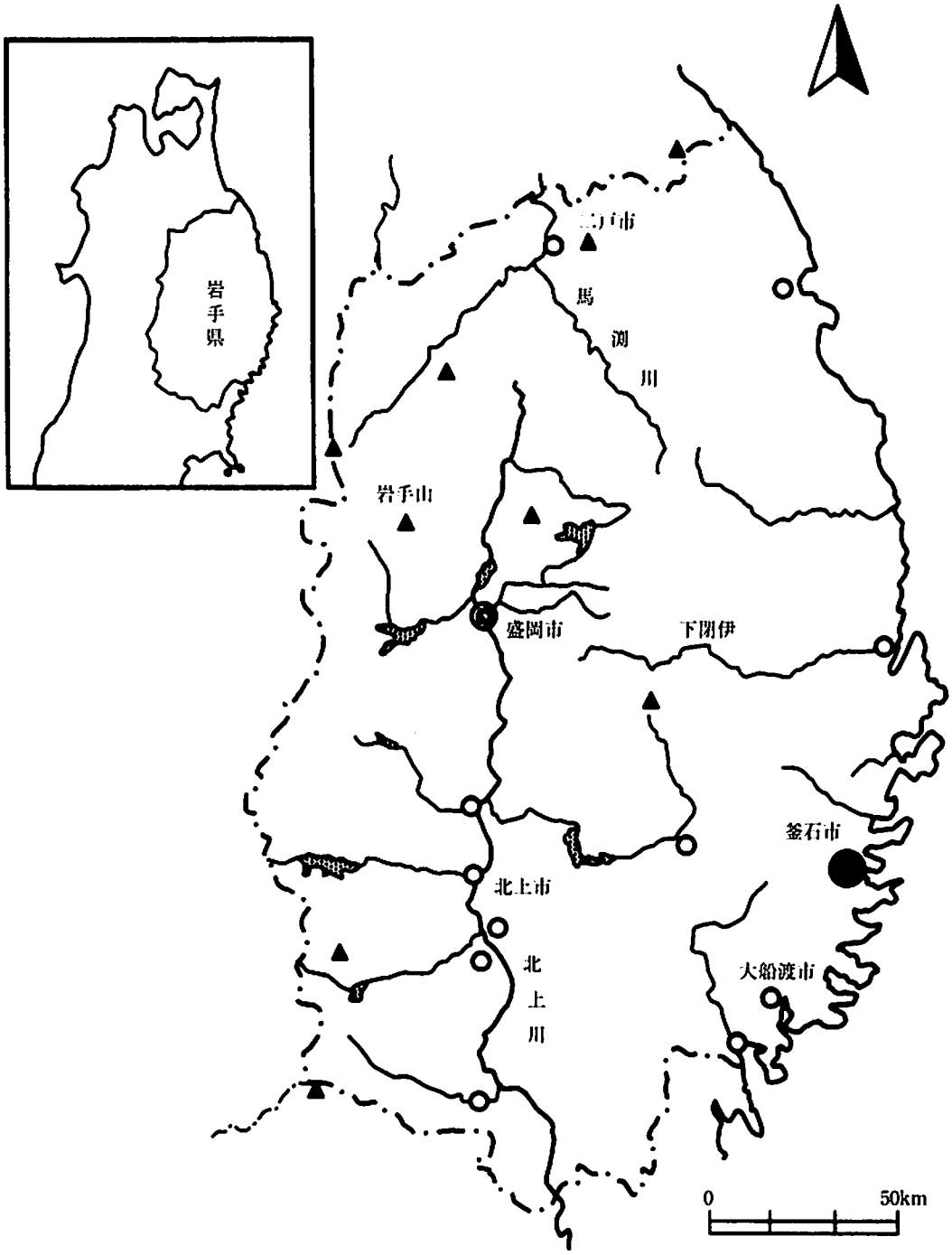
礫

P 土器

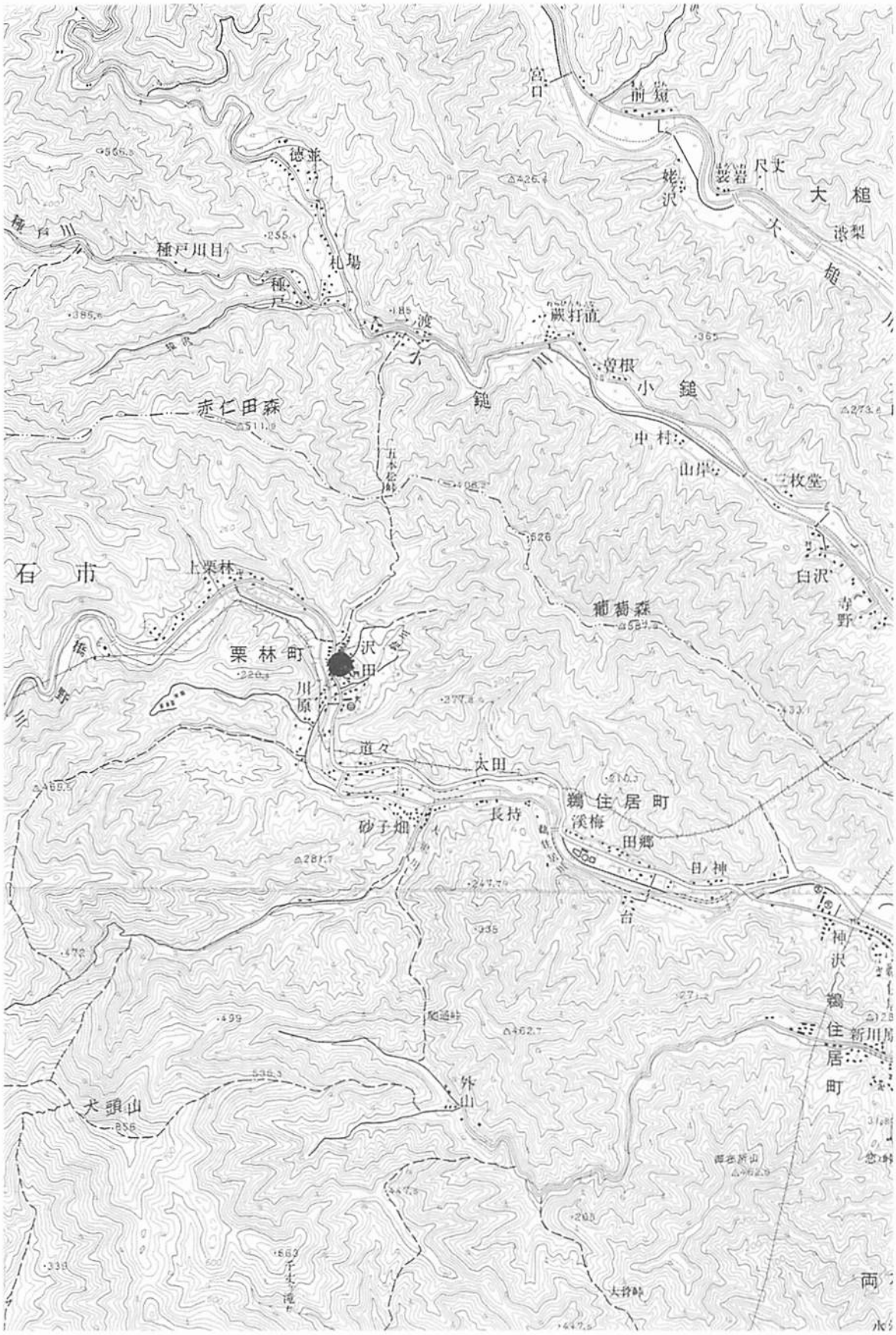
カクラン

旧河道

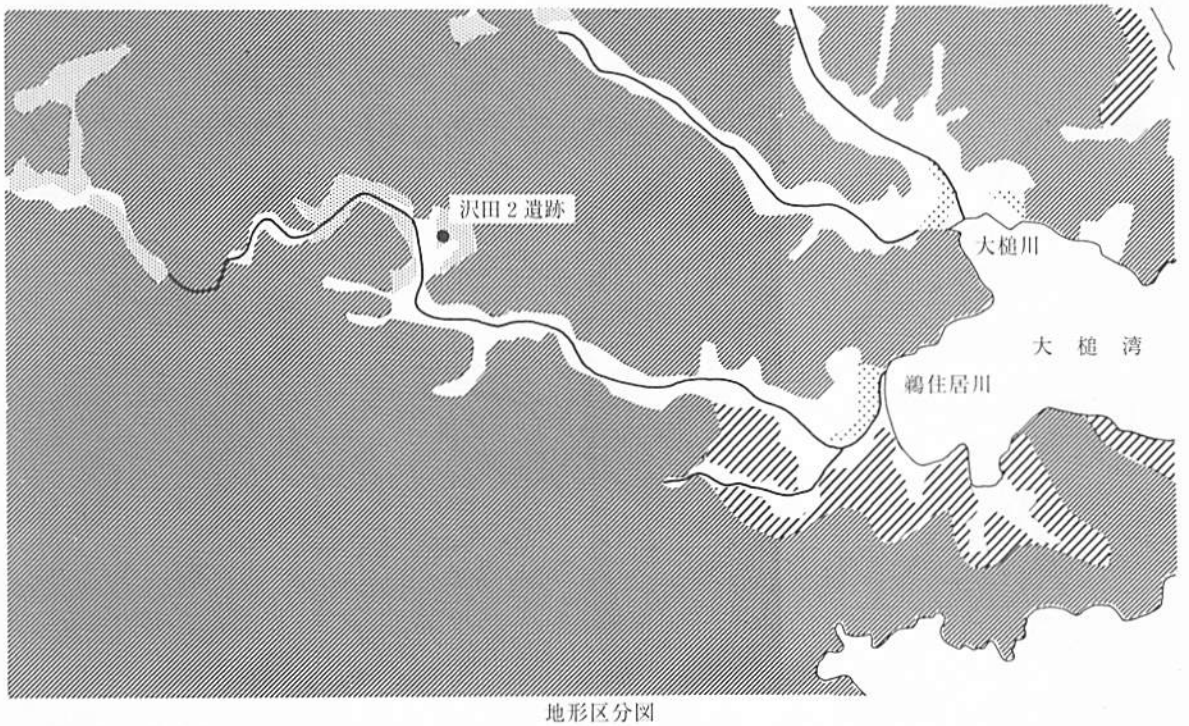
グリッド杭



第１図　岩手県全図


宮口
前嶺
姥沢
裳岩
尺丈
大槌
渋梨
徳並
種戸川目
札場
種戸
渡
蕨打直
曽根
小鎚
鎚
赤仁田森
中村
山岸
三枚堂
白沢
寺野
石市
上栗林
葡萄森
栗林町
沢田
川原
道々
太田
鵜住居町
長持
溪梅
田郷
日神
砂子畑
台
神沢
新川原
外山
犬頭山

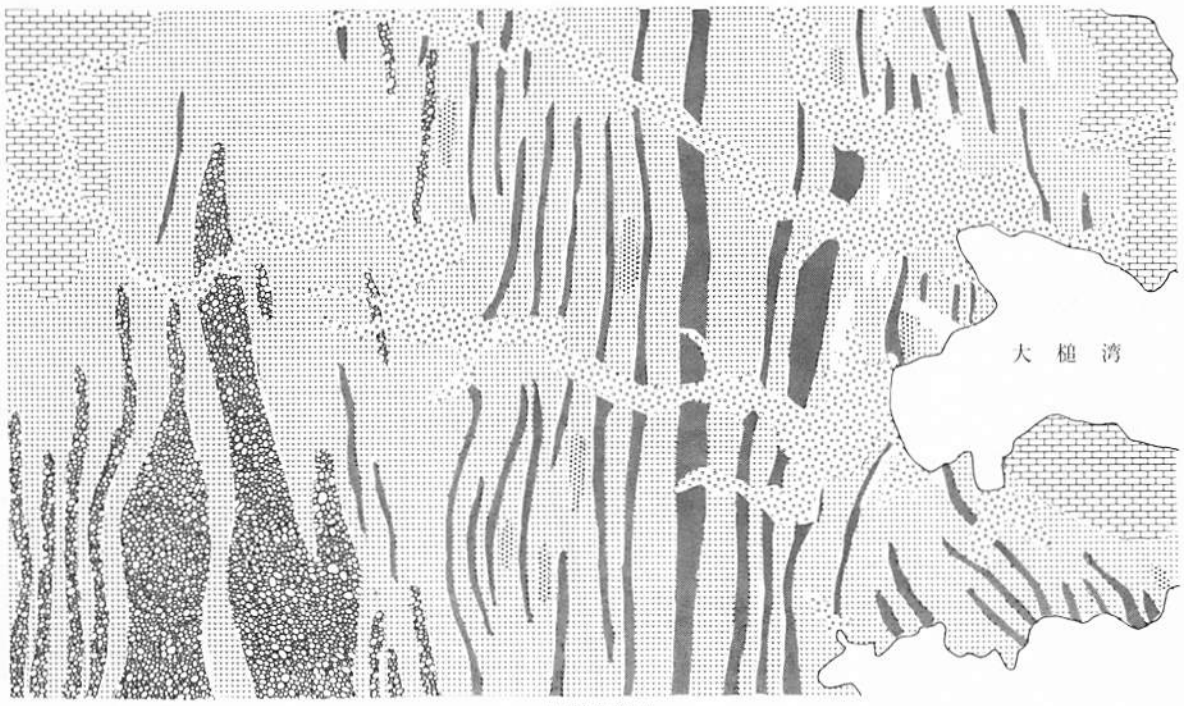
第2図　遺跡の位置



地形区分図

起伏山地(起伏量200～400m以上)　砂礫段丘　海岸平野

小起伏山地(起伏量200m以下)　低地



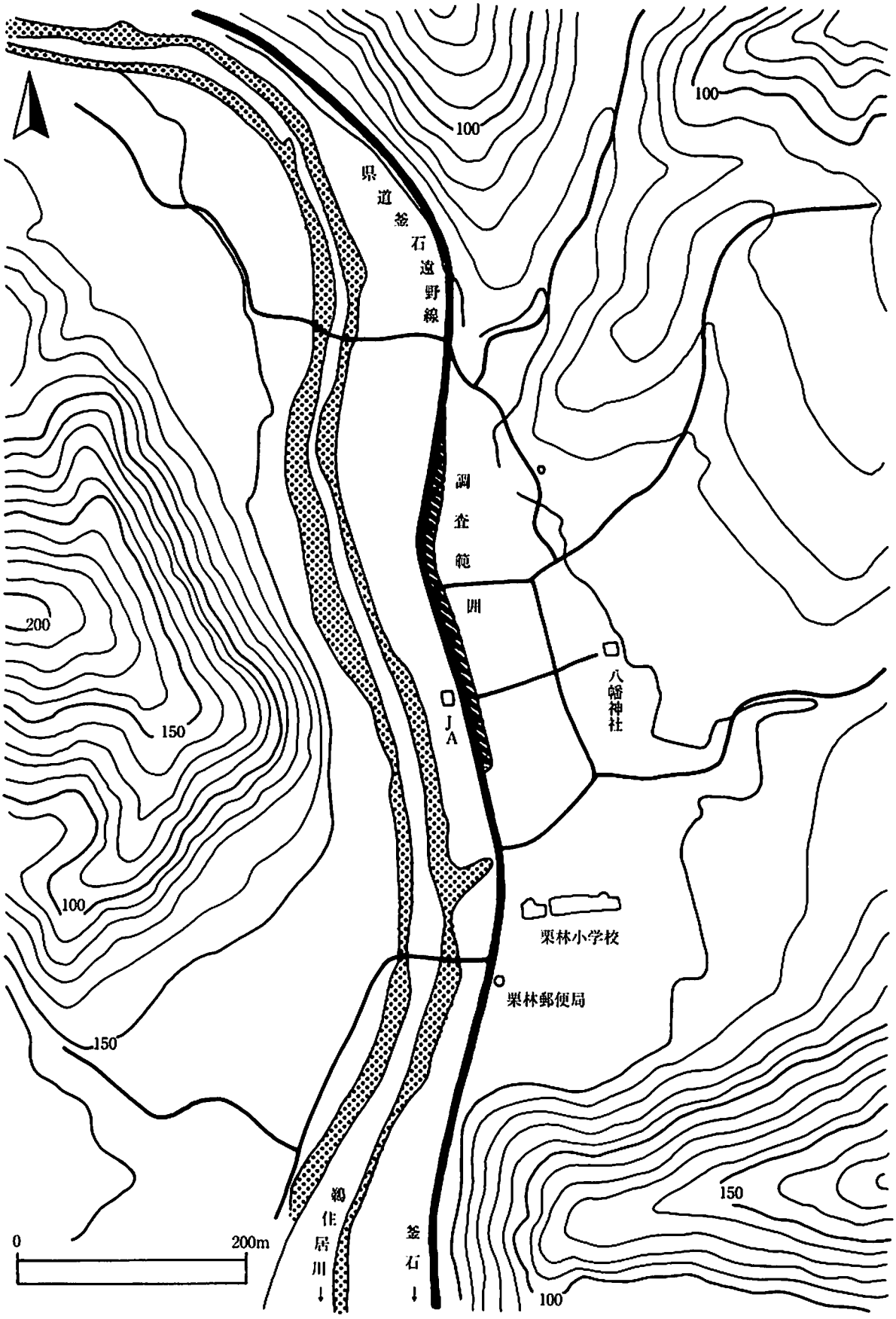
地質分類図

泥岩　石灰岩　花崗岩

砂礫および砕屑物　斑糲岩質岩石　輝緑凝灰岩　珪岩質岩石

0　5km

第３図　地形区分図と地質図



第4図　周辺の地形と調査区

Ⅰ　調査に至る経緯

沢田２遺跡は「主要地方道釜石遠野線沢田地区緊急地方整備事業」の施行に伴って、その事業区域内に位置することから発掘調査することになったものである。

当事業は、主要地方道釜石遠野線沢田地区において、現況１車線の道路を、歩道付き２車線道路に拡幅改良する道路改築事業である。事業者である岩手県釜石地方振興局土木部では、事業実地に先立ち、岩手県教育委員会に対し、事業区域内における埋蔵文化財の分布調査を依頼した。依頼を受けた岩手県教育委員会では、現地踏査により埋蔵文化財の存在を確認し、平成10年９月10日・10月19日の延べ２日間、埋蔵文化財の内容把握のため試掘調査を実施した。試掘の結果、縄文時代に属する多量の土器片のほか住居跡等の遺構が発見されたことから、工事着手に先立ち記録保存を目的とした発掘調査が必要である旨、平成10年９月14日付け教文第636号及び平成10年10月22日付け教文第765号により釜石地方振興局土木部に通知した。

通知を受けた釜石地方振興局土木部では、岩手県教育委員会から平成11年度埋蔵文化財発掘調査にかかる事業集約の問い合わせに対し、調査を実施してほしい旨の回答をした。

回答を受けた岩手県教育委員会は、釜石地方振興局に対し、平成11年度３月２日付け教文第1251号「平成11年度埋蔵文化財発掘調査事業について」によって、平成11年度に発掘調査を実施する事とし、実際の調査は（財）岩手県文化振興事業団が担当する旨を通知した。

調査は一部区間の住居移転の関係で平成11年度と平成13年度に分けて行われた。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

１遺跡の位置と地理的環境（第１～２図）

沢田２遺跡のある釜石市は、岩手県の太平洋岸やや南よりに位置し、東は御箱崎・尾崎・死骨崎などの諸岬が洋上に突きだし、大槌湾・両石湾・釜石湾・唐丹湾を形成する。西端には五郎作山（927.2m）・大峰山（1147.5m）・愛染山（1228.5m）・五葉山（1341.3m）など北上高地が北から南に連なる。

世界屈指の好漁場を沖合に持つ釜石市は古くから漁業が盛んで、また享保12年（1727）に大橋で初めて鉄鉱石が発見されてから近代製鉄業のメッカとしても発達してきた。しかし粗鋼・鋼材を生産していた釜石製鉄所は昭和60年に第二高炉が、平成元年には第一高炉が休止した。現在では陸中海岸国立公園に含まれる変化に富んだ海岸線や新鮮な魚貝類、美しい山岳地帯を中心とした観光開発にも力が注がれている。

沢田２遺跡は、その釜石市の中心部から北側の上閉伊郡大槌町との境界に近い釜石市栗林町内にある。ＪＲ東日本の鵜住居駅からは、西北西に約6.5km離れる。

２地形と地質（第３図）

三方を起伏山地で囲まれている釜石市周辺は河川が多く発達している。鵜住居川・甲子川（大渡川）・片岸川・熊野川などが北上高地を水源として東流し、太平洋に入る。それらは落差が大きく深く山を削って渓谷となる。これらの河川は海にいたり、小規模な平地を形成する。

第３図上は鵜住居川流域の地形区分図である。鵜住居川の河口には低地や砂浜が広がっており、海岸平野を形成しているのが見て取れる。また中流域には小規模の段丘がある。鵜住居川では沢田２遺跡のある栗林

町や橋野町付近、小鎚川では大槌町蕨打直付近に広がるが、連続性に乏しい。これらの段丘は砂礫層を載せており上位ほど形成時期は古い。集落は砂礫段丘下位から谷底平野、氾濫平野に立地する。図中であると大槌川・小鎚川・鵜住居川沿岸がそれにあたるが、海岸部では山麓及び緩斜面区域でも集落は存在する。

栗林町周辺の土地利用状況は、谷底平野部では水田や集落、段丘面では果樹園が多い。

次に地質をみてみる。(第3図下)

この区域の基盤層は地質時代で、「古生代二畳紀北上山地北部型古生層」に当たり、粘板岩や泥岩を主体としている。海岸部に近い起伏山地に珪岩質岩石（チャート）が南北に幾筋にも連なる特色を持つ。また、同じ古生層の石灰岩層が海岸部に、輝緑凝灰岩層がレンズ状に南西部に広がる。

火山性岩石では花崗岩質岩石が図中の北西部橋野町付近にある。花崗岩は風化してマサ土化し、崩れやすい。これらの砂は鵜住居川によって海に運ばれ砂嘴を形成した。また斑糊岩質のひん岩が古生層中に脈状に貫入している箇所が図中の中央部にみられる。この岩石は硬質である。

以上2つの資料から、沢田2遺跡は自然作用によって作られた段丘面に位置していることがわかり、鵜住居川に限らず、同じような段丘面に位置する区域でも縄文の遺跡が存在する可能性を指摘できる。また、沢田2遺跡で出土する石器や石製品には上記の石質を持った石材が使われており、その意味でも、縄文時代の人々の生活に密接な関連があると言える。

次に遺跡の分布をみてみよう。

3　周辺の遺跡（第5図①②・表1）

沢田2遺跡の存在する栗林町付近や鵜住居川上流の橋野町付近は遺跡数が多い。ただし近代遺跡である橋野高炉跡・栗林銭座跡を除きすべてが未調査のものである。第5図　周辺の遺跡①は平成3年度に釜石市教育委員会でまとめた分布調査報告書から、縄文時代の遺跡を抜粋したものである（1～19)。

栗林町周辺では縄文時代中期から後期の土器散布地が点在する。その中で16の砂子畑第2遺跡では黒曜石の石器（掻器）が出土している。道路建設時の客土からの出土ではあるが、近隣には存在しない石材であることから注目される。

鵜住居川上流域になると、縄文時代早期から前期の土器片が出土する遺跡もある。8・9・10（10は←の方向に約1km）は鵜住居川から枝分かれする沢桧川の北側に存在し、特に10沢桧大平遺跡からは尖底土器や大型の石槍が出土している。

第5図　周辺の遺跡②は比較的発掘例のある大槌湾沿岸の縄文時代の遺跡を取り上げた。発掘調査されているのは35・46・47・49の4遺跡である。35崎山弁天貝塚は、昭和46年度に大槌町教育委員会と岩手大学で共同発掘された縄文時代早期から晩期までの貝塚である。早期では表裏縄文が施された土器片が出土した。また前期の大木2a・b式土器や晩期の大洞式土器などが出土し、特に早期から前期にかけての好資料が多い。46夏本遺跡は縄文時代中期末葉の竪穴住居跡が27棟検出されており、大槌湾周辺でもっとも大きな遺跡である。

大槌湾の南沿岸、釜石市箱崎町周辺には調査されてはいないが前期の土器片を採集できる遺跡が点在する。特に32の新箱崎大沢遺跡は前期から晩期の土器、県北の円筒下層式の土器などが出土し、地形的にも前述した崎山弁天遺跡に類似しており注目される。

その他では、気仙郡住田町（釜石市栗林町から南西に約30km）の縄文時代早期の遺跡である蛇王洞洞窟がある。岩手県では出土例が少ない縄文時代早期中葉の沈線文土器が出土しており、沢田2遺跡の性格を考え

る上で重要な遺跡である。

縄文時代についてまとめれば、釜石市を中心とした区域で早期から前期にかけての遺跡の報告は少ないと言える。よって沢田２遺跡の考古学的資料価値は大きい。

古代では大槌町の46夏本遺跡で奈良時代の住居跡５棟のほか、製鉄関連の遺構も検出され、古代の製鉄関連遺跡として注目される。鵜住居川沿線では古代の遺跡の報告はされていない。

中世では、栗林地区では沢田２遺跡を囲むかのように５つの館跡（50～54）がある。ほかに55の横内館跡など点在するが、特に栗林にまとまることは中世の交通の要地として重要な地区であったと考えられる。

最後に近世から近代にかけて、栗林地区の主産業は鉄加工業で、鍛冶を生業とするものが多く、寛政７年（1795）には鍛冶屋が数十軒あったという記録がある。慶應３年（1867）には56の栗林鍛座が設けられている。このように製鉄業を中心に栄えていた痕跡は、沢田２遺跡やその近隣の田畑から鉱滓が多数出土していることからも伺える。

4 遺跡の基本層序（第６図・34図）

遺跡は大きく分けると７つの土層で成り立っている。この区分は全体的な基本層であり、調査区域すべてにおいて同じではない。現況も田や住宅地、果樹園と様々で、それによって堆積している土層も異なる。ここでは大きく区分された土層が、どの区域にどのように広がっているかをみてみたい。

まずは最上位にあるものが表土・または耕作土（Ⅰ層）である。この層は水田の広がる南側で、下位に固くしまった整地層（Ⅰｂ）を持つ。また、県道側には凹地を平坦にするために盛った粘土層（中掫火山灰を含むⅠｃ）がみられる。この粘土は調査区の東側から運ばれたものらしい。

その下にはやや細かい礫を含む黒色土がある（Ⅱ層）。この層は近代の製鉄関連の遺物を包含する層である。調査区南側の田の下や、調査区中央部の住宅地の付近に広がる。鉄製品や鉄滓、陶磁器とともに、縄文土器を包含する。土器は縄文時代前期の土器片のほか少量であるが中後期のものを含む。

Ⅲ・Ⅳ層は縄文時代前期中葉から後葉にかけての土器を包含する層である。Ⅲ層はやや礫を多く含む黒褐色土層、Ⅳ層は砂状の暗褐色土層である。これらの層は調査区最北部の果樹園や中央部の住宅跡にみられ、南側にも広がりを認めるが、最南部においては薄く堆積するのみである。

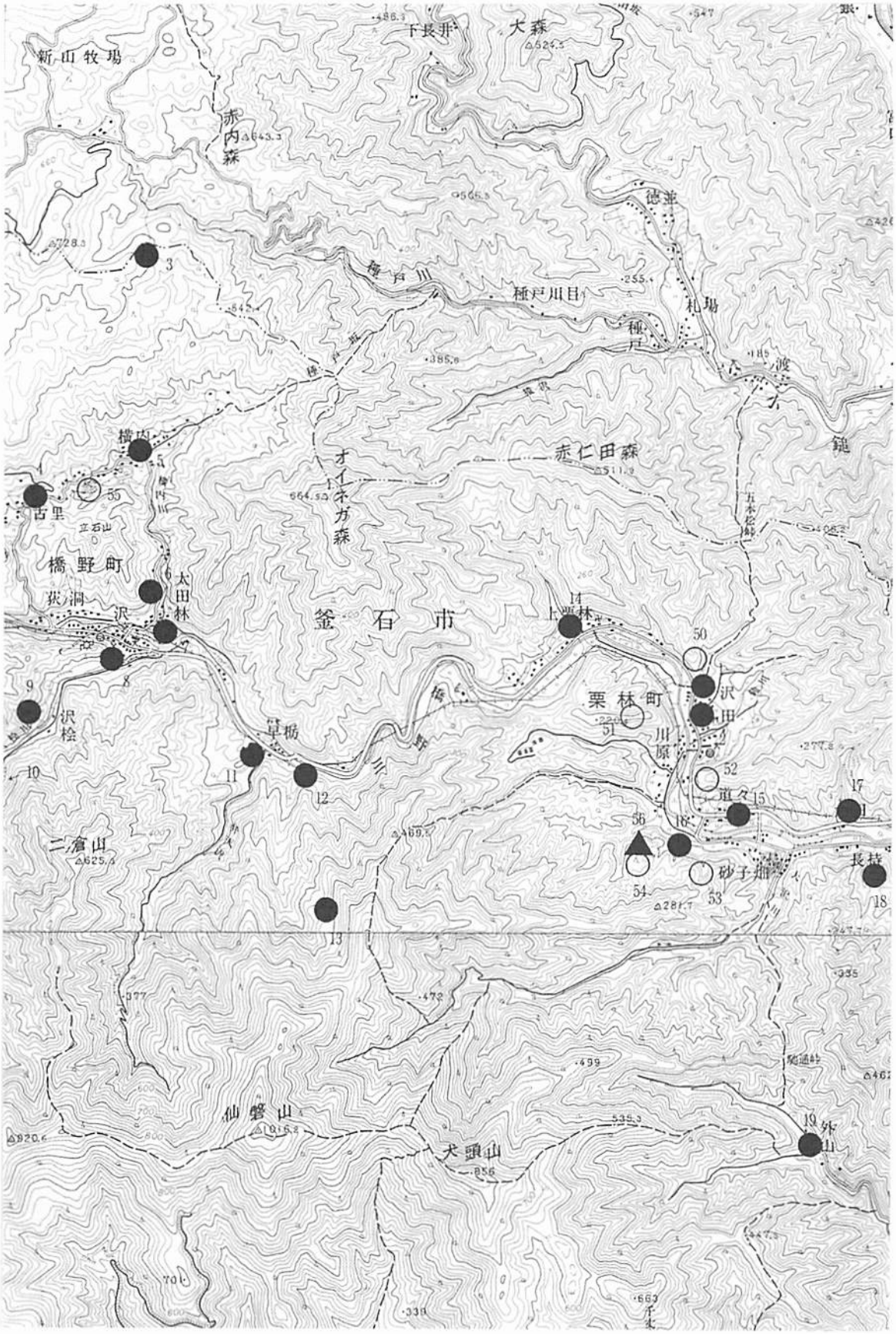
Ⅴ層は中掫火山灰らしき灰白色シルトである。このシルトは調査区北側において顕著にみられ、中央部においても一部遺構内の埋土に確認された。Ⅰ層の中に見える盛土から推測すれば、南側調査区外の東側にも堆積しているに違いない。

Ⅵ層は縄文時代前期前葉の遺物を包含する黒褐色土が堆積する。大型の礫が多量に混入することが多い。砂礫質の層である。調査区のほぼ全域に広がる。

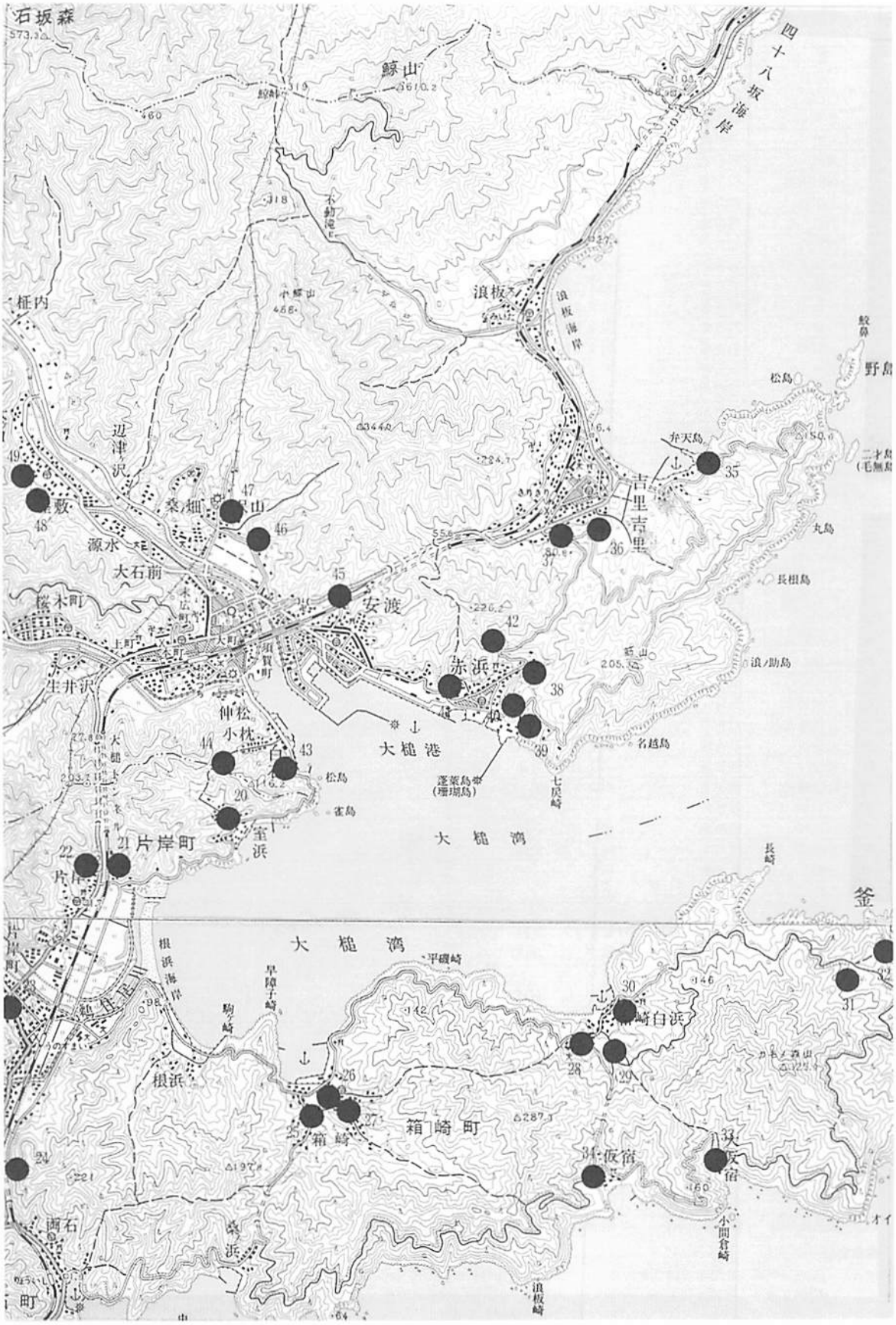
北側の遺物包含層下位には、少量の早期の土器を出土させた黄褐色の砂礫層（Ⅶ層）が堆積する。

Ⅶ層は河川氾濫を原因に持つ層で、この層は区域によって黄褐色土の砂と礫層に分かれる。礫層は調査区南側にみられ、大型の川原石が、北西から南東に幅約30ｍの範囲で調査区を横切る。また、最南部でも礫層が確認できた。それらの脇には砂が堆積される。この砂の面に遺構が検出されることが多い。

以上大観してきたが、調査区北側においては、各層とも細分できる。特に中掫火山灰を挟んで、上位や下位において確認できた。この事についてはⅣ１（３）の遺物包含層の項で触れたい。


新山牧場
下長井
大森
赤内森
徳並
種戸川
種戸川目
札場
種戸
渡
鎚
横内
赤仁田森
オイネガ森
古里
立石山
橋野町
荻洞
沢
太田林
釜石市
上栗林
栗林町
沢田
川原
沢桧
草栃
道々
二倉山
砂子畑
長持
仙磐山
犬頭山
外山

第5図　周辺の遺跡図①


石坂森
鯨山
四十八坂海岸
浪板
浪板海岸
野島
松島
弁天島
吉里吉里
丸島
長根島
浪ノ助島
名越島
七戻崎
蓬莱島
(珊瑚島)
大槌港
大槌湾
安渡
赤浜
大石前
源水
桑畑
辺津沢
桜木町
生井沢
伸松
小枕
白
室浜
片岸町
片岸
根浜海岸
根浜
箱崎
箱崎町
仮宿
大仮宿
小間倉崎
浪板崎
桑浜
両石
釜
長崎
平磯崎
早障子崎
駒ヶ崎

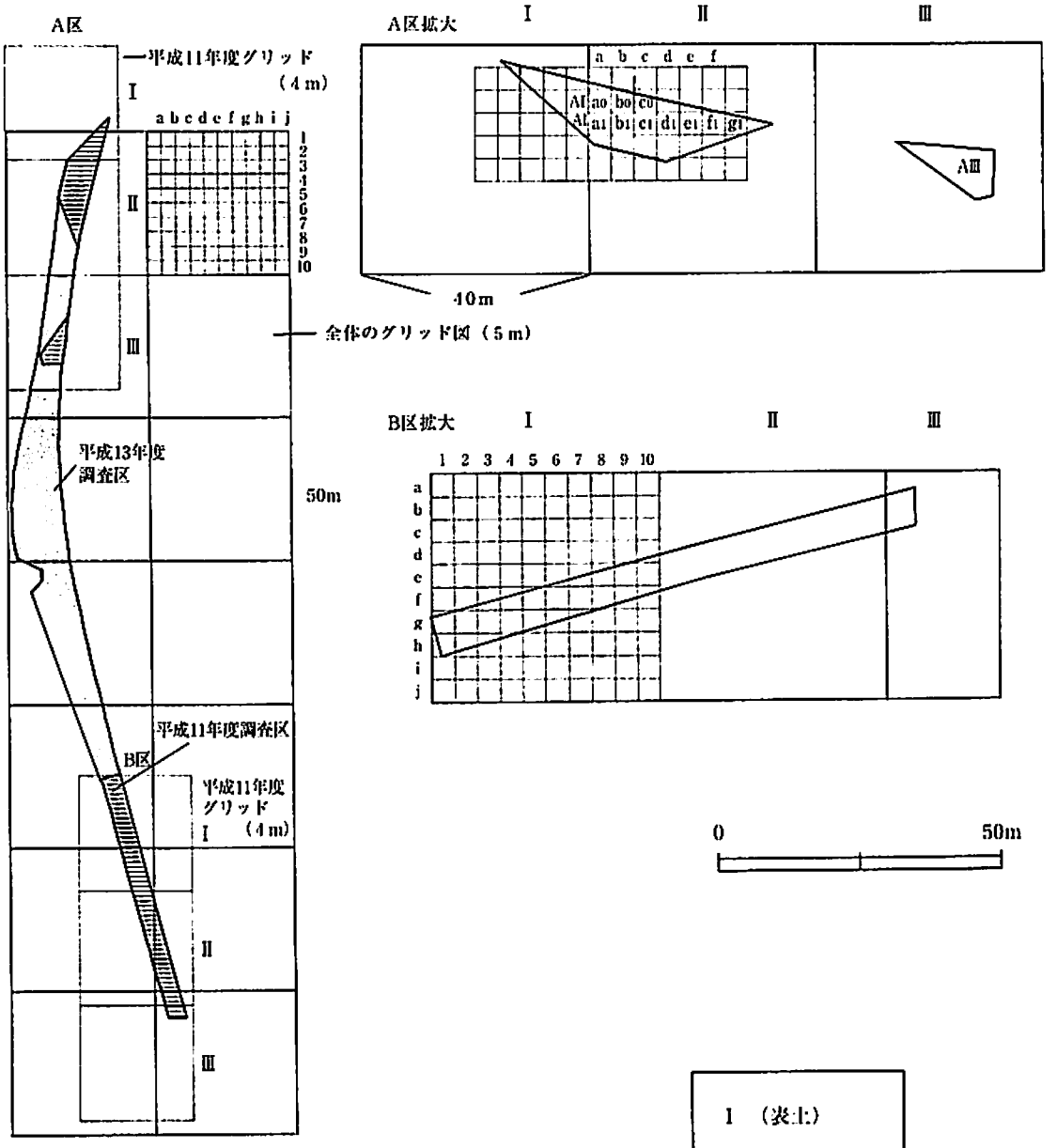
周辺の遺跡図②

表1　周辺の遺跡

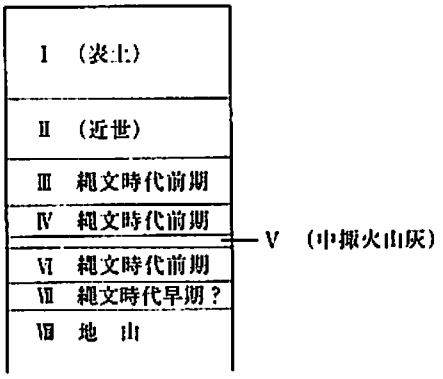
No	遺跡名	種別	出土遺物等	参考文献
1	沢田1	散布地	縄文土器片（中期）	A
2	沢田2	散布地	発掘調査	A
3	芳形	散布地	縄文土器片（中・後・晩期）晩期の粗製土器	A
4	古里	散布地	縄文土器片（中期？）	A
5	横内	散布地	縄文土器片（中期）石器（チャート製）	A
6	新太田林	散布地	縄文土器片（中期・後期）	A
7	太田林	散布地	縄文土器片（中期）	A
8	沢桧	散布地	縄文土器片（前・中・後・晩期）	A
9	新沢桧	散布地	縄文土器片（前・中期）	A
10	沢桧大平	散布地	縄文尖底土器・繊維土器・大型石槍（縄文時代早期）	A
11	早栃	散布地	縄文土器片（中・後期）鉱滓たたら跡？	A
12	寺地沢	散布地	縄文土器片（中期？）鉱滓	A
13	寺地	散布地	縄文土器片（中期）鉱滓たたら跡？	A
14	上栗林	散布地	縄文土器片（注・後期）石鏃（瑪瑙製）	A
15	道々	散布地	縄文土器片（中・後期）	A
16	砂子畑第1	散布地	石器（黒曜石）	A
17	太田	散布地	縄文土器片（後期）	A
18	長持	散布地	縄文土器片（中・後期）	A
19	外山	散布地	縄文土器片（中期）	A
20	室浜	散布地	縄文土器片（中・後期？）	A
21	新片岸	散布地	縄文土器片（後・晩期）	A
22	片岸貝塚	貝塚	縄文土器片（中期）　壊滅	A
23	鵜住居	散布地	縄文土器片（中期）	A
24	恋ノ峠	散布地	縄文土器片（中・後期）石器（フリント製）	A
25	上前畑	散布地	縄文土器片（中・後期）　壊滅	A
26	箱崎横瀬	散布地	縄文土器片（後・晩期）大洞B式注口土器など　土師器	A
27	中川原	散布地	縄文土器片（中期）　壊滅	A
28	新箱崎白浜1	散布地	縄文土器片（中・後期）	A
29	水海2	散布地	縄文土器片（晩期）　壊滅	A
30	新箱崎白浜2	散布地	縄文土器片（中・後期）	A
31	大沢貝塚	貝塚、散布地	縄文土器片（中期）	A
32	新箱崎大沢	散布地	縄文土器片（前・中・後・晩期）　円筒下層D式土器片　土師器	A
33	大仮宿	散布地	縄文土器片（前期）	A
34	仮宿	散布地	縄文土器片（後・晩期）	B
35	崎山弁天	散布地	縄文土器（早・前・中・晩期）　須恵器　昭和46年度調査	B
36	田中館	城館跡	平場、帯郭	B
37	三日月	散布地	縄文土器　鉄滓	B
38	赤浜Ⅲ	散布地	縄文土器　鉄滓	B
39	赤浜Ⅰ	散布地	縄文土器　（中期）石器	B
40	三日月	散布地	縄文土器	B
41	赤浜Ⅱ	散布地	縄文土器（前・中期中葉から末葉）　石槍	B
42	イエノ沢	散布地	縄文土器　鉄滓　羽口	B
43	白石	散布地	縄文土器（後期）	B
44	小枕	散布地	縄文土器	B
45	安渡	散布地	縄文土器　石器	B
46	夏本	集落跡、生産遺跡	縄文中期竪穴住居27棟・弥生竪穴住居1棟・古代住居5棟・大木8b～10式土器など　昭和61年度調査	B
47	沢山	散布地	縄文土器　（中期）石器　平成6年度調査	B
48	檜沢	生産遺跡	縄文晩期　土師器　須恵器　鉄滓	B
49	檜沢Ⅱ	生産遺跡	縄文晩期　土師器　鉄滓　羽口　土坑　平成9年度調査	B
50	館	館跡		A
51	三竿館	館跡		A
52	館	館跡		A
53	明神館	館跡		A
54	館ヶ森	館跡		A
55	横内館	館跡		A
56	栗林銀座跡	銀座跡	慶応8年（1867）設置　その後洋式高炉も築かれたがすぐ廃止　県指定史跡	C

参考文献

A　釜石市埋蔵文化財分布調査報告書　釜石市文化財調査報告書16集　平成3年3月　釜石市教育委員会
B　檜沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書　大槌町文化財調査報告書9集　平成10年3月　大槌町教育委員会
C　岩手県の地名　日本歴史地名体系3　1990年7月　平凡社



第7図グリッド配置図



第6図基本層序柱状図

第6図　基本層序柱状図　第7図　グリッド設定図

Ⅲ 調査と整理の方法

1 野外調査の方法

（1）グリッドの設定（第7図）

平成11年度調査においては、調査区域が北側と南側に離れ、また北側においては狭く急斜面のために大グリッドを組めなかった。グリッドに合わせて杭を打つことが調査に支障を来すと考えたからである。そこでX系に載り、調査範囲を網羅するような点を探り、グリッドを設定する事にした。

まずは基準点を2点設置した。座標値・標高は以下の通りである。

基準点1　X＝－71,720.000m　　Y＝85,916.000m　　標高 50.671m

基準点2　X＝－71,520.000m　　Y＝85,885.000m　　標高 52.811m

2つの基準点を元に、北側調査区をA区・南側調査区をB区とし、北隅からそれぞれ40mごとに、AⅠ・AⅡ・AⅢ、BⅠ・BⅡ・BⅢとした。そして中グリッド内を4mごとに10分割し、北隅から西側にa～j、南側に1～10とした。よってB区北東隅のグリッドの呼名はBⅠa1となる。

平成13年度調査では、調査区域が平坦でやや広く、見通しもよいことから、大グリッドを設定した。平成11年度調査区を囲むように、南北を50mずつⅠ～Ⅶの7つに分け、東西をA・Bの2つに分けた。その中グリッドを5mずつの小グリッドに分け、北西隅から南に1から10、東にaからjに分けた。北西隅のグリッドはⅠA1a、南東隅のグリッドはⅦB10jと呼称することとした。

平成13年度の基準点の成果値は次の通りである。

基準点1　X＝－71,630.000m　　Y＝85,880.000m　　標高 51.067m

基準点2　X＝－71,530.000m　　Y＝85,880.000m　　標高 51.988m

平成11年度と13年度では小グリッドの区画幅や呼び方がそれぞれ異なり、その取り扱いについては、2整理の方法で項を設けて述べたい。

（2）粗掘りと精査

まずは土層と遺物の有無の確認のために、トレンチを入れた。その際、土器の出土状況を知るために、なるべくグリッドをはずさないように、（トレンチ位置が明確に把握できるように）心がけた。それに伴い無遺物層が確認された区域では重機による粗掘り、急斜面や狭い区域では手作業による検出を行った。

検出は、鋤簾で上面を丁寧に剥ぎ、検出面からは移植ベラや両刃がまを使って行ったが、遺物包含層の北側では、重機を使用できなかったためにスコップ等使用している。

精査は、基本的には竪穴住居跡は4分法、土坑等は2分法による覆土の観察を行ったが、広がりを持つ大型住居跡や重複関係にある遺構等は、適宜ベルトを設定した。土層断面及び平面を写真撮影と実測で記録しながら調査した。

遺物の取り上げについては、遺構内では出土層位を明記し、住居跡出土のものは、できるだけ平面図に載せるよう心がけた。遺構外出土のものは、グリッド単位で層位を記入したが、グリッド位置が明確でないものはその区域名（大グリッドのみ）となっているものもある。

（3）遺構の記録

遺構番号は、遺構種別毎の検出順に連番としている。遺構の呼称は、平成11年度においては、竪穴住居跡がRA、土坑がRDを、柱穴状土坑がPPを略号として使用した。平成13年度は、竪穴住居跡・土坑ともに

検出順に１号・２号と命名した。精査の課程で欠番になったものは、本文に明記している。

それぞれの断面図の作成は、遺構の上面に水平の水糸を張り、基点を設定して行った。また、平面図では基本的に、地表面に直角座標系の軸線に合わせて基線とする測量法によって実測したが、広範囲な遺構に関しては併せて、平板測量を行った。縮尺については20分の１を原則にしたが、範囲に応じて対応した。

写真では、精査の段階において撮影をおこなった。使ったカメラは35㎜モノクロ、35㎜カラーリバーサル、６×７cm版モノクロの３器である。また、平成11年度調査終了時に空中写真撮影を行った。

2 整理の方法

（１）グリッドの変更

平成11年度と13年度におけるグリッドの相違は、本報告書においてはすべて、平成13年度のものに合わせている。ただし、平成11年度の実測原図や土器出土地点はそのままにしており、不掲載遺物においては旧グリッド名を参照していただきたい。

（２）遺構名の変更

平成13年度では１号竪穴住居跡、１号土坑などと命名して精査を行っているが、平成11年度の略号に変更して報告している。平成13年度１号住居跡はＲＡ06から、３号土坑はＲＤ13から、それぞれ連番となるが、近世の遺構である平成13年度28号住居跡や１・２・31～59号土坑は、そのまま遺構名として報告している。また、精査の課程あるいは整理段階において欠番になったものは本文に示している。

表２に各遺構ごとの名称の変更を記した。

（３）遺構図面

遺構図面は点検・修正の後、必要に応じて第２原図を作成した。挿図中の縮尺は50分の１を基本にしているが、任意の縮尺についてはスケールを付してある。なお、使用したスクリーン・トーンは凡例の通りである。

土層注記は基本層位にローマ数字を、遺構の埋土にはアラビア数字を用いた。

（４）遺物の処理

出土した土器・石器などの遺物は、水洗い後に出土状況に合わせて仕分けをし、接合復元の作業を実施した。時間の制限から、土器片の記名は極力厳選し、掲載土器のみとし、不掲載の土器には記名していない。

そして写真撮影を行い、実測図・拓影図を作成し、トレースして掲載した。

遺物掲載に当たって、選択の基準は各項目で説明している。

（５）遺物図版

遺構内出土遺物は遺構順に、遺構外出土遺物は種類別に掲載した。挿図中の縮尺は、３分の１を基本としているが、任意の縮尺についてはスケールを付している。

写真図版のみの掲載となっている遺物は、表中に明記しており、また実測図の表現方法と計測値の推定などの表示方法は、凡例の通りである。

（６）写真図版

遺構写真は、各遺構の平面・断面を中心に、竪穴住居跡は地床炉や遺物出土状況も合わせて掲載した。

遺物写真は、立体土器は５分の１、土器破片は５分の２、石器、陶磁器や鉄器は２分の１を基本としているが、任意の縮尺については、個々に明記している。

表2　遺構名称変更

住居跡			土坑			土坑			土坑		
旧　名	RA	備考	旧名	RD	備考	旧名	RD	備考	旧名	RD	備考
	1			1		25	34		61		欠番
	2			2		26	35		62		欠番
	3			3	抹消	27	36		63		欠番
	4			4		28	37		64		欠番
	5			5	抹消	29	38		65		欠番
RD09	6			6		30	39		66		欠番
1	7			7		31		近世代	67		欠番
2		RA07同		8		32		近世代	68		欠番
3		包含層		9	RD09	33		近世代	69		欠番
4	8			10		34		近世代	70	40	
5	9			11	抹消	35		近世代	71	41	
6	10			12	抹消	36		近世代	72	42	
7	11		1		近世代	37		近世代	73	43	
8		抹消	2		近世代	38		近世代	74	44	
9		抹消	3	13		39		近世代	RA20P12	45	
10	12		4	14		40		掘立柱建物	RA09下	46	
11		RA09同	5	15		41		掘立柱建物	RA07下	47	
12	13		6	16		42		掘立柱建物	RA07下	48	
13	14		7	17		43		掘立柱建物	RA07下	49	
14	15		8	18		44		掘立柱建物	RA07下	50	
15	16		9	19		45		掘立柱建物			
16	17		10	20		46		掘立柱建物			
17	18		11		抹消	47		掘立柱建物			
18	19		12	21		48		掘立柱建物			
19	20		13	22		49		掘立柱建物			
20	21		14	23		50		掘立柱建物			
21	22		15	24		51		掘立柱建物			
22		抹消	16	25		52		掘立柱建物			
23	23		17	26		53		掘立柱建物			
24	24		18	27		54		掘立柱建物			
25	25		19	28		55		掘立柱建物			
26	26		20	29		56		掘立柱建物			
27		抹消	21	30		57		近世代			
28		抹消	22	31		58		近世代			
29	27		23	32		59		近世代			
			24	33		60		近世代			

Ⅳ　検出された遺構と遺物

調査の概要（第８図・表２）

発掘調査は平成11年と平成13年の２ヶ年にかけて行われた。その調査面積は例言に記しているが、平成13年度の調査面積の方が広く、検出遺構も多い。

平成11年度調査では、縄文時代前期前葉の竪穴住居跡５棟、同時期と考えられる土坑６基と縄文時代早期中葉から前期後葉までの土器を出土させる包含層が検出された。土器の出土量は、遺物包含層を中心に大コンテナ12箱、石器大コンテナ１箱である。土器は縄文早期沈線文土器から前期大木６式土器までが出土し、そのうち大木３～５式土器を主体とする。

平成13年度では、縄文時代前期初頭から前期中葉にかけての竪穴住居跡が22棟、同時期と考えれる土坑が41基のほか、平成11年度に検出した遺物包含層に続く遺構が確認されている。縄文土器は大コンテナ16箱、石器は大コンテナ２箱が出土した。そのほかに近世の鍛冶関連の遺構も検出され、それに伴う遺物として釘を中心とした鉄製品や鍛冶滓、陶磁器片が出土している。

２度の発掘調査の結果、沢田２遺跡は縄文時代前期初頭から中葉にかけての集落跡であり、かつ近世の鍛冶を中心とした集落跡であることが確認された。以下に各遺構を見ていく。記載に当たっては、１で縄文時代の遺構と遺物、２で近世の遺構と遺物について説明し、各時代ごとのまとめを小結としている。

平成11年度調査において、欠番や変更になっているものは以下の通りである。

欠番　ＲＤ03　ＲＤ05　ＲＤ11　ＲＤ12　　変更　ＲＤ09→ＲＡ06

平成13年度調査において、欠番となっているものは８・９・22・27・28号竪穴住居跡と11・57～69号土坑である。また、平成13年度検出の遺構については（）内に旧名を付している。

１ 縄文時代の遺構と遺物

（１）竪穴住居跡

縄文時代の竪穴住居跡は２年間の調査で27棟検出している。竪穴住居として認定できる定義（条件）はいくつか考えられるが、縄文時代前期前葉から中葉という時代背景から、地床炉（焼土遺構）がないものや、柱穴が判別できないもの（いわゆる竪穴状遺構）を含めている。

検出された27棟の内訳は、縄文時代初頭から前葉にかけてのものと中葉のものとに大別できる。時期不明のもの（土器出土状況が不明確、床面の掘りすぎなどが原因）でも、埋土状況などから推定して本文中には明記している。平成13年検出の３号竪穴住居跡は、精査の結果、遺物包含層となり、除外している。

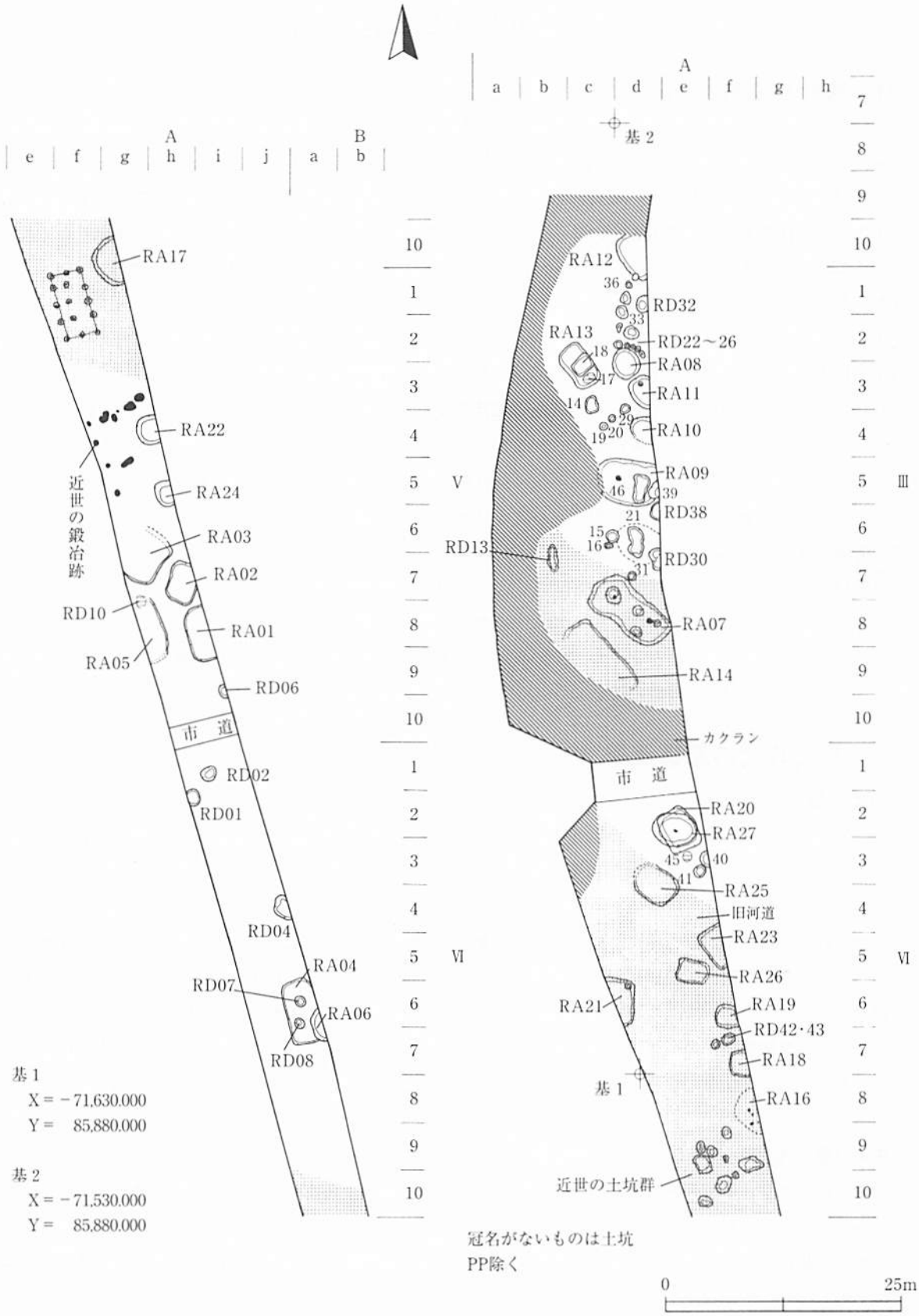
本文は、遺構検出順に述べているが、遺構図版は検出されたグリッド内にある同期の遺構をまとめるために、必ずしも順番とはなっていない。

ＲＡ01竪穴住居跡　第９図・35図　写真図版３・37

調査区南側グリッドＶＡ８ｉに位置する。検出面は暗褐色土層であるが、黒褐色土の面で確認できた。東側半分は調査区外にある。

平面形・規模は楕円形を呈し、長軸は５ｍ56cm、短軸は３ｍ50cm～４ｍ前後と推測される。主軸方位はほぼ南－北である。

埋土は20～30cm大の礫を多く含む。上位は固くしまった黒褐色シルトで、近代以降の整地跡と思われる。


A
B
e f g h i j a b
RA17
RA22
RA24
RA03
RA02
RA01
RD10
RA05
RD06
近世の鍛冶跡
市 道
RD02
RD01
RD04
RA04
RD07
RA06
RD08
基1
X = −71,630.000
Y = 85,880.000
基2
X = −71,530.000
Y = 85,880.000
A
a b c d e f g h
基2
RA12
36
RD32
33
RA13
RD22～26
18
RA08
17
RA11
14
29
19
20
RA10
RA09
46
39
RD38
21
15
16
RD13
RD30
31
RA07
RA14
カクラン
市 道
RA20
RA27
45
40
41
RA25
旧河道
RA23
RA26
RA21
RA19
RD42・43
RA18
基1
RA16
近世の土坑群
Ⅴ
Ⅵ
Ⅲ
Ⅵ
冠名がないものは土坑
PP除く
0
25m

第8図　遺構配置図

壁は、比較的残りのよい北側で、最大30cmを計るが、平均して20cm前後である。

床は礫に覆われ、貼り床などの施設も確認できず、炉跡（焼土）も検出できなかった。

柱穴状の小土坑が15基検出された。規模は表に記したが、そのうち壁際を廻るものが壁柱穴、Ｐ14が主柱穴となる可能性が高い

出土遺物は少なく、土器は摩滅が激しい。４点を掲載した。すべての器種が深鉢で胎土中に繊維を含む。ループ文や羽状縄文が観察できる。

時期は、遺物出土状況などから縄文時代前期前葉に属すと考えられる。

ＲＡ02竪穴住居跡　第９図・35図・68図 写真図版４・36・58

調査区南側グリッドＶＡ７ｈに位置する。検出面は暗褐色土層であるが、黒褐色土の面を慎重に下げ、床面と思われる面から壁を追いかけて確認した。

平面形・規模は隅丸の略長方形を呈し、長軸４ｍ26cm、短軸３ｍ08cmを計る。主軸方位は北－30°－西である。

埋土は、上位は固くしまった黒褐色土で、下位に暗褐色土層が自然堆積状に堆積する。

検出された壁高は北側で12～15cm、南側で25～35cm前後である。北側ではなだらかに立ち上がり、南側ではほぼ垂直に立ち上がる。東側壁は礫であるが、地山の礫か意図的に積まれたものなのか、調査区外にのびることから判断できない。

炉跡（焼土）はない。

床面には大小の柱穴状土坑が確認できる。北から西、そして南側にかけての壁際には径３～５cm、深さ５cm程度の小穴が巡る。また、南壁から東壁にかけては、径12cm前後の小土坑がやや間隔を同じくして検出された。

遺物は少ないが、そのうち比較的判別できる縄文土器６点、石器１点を掲載した。繊維の混入はＲＡ01と比べて少ない。５は前期初頭の土器片で流れ込みであろう。網目状撚り糸文を地文とするもの（６）や沈線が施文されている土器（10）も出土している。石器は576のみの出土である。

時期は、遺物出土状況から縄文時代前期前葉に属すると考えている。また埋土状況を合わせて考えると、ＲＡ01よりも新しい遺構と思われる。

ＲＡ03竪穴住居跡　第10図・35図・68図 写真図版５・36・58

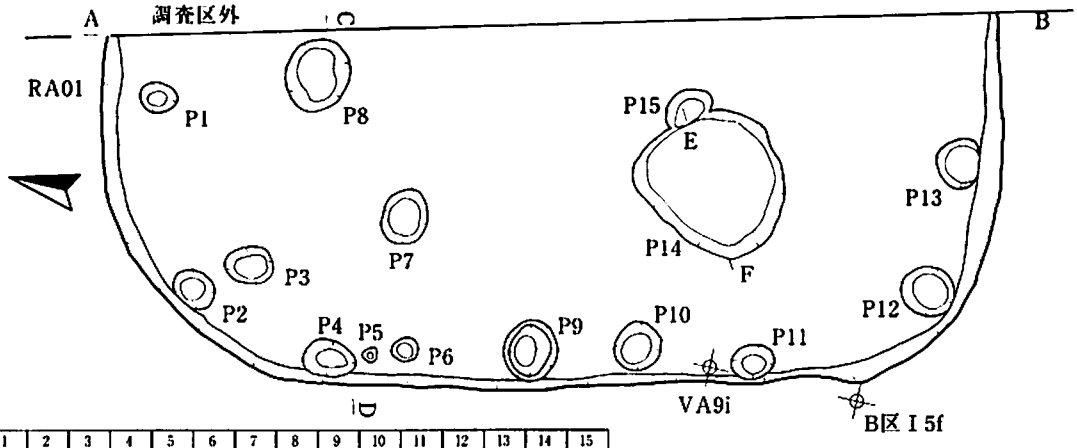
調査区南グリッドＶＡ７ｇ・ｈに位置する。平成11年度の調査で遺構の南半分を検出した遺構であり、平成13年度では北側半分の検出に努めたが、近代の鍛冶場跡等の施設によって失われたか、あるいは水田の整地の際に失われたかで確認できなかった。よって平成11年度の南半分のみの報告となる。検出面は褐色土層であるが、黒褐色土層の面で確認できた。南東でＲＡ02と隣接する。

平面形・規模は隅丸の略長方形を呈すと推測され、短軸は４ｍ～４ｍ10cmを計る。主軸方位は北－15°－東である。

埋土は上位に固くしまった黒褐色土、中位に暗褐色土、下位に砂質の黄褐色土を持つ。礫は少ない。

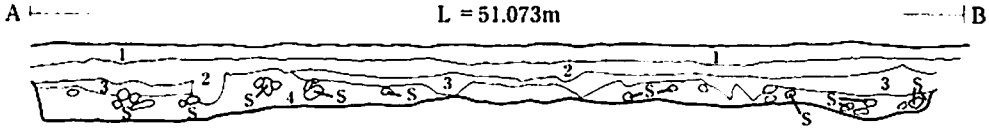
壁はほとんど残らず10cm程度である。

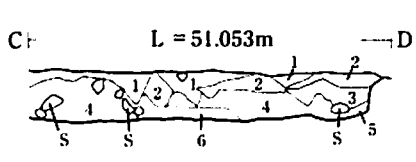
床は固くしまり、床面に柱穴状の小土坑が16基検出された。そのうちＰ１は大型の礫を伴う。各々の規模は表の通りであるが、Ｐ２・３・７・９・12・15に規則性があるように思われる。

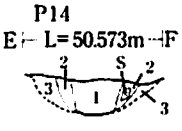


RA03

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
径 (cm)	14	14	32×26	36×16	8	14	35×30	48×42	36	32	28×22	34	34	94×86	30
深さ(cm)	92	162	174	238	9	162	182	118	14	12	95	136	13	30	218





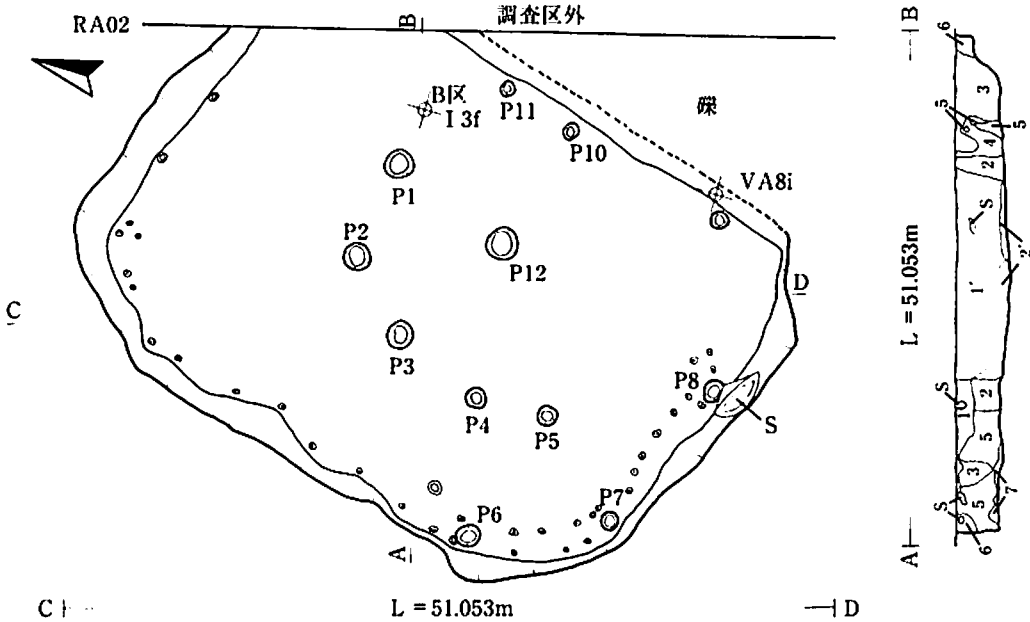


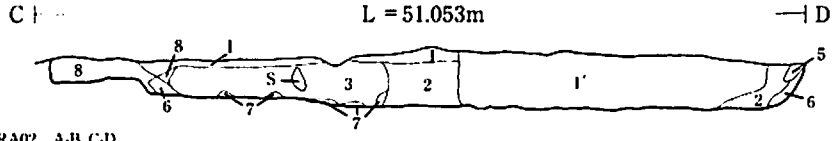
RA01 A-B, C-D, E-F

1	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりなし
2	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	固くしまる
3	10YR	2/2	黒褐色土	粘性ややあり	しまりあり
4	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりなし（礫20cm大20%含む）
5	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	固くしまる
6	10YR	4/4	褐色土	粘性なし	しまりなし（砂質シルト　礫50%含む）

RA01 P14

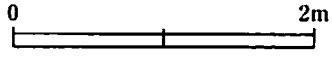
1	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりややあり
2	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	固くしまる





RA02 A-B, C-D

1	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし	1′はカクラン　トレンチ線か？
2	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	固くしまる	2′は1′と同じようにトレンチ線と思われる
3	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりあり	
4	10YR	3/2	黒褐色土	粘性なし	しまりややあり（3よりしまる）	
5	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりややあり（3より砂質）	
6	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	固くしまる	（岩盤のような固さ）
7	10YR	4/6	褐色土	砂質	しまりなし	（壁の崩落、もしくは掘りすぎ？）
8	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	固くしまる	



第9図　RA01・02　竪穴住居跡

出土遺物は少なく、状態のよい縄文土器６点を掲載した。繊維が多く混入する羽状縄文の土器と、繊維の混入が認められない（微少）な撚糸文土器が出土している。石器では無茎の石鏃（577）が出土した。

時期は遺物出土状況から縄文時代前期前葉に属するであろう。また、埋土状況からＲＡ02より古く、ＲＡ01と同時期かやや新しい遺構と考えられる。

ＲＡ04竪穴住居跡　第11図・35図　写真図版６・36

調査区最南部グリッドⅥＢ６ａに位置する。検出状況はⅡ層黒褐色土面で検出することが必要（黒褐色土を除くと遺構を失う可能性があると判断）と考え、トレンチを入れ慎重に掘り進めながら土層の観察を行った。結果、暗褐色土の小さな立ち上がりを確認し、床面に近い層まで掘り下げてから壁を追いかけた。よって一部トレンチに切られる。また、東側の一部は調査区外に広がる。

平面形・規模は隅丸の略長方形を呈し、確認された長軸は６ｍ90cm～７ｍ、短軸は３ｍ50cmで、調査区外に延びる短軸を推定すれば６ｍ前後であろう。主軸方位は北－15°－西である。

埋土は上位が固くしまった黒褐色土、中位が暗褐色土で下位に黄褐色土の砂質シルトが堆積する。

壁高は北側で12～13cm、西から南側で15cm前後。北側はなだらかに立ち上がり、南側はほぼ垂直気味になる。

炉跡（焼土）は確認できない。床面中央には礫が配されている。また壁際には径５cm、深さ２～５cmの小穴が巡る。

３基の土坑を床面に検出した。これらは住居跡との関わりが不明であるために別に取り上げるが、ＲＤ07・08は住居跡の柱穴の可能性もある。またＲＤ09は当遺構を切る前期前葉の竪穴住居跡と変更した。

遺物は少なく状況のよい縄文土器３点を掲載した。貝殻文に特色を持つ早期中葉の土器片と、不明であるが前期前葉以前の土器と考えているものが出土した。

時期は遺物の出土状況から、縄文時代早期中葉から前期初頭に属するであろう。

ＲＡ05竪穴住居跡　第10図・35図　写真図版７・36

調査区南部グリッドＶＡ７・８ｈに位置する。検出の状況はＲＡ04竪穴住居跡と同じで掘り下げてから壁を追いかける方法を採った。その結果、壁の立ち上がりと柱穴状の小土坑を検出したことから竪穴住居と登録した。西側で調査区外に延びる。

平面形・規模は北側と南側で壁が損失していることと、西側が攪乱を受けていることから不明であるが、東側壁の状況から長軸は６ｍ前後と予想される。ただし壁の形状から２つ住居が重複している可能性もある。

埋土は上位が固くしまった黒褐色土で、中位から下位にかけて暗褐色土が堆積する。

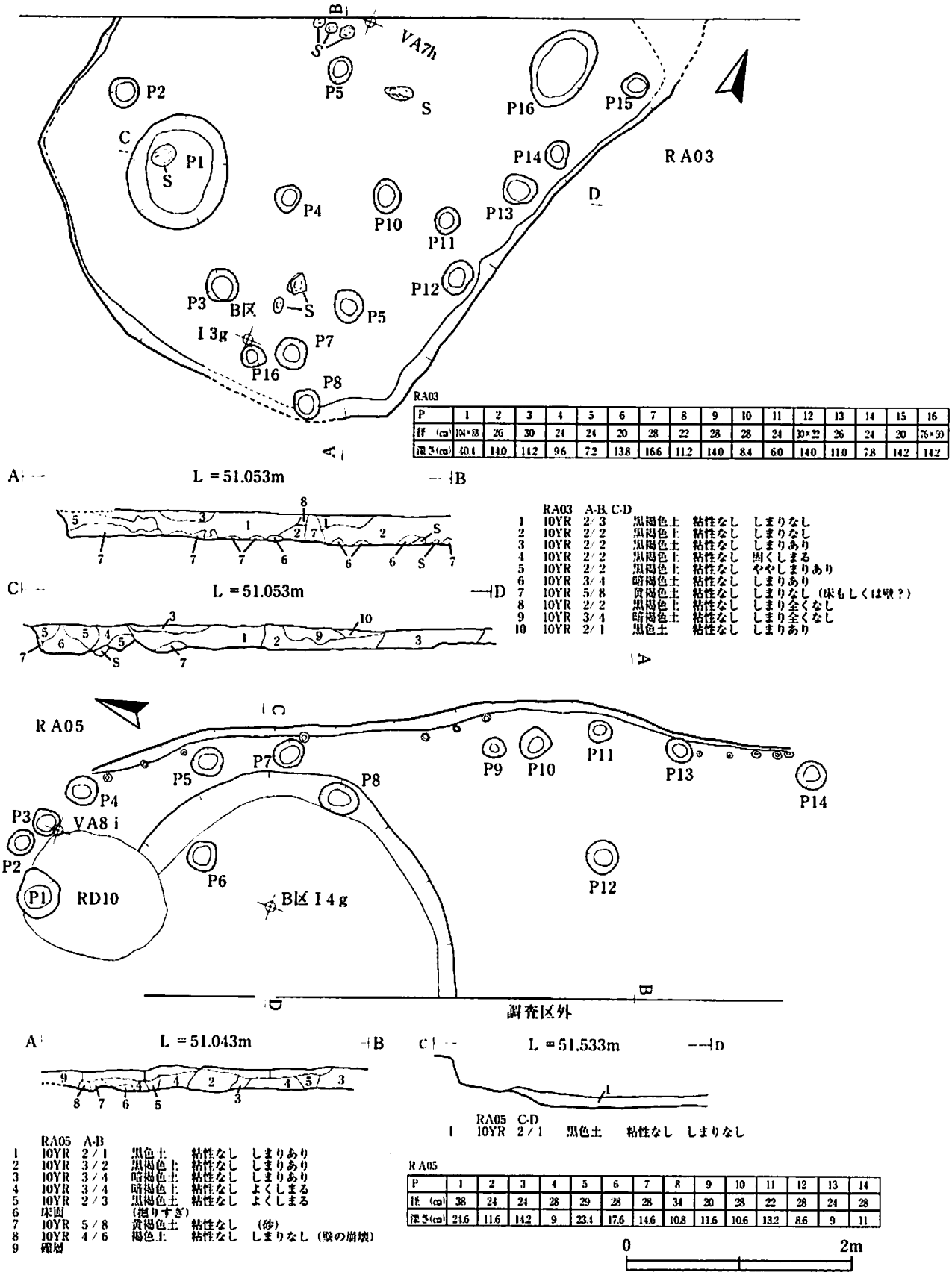
検出された壁高は東壁の北側で12cm、南側で15cm前後である。

炉跡（焼土）は確認できない。

壁際に径５cm、深さ２～５cmほどの小穴が11基巡る。また床面には14基の柱穴状の小土坑が検出された。規模は表の通りであるがＰ１・Ｐ５がやや深い。

出土遺物は少ない。20は表裏縄文の可能性が高い繊維を混入させる土器片。23は大木２ｂ式と考えれるものである。

時期は、遺物出土状況から縄文時代前期前葉に属するが、ＲＡ03と時代差については判別できない。



RA03

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
径 (cm)	104×88	26	30	24	24	20	28	22	28	28	24	30×22	26	24	20	76×50
深さ(cm)	40.4	14.0	14.2	9.6	7.2	13.8	16.6	11.2	14.0	8.4	6.0	14.0	11.0	7.8	14.2	14.2

RA03 A-B, C-D

1	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
2	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
3	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりあり
4	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	固くしまる
5	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	ややしまりあり
6	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりあり
7	10YR	5/8	黄褐色土	粘性なし	しまりなし（床もしくは壁？）
8	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまり全くなし
9	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまり全くなし
10	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりあり

RA05 A-B

1	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりあり
2	10YR	3/2	黒褐色土	粘性なし	しまりあり
3	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりあり
4	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	よくしまる
5	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	よくしまる
6	床面		（掘りすぎ）		
7	10YR	5/8	黄褐色土	粘性なし	（砂）
8	10YR	4/6	褐色土	粘性なし	しまりなし（壁の崩壊）
9	礫層				

RA05 C-D

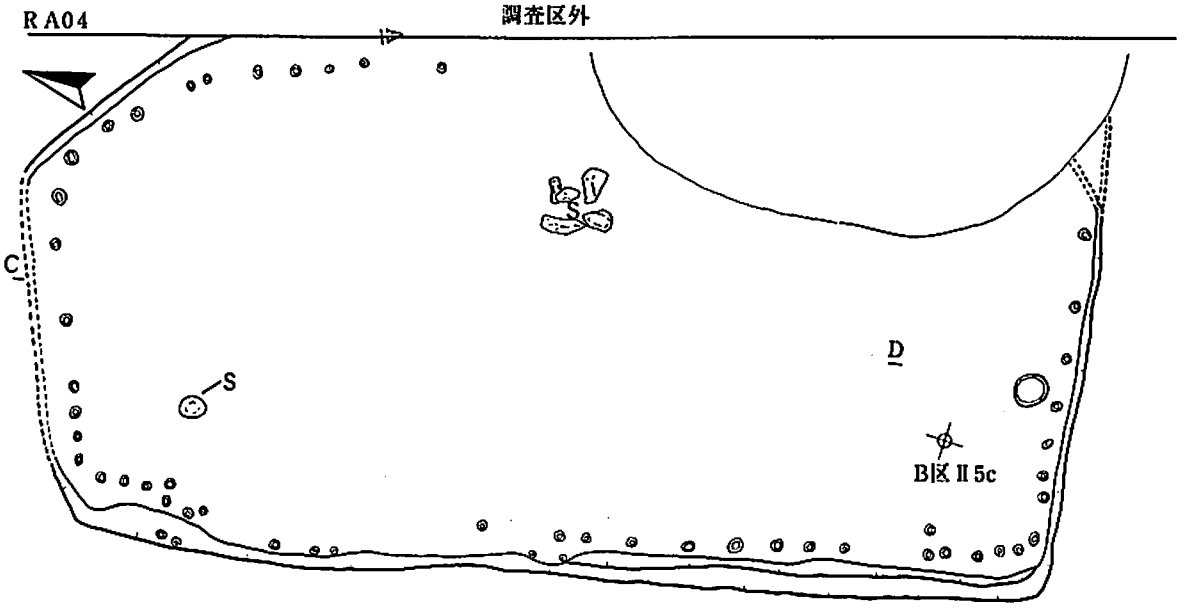
1	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりなし

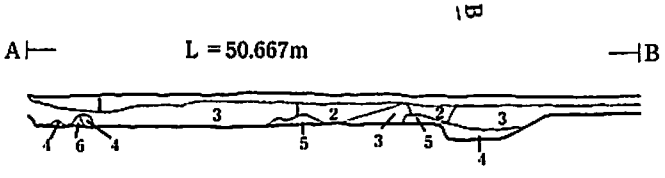
RA05

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
径 (cm)	38	24	24	28	29	28	28	34	20	28	22	28	24	28
深さ(cm)	24.6	11.6	14.2	9	23.4	17.6	14.6	10.8	11.6	10.6	13.2	8.6	9	11

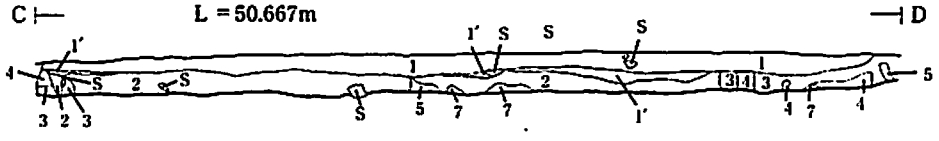
0 2m

第10図　ＲＡ03・05　竪穴住居跡

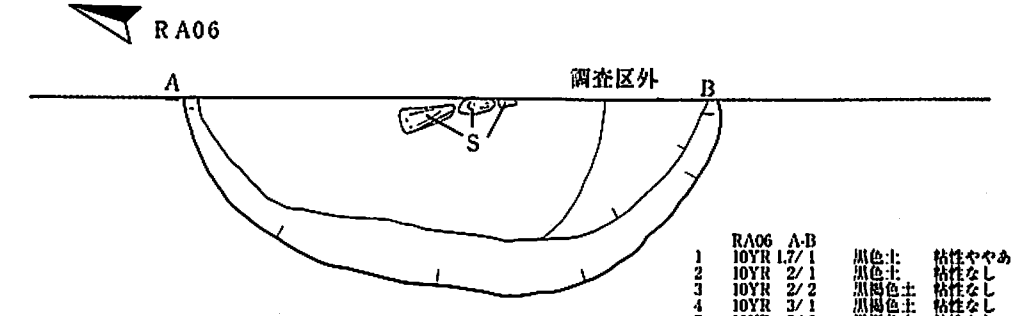


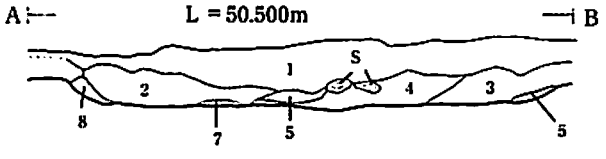


	RA01	A-B			
1	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
2	10YR	3/1	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
3	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
4	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりなし
5	10YR	3/3	暗褐色土	粘性なし	しまりなし
6	10YR	4/2	灰黄褐色土	粘性なし	しまりなし



	RA04	C-D				
1	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし	(1′)しまりあり
2	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりなし	
3	10YR	3/3	暗褐色土	粘性なし	しまり全くなし	
4	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりややあり	
5	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりなし	
6	10YR	3/3	暗褐色土	粘性なし	しまりなし	
7	10YR	4/3	しぶい黄褐色土	粘性なし		しまりなし

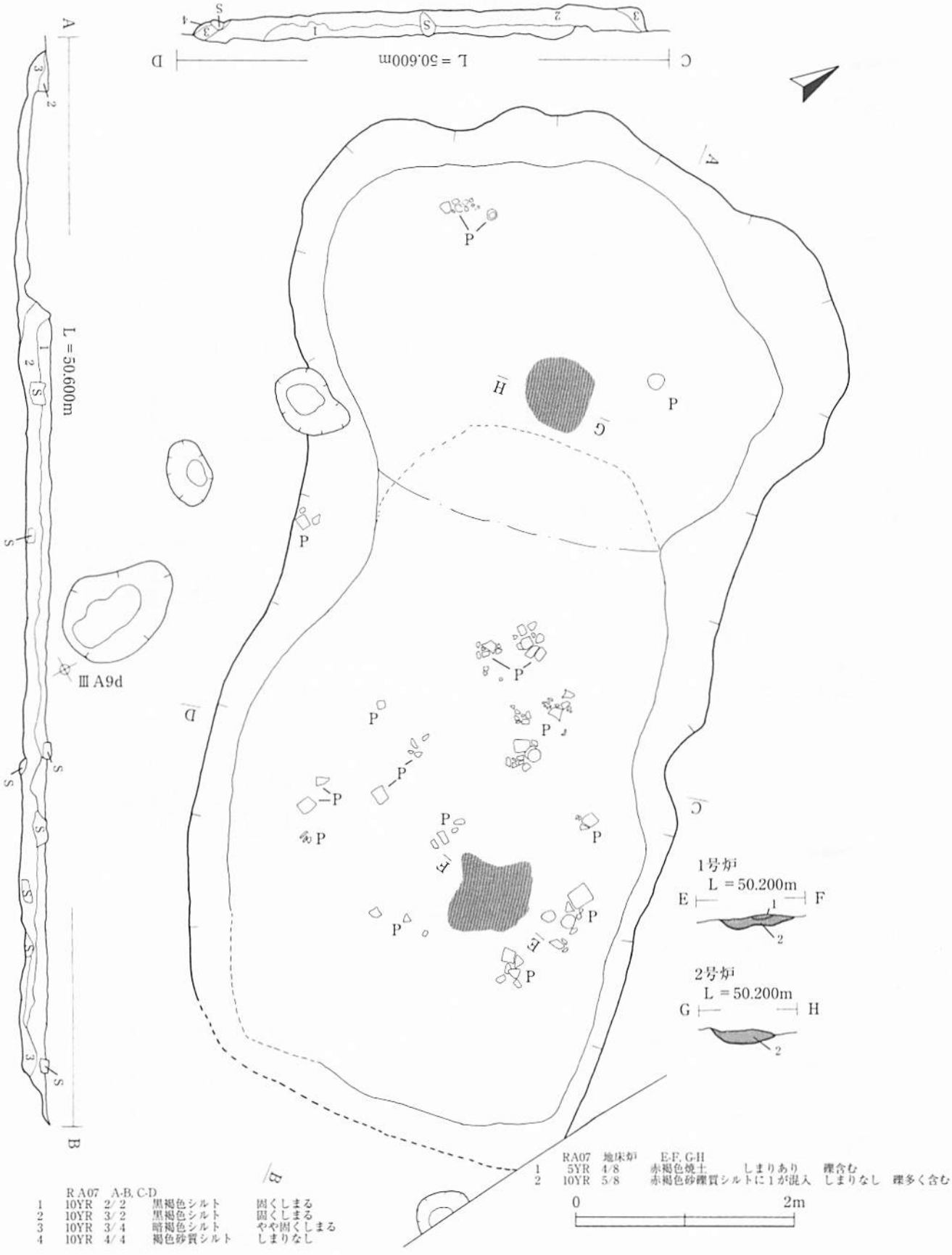




	RA06	A-B				
1	10YR	1.7/1	黒色土	粘性ややあり	しまりなし	
2	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりなし	
3	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし	
4	10YR	3/1	黒褐色土	粘性なし	しまりなし	
5	10YR	3/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし	
6	10YR	3/4	暗褐色土	粘性ややあり	しまりなし	
7	10YR	4/1	灰褐色土	粘性なし	しまりなし	砂質
8	10YR	4/6	褐色土	粘性なし	しまりなし	砂質

0　2m

第11図　ＲＡ04・06　竪穴住居跡



第12図　ＲＡ07　竪穴住居跡

ＲＡ06竪穴住居跡（ＲＤ09から登録変更）　第11図　写真図版７

調査区南側グリッドⅥＢ６ｂに位置する。検出面はＲＤ07と同じＲＡ04の床面である。当初ＲＡ04の付属施設か大型の土坑と判断し、ＲＤ09と登録した。しかし、規模や柱穴状の小穴が存在することから竪穴住居跡に変更した。位置はＲＡ04の推定される東壁の南隅に位置し、遺構の半分は調査区外に延びると推定する。

平面形・規模は不整な楕円形を呈すと考えられ、開口部径は長軸３ｍ54cm、底部径は３ｍ40cmで 、短軸は不明である。深さは最大で30cmを計る。断面形はⅢ状で壁はなだらかに立ち上がる。

埋土は、黒褐色土を主体とする。中位に15cm大の礫を含む。

床面中央部に礫が配置されているかのように存在するが詳細は不明である。

壁の上部に径３～５cm、深さ５cmほどの小穴が７基ほど検出された。

出土遺物はない。

時期は、特定できないがＲＡ04より新しい遺構で縄文時代前期に属する可能性が高い。

ＲＡ07竪穴住居跡（平成13年度１・２号住居跡）第12図・36～40図・68図　写真図版８・９・37・38・58・59

調査区中央部グリッドⅢＡ７・８ｃ・ｄに位置する。検出面はⅦ層で、大型の礫（川原石）が散乱する区域である。検出状況は表土（Ⅰ層）を剥いだ後、大型の礫の混入するプランを得て、当初は２つの住居跡が重複すると考え１・２号住居と登録したが、精査の結果２つの地床炉を備える住居跡とした。ただし、２つの住居跡の重複という考えも捨てきれずに、その推定線を破線で図中に入れている。

南西側に２ｍほど離れた位置に、主軸方位が同じＲＡ13がある。

平面形は南東側の隅丸の略長方形を呈し、北側がややくびれる。

規模は長軸９ｍ～９ｍ20cm、短軸は南西側で４ｍ20cm、北東側で５ｍ10cmを計る。主軸方位はほぼ北西から南東に延びる。

埋土は固くしまる黒褐色シルト中心で、大型の礫（亜円礫）を多く含む。この層は基本層序のⅢ層にあたるものと考える。礫の下位から土器片が多量に出土することから人為的堆積と考えられる。

検出された壁高は北西側で10cm前後、もっとも残存度のある北側壁で12 cm前後から最大23cmを計る。南東側は破壊され不明。北西壁や北壁はやや垂直に立ち上がるが、ほかはなだらかであり、特にくびれ部分で顕著で、立ち上がりがないに等しい。

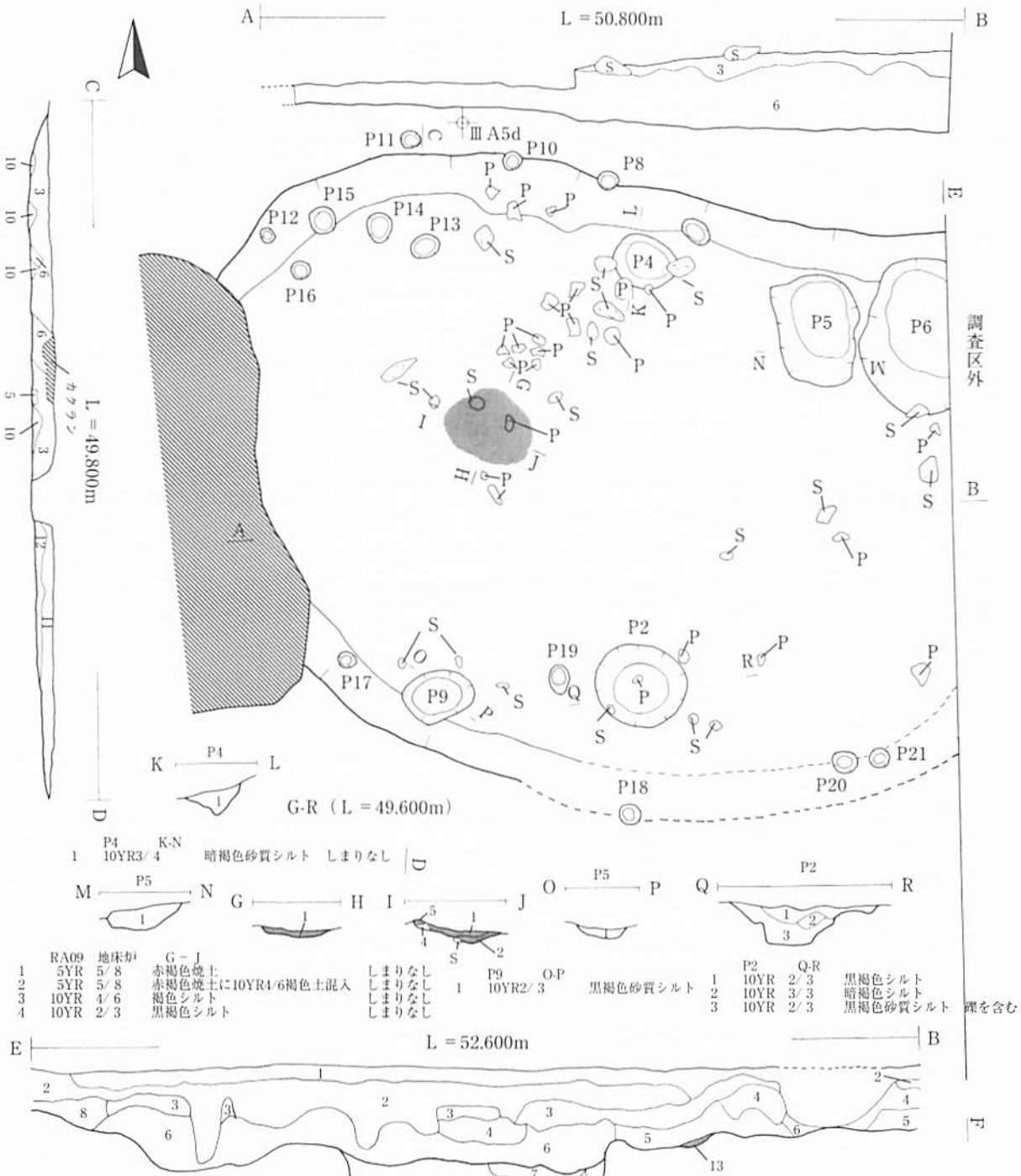
地床炉は２基検出した。１号炉は南西寄りに２号炉は北西寄りに位置する。規模は１号炉が90×80cm、２号炉が60×60cm前後で、焼成の深さは、どちらも10cm前後である。レベルは２号焼土面がやや低い。

床面は、やや小型の礫を含む暗褐色シルトで覆われる。大型の礫が露出している箇所が多く見られ、２号炉側の床面がやや低い以外は、多少うねりはあるものの平坦である。

柱穴や壁柱穴、周溝などの施設は確認できなかった。しかし、周囲（壁面）には40～60cm前後の土坑が５基、長軸１ｍを計るＲＤ31があり、関連するかもしれない。

出土遺物は多く、全体で大コンテナ２箱分の出土量となる。北側の攪乱を受けている区域を除き、土器には繊維の混入は認められない。完形に近い土器も多く出土している。大型の礫の下から出土することが多い。

概観すると１本沈線を主体とする土器（24～27）、または半裁竹管による沈線文を施す土器片（28～30）は少ないが、波状やハート形などの粘土紐（細い）を貼り付ける（30～36）やや外反する土器が多い。この粘土紐貼付に太いものは少ない。その中で沈線を描く30と粘土貼付の35は同一個体の可能性がある。床面には多くの粗製土器が出土しているが、口唇部を篦状工具で刺突したり、指頭圧痕を施したりして、小波状や前



RA09 A-B, C-D, E-F

1	表土		（Ⅰ層）		
2	10YR	2/2	黒褐色シルト	しまりあり	礫を少々含む （Ⅱ層）
3	10YR	2/3	黒褐色シルト	しまりあり	礫を少々含む （Ⅲ層？）
4	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	しまりあり	
5	10YR	3/3	暗褐色砂質シルト	しまりなし	（4より色調が明るい感じ）
6	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	しまりあり	（Ⅳ層）
7	7.5YR	3/4	極暗褐色砂質シルト	しまりなし	
8	7.5YR	2/3	極暗褐色砂質シルト	しまりなし	
9	7.5YR	3/3	極暗褐色砂質シルト	しまりなし	
10	10YR	4/6	褐色砂質シルト	しまりあり	
11	10YR	2/3	黒褐色シルト	固くしまる	（カクラン土？）
12	10YR	2/2	黒褐色砂質シルト		（Ⅰ層？）
13	5YR	4/8	赤褐色焼土	しまりあり	礫を混入させる

RA09

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
径 (cm)	欠	60	欠	38	65	120	15	15	42	15	13	10	18	20	20	15	15	17	15	20	18
深さ(cm)	欠	38	欠	24	24	43	18	11	12	9	8	11	11	15	10	17	6	6	13	9	5

0 2m

第13図　ＲＡ09　竪穴住居跡

後に波打たせる口縁を持つものが多数を占める。中には竹管を刺突しているものもある。

地文は単節の斜縄文のほかに、網目状撚糸文のものや綾繰文のものがある。底部には木葉痕などの施文は見られない。

石器は578の石鏃のほか579の石匙、581などのスクレーパー、585の磨石、586などの石製品が出土している。

時期は、縄文時代前期中葉に属する。土器片の出土状況や埋土状況から、後述するＲＡ09よりもやや新しい時期に属すると考えている。

ＲＡ08竪穴住居跡（平成13年度 4号住居跡） 第14図・41図・68図 写真図版10・39・59

調査区中央区グリッドⅢＡ２・３ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂礫面である。

南東側でＲＡ11と隣接し、西側にはＲＡ12がある。また、北側壁上面には小型の土坑ＲＤ22～26が並ぶ。そして北西壁の上位に集石遺構が立ち上がる、当遺構との関連については定かではない。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸３ｍ16cm、短軸２ｍ80cmを計る。主軸方位はほぼ北西から南東に延びる。

埋土は、砂質の黒褐色シルトを主体とする。

壁は全体的になだらかに立ち上がる。壁高は５cm～最大12cmである。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面はやや固くしまる程度であるが平坦である。床面隅や壁の上部に径５cm、深さ５～10cmほどの小穴が12基、床面から壁際にかけて径18cm～30cm前後の柱穴状土坑が検出された。

遺物は、土器片と石器１点のみの出土で繊維の混入するものが大多数をしめる。73・74は前期初頭の上川名Ⅱ式に比定される土器、75～77は大木１式と考えられるものである。588のスクレーパーは削器で材質は頁岩である。

時期は、出土遺物や埋土状況から、縄文時代前期初頭から前葉に属すると考えられる。

ＲＡ09竪穴住居跡（平成13年度 5・11号住居跡）第13図・41～43図・68図 写真図版11・39・40・59

調査区中央部グリッドⅢＡ４・５ｄに位置する。検出面はⅦ層であるが、Ⅳ層暗褐色土精査中でプランを得て、Ⅶ層面で確定した形となる。

検出状況は表土（Ⅰ層）を剥いだ後、黒褐色土のプランを得て、５号住居跡として精査を開始した。また、北西側の土器を出土させる暗褐色土の広がりを別の遺構（11号住居）とした。精査の結果、５号住居跡の黒褐色土は近代の鉄製品を含む層（Ⅱ層）であることが判明するとともに、Ⅱ層下に11号住居と同じ暗褐色土の広がりを確認したため、同一遺構と判断した。

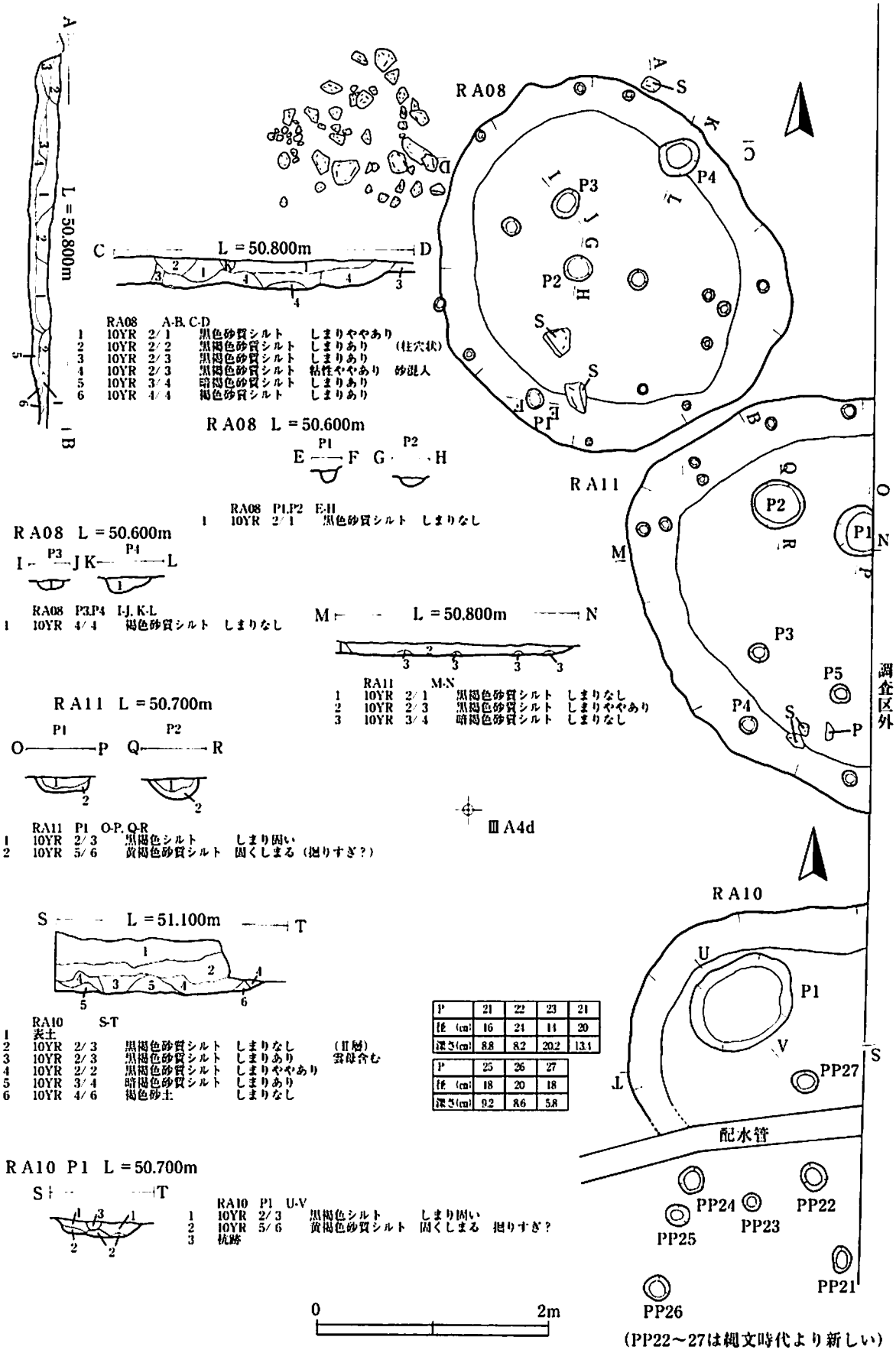
遺構の東側隅が調査区外に延び、西側で攪乱を受ける。近隣では南側でＲＤ38と隣接し、南西に10m離れたところにＲＡ07がある。また、ＲＡ07と当遺構の間には双方が重複している土坑が３基並ぶ。

平面形は、楕円形を呈すと推測されるが、詳細は不明。

規模は長軸６～７ｍを計ると推測される。短軸は４ｍ～４ｍ50cm。主軸方位は西から東に延びるが、やや北西方向に傾く。

埋土は、東側全体に、基本層序Ⅳ層となる暗褐色シルトが覆う。ただし西側や南東側では攪乱を受けており、暗褐色土の堆積は薄いか、あるいは確認できない、

壁高は北側壁で最大12cmを計るほかは、すべて５～８cm前後。西壁や南壁は不明。形態はやや垂直気味に



第14図 RA08・10・11 竪穴住居跡

立ち上がる様子が見て取れる。

地床炉は１基検出した。やや西よりの床面中央部に位置する。規模は74×54cm、焼成の深さは、５cm～最大10cmを計り、固くしまる。地床炉上にある礫は焼成を受けていない。また、南－北断面に確認された焼土遺構は、屋外炉とも考えられる。

床面は、西側でやや下がる傾向にある。この区域は床面下に、土坑を確認しており、精査の段階でやや掘りすぎている観があるが、それをふまえても若干低くなっていると考えている。

柱穴は挿図中のＰ1やＰ２は、床面ではわからなかったが、床面下の土坑精査中に検出したものである。これらの柱穴は、人為的に土坑を埋めた際に柱穴を作り上げたのではないかと推測している。（土層断面から判断した）この２基を含め、径40～60cmほどの柱穴状土坑を５基、壁際を巡る径10cmほどの小穴を13基検出した。Ｐ１・２・４・５・９が主柱穴として機能した可能性もある。

多くの遺物が出土しているが、南側の攪乱の土器片が入り込んでいる可能性もある。概観すると土器では器種はすべて深鉢と考えられ、胎土にやや繊維が混入している？土器も若干数ある。羽状縄文や木目状・網目状撚糸文、綾繰文が地文となるもの（78～85）が多く、中にはＳ字状連鎖沈文のある土器片（86）も出土している。また一本沈線を主体とする土器（92～95）があるのはＲＡ07と変わらないが、細いものが少なく太い粘土紐を貼り付けている土器（98～101）が多いところが相違点である。突起においてはＳ字状（波状）のもの以外にボタン状のものがあるが、ドーナツ状などの大柄なものは出土していない。

石器は、他の住居跡と比較すれば出土量は多い。591などの石鏃はすべて無茎のもの、石匙は５点、スクレーパーは、５点を掲載しているが、削器を合わせると20点ほどの出土となった。床面には磨石や敲石などの礫石器も多く出土し、それらは小型のものが多数を占める。

時期は、埋土状況や遺物出土状況などから、縄文時代前期中葉で、前述したＲＡ07よりも古い時期に属すると考えている。

ＲＡ10竪穴住居跡（平成13年度 ６号住居跡）第14図・69図 写真図版10・60

調査区中央区グリッドⅢＡ４ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色土砂面である。

北西側でＲＡ11と隣接する。遺構の南側で攪乱を受け、半分は調査区外に延びる。

平面形は不整な楕円形を呈すと考えられる。規模は長軸４ｍ前後、短軸３ｍ50cm前後と推定される。

埋土は、砂質の黒褐色シルトを主体とするが、下位に暗褐色土が堆積する。この層はⅣ層であるかどうかは判断できない。

壁はほとんど削平され、残らない。最大壁高は５cm足らずである。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面に柱穴状土坑が１基検出された。

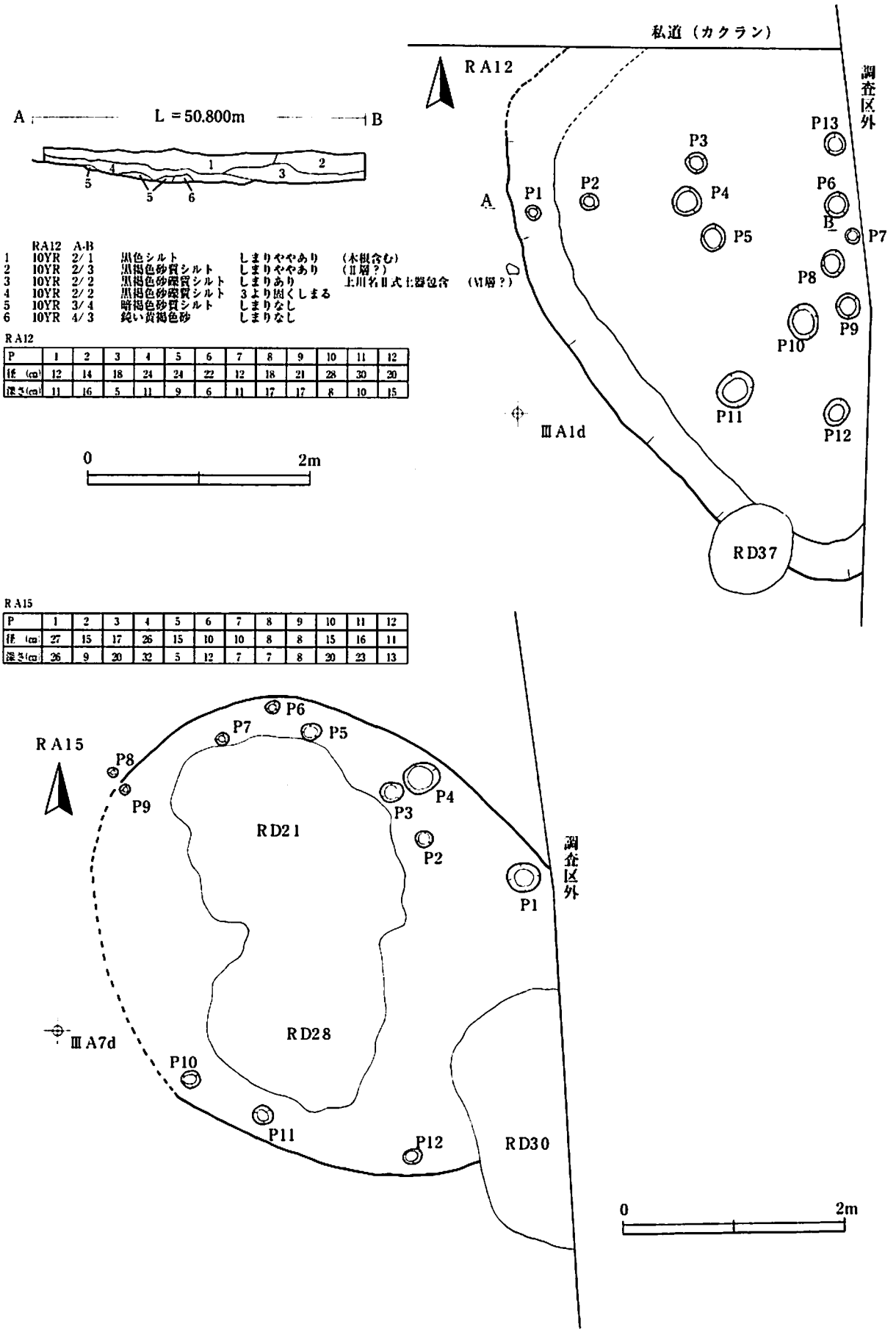
出土土器は、調査員の不手際で遺構外として取り上げてしまったために掲載しないが、ⅢＡ４ｃグリッド検出面出土338は当遺構に関連する土器の可能性が高い。石器は石匙（610）が出土している。

時期は、出土遺物や埋土状況から縄文時代前期初頭から前葉に属すると考えられる。

ＲＡ11竪穴住居跡（平成13年度 ７号住居跡）第14図　写真図版12

調査区中央区グリッドⅢＡ３ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂礫面である。

北西側でＲＡ08と、南側でＲＡ10と隣接し、遺構の半分は調査区外に延びる。



RA12　A-B

1	10YR	2/1	黒色シルト	しまりややあり	（木根含む）
2	10YR	2/3	黒褐色砂質シルト	しまりややあり	（Ⅱ層？）
3	10YR	2/2	黒褐色砂礫質シルト	しまりあり	上川名Ⅱ式土器包含　（Ⅵ層？）
4	10YR	2/2	黒褐色砂礫質シルト	3より固くしまる	
5	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	しまりなし	
6	10YR	4/3	鈍い黄褐色砂	しまりなし	

RA12

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
径（cm）	12	14	18	24	24	22	12	18	21	28	30	20
深さ（cm）	11	16	5	11	9	6	11	17	17	8	10	15

RA15

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
径（cm）	27	15	17	26	15	10	10	8	8	15	16	11
深さ（cm）	26	9	20	32	5	12	7	7	8	20	23	13

第15図　ＲＡ12・15　竪穴住居跡

平面形は不整な楕円形を呈すと考えられる。規模は長軸４ｍ前後、短軸３ｍ50cm前後と推定される。主軸方位がほぼ北西から南東に延びるのは、ＲＡ08と似る。

埋土は、砂質の黒褐色シルトを主体とする。

壁は全体的になだらかに立ち上がる。壁高は５cm～最大10cmである。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面はやや固くしまる程度であるが平坦である。床面隅や壁の上部に径５～15cm、深さ５～10cmほどの小穴が10基、床面から径30cm前後の柱穴状土坑が２基検出された。

出土遺物は、ＲＡ10同様に、調査員の不手際で遺構外として取り上げてしまったために掲載しないが、ⅢＡ４ｃグリッド周辺では繊維の混入した土器片（303・313・327・331）が出土している。

時期は、出土遺物や埋土状況から、縄文時代前期初頭から前葉に属すると考えられる。

ＲＡ12竪穴住居跡（平成13年度 10号住居跡）第15図・43図・44図 写真図版12・40

調査区中央区グリッドⅡＡ10ｄ～ⅢＡ１ｄに位置する。検出面はⅦ層礫面である。検出状況は、大木の根の除去中に土器片を包含する土層が確認され、住居跡と推定して登録後、検出した経緯があり、全体的に木根や精査による破壊を受けている。

東側半分は調査区外に延び、北側はかく乱を受ける。また、南側の壁一部がＲＤ37に切られる。

平面形は隅丸の長方形を呈すと推定する。規模は長軸５ｍ～５ｍ30cmを計り、短軸は不明である。主軸方位はほぼ北西から南東に延びると考えられる。

埋土は、上位に砂質の黒褐色シルト、下位に礫質の黒褐色土を載せる。一部に中掫火山灰らしき灰白色のシルトを確認した。

壁は全体的になだらかにあがる。唯一残る西壁で最大15cmを計る。

焼土遺構は確認されない。

床面は礫に覆われる。床面に柱穴状の土坑13基を検出したが、どれも浅く木痕による自然のくぼみの可能性も考えられる。

出土遺物は９号袋２つ分の土器片が得られた。そのうち11点を掲載した。108・109の上川名Ⅱ式土器以外は前期前葉から中葉期の土器で繊維はほとんど確認できない。撚糸文や太い粘土紐を貼り付ける土器（117）、またＳ字状突起の出土は前述したＲＡ12の出土状況に似る。

時期は、出土遺物から前期前葉から中葉に属し、ＲＡ12と同時期と考えられる。

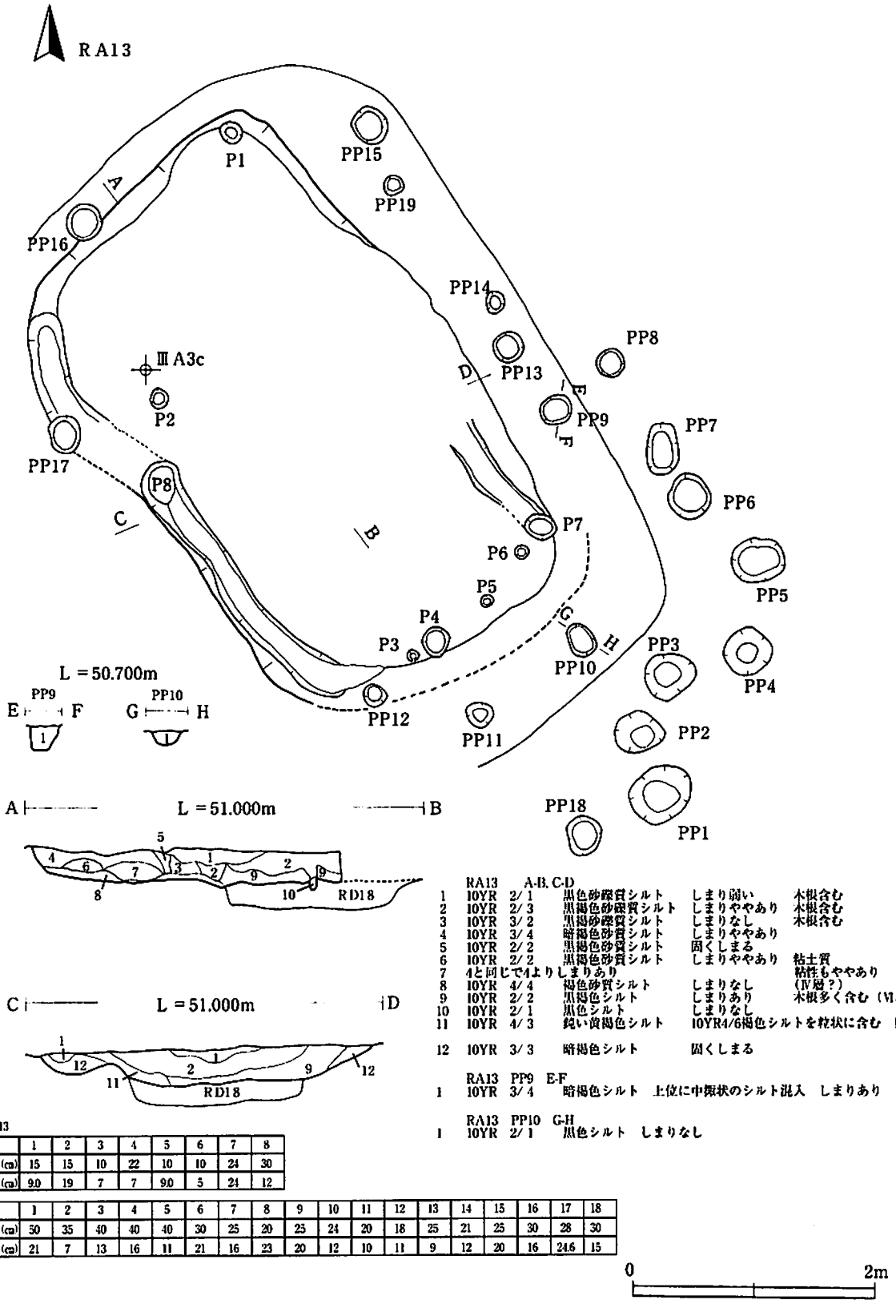
ＲＡ13竪穴住居跡（平成13年度 12号住居跡）ＰＰ01～18 第16図 写真図版13

調査区中央区グリッドⅢＡ３ｃに位置する。検出面は表土（Ⅰ層）直下のⅦ層黄褐色土砂面である。

検出状況は、パイプ跡や大木などの攪乱を受け、表土直下ということもあり、検出しにくい区域であったが、丁寧に根を除去した結果、２つの土坑を検出した（ＲＤ17・18）。この２つの土坑の埋土精査と平面形をたどるうちに、周溝らしき遺構を検出したことから竪穴住居跡と登録して周辺の精査にあたっている。よって検出したのは周溝の一部と北側の壁のみである。

平面形は隅丸の長方形を呈すと推測される。規模は長軸５ｍ前後、短軸３ｍ～３ｍ50cm前後か。主軸方位はほぼ北西から南東に延びる可能性が高い。この方位はＲＡ11と似る。

埋土は、砂質の黒褐色シルトを主体とするが、暗褐色系の土層も見られる。



RA13 A-B, C-D

1	10YR	2/1	黒色砂礫質シルト	しまり弱い	木根含む
2	10YR	2/3	黒褐色砂礫質シルト	しまりややあり	木根含む
3	10YR	3/2	黒褐砂礫質シルト	しまりなし	木根含む
4	10YR	3/4	暗褐色砂質シルト	しまりややあり	
5	10YR	2/2	黒褐色砂質シルト	固くしまる	
6	10YR	2/2	黒褐色砂質シルト	しまりややあり	粘土質
7	4と同じで4よりしまりあり				粘性もややあり
8	10YR	4/4	褐色砂質シルト	しまりなし	(Ⅳ層？)
9	10YR	2/2	黒褐色シルト	しまりあり	木根多く含む（Ⅵ層？）
10	10YR	2/1	黒色シルト	しまりなし	
11	10YR	4/3	鈍い黄褐色シルト	10YR4/6褐色シルトを粒状に含む	固くしまる (8と同じ層か？)
12	10YR	3/3	暗褐色シルト	固くしまる	

RA13 PP9 E-F

1	10YR	3/4	暗褐色シルト	上位に中板状のシルト混入　しまりあり

RA13 PP10 G-H

1	10YR	2/1	黒色シルト	しまりなし

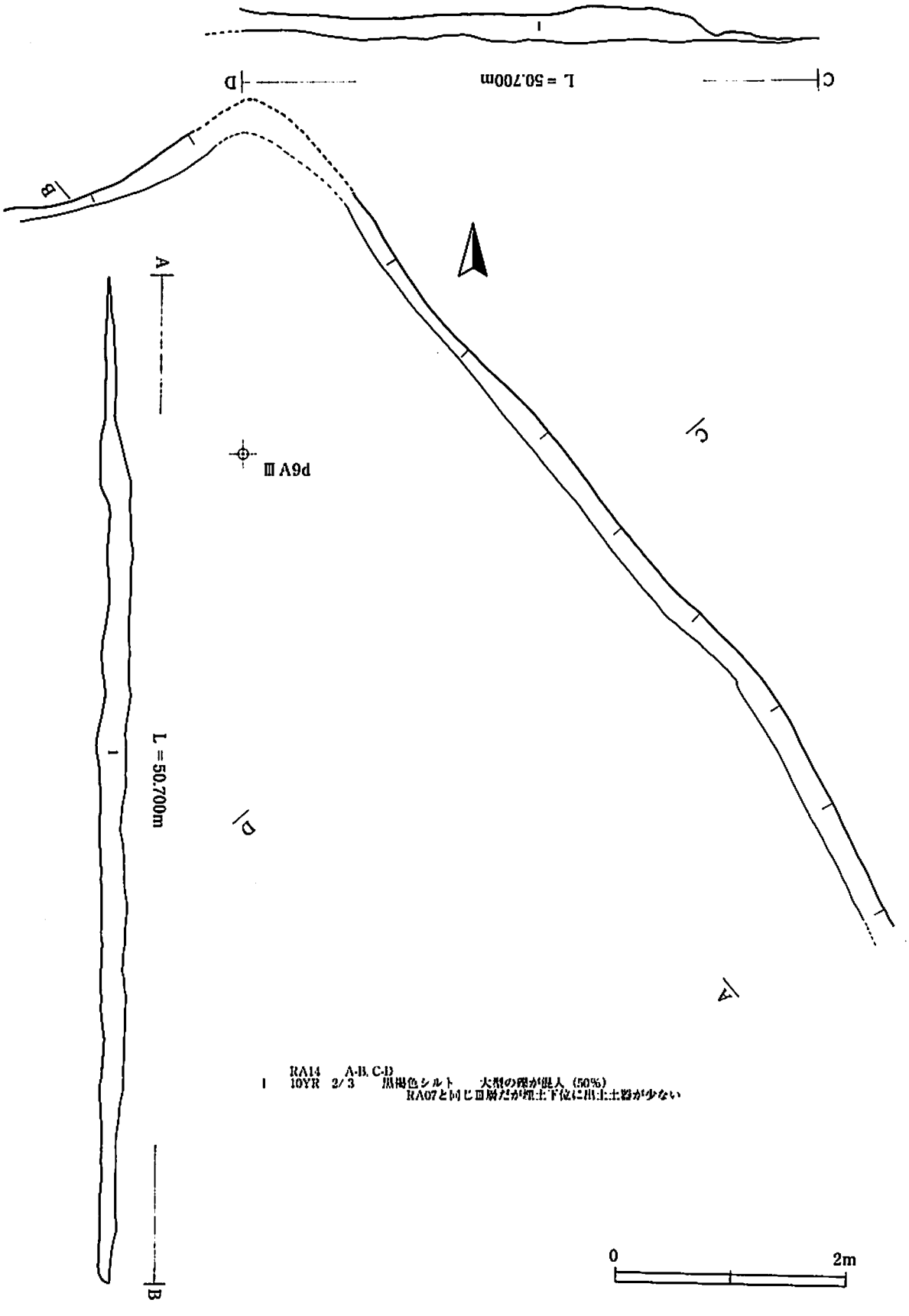
RA13

P	1	2	3	4	5	6	7	8
径 (cm)	15	15	10	22	10	10	24	30
深さ(cm)	9.0	19	7	7	9.0	5	24	12

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
径 (cm)	50	35	40	40	40	30	25	20	23	24	20	18	25	21	25	30	28	30
深さ(cm)	21	7	13	16	11	21	16	23	20	12	10	11	9	12	20	16	24.6	15

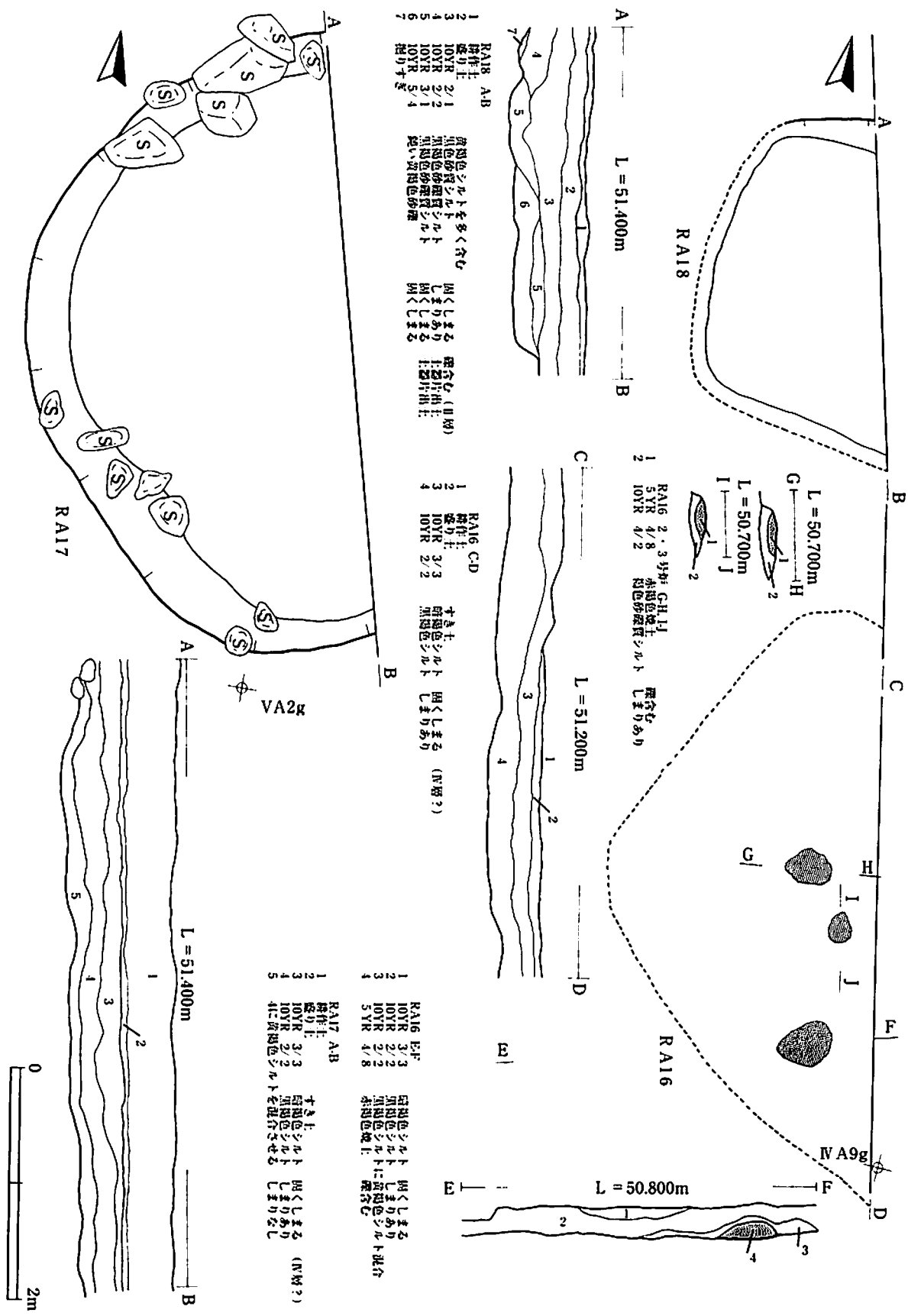
0　2m

第16図　ＲＡ13　竪穴住居跡



RA14　A-B, C-D
Ⅰ　10YR　2/3　黒褐色シルト　大型の礫が混入（50%）
RA07と同じ層だが埋土下位に出土土器が少ない

第17図　ＲＡ14　竪穴住居跡



第18図　ＲＡ16・17・18　竪穴住居跡

壁は、唯一残る北側壁高が10cmを計り、ほぼ垂直に立ち上がる。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面は木痕の攪乱や、ＲＤ17・18を完掘したことから全体については不明であるが、北側半分を見た限りでは、平坦である。西壁際と東壁一部には、最大幅20cm、深さ10cmほどの周溝が巡る。床面と思われる範囲内には径10～20cmの小穴７基（Ｐ１～７）が、周囲には径15cm～40cmの柱穴状土坑が17基（ＰＰ１～17）検出された。これらのことから拡張された建て替えか、上面にもう１棟あった重複かもしれない。

出土遺物は登録していない。しかし床面で検出された土坑出土の土器片のうち223は、当遺構に属するものと考えられる。

時期は、縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

ＲＡ14竪穴住居跡（平成13年度 13号住居跡）第17図・44図　写真図版13・41

調査区中央区グリッドⅢＡ８・９ｃ・ｄに位置する。検出面はⅦ層で、ＲＡ07と同様の検出状況である。当初、土器は出土するが攪乱が激しく、礫も大きいことから竪穴住居とは判定しにくかった。しかし、土器の出土が同一の時代に限定されること、北側に壁の立ち上がりが確認できることから竪穴住居跡と認定している。

北東側でＲＡ07と隣接する。遺構全体において攪乱が激しい。

平面形・規模及び主軸方位は不明であるが、ＲＡ07と同様の遺構であると推定する。

埋土は、礫質の黒褐色シルトの単層である。大型の礫を多量に含む。

壁は北東壁においては、ほぼ垂直に立ち上がる。最大壁高は10cm足らずである。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面はＲＡ07よりも礫の露出が激しい。柱穴及びその他の施設は確認していない。

出土遺物は中コンテナで１つ分の土器片を得た。ただし西側半分が攪乱されており、当遺構の出土遺物ではない。しかし圧倒的に前期中葉期に属するものが多い。119は表裏に縄文を施しているが繊維の混入が認められず、断面も整形されているかのようで、土製品と思われる。一本沈線を主体とする土器（121）や半裁竹管による沈線を主体とする土器（123）、太い粘土紐と細い粘土紐を貼り付ける土器(124)などが出土している。粗製土器では綾繰り文の体部を持つ土器が目立つ。

時期は、出土遺物からＲＡ07と同じ縄文時代前期中葉に属すると考えられる。

ＲＡ15竪穴住居跡（平成１３年度 14号住居跡）第15図　写真図版14

調査区中央区グリッドⅢＡ６・７ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂礫面である。

北側でＲＡ09と隣接し、南西側にはＲＡ07がある。また、遺構内にはＲＤ21・28・30がある。検出状況は、上記の土坑完掘後に、だめ押しを行った結果、一定範囲内に柱穴状の土坑が確認され、土坑の周囲から住居跡が検出される例が多いことから、住居跡と認定登録した。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、長軸４～５ｍ、短軸３ｍ50cmと推測される。主軸方位はほぼ北西から南東に延びるであろう。

埋土・壁ともに不明である。 地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面は、土坑完掘のために定かではない。遺構の決め手となった柱穴状土坑は12基検出されたが、径は８～27cmと様々である。深さは最大で32cmを計る。

土坑との関連は判別しがたいが、３基の土坑の埋土状況や、ＲＤ30の埋土上位から半完形の土器が出土していることから、ＲＡ09と同様に土坑を埋めた後に作られた住居跡ではないかと推測する。

出土遺物はない。ただし上記の半完形の土器（234）は当住居跡に関わるものと推定する。

時期は、縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

ＲＡ16竪穴住居跡（平成１３年度15号住居跡）第18図・45図・69図 写真図版14・41・60

調査区中央区グリッドⅣＡ８ｆで検出した。検出面はⅡ層下である。北側にＲＡ18がある。比較的多くの土器片が出土し、焼土遺構も検出した。しかし遺構の範囲はつかめず、礫を取り除いて壁状の小さな立ち上がりを認める範囲を住居跡と推定した。東側半分は調査区外に延びる。

平面形・規模は楕円形もしくは隅丸の長方形を呈し、短軸は３m50cm前後と推定する。長軸は不明。

埋土は、大型の礫の混入する黒褐色土主体で、基本層のⅥ層に当たる可能性が高い。

本来あったであろう壁は検出できなかった。

床面と考えられる中央部とやや西側に礫を多く含む焼土遺構３基を検出している。地床炉であろうか。

床面は本来、大型礫の上部の黒褐色土面であった可能性があるが、近世層Ⅱ層によって撹乱を受けている。

出土遺物は、Ⅱ層下位からの土器を含めているが、繊維の混入する土器片がほとんどである。上川名Ⅱ式に比定される土器（131・132）や大木１式と考えられるもの（133～135）ほかが出土している。また、石器もⅡ層下から出土した可能性があるが、石匙４点が出土した。

時期は、Ⅱ層による撹乱を受けていることから判然としないが、前期前葉に属する遺構と捉えている。

ＲＡ17竪穴住居跡（平成１３年度16号住居跡）第18図・45図　写真図版15・41

調査区南区グリッドＶＡ１ｆ・ｇで検出した。検出面はⅡ層下である。釘や鉄滓の出土するⅡ層を上から徐々に下げたところ、比較的大きな土器片の出土する範囲を検出し、住居跡と登録した。遺構の一部は東側に延びる。

平面形・規模は楕円形もしくは隅丸の長方形を呈し、長軸は５ｍ前後と推測する。短軸は不明だが４ｍ前後と考える。主軸方位はほぼ北西から南東に延びることが考えられる。

埋土は、基本層のⅥ層に当たる可能性のある黒褐色シルトの単層で、下位には褐色礫質シルトがあるが、この層が本来の床面と考えている。

壁は北側断面に20cmほどの緩やかな立ち上がりを確認できる程度で、ほかの壁高は５cmほどである。

地床炉等はない。

床は、遺構中央部に大型の礫が散在するために確認できなかった。

出土遺物は、繊維の混入の認められない撚糸文土器が出土しており、142はＳ字状連鎖沈文の土器片である。また、143は押し引き文を施す土器でやや繊維が混入しているかのようである。

時期は、遺物の出土状況から前期前葉から中葉に属すると考えており、遺構の規模や土器からＲＡ12に近い時期観が与えられる。

ＲＡ18竪穴住居跡（平成１３年度17号住居跡）第18図　写真図版15

調査区中央区グリッドⅣＡ７ｆで検出された。検出面はⅡ層下で地山面に近い。南側にＲＡ16がある。東側半分が調査区外に延びる。検出状況はⅡ層を取り除いたときに、南－北断面に壁状の立ち上がりを確認し

たことから小型の住居跡と認定し登録した。よって遺構の西側や南側は推定線となっている。

平面形・規模は、楕円形もしくは方形と推測され、北壁から南壁推定線までは2m60cmを計る。

埋土は、Ⅵ層と考えられる砂礫質の黒褐色土主体で、南側に黄褐色の砂礫が覆う。

壁は唯一検出された北側壁で10cmを計り、なだらかに立ち上がる。

地床炉等はない。

床面は砂礫で覆われる。ＲＡ16・17に見られる大型の礫はない。

出土遺物はない。しかし、近隣からは繊維を混入させる土器片（311など）が出土している。

時期は、埋土や周辺の土器出土状況から前期初頭から前葉に属すると推測する。

ＲＡ19竪穴住居跡（平成１３年度18号住居跡）第19図・45図・69図 写真図版15・42・60

調査区中央区グリッドⅣＡ６ｆに位置する。検出面はⅦ層黄褐色土砂面である。検出状況は、グリッド周辺で土器を多く出土させていたが、礫が多く検出は困難を極めた。そこで礫を取り除いて調査を継続した結果、検出されたものである。北側にＲＡ22・26がある。西側半分が調査区外に延びる。

平面形・規模は隅丸の長方形を呈し、規模は長軸３ｍ、短軸２ｍ50cm程度と推測される。主軸方位はほぼ西から東に延びるが、やや北よりに傾く。

埋土は、大型の礫が多く混入する黒褐色シルトで、基本層序のⅥにあたると推測する。南－北断面の４と５の境に焼土が検出された。当遺構は２つの住居跡が重複している可能性がある。この２つの層のうち４層が比較的土器片の出土は多いが、若干Ⅱ層の遺物（釘や鉄滓など）が入り込むことから、この焼土を持つ遺構が縄文時代とは言い切れない。以下は５層を埋土とする遺構の説明とする。

壁は北側において、ほぼ垂直に20cm立ち上がることが確認できた。ほかの壁はなだらかである。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面は礫に覆われるが、大型の礫の露出は少ない。床面隅や壁際に２基の柱穴状土坑が検出された。どちらも浅い。

出土遺物は袋１つ分の土器を得た。そのうち７点掲載している。144を除きすべて繊維を含むものである。145・146は上川名Ⅱ式に比定される土器、147～150は大木１式と考えられる土器片であるが、150は２ｂ式に属する可能性もある。石器は614・615の石鏃、616～618の３点の石匙、頂部に敲き痕のある礫（619）が出土している。

時期は、出土遺物や埋土状況から、縄文時代前期初頭から前葉に属すると考えられる。埋土に焼土を備える上面の遺構は縄文時代前期中葉から近世にかけての遺構で幅は広くなるが、近世の鍛冶炉に関連する遺構の可能性が高いと見ている。

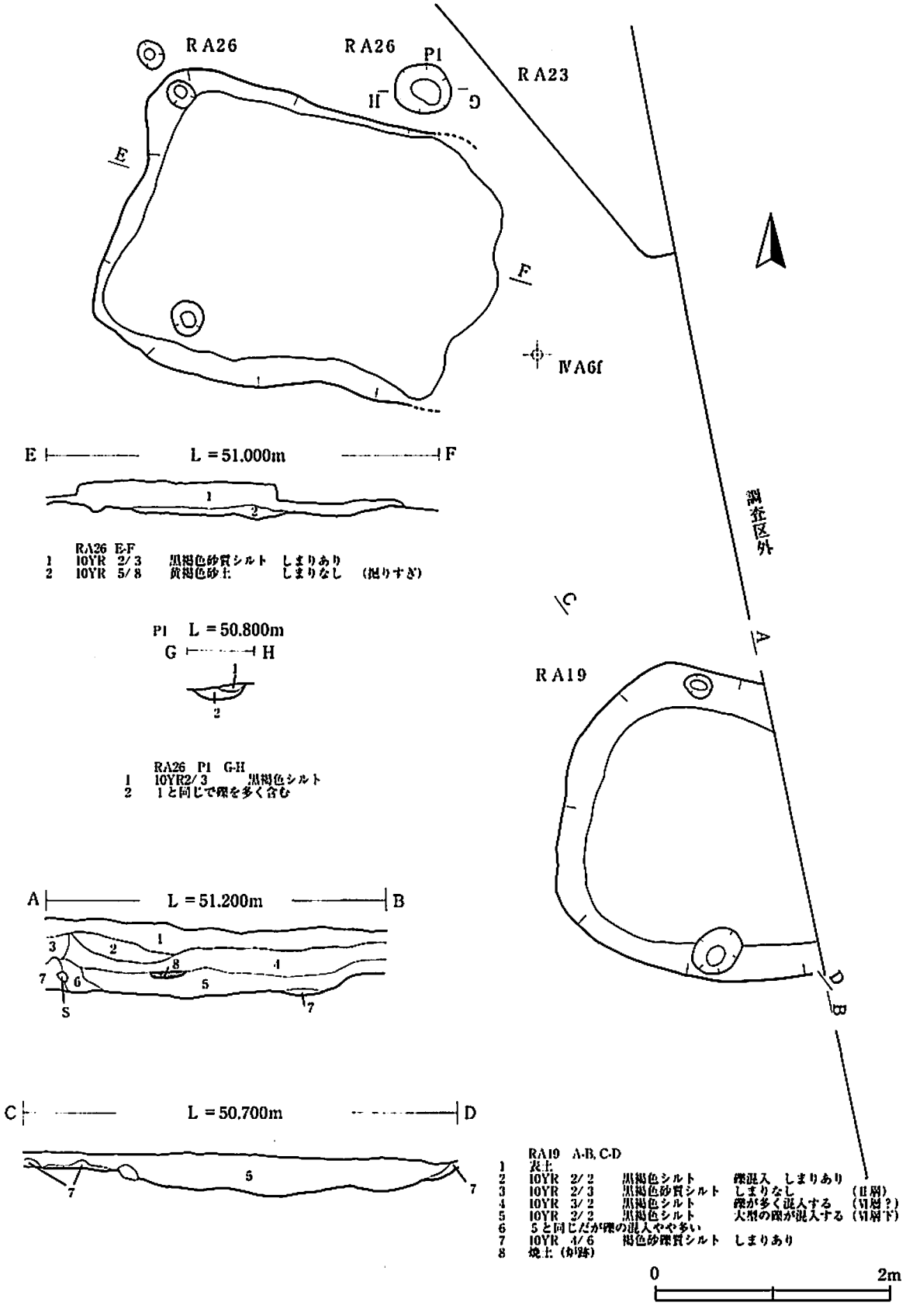
ＲＡ20竪穴住居跡（平成１３年度 １９号住居跡）第20図・46図・69・70図 写真図版16・42・60

調査区中央区グリッドⅣＡ２・３ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色土砂面である。

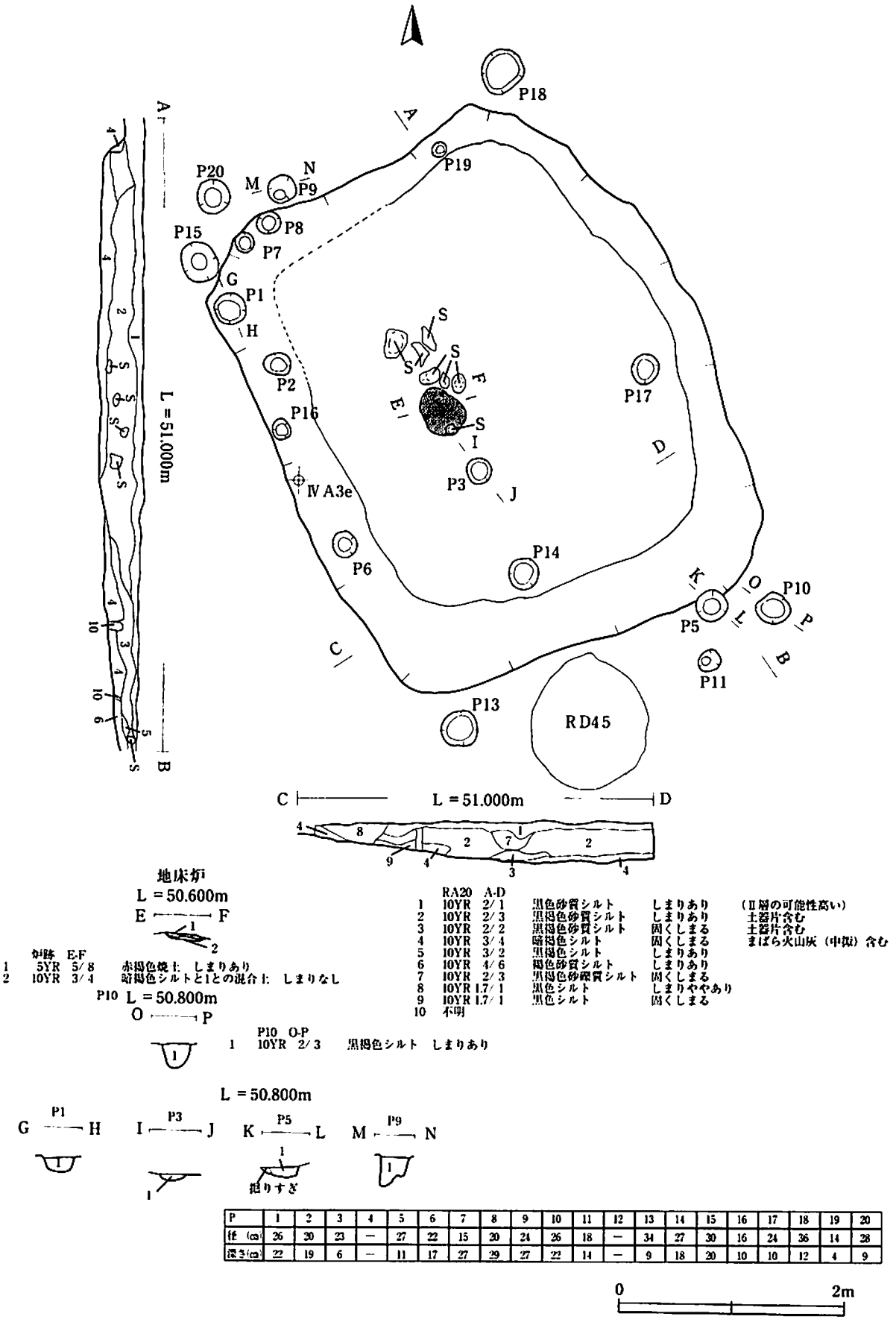
北東側でＲＡ26と隣接し、床面下にはＲＡ27がある。そして南壁の上位に集石土坑（ＲＤ45）があるが、当遺構よりやや古い遺構として位置づけている。

平面形は隅丸の略長方形を呈し、規模は長軸４ｍ64cm、短軸３ｍ92cmを計る。主軸方位はほぼ北西から南東に延びる。

埋土は、礫を含む砂質の黒褐色砂質シルトを主体とし、下位（床面上部）に中撮火山灰を含む暗褐色シル

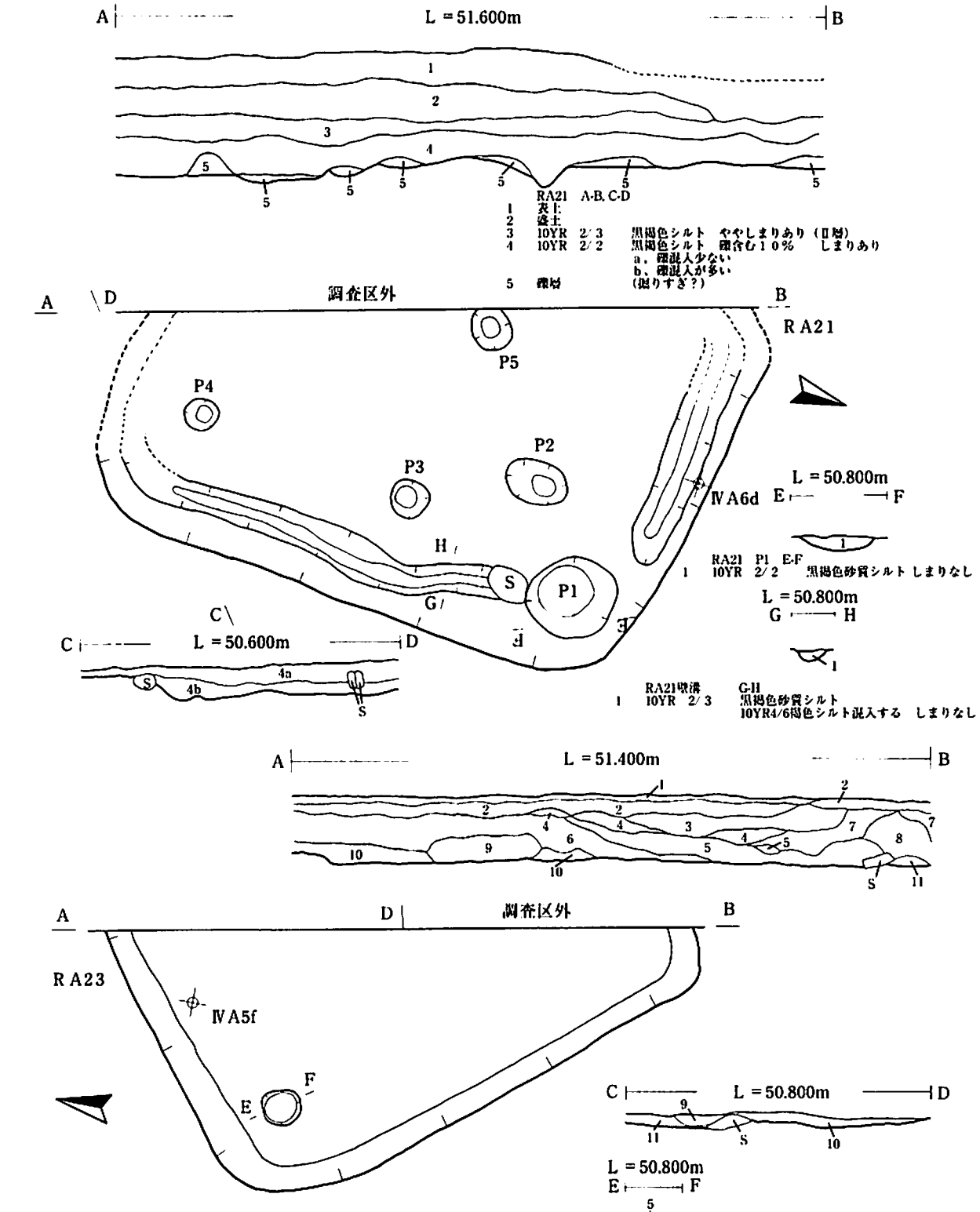


第19図 RA19・26 竪穴住居跡



P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
径(cm)	26	30	23	—	27	22	15	20	24	26	18	—	34	27	30	16	24	36	14	28
深さ(cm)	22	19	6	—	11	17	27	29	27	22	14	—	9	18	20	10	10	12	4	9

第20図　ＲＡ20　竪穴住居跡



第21図 RA21・23 竪穴住居跡

トを載せる。部分的に柱穴状土坑の断面が観察できるが、近世以降の遺構である可能性が高い。

壁は北側と東側がやや垂直気味に、西壁と南壁がなだらかに立ち上がる特色を持つ。壁高は北側で12～22cm、東側が6cm前後、西側比高は13～15cmを計り、南壁は長さ50cmのみ確認され、3cmほどの高低差でしかない。

地床炉1基を検出した。床面中央部のやや西よりに位置する。焼成の規模は46×36cmで、深さは最大で6cm、ややしまる。大きさ10～15cmの礫が周囲に配されているかのようにあるが、焼成を受けていない。

床面はやや固くしまる程度であるが平坦である。南西隅や北側に大型の礫が露出する。周溝は検出できなかった。

床面や壁沿いに合計19基の柱穴状小土坑を検出した。径は20～30cmである。径や深さにやや規則性のあるP10・13・15・18が主柱穴（壁上位）になるであろうか。そうするとP3・6・17や16も関連してくると考えれる。

出土遺物は、RA07・09についで多い。土器は繊維を含むものがほとんどで、早期に属する土器片もある。151・152は早期中葉の貝殻文を施す土器、153～155は表裏縄文を施す土器であるが繊維が混入しない。155の断面観察からすべて円盤形土製品の可能性もある。またこの表裏縄文土器は、当遺構南側に位置する集石土坑（RD45）の埋土上位からも出土するが、その流れ込みの可能性もある。156は上川名Ⅱ式に比定される土器で、157～164まではループ文や羽状縄文に代表される大木1式の土器と考えられる。165は大木2a式か？石器は620～622の石鏃、623～625の石匙のほかスクレーパーが出土している。スクレーパーに関しては掲載は4点のみであるが、実際の出土量は多く、他の住居跡にみられない特色といえる。多くの剥片石器を出土させる割に、礫石器の出土がないことも指摘できる。

時期は、出土土器片のうち、早期中葉の土器片を流れ込みと判断し、出土遺物や埋土状況から縄文時代早期末葉から前期初頭に属すると考えられる。

RA21竪穴住居跡（平成13年度20号住居跡）第21図・46図　写真図版17・42

調査区中央区グリッドⅣA6c・dに位置する。検出面はⅦ層礫面である。

西側半分が調査区外に延びるが、県道が縦走しており、破壊されている可能性が高い。

平面形・規模は隅丸の長方形を呈し、規模は長軸5m前後と推測される。短軸は不明。主軸方位はほぼ北から南に延びる。

埋土は、礫を多く含む黒褐色シルトを主体とし、基本層Ⅵ層に当たるのではないかと考えている。

壁は、削平され検出できなかったが、南－北断面では南側でやや垂直気味に立ち上がることが見える。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面は下げすぎているが、大型の礫の露出が甚だしい。遺構の認定の根拠となった周溝が、北・東壁際で検出された。また5基の柱穴状小土坑が検出されたが、詳細は不明である。

出土遺物は、繊維を含む土器片と含まないものと約半分ずつの出土で、大型の破片には繊維を含まないようである。しかし出土状況は、埋土上層に撹乱層Ⅱ層が厚く堆積することから、時期の特定をする決定打とはなりえない。

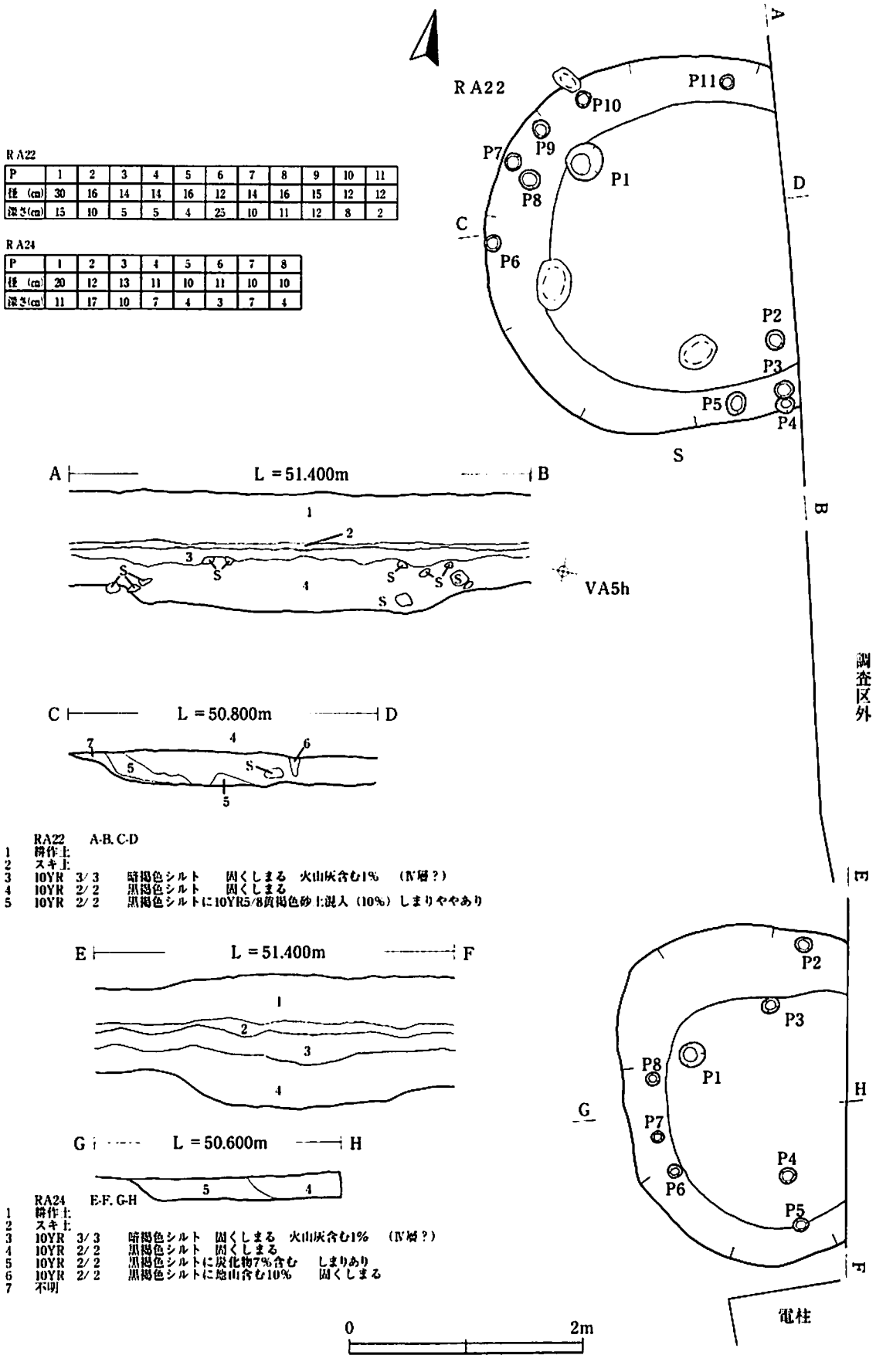
時期は、上記の理由から、縄文時代前期初頭から中葉ににかけての遺構と考えている。

RA22

P	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
径 (cm)	30	16	14	14	16	12	14	16	15	12	12
深さ(cm)	15	10	5	5	4	25	10	11	12	8	2

RA24

P	1	2	3	4	5	6	7	8
径 (cm)	20	12	13	11	10	11	10	10
深さ(cm)	11	17	10	7	4	3	7	4



RA22　A-B, C-D

1　耕作土
2　スキ土
3　10YR 3/3　暗褐色シルト　固くしまる　火山灰含む1%　(Ⅳ層？)
4　10YR 2/2　黒褐色シルト　固くしまる
5　10YR 2/2　黒褐色シルトに10YR5/8黄褐色砂土混入（10%）しまりややあり

RA24　E-F, G-H

1　耕作土
2　スキ土
3　10YR 3/3　暗褐色シルト　固くしまる　火山灰含む1%　(Ⅳ層？)
4　10YR 2/2　黒褐色シルト　固くしまる
5　10YR 2/2　黒褐色シルトに炭化物7%含む　しまりあり
6　10YR 2/2　黒褐色シルトに地山含む10%　固くしまる
7　不明

第22図　ＲＡ22・24　竪穴住居跡

ＲＡ22竪穴住居跡（平成１３年度21号住居跡）第22図・46図・70図　写真図版18・42・60

調査区南側グリッドＶＡ４ｈに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

南東側に同時代と考えているＲＡ23があり、西側には一連の近世焼土遺構が広がる。東側の一部が調査区外に延びる。

平面形・規模は不整な円形を呈し、径３ｍ10cm～３ｍ20cmを計ると推測される。

埋土は、砂質の黒褐色シルトを主体とする。

壁は全体的になだらかにあがる。北側で壁高20cmを計る。

地床炉等は確認できず、床面は固くしまるが、ややお椀形に中央部が沈む。床面隅や壁の上部に径５cm、深さ５～10cmほどの小穴が多数検出されているが、図面内には径10cm以上のものを組み入れた。

遺物は、９号袋２つ分の土器片と石器１点を得た。繊維を混入させる土器が多い。174～176は上川名Ⅱ式に比定される土器、177～179は大木１式に比定される土器である。

時期は、出土遺物や遺構の規模などから、縄文時代前期初頭から前葉に属すると考えられる。

ＲＡ23竪穴住居跡（平成１３年度23号住居跡）第21図・46図　写真図版19・43

調査区中央区グリッドⅣＡ３・４ｆに位置する。検出面はⅦ層礫層面である。

北側にＲＤ40・41・45があり、土坑を挟む形でＲＡ18がある。東側半分が調査区外に広がる。

平面形・規模は隅丸の長方形を呈し、長軸４ｍ50cmを計る。短軸は不明であるが３ｍ～３ｍ50cmを計る。主軸方位はほぼ北西から南東に延び、長軸線はＲＡ18とほぼ同一となる。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルトを主体とし、基本層Ⅵに当たると考えている。

壁は全体的に削平され（掘りすぎを含めて）、定かではないが、南－北断面から、壁高は５cm程度の立ち上がりが観察できる。

地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面は礫に覆われる。床面北東隅に柱穴状土坑が１基検出された。

遺物は、12号袋半分の土器片が出土している。繊維を含む土器片が多い。180は上川名Ⅱ式に比定される土器、181～185は大木１式に比定される土器である。186は大木２ｂ式の土器と考えている。

時期は、出土遺物や埋土状況から、縄文時代前期初頭～前葉に属すると考えられる。

ＲＡ24竪穴住居跡（平成１３年度24号住居跡）第22図・47図・70図 写真図版18・43・60

調査区南側グリッドＶＡ５ｈに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂礫面である。

南東側に同時代と考えているＲＡ21、南側にＲＡ02がある。東側の一部が調査区外に延びる。

平面形・規模は不整な円形を呈し、径２ｍ90cm前後を計ると推測される。

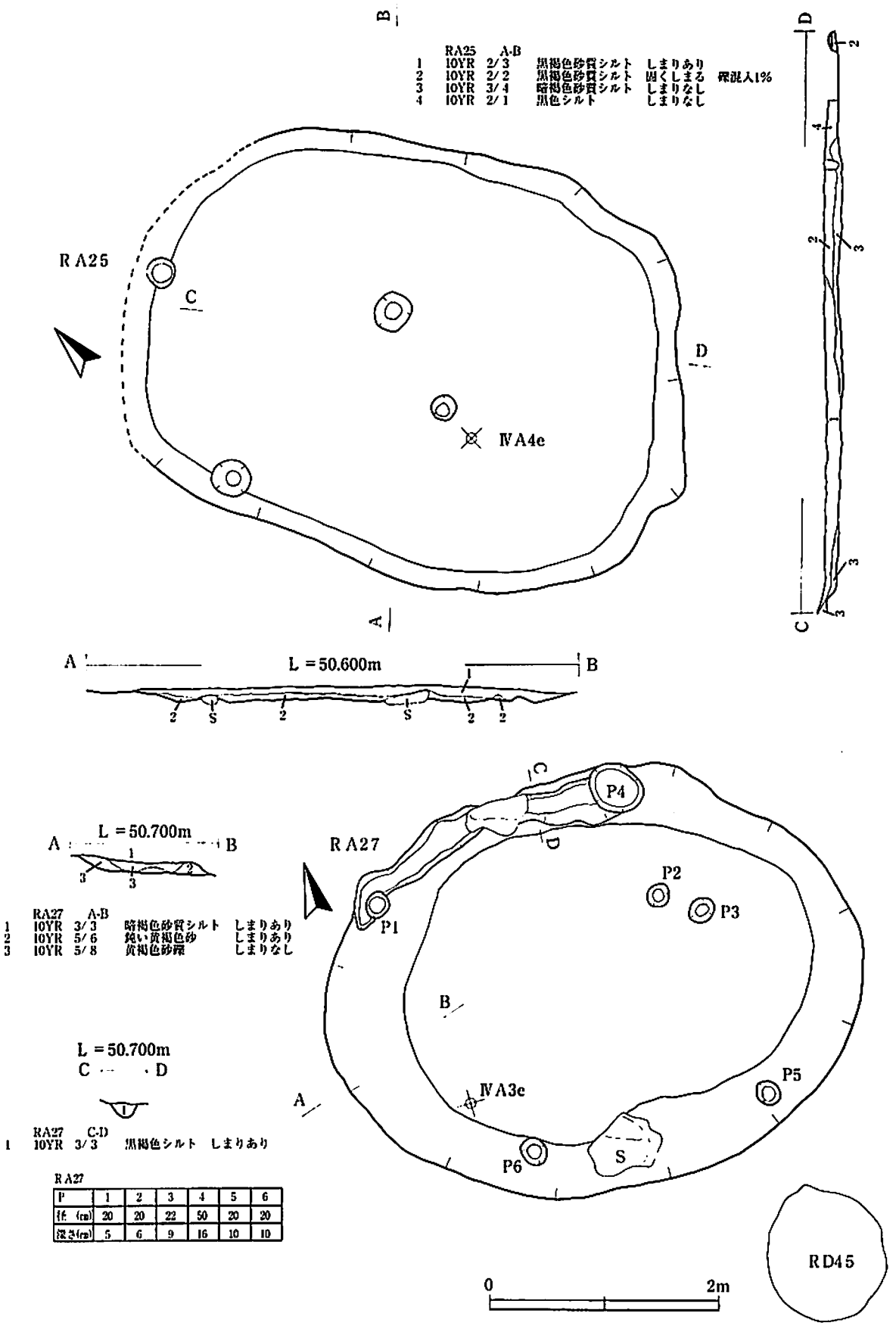
埋土は、砂質の黒褐色シルトを主体とする。

壁は全体的になだらかに立ち上がる。南側で壁高15cmを計る。

地床炉等は確認できず、床面は固くしまる。床面隅や壁の上部に径５cm、深さ５～10cmほどの小穴が多数検出されているが、図面内には径10cm以上のものを組み入れた。

出土遺物は少なく、187～189の斜縄文は大木１式と考えている。石器では631の石匙が出土した。

時期は、出土遺物や埋土状況また遺構の形状から、縄文時代前期初頭から前葉に属すると考えられる。



RA27

P	1	2	3	4	5	6
径 (cm)	20	20	22	50	20	20
深さ(cm)	5	6	9	16	10	10

第23図　ＲＡ25・27　竪穴住居跡

ＲＡ25竪穴住居跡（平成１３年度25号住居跡）第23図・47図　写真図版19・43

調査区中央区グリッドⅣＡ４・５ｄ・ｅに位置する。検出面はⅦ層礫層面である。

平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸４ｍ92cm、短軸３ｍ94cmを計る。主軸方位はほぼ北西から南東に延びる。

埋土は、礫を含む黒褐色シルトを主体とする。下位に暗褐色シルトが載るが、中掘火山灰は確認できなかった。

壁は、ほとんど削平されている。南・西壁に長さ５cmほど残る壁は、なだらかに立ち上がる。

地床炉等は確認できない。ただ東壁から１ｍ程離れたところに薄い焼土を検出している。（断面図参照）床面は礫に覆われる。床面隅や壁の上部に４基の柱穴状土坑を検出した。

遺物は、９号袋半分の出土土器を得た。そのうち４点を掲載した。190は表裏縄文を施す土器片で、このグリッドからは遺構外でも比較的多く表裏縄文を出土させる特色がある。191は大木１か２式土器、192は早期末葉の土器と考えれる。

時期は、出土遺物状況が曖昧で時代は不明であるが、早期末葉～前期初頭に属する可能性が高い。

ＲＡ26竪穴住居跡（平成１３年度26号住居跡）第19図・47図・70図 写真図版20・43・60

調査区中央区グリッドⅣＡ５ｅに位置する。検出面はⅦ層礫層面である。東側でＲＡ22と隣接し、南東に３ｍ離れてＲＡ17がある。

平面形は隅丸の長方形を呈し、規模は南側が削平されており、推定で長軸３ｍ50cm前後を計る。短軸２ｍ40cm。主軸方位はほぼ西から東に延びるが、やや北側に傾く。

埋土は、礫を含む黒褐色シルトを主体とする。Ⅵ層であるかどうかは判断できない。

壁は、ほとんど削平されている。残る壁高は５cm程度であり、形状は判別できない。

地床炉等は確認できない。　床面は礫に覆われる。床面隅や壁の上部に４基の柱穴状土坑を検出した。

出土遺物は少ない。繊維の混入する羽状縄文土器（194）や繊維の混入しない土器が混在する。石器では632の石匙のみの出土である。

時期は、出土遺物状況や埋土状況が曖昧で判別しがたく、前期初頭から中葉に属する可能性が高い。

ＲＡ27竪穴住居跡（平成１３年度29号住居跡）第23図 写真図版20

調査区中央区グリッドⅣＡ２・３ｅに位置し、ＲＡ18の床面下からの検出である。

北側でＲＡ26と隣接する。また南にはＲＤ45があり、ＲＡ18よりは当遺構の方が関連性が高いと考えられる。

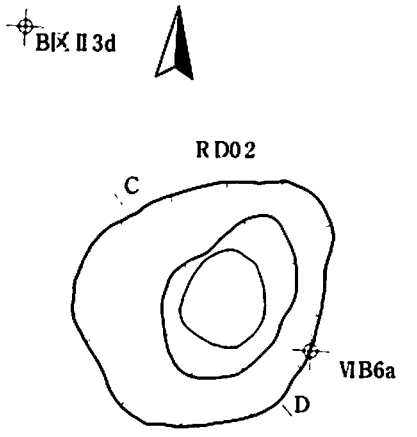
平面形は楕円形を呈し、規模は長軸４ｍ62cm、短軸３ｍ50cmを計る。主軸方位はほぼ西から東に延びる。

埋土は、褐色砂のほぼ単層である。

壁は全体的になだらかに立ち上がる。壁高は３～５cm足らずである。

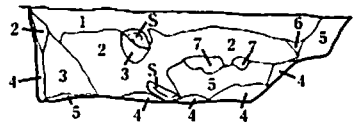
地床炉等は確認できず、また近隣に焼土遺構もない。

床面は礫層に覆われ、巨岩が露出する。北側壁際に幅30～40cm、深さ最大14cmの壁溝状の溝跡を検出した。また、柱穴状の小土坑が６基確認できるが、ＲＡ18に関わるものの可能性もある。



RD01

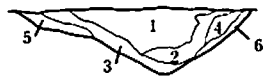
A　L＝50.667m　B



	RD01	A-B			
1	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりあり
2	10YR	3/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
3	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
4	10YR	3/3	暗褐色土	粘性なし	しまりなし
5	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
6	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりなし
7	10YR	3/1	黒褐色土	粘性なし	しまりなし

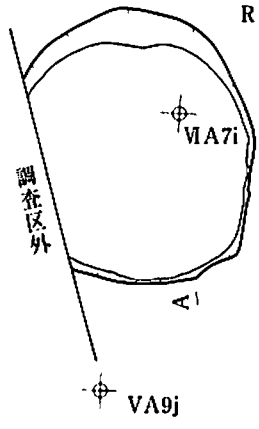
RD02

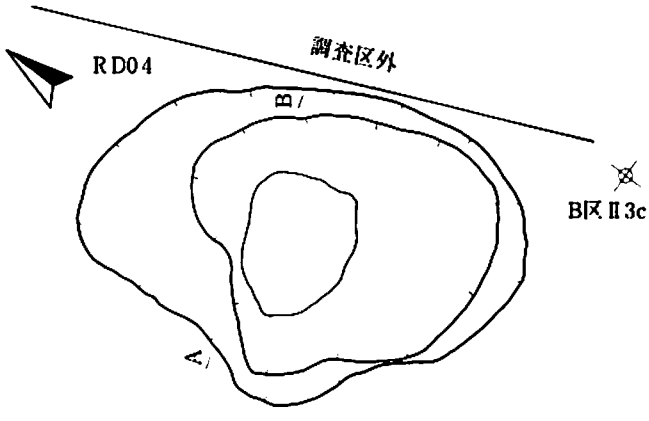
C　L＝50.500m　D

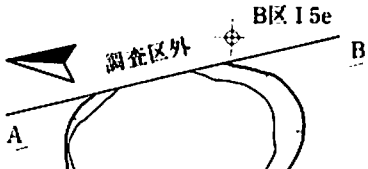


	RD02	C-D			
1	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりあり
2	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりあり
3	10YR	3/4	暗褐色土	粘性ややあり	しまりあり
4	10YR	4/6	褐色土	粘性あり	しまりあり
5	10YR	3/3	暗褐色土	粘性あり	しまりなし
6	10YR	5/8	黄褐色砂土		しまりあり

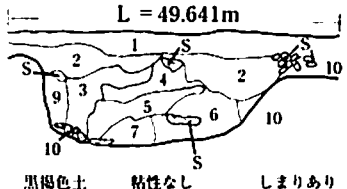
0　2m







A　L＝49.641m　B

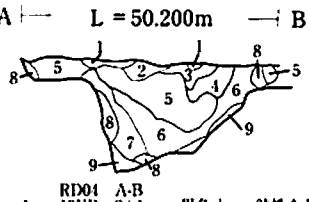


	RD06	A-B				
1	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりあり	礫多く含む（耕作土）
2	10YR	2/1	黒色土	粘性ややあり	しまりあり	
3	10YR	1.7/1	黒色土	粘性ややあり	しまりあり	炭化物、橙色焼土粒含む
4	10YR	2/1	黒色土	粘性あり	しまりあり	
5	10YR	2/1	黒褐色土	粘性ややあり	しまりあり	
6	10YR	3/3	暗褐色土	粘性なし	しまりあり	炭化物含む
7	10YR	2/3	黒褐色土	粘性ややあり	しまりあり	
8	10YR	3/4	暗褐色土	粘性まるでなし	しまりあり	
9	10YR	4/3	鈍い黄褐色土	粘性まるでなし	しまりなし	
10	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりあり	

0　2m

A　L＝50.200m　B

ⅥB5a



	RD04	A-B			
1	10YR	2/1	黒色土	粘性なし	しまりなし
2	10YR	2/2	黒褐色土	粘性なし	しまりなし
3	10YR	2/2	黒褐色土	粘性ややあり	しまり全くなし
4	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりややあり
5	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	しまりあり
6	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	よくしまる
7	10YR	2/3	黒褐色土	粘性なし	よくしまる　（6よりマサの割合高い）
8	10YR	3/4	暗褐色土	粘性なし	しまりあり
9	10YR	4/6	褐色土	粘性なし	しまりあり

第24図　RD01・02・04・06　土坑

出土遺物はない。

時期は、埋土状況から、ＲＡ18より古い縄文時代早期の遺構と考えられる。

（２）土坑

２年間の調査で検出された縄文時代の土坑は45基である。その中には遺物が出土していないものも含まれるが、埋土状況などから判断した。また、大きさや機能における分類はしていないが、その特色については各遺構で考察している。

本文では検出順に述べている。しかし、図版では必ずしも検出順となっておらず、区域ごとの土坑を一括して載せている。それは、土坑の特色を明示するためであり、特に住居跡の周辺ごとにまとめることを心がけた。

ＲＤ01土坑　第24図・47図　写真図版21・43

調査区南側グリッドⅥＡ２ｈに位置する。検出面は褐色土層面である。西側を県道に切られる。

平面形・規模は不整な真円形を呈し、開口部径は１ｍ80cm、底部径は１ｍ30cmである。深さは北壁高27.6cm、南壁高60.8cmで、断面形は逆台形状である。

埋土は、しまりのない黒褐色シルト（Ⅵ層？）のほぼ単層で、中位と下位に30cm大の川原石を含む。下位の礫は人為的に置かれた観がある。

遺物は、埋土の黒褐色シルト中から繊維が多く混入する羽状縄文土器が２点出土している。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ02土坑　第24図　写真図版21

調査区南側グリッドⅥＡ１ｉに位置する。検出面は暗褐色土層面である。南にＲＤ01がある。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径は１ｍ84cm×１ｍ54cm、底部径は50～60cmである。深さは南西壁高55.6cmが最大である。断面形は逆三角形状である。

埋土は、しまりのない黒褐色シルトを主体とするが、下位で砂質の黄褐色土が入り込む。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ04土坑　第24図　写真図版21

調査区南側グリッドⅥＢ４ａで検出された。検出面は褐色土層面である。

平面形・規模は、不整な楕円形を呈し、開口部径は２ｍ94cm×１ｍ74cm、底部径は２ｍ04cm×１ｍ54cmである。深さは最深部で60.8cmを計り、断面形は逆台形状である。

埋土は、しまりのある黒褐色シルトがレンズ状に入る自然堆積で、埋土下位に砂質シルトを含む。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況からＲＤ01と同時期の、前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ06土坑　第24図　写真図版21

調査区南側グリッドＶＡ９ｉに位置する。検出面は褐色土層面である。東側の一部が調査区外に延びる。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径は１m58cm×１m前後、底部径は１m36cm×98cmである。深さは北側で最大52cm、西側壁高で28～32cmを計り、断面形は皿状である。

埋土は、黒褐色土を上位に、下位に暗褐色土を持つ。一部炭化物や焼土を含む層があり、その層には20cm大の礫を含む。ＲＤ01と同様に、底部の礫は人為的に置かれたか上位にあったものが落ちた観がある。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から、ＲＤ01と同時期の、前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ07土坑　第25図　写真図版22

調査区南側グリッドⅥＢ６ａに位置する。検出面は褐色土層面で、ＲＡ04の床面でもある。ＲＡ04の西壁から２m50cm、推定の東壁から、約１mの位置にある。

平面形・規模は真円形を呈し、開口部径は１m20cm、底部径は58cm、深さは東壁高43.5cmである。断面形はビーカー状を呈す。

埋土は、黒褐色土を上位に、下位に暗褐色土を持つ。上位の黒褐色土中央部に30cm大の礫を含む。その礫と南壁上部にある礫は自然状態にはみられず、なんらかの意図があって配置された可能性がある。

出土遺物はない。

時期は、特定できないがＲＡ04との関わりがあると考えられる。しかしその根拠はなく、ここでは縄文時代前期の遺構としておく。

ＲＤ08土坑　第25図　写真図版22

調査区南側グリッドⅥＢ６ａに位置する。検出面はＲＤ07と同じＲＡ04の床面である。ＲＡ04の西壁から約１m、南壁から２m40cmの位置にあり、ＲＤ07の南西に位置する。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径は１m24cm×１m、底部径は30cm前後、深さは最大で30cmを計る。断面形は皿状を呈す。

埋土は、砂質の暗褐色土を主体とする。上位にＲＤ07同様の30cm大の礫を含む。

出土遺物はない。

時期は、特定できないがＲＡ04との関わりがあると考えられる。しかしその根拠はなく、ここでは縄文時代前期の遺構としておく。

ＲＤ10土坑　第25図・47図　写真図版22・43

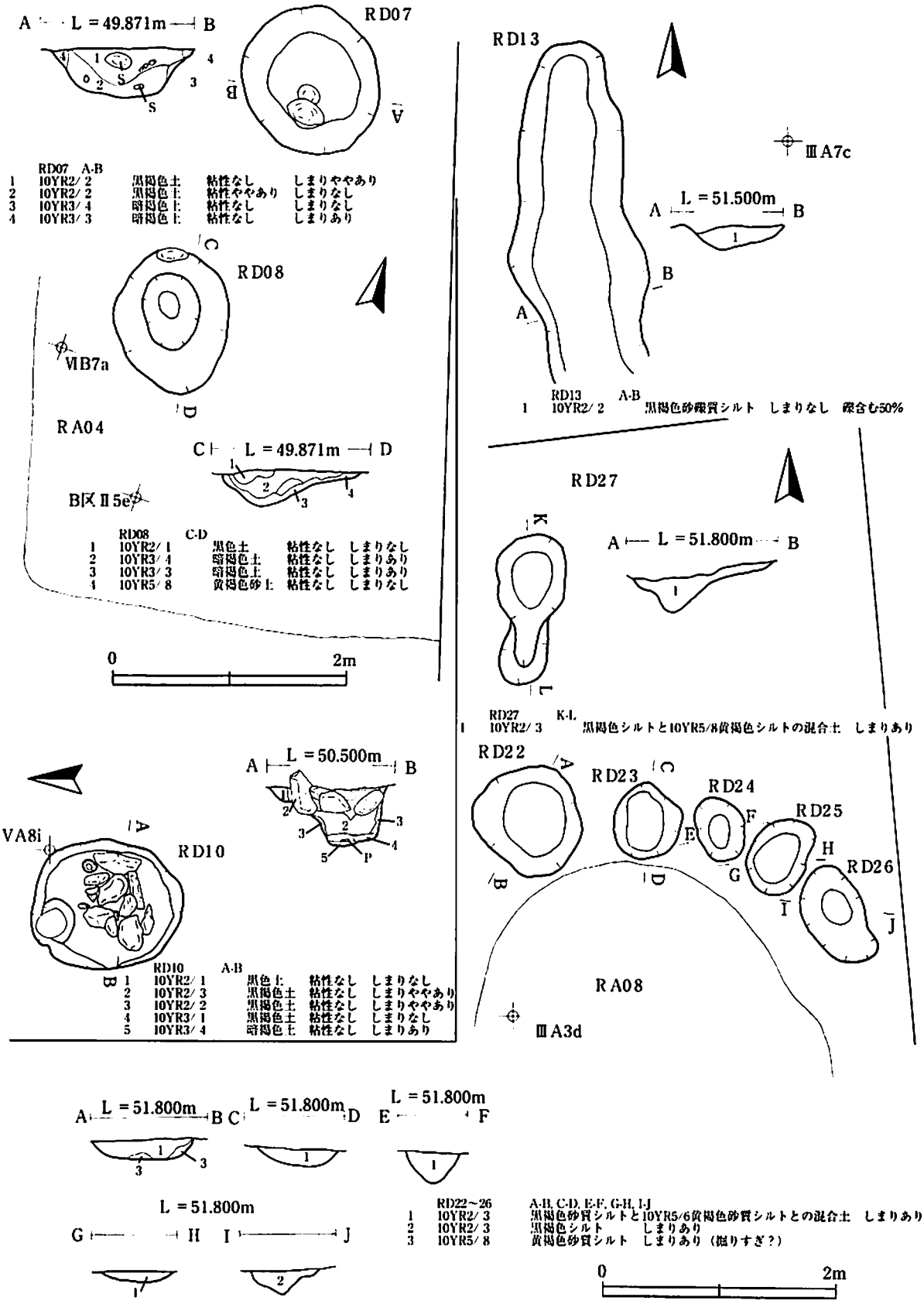
調査区南側グリッドＶＡ７ｈに位置する。検出面は褐色土層面である。ＲＡ03の南壁から約１m離れる。また、ＲＡ05の壁際を巡る小穴内にあり、当遺構が住居跡に伴うとも考えられるが、定かでない。

平面形・規模は不整な真円形を呈し、開口部径は１m08cm～１m20cmで、礫が配置される中段の底部径は98cm～１m、最底部は40cm前後である。深さは50cm前後を計る。

断面形は、配石部までは皿状、その下位はビーカー状を呈す。

埋土は、礫の下部は黒褐色土が覆う人為的堆積である。礫は40cm大の礫をコの字型に配置し、その中に包むように10～20cm大の礫を設置している。

床面上では200の深鉢が、埋土の黒褐色土中から201の深鉢が出土している。そのうち200の土器片はサイドを整形しているかのように切れ口が平らで、ＲＡ03出土の土器片と接合している。意図的に200の土器片を破



第25図 RD07・08・10・13・22～27 土坑

壊し埋め、その上に201を埋めていると推定する。

時期は、出土土器から、ＲＡ03と同時期の縄文時代前期前葉に属する。

ＲＤ13土坑（平成13年度 3号土坑）第25図・47図 写真図版23・43

調査区中央区グリッドⅢＡ７ｂに位置する。検出面はⅦ層礫面である。

平面形・規模は溝形を呈し、溝幅は上場最大１ｍ20cm、下場最大62cmを計る。深さは最大で30cm。断面形は皿形である。

埋土は、礫を含む黒褐色シルトの単層で、一部に中掘火山灰らしき灰白色のシルトを確認した。

遺物は、上川名Ⅱ式に比定される土器の体部（202）が出土している。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。このような溝状土坑が周囲にあり（実測していない）住居跡の一部である可能性も考えられる。

ＲＤ14土坑（平成13年度 4号土坑）第26図・47図　写真図版23・43・60

調査区中央区グリッドⅢＡ３・４ｃ・ｄに跨って位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。北に２ｍ離れてＲＡ12がある。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径は２ｍ02cm×１ｍ34cm、底部径は１ｍ60cm×１ｍ10cmである。深さは北壁高24.7cm、西壁高20.6cmで、ほかは10cm程度。断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトを主体とし、雲母を含む。

出土遺物は、少量の土器片と633の石製品が出土した。上川名Ⅱ式土器の体部である203を除き、繊維を含まない204～206は判別できない。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

ＲＤ15土坑（平成13年度 5号土坑）第26図・47図　写真図版23・44

調査区中央区グリッドⅢＡ６ｃに位置する。検出面はⅦ層礫面である。南側でＲＤ16と隣接し、東側には約１ｍ離れてＲＤ21・28が、北には２ｍ離れてＲＡ09がある。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は１ｍ36cm、底部径は１ｍである。深さは北壁高42.2cm、東壁高52.3cmで、ＲＤ15に接続する南側は28cmと浅い。断面形は逆台形状である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルトを主体し、暗褐色土の粘土がやや入り込む。

遺物は、12号袋約半分の土器片が出土した。すべてに繊維を混入させる。そのうち状態のよい４点を掲載した。207・208は上川名Ⅱ式に比定される土器、ほかは大木１式と考えられる。

時期は、土器出土状況や埋土状況から縄文時代前期初頭から前葉に属する可能性が高い。

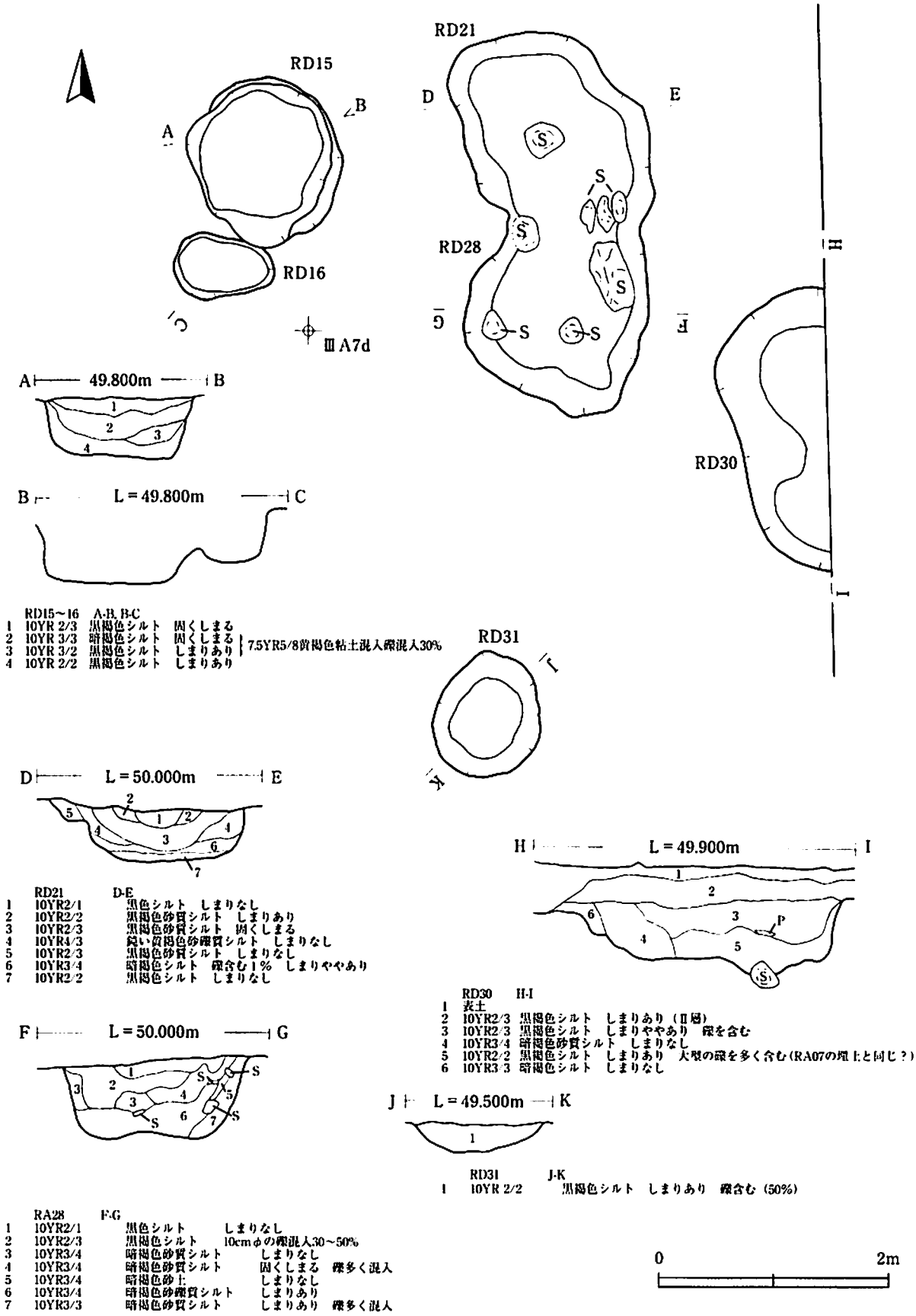
ＲＤ16土坑（平成13年度 6号土坑）第27図・70図　写真図版23・60

調査区中央区グリッドⅢＡ６ｃに位置する。ＲＤ15土坑（平成13年度 5号土坑）の南で検出した。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径は88×50cm、底部径は80×42cmである。深さはＲＤ14と接する北壁高８cm、南壁高33.6cmで、断面形はビーカー形である。

埋土は、実測図はないがＲＤ15の埋土上位と同じであることを確認している。

出土遺物は無茎の石鏃１点（634）のみである。



RD15～16 A-B, B-C

1	10YR 2/3	黒褐色シルト	固くしまる
2	10YR 3/3	暗褐色シルト	固くしまる ｜7.5YR5/8黄褐色粘土混入礫混入30%
3	10YR 3/2	黒褐色シルト	しまりあり ｜7.5YR5/8黄褐色粘土混入礫混入30%
4	10YR 2/2	黒褐色シルト	しまりあり

RD21 D-E

1	10YR2/1	黒色シルト	しまりなし
2	10YR2/2	黒褐色砂質シルト	しまりあり
3	10YR2/3	黒褐色砂質シルト	固くしまる
4	10YR4/3	鈍い黄褐色砂礫質シルト	しまりなし
5	10YR2/3	黒褐色砂質シルト	しまりなし
6	10YR3/4	暗褐色シルト	礫含む1% しまりややあり
7	10YR2/2	黒褐色シルト	しまりなし

RA28 F-G

1	10YR2/1	黒色シルト	しまりなし
2	10YR2/3	黒褐色シルト	10cmゅの礫混入30～50%
3	10YR3/4	暗褐色砂質シルト	しまりなし
4	10YR3/4	暗褐色砂質シルト	固くしまる 礫多く混入
5	10YR3/4	暗褐色砂土	しまりなし
6	10YR3/4	暗褐色砂礫質シルト	しまりあり
7	10YR3/3	暗褐色砂質シルト	しまりあり 礫多く混入

RD30 H-I

1	表土	
2	10YR2/3	黒褐色シルト しまりあり（Ⅱ層）
3	10YR2/3	黒褐色シルト しまりややあり 礫を含む
4	10YR3/4	暗褐色砂質シルト しまりなし
5	10YR2/2	黒褐色シルト しまりあり 大型の礫を多く含む（RA07の埋土と同じ？）
6	10YR3/3	暗褐色シルト しまりなし

RD31 J-K

1	10YR 2/2	黒褐色シルト しまりあり 礫含む（50%）

第26図 RD15・16・21・28・30・31土坑

埋土等の状況からＲＤ15と同時期の遺構と考えられる。

ＲＤ17土坑（平成13年度 7号土坑）　第27図・48図・70図　写真図版24・44・60・61

調査区中央グリッドⅢＡ３ｃに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。上位にＲＡ13があったと推測する。北側にＲＤ18が隣接する。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径は１ｍ46cm×98cm、底部径は１ｍ28cm×64cmである。深さは南壁高54.8cm、ＲＤ18寄りの北壁高27.8cmで、断面形は南－北はビーカー状形、西－東は逆台形状となる。

埋土は、礫を含む暗褐色シルトの単層で一部炭化物が混入する、人為的堆積と考えられる。

底部には礫（亜角礫）が確認できるが、人為的かどうかは判別しない。

遺物は、９号袋２つ分の土器片と石器５点を得た。211と212以外は繊維の混入については微妙なものが多い。214は大木２ｂ式、216と217は大木３式土器と捉えている。215や218は前述したＲＡ09に出土する土器に多い特色を持つ。石器では石鏃２点（635・636）のほかに大型の尖頭器が出土している（637・638）。また、埋土から出土した礫石器（639）は、ＲＡ13に関わる遺物の可能性もある。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉から中葉に属する可能性が高い。

ＲＤ18土坑（平成13年度 8号土坑）　第27図・48図 写真図版24・44

調査区中央区グリッドⅢＡ３ｃに位置する。ＲＤ17の北側で検出した。

平面形・規模は隅丸の長方形を呈し、長軸は２ｍ30cm、短軸は１ｍ68cmを計る。深さは西壁高が最大で43.4cm、ほかは20～25cmを計る。断面形はⅢ形で、壁はやや外傾して立ち上がる。

埋土は、下位に褐色のシルトを載せる。人為的堆積の可能性が高い。

その形状から小型の住居跡の可能性も指摘できるが、判然としない。

遺物は、埋土の褐色シルト中から出土した土器のうち５点を掲載した。埋土の下位からは繊維の混入する土器片（220）上位からは繊維の混入しない土器が出土する。223の土器片は埋土中位（ＲＡ13の床面同レベル）に出土したもので、ＲＡ13に関わる遺物と考えられる。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ19土坑（平成13年度 9号土坑）第27図 写真図版24

調査区中央区グリッドⅢＡ４ｃに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は72cm、底部径は40cmである。深さは西壁高が最大で12.0cmを計り、断面形はⅢ形である。

埋土は、暗褐色のシルトの単層。中振火山灰は確認できない。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期に属する可能性が高い。

ＲＤ20土坑（平成13年度 10号土坑）第27図 写真図版24

調査区中央区グリッドⅢＡ３ｃに位置する。ＲＤ19の北西で検出した。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は70～80cm、底部径は50cmである。深さは西壁高が最大で

11.4cm、断面形は皿形である。

埋土は、暗褐色のシルトの単層。中掫火山灰は確認できない。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期に属する可能性が高い。

ＲＤ21土坑（平成13年度 12号土坑）第26図・48図・70図　写真図版25・44・61

調査区中央区グリッドⅢＡ６ｄに位置する。検出面は黄褐色砂層面である。南側でＲＤ28と重複する。上位には、ＲＡ14があったと考えており、当遺構は、その住居跡を切っている可能性が高い。近隣には西に１m離れてＲＤ14が、東に同じく１m離れた位置にＲＤ30がある。また北側にはＲＡ09が横たわる。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、長軸は２m前後と推定する。短軸は１m42cmを計る。深さは北壁高41.0cm、東壁高35.4cmで、断面形は逆台形状である。

埋土は、礫を含む黒褐色シルトを主体とし、下位に暗褐色シルトが覆う。

出土遺物は、繊維を含む縄文土器の破片を５点と石匙１点（B59）を得た。そのうち２点（225・226）を掲載したが、どちらも大木１式に比定できる土器片である。

時期は、埋土状況や出土遺物から、縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ22土坑（平成13年度 13号土坑）第25図・48図　写真図版25・44

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。ＲＡ08の北側壁上部にある。東側でＲＤ23と隣接する。以下ＲＤ26までＲＡ08の北側壁に沿って、ほぼ等間隔で連なる。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は98cm、底部径は52cmである。深さは、東壁高が最大で11.6cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトと暗褐色シルトが混合する。

遺物は、土器片６点を得た。掲載した227を含め、すべて繊維を混入させる土器片である。

時期は、ＲＤ26の次に一括で述べる。

ＲＤ23土坑（平成13年度 14号土坑）第25図 写真図版25

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。ＲＡ08の北側壁上部にある。平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は56cm、底部径は30cmである。深さは、北壁高が最大で11.8cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトと暗褐色シルトが混合する。

出土遺物はない。

ＲＤ24土坑（平成13年度 15号土坑）第25図 写真図版24

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。ＲＡ08の北側壁上部にある。平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は54cm、底部径は28cmである。深さは、最深部から南壁までの比高で17.8cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトと暗褐色シルトが混合する。

出土遺物はない。

ＲＤ25土坑（平成13年度 16号土坑）第25図・70図　写真図版26・61

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。ＲＡ08の北側壁上部にある。平面形・規模は不整な楕円形を呈し、主軸の開口部径は68cm、底部径は44cmである。深さは、４～５cm程度で、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトと暗褐色シルトが混合する。

遺物は641の石鏃が出土している。材質は北海道赤井川産の黒曜石と判明した。

ＲＤ26土坑（平成13年度 17号土坑）第25図・48図　写真図版26・44

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。ＲＡ08の北側壁上部にある。平面形・規模は不整な楕円形を呈し、主軸の開口部径は84cm、底部径は30cmである。深さは、南壁高が最大で24.0cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトと暗褐色シルトが混合する。

出土遺物は、20点ほどの土器片を得たが、ほとんどが小破片で判別しがたい。そのうちの２点は前期中葉の土器の様相を呈す。

上記のＲＤ22～26の時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉から中葉に属すると推定する。またＲＡ08との関わりについては、壁際を 囲むように配置されていることから、壁柱穴状の遺構の可能性もある。また、ＲＡ08の検出以前に上面に少量の土器片が出土している（遺構外出土土器として登録）ことから、削平された住居跡の名残なのかもしれない。

ＲＤ27土坑（平成13年度 18号土坑）第25図 写真図版26

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、主軸の開口部径は１ｍ22cm、短軸の底部径は30cmである。深さは、最深部から南壁の比高が最大で33.8cmを計る。断面形は長軸側は皿状であるが、短軸側は柱穴状である。

埋土は、黒褐色シルトと暗褐色シルトが混合する。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から前期前葉から中葉に属すると推定する。

ＲＤ28土坑（平成13年度 19号土坑）第26 図 写真図版26

調査区中央区グリッドⅢＡ６・７ｄに位置する。検出面は黄褐色砂層面である。北側でＲＤ21と重複する。近隣の遺構などについては、ＲＤ21と同様である。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は１ｍ54cm、底部径は１ｍ10cmを計る。深さは北東・北西壁高22～45cm、南壁高では最大で92cmを計る。

埋土は、上位の黒褐色土と下位から壁際を覆う暗褐色土とに大分される。人為的堆積の可能性が高い。

出土遺物はない。

時期は、埋土状況や周辺の出土遺物から、前期前葉から中葉に属する可能性が高い。

ＲＤ29土坑（平成13年度 20号土坑）第27図 写真図版27

調査区中央区グリッドⅢＡ３・４ｄに跨って位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。北東側でＲＡ11、南東側でＲＡ10と隣接する。また、南西側ではＲＤ20、ＲＤ19がほぼ等間隔に並ぶ。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は１ｍ～１ｍ20cm、底部径は90cm×１ｍである。深さは、西壁高が最大で16.6cmを計り、ほかは10cm程度。断面形はⅢ形である。

埋土は、黒褐色シルトを主体とし、下位に砂層が堆積する。

出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から前期前葉から中葉に属する可能性が高い。

ＲＤ30土坑（平成13年度 21号土坑）第26図・48図 写真図版27・44

調査区中央区グリッドⅢＡ７ｄに位置する。検出面はⅦ層礫面である。北西側に１ｍ離れた位置にＲＤ28がある。東側半分が調査区外に延びる。

平面形は、不整な楕円形を呈すと推測される。長軸の開口部径は２ｍ30～40cm、底部径は１ｍ90cm前後と推定される。短軸は不明である。底部は中央部でややくびれる。深さは北壁高38.9cm、南壁高59.4cmである。断面形は逆台形状である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルトを主体とし、北壁際に暗褐色シルトが入り込む。一部人為的堆積の可能性がある。

遺物は、埋土中からの上位からほぼ完形の土器（234）が出土している。232・233を含め遺構の上位にあったと想定しているＲＡ15に関わるものと考えている。繊維を含む230・231が当遺構に関わる土器片の可能性があるが、判別できない。

時期は、土器出土状況や埋土状況から縄文時代前期前葉から中葉に属するが、前葉期の可能性が高い。

ＲＤ31土坑（平成13年度 22号土坑）第25図・48図 写真図版27・44

調査区中央区グリッドⅢＡ７ｄに位置する。検出面はⅦ層礫面である。南側でＲＡ07と隣接する。

平面形・規模は、不整な円形を呈し、開口部径は１ｍ12cm、底部径は54cmを計る。深さは北壁高34.2cm、南壁高25.0cmである。断面形はⅢ形である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルトを主体し、ＲＡ07の下位の土坑群と同様の特色を示す。

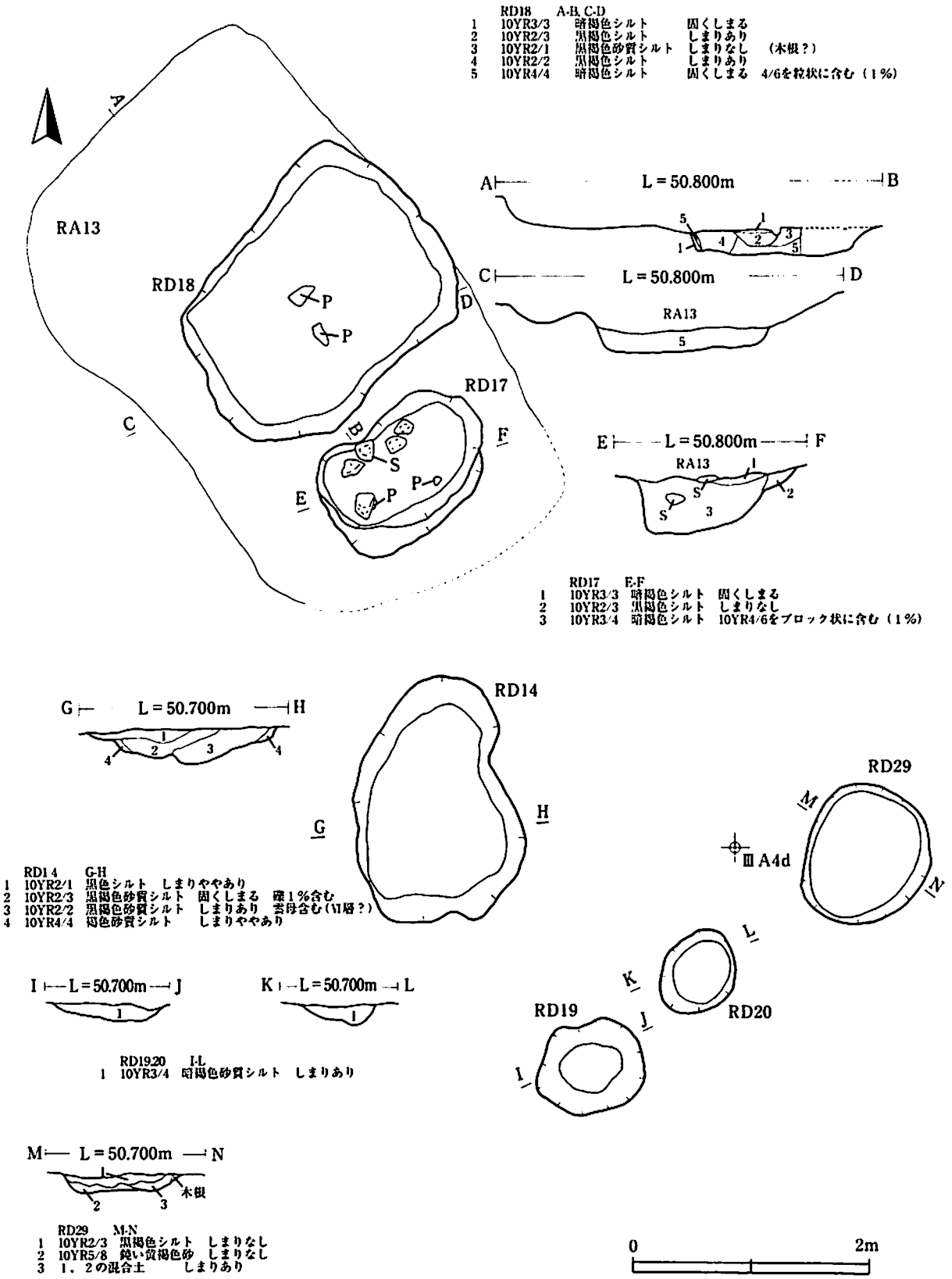
遺物は、破片の土器を得た。すべて繊維を含まない土器で、撚糸文や斜縄文を地文とする。ＲＡ07に見られるような粘土紐貼付痕や突起などは見られない。

時期は、土器出土状況や埋土状況から縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ32土坑（平成13年度 23号土坑）第28図・48図 写真図版27・45

調査区中央区グリッドⅢＡ１ｄに位置する。西側にはＲＤ33～37が当遺構を囲むように弧状に連なる。東側一部は調査区外に延びる。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は２ｍ前後と推定する。なだらかに下り、中程から急に落ち込む。半ばの径は１ｍ10cm。底部径は76cmである。深さは、南壁では底部から半ばまでが23.9cmで、開口部までは43.4cmを計る。断面形は逆台形状である。



第27図 RD14・17・18・19・20・29土坑

埋土は、中央部に褐色のシルト、下位に黒褐色の混合土などが覆う。壁際にある暗褐色土からは、中掫火山灰と考えられる灰白色シルトが確認され、また最下部の褐色シルトは非常に固くしまる。人為的堆積の可能性が高いが、一部においては自然的とも考えられる。

出土遺物は、縄文土器の破片で、繊維が混入するのがほとんどである。最下層から出土した掲載２点（239・240）は混入繊維が多い。どちらも大木１式に比定される土器である。

時期は、埋土や土器出土状況から、縄文時代前期前葉に属する可能性が高い。

ＲＤ33土坑（平成13年度 24号土坑）第28図・49図　写真図版28・45

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。北西側でＲＤ34と隣接し、以下ＲＤ34～37までが弧状に、ほぼ等間隔で連なる。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径は１m42cm、底部径は90cmである。深さは、西壁高が最大で16.5cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、上位に黒褐色シルト、下位に土器片を出土させる暗褐色土が堆積する。

出土遺物は、12点の土器片を得たが、すべてに繊維を混入させる。掲載は４点。上川名Ⅱ式土器（241）や大木１式に比定される土器（242・243）と大木２式と考えられる土器片である。

時期は、土器出土の状況から縄文時代前期前葉に属すると推定する。

ＲＤ34土坑（平成13年度 25号土坑）第28図・49図　写真図版28・45

調査区中央区グリッドⅢＡ２ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、主軸の開口部径は１m54cm、底部径は１m02cmである。深さは、西壁高が最大で16.7cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、上位に黒褐色シルト、下位に土器片を出土させる暗褐色土を持つ。

出土遺物は、土器の小破片５点で、繊維を混入させる。掲載は１点のみで斜縄文を地文（245）とする。

時期は、出土土器から縄文時代前期前葉に属すると推定する。

ＲＤ35土坑（平成13年度 26号土坑）第28図 写真図版28

調査区中央区グリッドⅢＡ１ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、主軸の開口部径は１m40cm、底部径は92cmである。深さは、西壁高が最大で9.8cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトの単層。

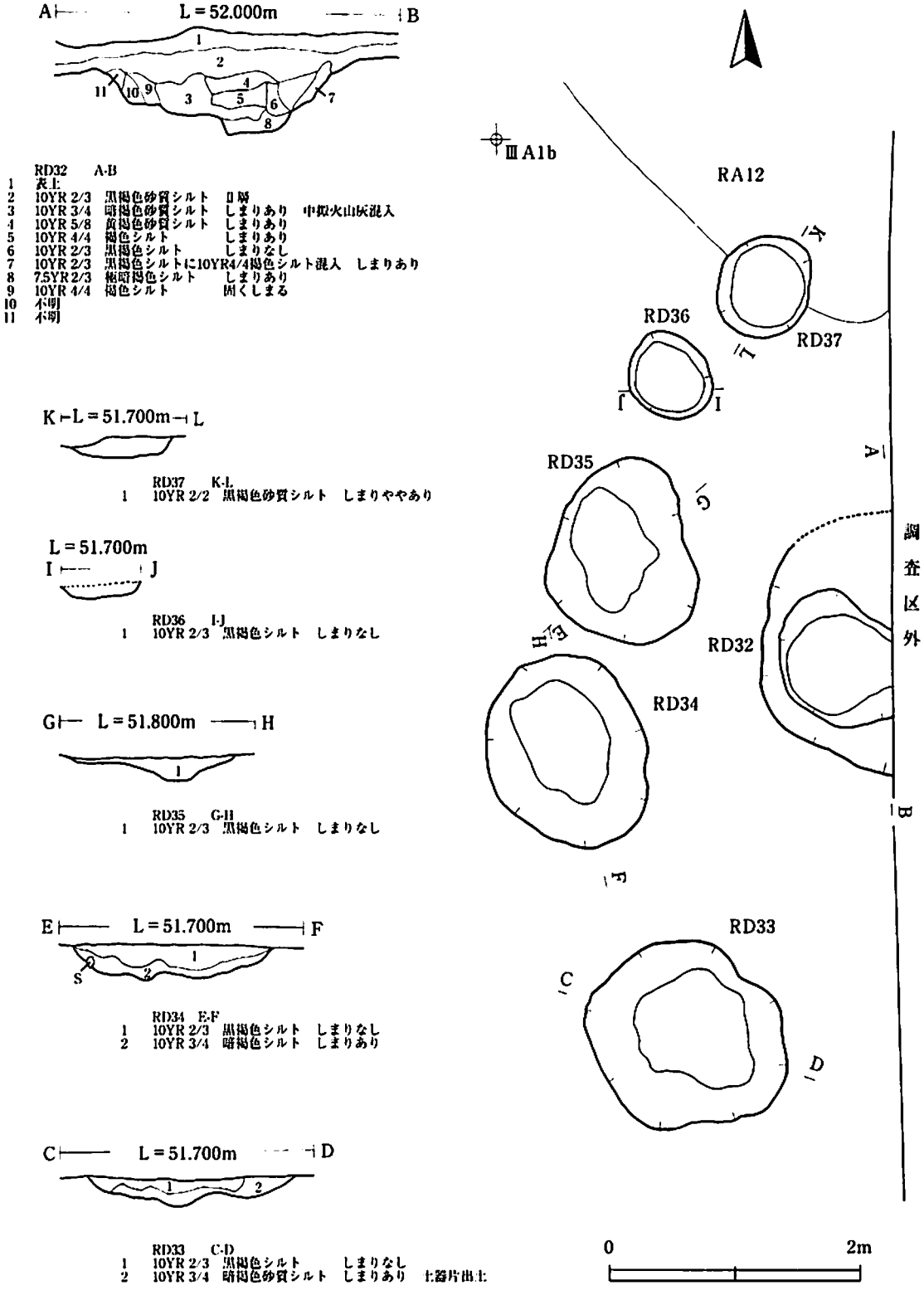
出土遺物はない。

時期は、埋土等の状況から縄文時代前期前葉に属すると推定する。

ＲＤ36土坑（平成13年度 27号土坑）第28図 写真図版28

調査区中央区グリッドⅢＡ１ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

平面形・規模は真円形を呈し、開口部径は70cm、底部径は58cmである。深さは、５～７cmを計り、断面形は皿形である。



第28図 RD32～37土坑

埋土は、黒褐色シルトの単層で、しまりはない。

出土遺物はない。

時期は、縄文時代の前期前葉と推定する。

ＲＤ37土坑（平成13年度 28号土坑）第28図 写真図版29

調査区中央区グリッドⅢＡ１ｄに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。ＲＡ12の南壁と重複する。その新旧関係は定かではない。

平面形・規模は真円形を呈し、開口部径は76cm、底部径は64cmである。深さは、13～16cmを計り、断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルトの単層で、ややしまる。

出土遺物はない。

時期は、縄文時代の前期前葉と推定する。

ＲＤ32を中心として、弧状に並ぶ ＲＤ33～37について補足する。これらの土坑の検出前にはこの区域は、住居跡と想定して精査した経緯がある。その際には壁の立ち上がりや壁柱穴など確認できなかったために、出土土器は遺構外出土土器として取り上げている。ＲＤ32が人的堆積の特色を持っていることから考え、これらの土坑群は住居跡に伴うものとも考えられる。時期は、ＲＡ08・10・11と同時期であろう。

ＲＤ38土坑（平成13年度 29号土坑）第29図 写真図版29

調査区中央区グリッドⅢＡ６ｄに位置する。検出面はＲＡ09の床面である。ＲＡ09南壁付近は攪乱を受け、ＲＡ09の範囲を識別困難にした。そこで南－北の埋土断面から、範囲を考えることとした。当遺構が住居跡の中に組み込まれるか否かの判断であるが、結論は、ＲＡ09の下位にある土坑であると、登録している。周囲にはＲＡ09の床面下に広がるＲＤ39・46がある。また、東側半分が調査区外に延びる。

平面形・規模は、不整な円形を呈し、開口部径は２ｍ10～20cm、底部径は１ｍ60cm前後と推定される。深さは、最大高で南壁6.2cmである。断面形は皿状である。

埋土は、礫の混入する暗褐色シルトを主体する。

遺物はない。

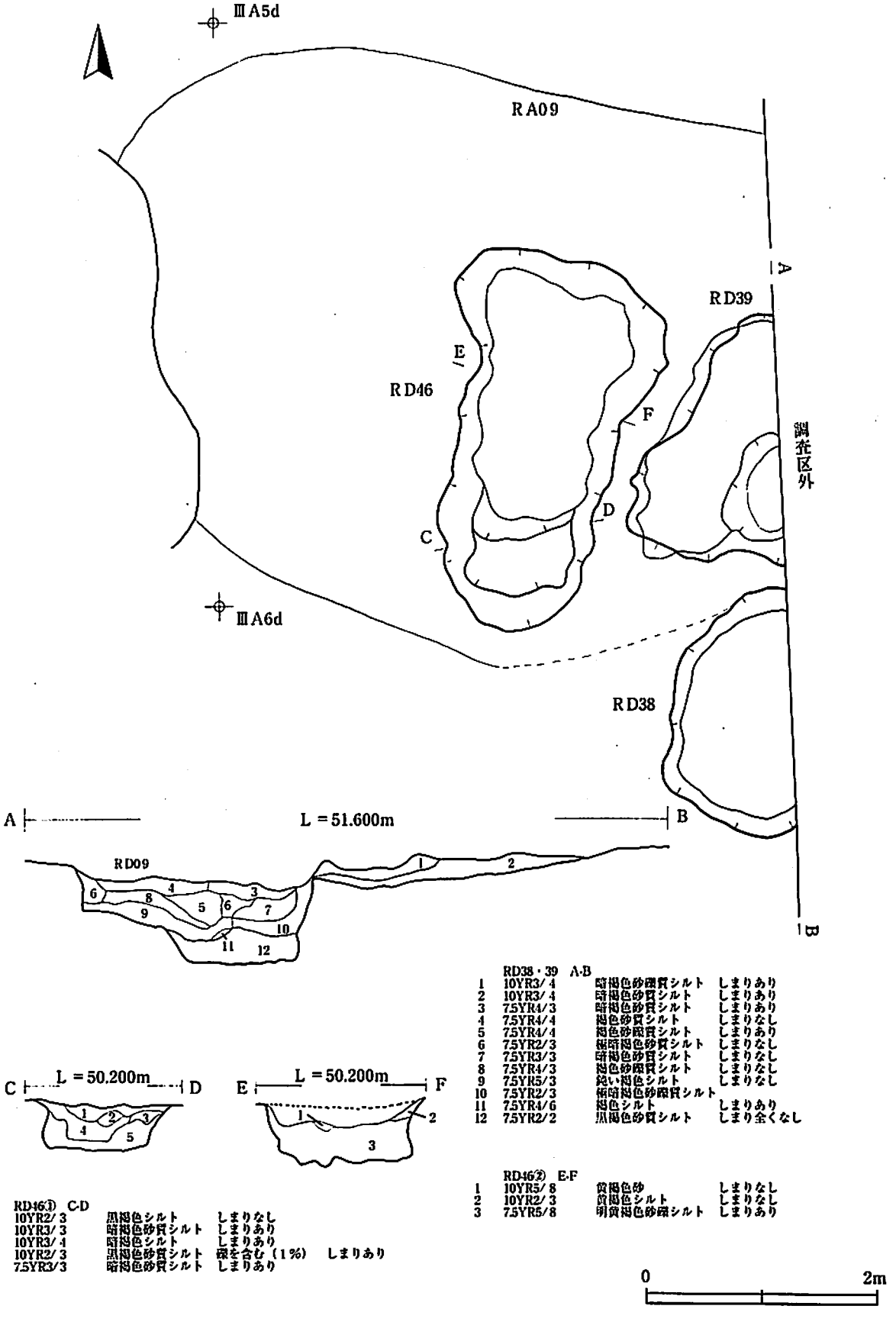
時期は、埋土状況からＲＡ09より古い遺構と考えている。

ＲＤ39土坑（平成13年度 30号土坑）第29図・49図 写真図版29・45

調査区中央区グリッドⅢＡ５ｄに位置する。検出面はＲＡ09の床面である。東側一部が調査区外に延びる。

平面形・規模は、不整な楕円形を呈し、長軸の開口部径は２ｍ10～20cm、底部径は２ｍ前後と推定される。深さは、南壁が最大で72.5cmを計り、北壁は、40cm前後落ち込み、なだらかに下りさらに30cmほど落ち込む。断面形は逆台形状である。

埋土は、ＲＡ09の埋土断面で観察した。床面下には、暗褐色から褐色のやや濁りのあるシルトが堆積して



第29図　RD38・39・46　土坑

いる。これらは基本層にはなく、また、住居跡や他の土坑の埋土にも見られない。最下層には、しまりの全くない礫質の黒褐色土が覆う。これらのことから、ＲＡ09構築時に人為的に埋めたものと判断した。

出土遺物は多い。埋土上位で一括で出土した253はＲＡ09に伴うものと考えられる。埋土下位で出土した土器片では木目状撚糸文や綾繰文のもの（246～248）、斜縄文の土器（249～251）とＲＡ09出土土器と大差がない。しかしＳ字状突起（251）はあるが、一本沈線を施すものや太い粘土紐を貼り付けるものは出土していない。

時期は、埋土状況から縄文時代前期前葉から中葉に属し、ＲＡ09よりは古いが、大きく隔たれないと考えられる。

ＲＤ40土坑（平成13年度 70号土坑）第30図 写真図版29

調査区中央区グリッドⅣＡ３ｅに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。南西でＲＤ41と隣接する。北西１m離れてＲＡ20が、南西１m離れてＲＡ23がある。東側半分は調査区外に延びる。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径２m20cm前後と推定する。底部径は78cmを計る。深さは、なだらかに落ち込む北側壁での比高は21cm、西壁と最深部との比高は18cmである。断面形は皿形である。

埋土は、黒褐色シルト中心で、下位に土器片の出土する暗褐色シルトが堆積する。

出土遺物は、下位から縄文土器の１個体と思われる土器（深鉢）を得ている。非常に摩耗が激しく、取り上げ時に細分化した。断面観察でも、繊維の混入する土器かどうか判断できなかった。

時期は、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代前期前葉に属することが考えられる。

ＲＤ41土坑（平成13年度 71号土坑）第30図・49図 写真図版30・45

調査区中央区グリッドⅣＡ３ｅに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。隣接関係は、ＲＤ40と同様である。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径１m32cm、底部径は88cmを計る。深さは、北壁高47.8cm、南壁高30.4cmを計る。断面形は逆台形状である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルト（基本層Ⅵ）を主体とする。壁際に暗褐色シルトが堆積する。

出土遺物は、繊維を含む土器片７点を得た。そのうち３点を掲載している。254は表裏縄文土器であるが繊維が混入しない。255・256は摩滅が激しく判別できない。

時期は、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代前期前葉に属することが考えられる。

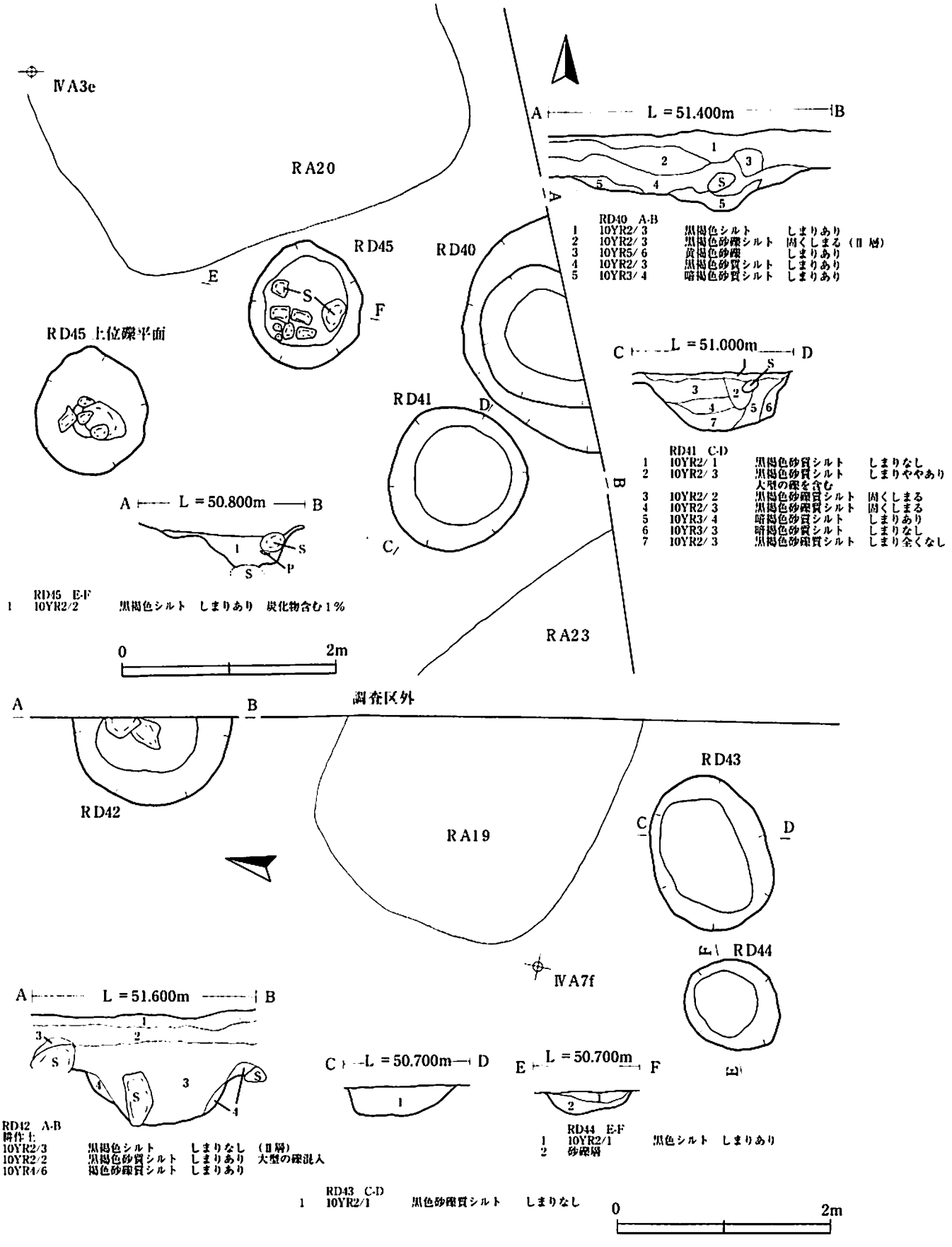
ＲＤ42土坑（平成13年度 72号土坑）第30図・49図 写真図版30・45

調査区中央区グリッドⅣＡ６ｆに位置する。検出面はⅦ層礫面である。南側に１m離れてＲＡ19がある。東側半分は調査区外に延びる。

平面形は不整な円形を呈すと推定される。規模は、開口部径１m42cm、底部径は96cmを計る。深さは、北壁高48.3cm、西壁高42.8cmを計る。断面形は皿状である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルト（基本層Ⅵ）の単層で、人為的堆積と思われる。

底面に大型の礫が検出された。これらの礫は周囲にも点在する。



第30図　RD40～45　土坑

出土遺物は257の１点のみで、繊維の混入する羽状縄文の破片である。

時期は、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代前期前葉に属することが考えられる。

ＲＤ43土坑（平成13年度 73号土坑）第30図 写真図版30

調査区中央区グリッドⅣＡ７ｆに位置する。検出面はⅦ層礫面である。北側でＲＡ19と西側でＲＤ74と隣接する。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径１m44cm×１m12cm、底部径は１m10cm×68cmを計る。深さは北壁高29.0cm。断面形は逆台形状である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルト（基本層Ⅵ？）の単層である。

出土遺物はない。

時期は、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代前期前葉に属することが考えられる。

ＲＤ44土坑（平成13年度 74号土坑）第30図 写真図版30

調査区中央区グリッドⅣＡ３ｅに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径90cm、底部径は58cm、深さ北壁高32.4cmを計る。断面形は皿状である。

埋土は、黒褐色シルトと黄褐色砂礫が覆う。

出土遺物はない。

時期は、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代前期前葉に属することが考えられる。

ＲＤ45土坑（平成13年度 19号住居跡Ｐ12）第30図・49図　写真図版31・45

調査区中央区グリッドⅣＡ３ｅに位置する。検出面はⅦ層黄褐色砂面である。北側でＲＡ20・27と隣接し南側にはＲＤ40・41がある。検出状況は、ＲＡ20精査の際、なだらかにあがる南壁上に土坑状のプランを得てＰ12としたが、住居跡精査の結果、壁からややはずれることが判明し、土坑と登録を変更した。

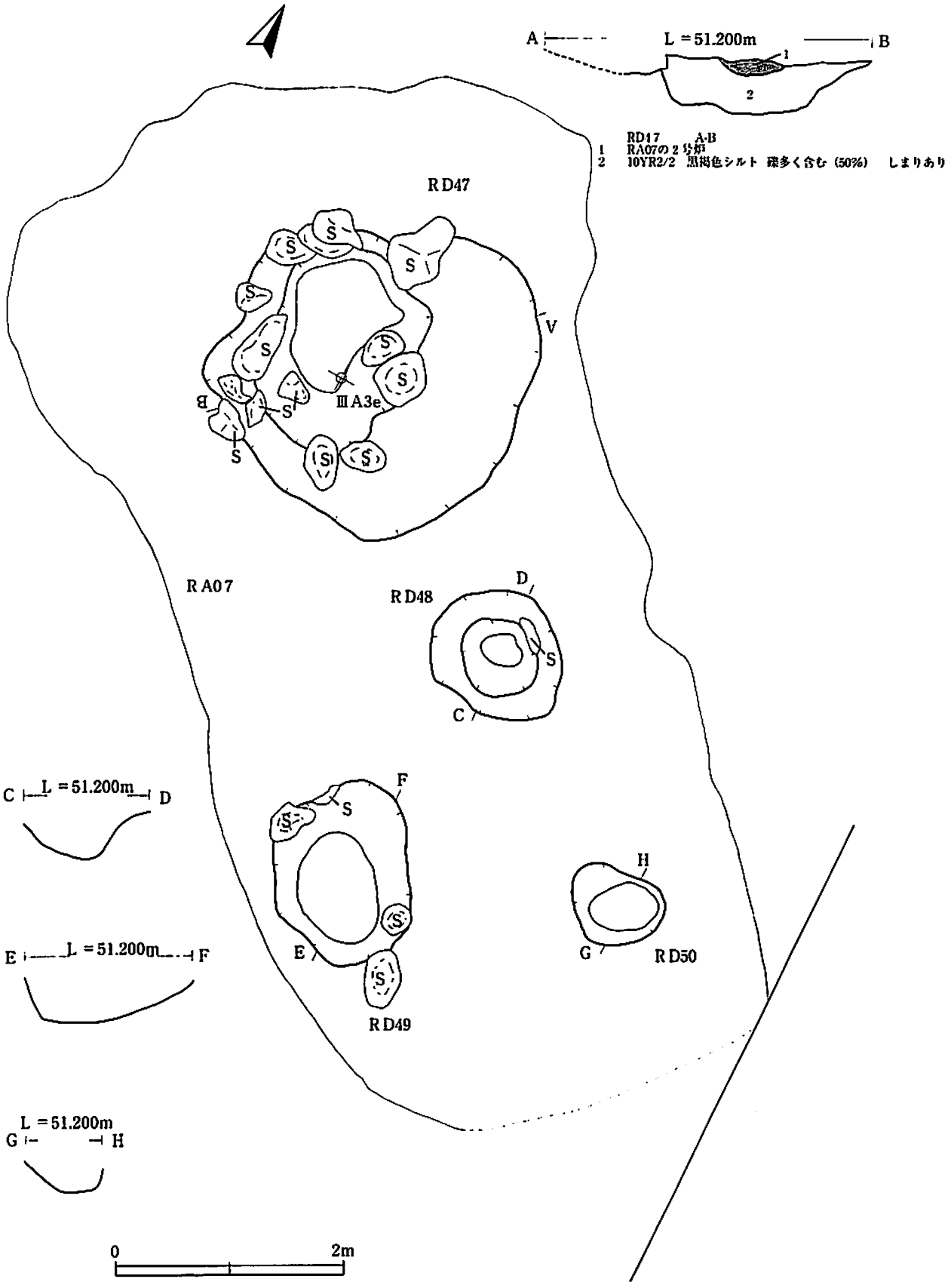
平面形は真円形を呈す。埋土上位から５～30cmの大きさの亜円礫または角礫が、配置されているかのように検出された。それらの礫は底部まで及ぶ。礫を取り除いた規模は開口部径１m10cm、底部径は40cmを計る。深さは、東壁高36cm、西壁上から最深部の比高は40cmを計る。断面形は逆台形状である。

埋土は、炭化物を含む黒褐色土の単層である。埋土中からは人骨などは確認できなかった。

その形態から、墓坑である可能性が高い。

出土遺物は、埋土の上位から２点の表裏縄文土器片（257・258）を得ている。これらの表裏縄文はＲＡ20や27の埋土から出土しており、これら繊維が混入しない土器片は、すべて円盤状土製品の可能性もある。また配している礫は自然石で加工は観察できない。

時期は、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代早期末葉から前期初頭に属することが考えられ、ＲＡ20との関連性もあると思われるが、自信がない。



第31図 RD47～50 土坑

ＲＤ46土坑（平成13年度 5号竪穴住居跡のＰ１・Ｐ２のだめ押し土坑）第29図 写真図版31

調査区中央区グリッドⅢＡ５ｄに位置する。検出面はＲＡ09の床面である。東側でＲＤ39と隣接する。検出状況は、ＲＡ09Ｐ１・Ｐ２の精査終了後にＲＤ39の埋土と同様の土層を確認し、床下に広がる土坑として登録した。

平面形は不整な楕円形を呈し、開口部径３m20cm×１m40cm、底部径は１m96cm×１m04cmを計る。深さは、北壁高47.4cm、西東壁高50～54cmを計る。断面形は短軸ラインが幅の広いビーカー状、長軸ラインは逆台形状である。

埋土は、礫質の暗褐色のシルトの単層で、人為的堆積と考えられる。

出土遺物はない。

時期は、埋土状況からＲＡ09より古い遺構で縄文時代前期前葉に属すると考えている。

ＲＤ47土坑（平成13年度 １・２号竪穴住居跡Ｐ１）第31図・49図 写真図版31・45

調査区中央区グリッドⅣＡ７・８ｃに位置する。検出面はＲＡ07の床面である。検出状況は、当初は住居跡の付属施設として捉えて精査をしていたが、埋土の上位（床面）から２号地床炉を検出し、床面下に広がる、古い時期の土坑として登録した。以下ＲＤ48～50も同様の理由による登録となる。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径１m76cm×１m20cm、底部径は１m14cm×50cmを計る。深さは、南壁高53.1cm、東壁高45.54cmを計る。断面形は逆台形状である。

埋土は、礫の混入する黒褐色シルトの単層。

出土土器は４点。上位のＲＡ07出土土器と大差はないが、やや古い様相を呈する。

時期は、埋土状況や出土遺物から縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

ＲＤ48土坑（平成13年度 １・２号竪穴住居跡の床面下土坑）第31図・49図 写真図版31・45

調査区中央区グリッドⅢＡ８ｄに位置する。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径１m10cm、底部径は60cmを計る。深さは、西壁高が最大で40cmを計る。断面形は皿形である。

埋土は、ＲＤ47と同層であることを確認した。

出土土器は２点。ＲＤ47と同様である。

時期は、ＲＤ47と同時期の縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

ＲＤ49土坑（平成13年度 １・２号竪穴住居跡の床面下土坑）第31図 写真図版31

調査区中央区グリッドⅢＡ８ｄに位置する。

平面形・規模は不整な楕円形を呈し、開口部径１m50cm×１m18cm、底部径は96cm×68cmを計る。深さは、西壁高が最大で34.0cmを計る。断面形は逆台形状である。

埋土は、ＲＤ47と同層であることを確認した。

出土遺物はない。

時期は、ＲＤ47と同時期の縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

ＲＤ50土坑（平成13年度１・２号竪穴住居跡の床面下土坑）第31図 写真図版31

調査区中央区グリッドⅢＡ８ｄに位置する。

平面形・規模は不整な円形を呈し、開口部径68cm、底部径は42cmを計る。深さは、西壁高が最大で21.5cmを計る。断面形は逆台形状である。

埋土は、ＲＤ47と同層であることを確認した。

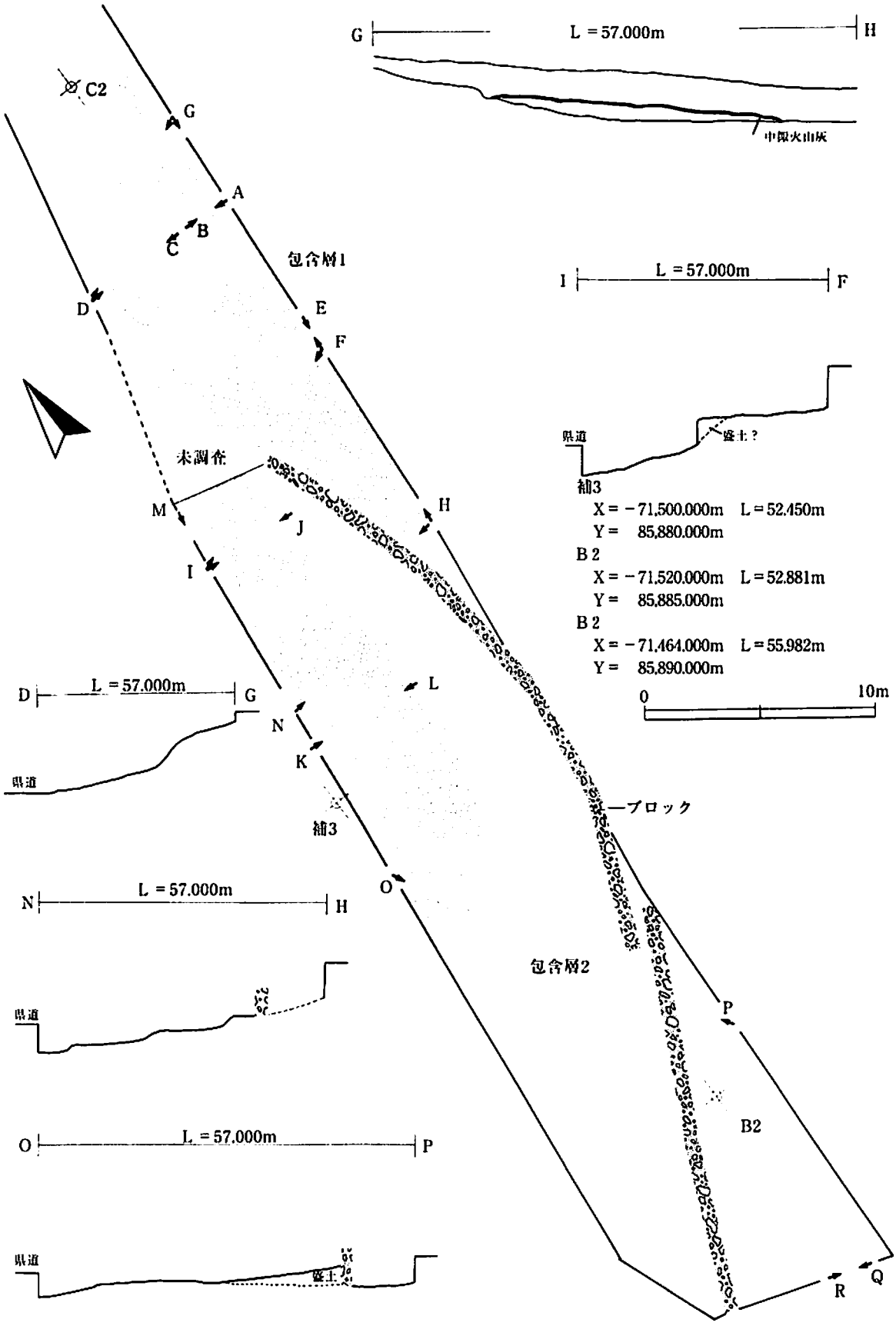
出土遺物はない。

時期は、ＲＤ47と同時期の縄文時代前期前葉から中葉に属すると考えられる。

表3　縄文時代遺構一覧表

RA	平面形	長軸M	炉	早期	早末～前期初	前期初～前葉	前期前葉	前期中葉	前期中～後葉	不明
1	長方形	5.64					◎			
2	長方形	4.26					◎			
3	長方形？	4.00?					◎			
4	長方形	7.00?		○						
5	不明	6.00?					○			
6	楕円形	3.54				×				
7	長方形	9.2	2						◎	
8	楕円形	3.16				○				
9	楕円形？	6.50?	1					◎		
10	楕円形？	4.00?				×				
11	楕円形？	4.00?				×				
12	長方形？	5.30?						○		
13	長方形？	5.00?					×	×		
14	不明	9.00?							◎	
15	楕円形	5.00?					×	×		
16	長方形？	3.50?					○			
17	楕円形？	5.00?						○		
18	楕円形？	2.60?				×				
19	長方形	3.00?				◎				
20	長方形	4.64			◎					
21	長方形	5.00?					○	○		
22	楕円形	3.2				◎				
23	長方形	4.5				○				
24	楕円形	2.9				○				
25	楕円形	4.92			○					
26	長方形	3.50?					○	○		
27	楕円形	4.62		×						
土　坑（RD）					45○	2 × 4 × 6 × 13△ 15◎ 16△ 32◎ 33○ 34△ 35× 36× 37×	1○ 14△ 18○ 22◎ 24× 26○ 28× 30○ 39○ 41△ 43× 46×	10○ 17◎ 21○ 23× 25× 27× 29× 38△ 40△ 42△ 44×	31○ 47△ 48△ 49× 50×	7 × 8 × 19× 20×

◎ 同時期と思われる土器を出土させる
○ 土器の出土はあるが時期差があり、形状や重複関係などで判断したもの
△ 土器の出土が希少なもの
× 出土遺物がなく埋土等で判断したもの



第32図　遺跡包含層平面図

（3）遺物包含層　第32図～34図　写真図版32・33

位置・検出状況

調査区北部グリッドＩＡ４～10ｄ～ｆとⅡＡ１～３ｄ～ｅに広がる。最北部ＩＡ１～３の区域は、岩盤が露出しており、遺構・遺物ともに確認できなかった。地山面での標高は、もっとも高いＣ２杭で、55.982mを計り、県道沿いになだらかに下る。もっとも低い補助３近辺では、50m前後を計る。

平成11年度においては調査区域が急斜面のために、遺構は希薄であると考えていた。しかし、試掘段階で相当量の土器が出土することが判明しており、とりあえず遺構の有無を確認すべく、上面から少しずつ下げていった。その際、土器の出土状況を知るために、土層観察ベルトを残した。精査中に中掘火山灰を検出し、その堆積範囲を遺構と考えたが、登録にはいたらず、当区域がなんらかの形で遺物を多く出土させる、いわゆる遺物包含層であるとして精査を継続した。

平成13年度は、前回精査した区域の南西側での調査となったが、傾斜部（いわゆる法面）は削平され、平成11年度から続く遺物包含層は失われている。そこで、Ⅶ層最終面まで盛土を重機で下げ、精査を行った結果、最深部で楕円形のプランを確認した。その形状から大型の竪穴住居跡（平成13年度３号住居跡）として精査を開始している。しかし、土器出土状況や壁・柱穴の有無など熟考した結果、住居跡としての登録を抹消し遺物包含層とした。

なお、13年度調査区域範囲内に11年度調査区域の境において未調査の部分がある。県道沿いに掘り進めることが危険と判断した区域である。断面観察のみとなったが、Ｉ層表土（盛り土）が厚く堆積し、平成11年度土層断面から推測すれば、土器片の出土する層は県道下に深く入り込んでいると予測される。

遺物の取り上げ方法

平成11年度調査においては、急斜面を形成する層を５つと捉えた。また、13年度調査区では３号住居埋土とし４層を確認している。ここで、２つの層と基本層序の関係を記す。平成11年度精査の基本層と13年度の層とは違うが、混乱を避けるために基本層序に修正し報告する。変更は以下の通りである。

11年度包含層	13年度３号住居跡	基本層序
Ⅰ	1	Ⅰ
Ⅱ	2	Ⅲ
Ⅲ	2	Ⅲの下層
	3	Ⅳ
中掘火山灰		Ⅴ
Ⅳ	4	Ⅵ
Ⅴ		Ⅶ

両年度とも、基本的には層位ごとに土器を取り上げている。(曖昧なものはⅡ～Ⅲ層という表記)。中掘火山灰の上下においては、中掘火山灰上、中掘火山灰下などの表現で取り上げている。また、平成11年度において中掘火山灰上で住居跡と想定して取り上げた土器は、ＡⅡｂｃ住居跡床面としている。これらは基本層序のⅢ層下層と同層となる。位置は、平成11年度においては、ＡⅡのａ～ｅ０～２の15区分（ｸﾞﾘｯﾄﾞ配置図参照）、平成13年度においては北１・２・南１・２の４区分して取り上げた。11年度においては 土器の出土の多い面を写真撮影して記録したが、平面実測はしていない。

遺物出土状況

平成11年度調査区では、縄文時代早期中葉から縄文時代前期末葉までの土器片と石鏃・石匙・石製の装飾品が出土した。縄文土器はⅢ層からの出土がもっとも多く、特に中掘火山灰上（住居跡床面と登録）Ⅲ層下

からの出土が卓越する。完形気味の土器が比較的多い特色があり、またこの面において石匙が多く出土する。中掫火山灰下位Ⅵ層は、調査区が急斜面であることや、上位と土質がほぼ同じであることから、Ⅰ・Ⅲ層の遺物も含まれている可能性もあり、信憑性に欠ける。Ⅶ層出土土器は少量である。

平成13年度調査区では、Ⅰ層は無遺物層、中掫火山灰上位のⅢ層上位は、前期前葉の土器が混在しており、流れ込みによる堆積が伺える。Ⅲ層下位から平成11年度調査区にはない褐色土のⅣ層が、もっとも遺物が多く、完形に近い土器もある。中掫火山灰と考えられる灰白色の粘土は、平成11年度検出粘土と色調等が異なり、２次堆積的な要素が指摘できる。中掫火山灰層の下位は、ほとんど遺物は存在しない。

包含層の性格

２つの遺物包含層の性格をまとめる。

北側急斜面においては、中掫火山灰下位においては、恒常的に堆積した層、中掫火山灰上位は、捨て場としての機能があったのではないかと推測される。捨て場としての時期は縄文時代前期中葉から後葉にかけてであり、前期末葉から中期にかけて徐々に土器が少なくなっていることから、この時期に集落の中心が変わったのではないかと考える。捨て場は、平成13年度調査区にも広がっていたことが予想されるが、攪乱を受けており、楕円形の凹地にわずかに残る。この凹地は、中掫火山灰降下後の前期中葉期には、すでになんらかの形で形成されていたと思われる。遺物は意図的に投げ込まれたのか、上位から流れ込んだのかは判然としない。

遺物の特色について概観すれば、平成11年度調査区Ⅱ・Ⅲ層、平成13年度調査区２・３層では、大木３式から４式の土器が出土する。上位には５式から中期初頭の７ａ式の土器が若干混入するようである。中掫火山灰直上では、大木３式土器が多い。

異系統土器では、中掫火山灰直上で、諸磯ｂ式の縁孔土器の破片が出土している。

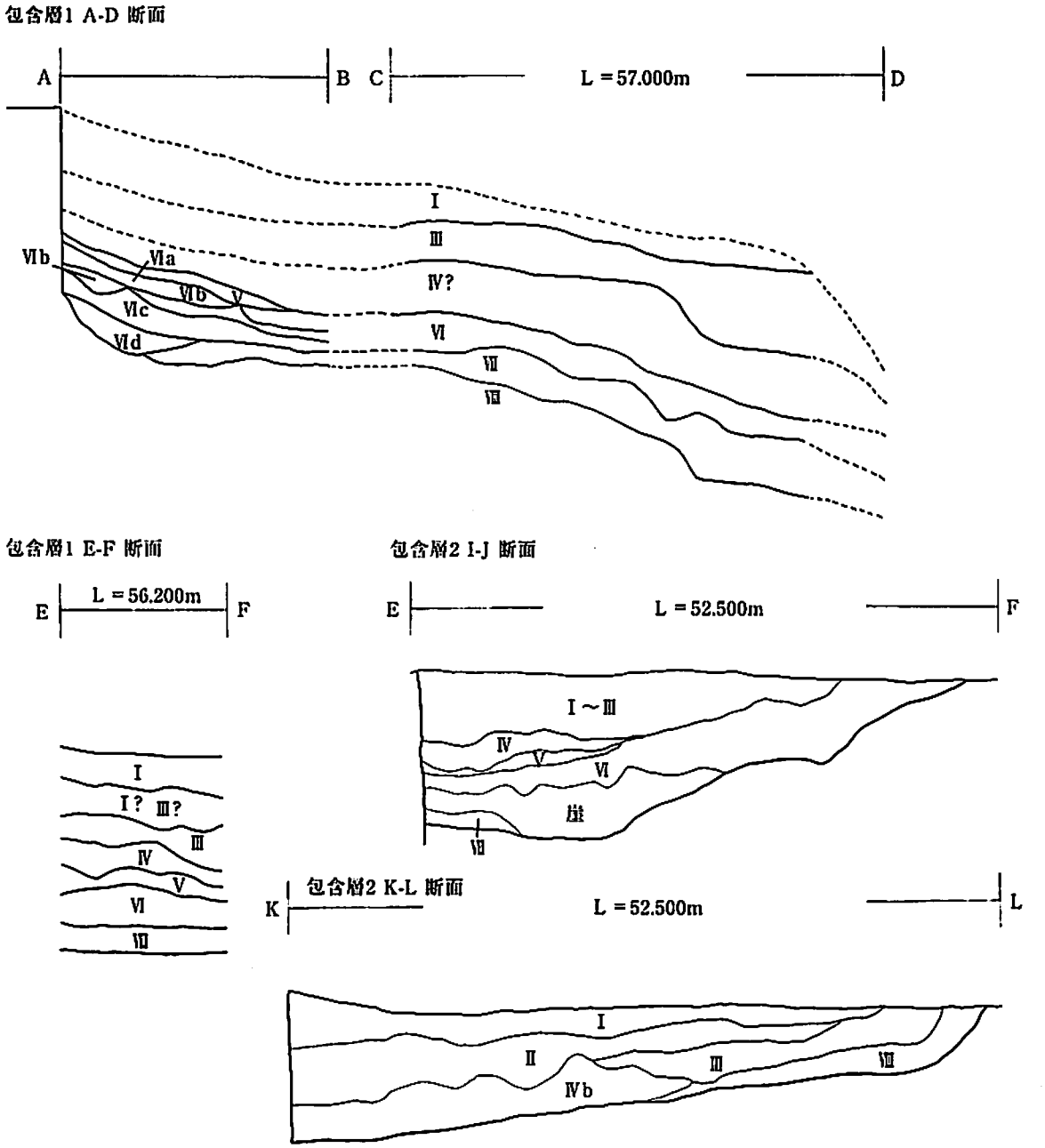
２層に区分した中掫火山灰下位では、上川名Ⅱ式土器や、大木１から２式土器が出土するが、３式土器類似の土器もやや含まれる。また、早期中葉の沈線文土器や貝殻沈線文土器、早期後葉の表裏縄文土器が出土するが、その上下関係については明確にできなかった。土器についての詳細は次項に述べる。

石器は、石鏃は中掫火山灰下から柳葉形のものが出土しているほかはすべてが無茎のものに限られる。石匙は縦形のものが多く、中掫上（Ⅲ層下）からの出土が顕著である。縦形の両面剥離している断面形が菱形となるものも同様の出土状況を見る。磨製石斧の出土は少ないが、Ⅲ～Ⅵ層において出土するのに対して礫石器は中掫面上のみの出土となる。石製品では、中掫面下（Ⅵ層）から抉状耳飾りが出土した。

これら出土遺物は、包含層が２つに分離されていることや層位的な裏付けが不十分などの理由から、すべて遺構外として掲載する。表中で遺物の出土地点は平成11年度出土は包含層１、平成13年度出土は包含層２としている。出土層位で、中掫火山灰上下出土についてはそのまま明記している。

（４）出土縄文土器　第35図～67図　写真図版36～58

２年間の発掘調査で、大コンテナ35箱の縄文土器が出土している。出土状況は圧倒的に遺物包含層出土の土器が多い。時期は早期中葉から前期後葉を主体とするが、そのうち前期前葉から中葉の土器が卓越する。また中期の土器、後期と思われる土器も若干数出土している。ここでは遺構外出土（包含層出土）土器を中心に紹介する。記述に至っては以下の通り分類する。



Ⅰ　表土～耕作土
a 表土　（住宅地の基盤層）
b 耕作土　（下位に田の下の粘土〔スキ〕を持つ箇所有り）
c 盛土

Ⅱ　10YR2/3　黒褐色土　礫を含む（近世～近代の鉄製品、鉄滓が出土する層）時に土器を出土させる

Ⅲ　10YR2/2　黒褐色砂礫シルト　大型（5～10cm）の礫を多く含む　前期中葉～後葉の土器片を出土させる

Ⅳ　10YR3/4～3/3　暗褐色砂質シルト　前期中葉の土器を出土させる（b：礫質で土器を出土させない層）

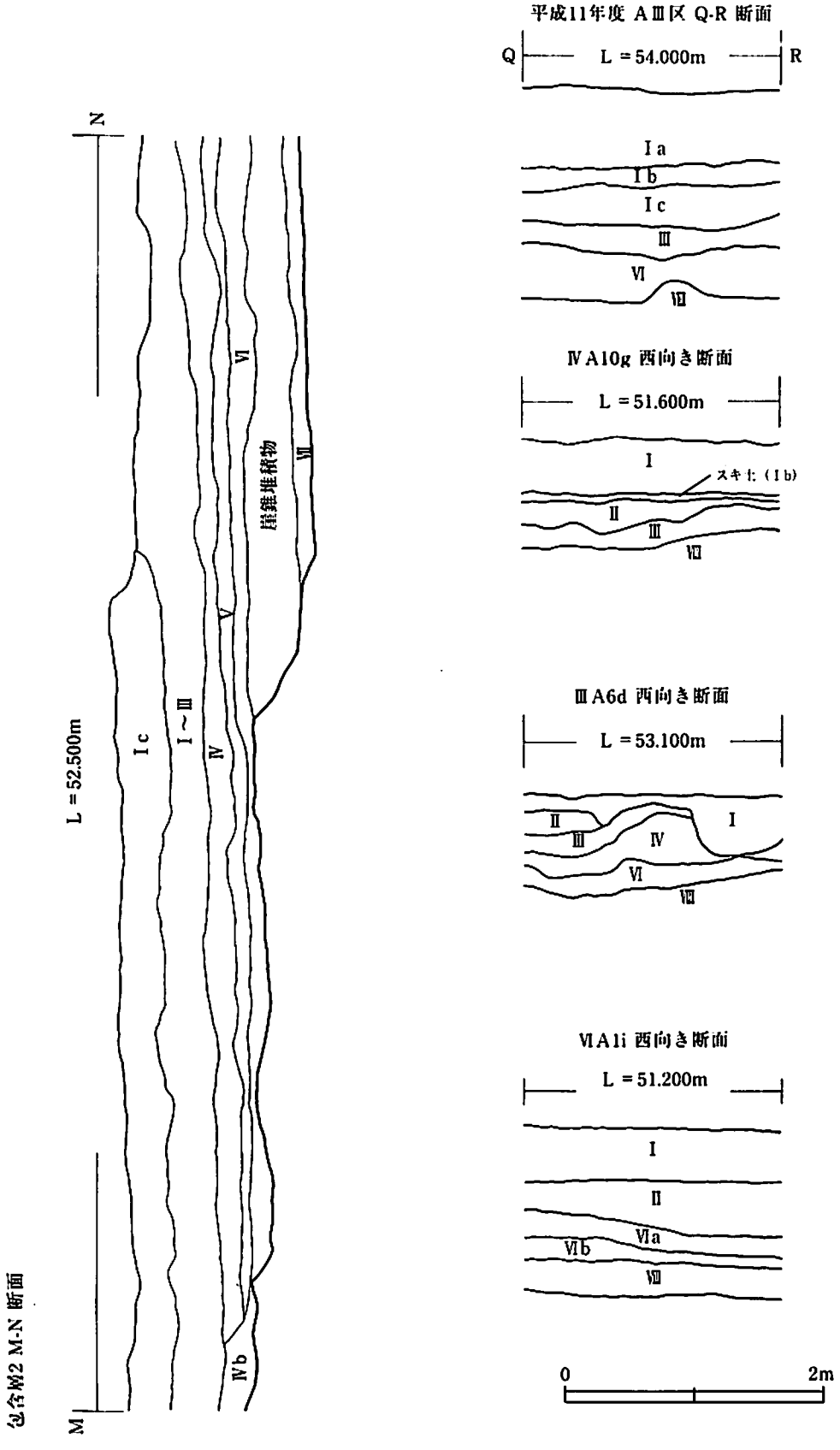
Ⅴ　中部火山灰層　（下位に粘土を持つ）

Ⅵ　10YR3/2～3/4　黒～暗褐色砂礫質シルト　細分される　前期初頭～前葉の土器を出土させる
a 礫の混入が少ない
b 礫が少量含む砂礫質シルト
c 大型の礫（10cm大）が多量に混入する
d 砂質で暗褐色シルトが混入する

Ⅶ　10YR7/6　明るい黄橙色砂礫シルト　少量ながら早期中葉の土器を出現させる

Ⅷ　礫層

第33図　遺跡包含層断面図①


平成11年度 AⅢ区 Q-R 断面
Q
L = 54.000m
R
Ⅰa
Ⅰb
Ⅰc
Ⅲ
Ⅵ
Ⅶ
ⅣA10g 西向き断面
L = 51.600m
Ⅰ
スキ土（Ⅰb）
Ⅱ
Ⅲ
Ⅶ
ⅢA6d 西向き断面
L = 53.100m
Ⅱ
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳ
Ⅵ
Ⅶ
ⅥA1i 西向き断面
L = 51.200m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅵa
Ⅵb
Ⅶ
0
2m
N
M
L = 52.500m
Ⅰc
Ⅰ～Ⅲ
Ⅳ
Ⅴ
Ⅵ
崖錐堆積物
Ⅶ
Ⅳb
包含層2 M-N 断面

第34図　各区域土層図

第Ⅰ群　早期の土器
第Ⅱ群　前期初頭の土器
第Ⅲ群　前期前葉の土器群
第Ⅳ群　前期中葉から後葉の土器
第Ⅴ群　前期後葉から中期初頭の土器
第Ⅵ群　異系統土器群
第Ⅶ群　中期中葉から後期の土器
第Ⅷ群　時期の曖昧な土器
第Ⅸ群　底部資料

分類した土器のうち特徴的なものについて記述しており、個々の特色については表を参照していただきたい。群内の掲載については、必ずしも時期順となっていない事を明記しておく。

● 第Ⅰ群　早期の土器（265～297）

○1類　沈線文を主体とする土器（265～271）

Aは盛岡市大新町遺跡や住田町蛇王洞洞窟出土類似の土器である。265は尖底土器で口縁部は欠損するが266・267にみられるようなV字型の帯状格子目沈線が展開すると考える。体上部は横位の多条の細沈線で埋められ、非常に厚手で焼成もよい。266は格子目文の上部の口縁部に細沈線が埋められる。269は口縁部に爪形状刺突を施し、下位に横位の短沈線とV字型の沈線が施文される。

Bは沈線文や押し引き文を施す破片。非常に焼成よく胎土もAに似ている。270は沈線間に横位の連続押引文を施す。271は胎土が270とよく似ており当類に入れた。

○2類　貝殻沈線文を主体とする土器（272～281）

Aは貝殻復縁文によって文様が構成されるものである。272は山形口縁（突起）、273は波状口縁を成す。どちらも貝殻復縁文の刺突あるいは沈線で文様を構成する。274は縦位の、275は小さい横位の復縁圧痕文276は貝殻文と沈線で文様を構成する。

Bは貝殻羽状復縁圧痕文を施す土器で278は体上部のみの構成で、下部は無文となるであろう。

Cは貝殻背圧文を施す土器。そのうち281は外そぎされた口唇部と爪状（篦状？）の刺突内に連続の背圧文を充填する。ほかの貝殻沈線文土器に比較して焼成が弱く、3類に近い印象を受ける土器である。

○3類　貝殻条痕文を施す土器（282・283・292?）

282は縦位の条痕文がみれるもの、283は表裏条痕文を施すもので2類と較べてもろい。

○4類　表裏縄文を施す土器（284～291）

遺構内外から多くの破片を出土させた。繊維が多く混入するものには厚めの土器が多い。284～288は平口縁となる。そのうち284・285・288のように口唇部まで施文するものと、286・287のように大柄な縄文を施すものがある。289は表面が羽状縄文となり薄手である。

○5類　その他不明の土器（292～297）

胎土等から早期に属すると考える土器片を集めた。櫛目状の条痕文を施す292は281と同一個体で3類に属する破片とも考えれる。293は表面に押型文状の施文が見えるが弱く判然せず、3類の可能性が高い。294は横位の沈線文と斜位の竹管？による円文が観察でき、爪形状の刺突らしき痕跡も伺える。1類のBに属するか。295は細沈線かもしくは条痕文の破片でAからCに属し、296は大型の体部でAに属するであろう。

● 第Ⅱ群　前期初頭の土器（298～317）

ここで掲載する前期初頭の土器は上川名Ⅱ式のうち原体圧痕を施文する土器であり、上川名Ⅱ式や室浜式に相当する土器の一部はⅢ群もしくはⅦ群にもある。また、時期が狭いので類は設けなかった。

A　斜位の沈線による施文（298）

当土器群が斜位の短沈線と原体側面圧痕で構成されることが多い中で唯一、渦巻圧痕以外を沈線のみで施

文する破片である。波状口縁でややキャリパー風に内湾する。

B　原体側面圧痕による施文（299～309）

短沈線と原体側面圧痕で文様を構成する土器がアである。299は口唇部内そぎのもの、300は口唇部を内外ともに削ぎ、鋭角的になる。301は比較的に薄手で繊維混入が多い。302～305は丸みを持つ口唇部となる。これらすべて、少し内湾する特色がある。

上記のうち、原体圧痕の渦巻文様の周囲が隆起状になるものをイとした。同じようにやや内湾する。306は隆体上に原体の圧痕を施すかあるいは側面圧痕が残ったもの。また渦巻圧痕上に×型の沈線が施される。

ウは施文すべてが原体圧痕となるもので２点のみ（309・310）の出土である。309は渦巻圧痕は観察できないが310は蕨手状圧痕文となる。

C　Bのうち蕨手状圧痕状となるもの（310～313）

原体側面圧痕と渦巻文が一体となるものである。310は内そぎされた波状口縁の破片で、施文はBウの特色を示す。渦巻圧痕周辺に原体圧痕された粘土紐を貼り付ける。渦巻周囲が隆起状になるBイの発展したものであろうか。312は他ではみられない平行な側面圧痕を最初に施文する。これらの土器の大きな共通点は胎土がやや灰色がかった感じで、砂を多く含み繊維が少ないということである。

D　体部（314～317）

遺構内に多くの羽状縄文土器を出土させているが、節の大きいもしくは０段多条の結束のない羽状縄文はすべて上川名Ⅱ式に比定されると考える。ただし315は結束のある羽状縄文でⅢ類に属するかもしれない。

●　第Ⅲ群　前期前葉の土器群（318～389）

第Ⅳ群に次いで出土数が多い。繊維が混入する土器（１類）と混入させない土器（２類）に分かれる。混入の割合は、高い順から（　繊維多い　　繊維混入・含む　　繊維少　　繊維？　　繊維無？）とした。

○１類　胎土中に繊維を混入させる土器(318～343)

A　口縁部に撚糸文を施す土器（318～320）

318・319は不整の撚糸文の施文幅が狭いもので、撚糸文下は羽状縄文と推測する。320は撚糸の施文幅が体上部に広がり、撚糸もやや正整化する。

B　ループ文（321～323）

いわゆる原体末端圧痕の土器である。321は撚糸文の可能性もある。322は大柄な圧痕の例。323は横位に連続する。これらの土器は遺構内でもみられるが、323のような明確な末端圧痕は少ない。

C　羽状縄文（324～331）

羽状縄文の土器片の中で、Ⅱ群のエ以外の繊維を含む土器はすべてこの項に入れている。324は結束２種？羽状縄文で薄手である。325・326は結束１種で口唇部に爪形の刺突が観察される。327はやや内湾するもの。328は大柄な破片で結束１種の羽状縄文が２段以上施文される（以上ア）。

Cの中で菱形状の文様が観察されるものをイとした。329や331は羽状縄文の結束部を中心にして菱形状の文様となる。原体は小さい。330は大柄な菱形文様に発展しそうである。

D　斜縄文（332～343）

斜縄文を地文とするものをまとめた。ア：ピッチリ縄文もしくは類するもの、イ：複節の斜縄文、　ウ：その他の斜縄文、エ：ウのうち組紐縄文となるものに小分類できる。

目のつまった単節斜縄文（ピッチリ縄文）は、遺構外では332の大型の土器のみで直線的に外傾する深鉢と考えられる。333～337は複節の斜縄文を施文するものでL-R-Lの横回転となり、口唇部に原体圧痕などが施さ

れる。338～342はア・イの特色を持たないもので、343は組紐回転文の施文する土器である。

○2類　胎土中に繊維を混入させない土器（344～389）

前期前葉に属する土器の中で繊維を混入しない土器をまとめた。前期前葉の後半期の土器であり、施文の特色からA：不整あるいは正整の撚糸文を施す土器、B：網目状あるいは木目状撚糸文、綾絡文を施す土器、C：撚りのない綾絡文いわゆるS字状連鎖沈文を施す土器　D：その他の口縁部に分かれる。

A　不整あるいは正整の撚糸文を施す土器（344～356）

形状から波状口縁（ア）山形口縁（イ）平口縁（ウ）とに分かれる。344は緩やかな小波状の口縁となる土器である。口縁部下に小さな孔がある。345～350は山形口縁（山形状の突起）となるものである。345は口唇部が平らで、348と同様の器形と推測する。346は口唇部を篦状工具によって削ぎ、山形突起の頂部をへこませている。347と349・350は山形口縁で口唇部に斜位の沈線による刻みを施すものである。352は345と同類の土器か。355は幅のある正整な撚糸文でS字連鎖沈文状である。356は絡条帯による施文の体部としたが、斜縄文の破片かもしれない。

B　Aのうち　ア網目状　イ綾繰文　ウ木目状を施す土器（357～375）

357～362は網目状撚糸文を体部全体に施すもの（ア）である。357は、波状口縁となるが、その他はやや外反する平口縁となる。361は口縁部下に刻みのある太い粘土紐を貼り付ける。362は口唇部に刻みを施す。これら網目状撚糸文の土器は、頸部でややくびれ、長筒形となるようである。

363～371は綾絡文が観察できるもの（イ）である。363は体部があまり張らないが、364は大きく外反し体上部がやや膨らむ壺形の器形となる。どちらも綾絡文が間隔を同じくして体部全体に施文される。365は山形口縁で、斜位の連続沈線と突起頂部の刻みはAの349に似る。366はⅣ群に属するか。369は縦位の綾絡文でⅤ群に属すると思われる。371は横位の網目状撚糸の可能性もある。

372～374は木目状の撚糸文（ウ）を施す。372は羽状かもしれない。375は葺瓦状撚糸文である。

C　S字状連鎖沈文を施す（377）

1点のみの掲載で、遺構内でも明確な撚りのない綾絡文はない。

D　その他（378～389）

378～380は波状口縁や指頭圧痕による小波状口縁となるもの（ア）で、380は指頭圧痕、イは平口縁で382は篦状工具による刺突を施す。384はやや外傾し、一部縄巻縄文状の施文が見える。385は口縁部が直線的にあがり、繊維の混入するⅢ群1類332と同じ様相を示す。体部破片のうち386はⅠ類に属する可能性も考えられる。389は波状の突起と細い粘土紐貼付痕、体部羽状縄文の菱形文様とⅢ群とⅣ群の特色を併せ持つ土器である。繊維は混入しない。体部だけから判断してⅢ群としたが、口縁部形状はⅣ群に属する。粘土紐が刻みを持つのであればⅢ群からⅣ群にかけての土器、刻みがないのであればⅣ群の土器であろう。

●　第Ⅳ群　前期中葉から後葉の土器（390～517）

最も出土量の多い土器群である。特に包含層1での出土が目立つ。分類は主要な文様により5つに大別した。粗製土器は6類、底部は7類として掲載している。これらの土器のうち前期末葉から中期初頭に位置づけられるものを含んでおり、後に考察でまとめたい。

○1類　一本沈線による施文を主体とする土器（390～401）

円形を描くもの（A：390～394）、縦位の短沈線を描くもの（B：394～396）、屈折直線文となるもの（C）山形（鋸歯状）沈線となるもの（D：398～401）に分かれる。

390は屈折曲線文に円形の沈線が描かれる平口縁の深鉢で、393は小型でやや内湾する浅鉢と考えられる。

394は円形の竹管による刺突の下位に縦位の短沈線が描かれる。395はやや外反する土器で次の形式につながるものか。396は刺突状の沈線が連続する。398～400は口縁部下位に山形の沈線が巡る例。401は篦状工具による浅い横沈線と山形沈線が描かれる。

○2類　竹管による刺突文と押し引き文を主体とする土器

竹管の先端で刺突されるもの（A：402～412)、竹管以外の刺突が施されるもの（B：413・414）と半裁竹管などで押し引きされるもの（C：415～418・420・421）と、その他（D：419・422）を当類とした。

402～405は輪切りにした竹の先端を刺突している。そのうち402は縦位の沈線で接続される。406は口唇部を連続刺突している。408はやや斜位からの連続刺突で沈線を伴う。409と410・412は半裁した竹管を連続刺突している。そのうち409は半裁竹管の背面沈線が引かれる。412は爪状の刺突にも似る。415はくぼみを持つ平口縁で、半裁された竹管で方形の文様を描き、中に縦位の波状沈線を2単位以上充填する。416は外反する口縁の頸部に横位に施文する。418は押し引きにより円形文様を描く。420は縦位の押し引き文で、421は420と同類の土器で、422は刺突状だが側面圧痕かもしれない？

○3類　半裁竹管による沈線文を主体とする土器（423～436）

Aは波状沈線となるものである。423は縦位の波状沈線と縦沈線が引かれる。425は横位の波状沈線と縦位の沈線が交わる。Bは山形沈線となるもの。427は鋸歯状沈線の頂部を押し引きして刺突文状の文様を作り上げる。429・430は山形沈線で430は波状沈線が途中から山形沈線に変わる。Cはその他の沈線文で431～433は菱形や円形の文様を一筆書きで垂下げている。435は縦位と横位の直線沈線が交わる。

○4類　粘土紐貼付を主体とする土器（437～492）

A：刻みまたは刺突のある細い粘土紐を貼り付けるもの（437～445）

437は小型の深鉢で弱い半裁竹管による沈線下に口縁を巡る粘土紐が貼り付けられ、一部円形に枝分かれする。438は内湾する浅鉢？の口縁部で細い粘土を折り曲げて、S字状の文様を連続させる。439は沈線の下に折り曲げた粘土を貼り付ける。441は沈線の施された粘土紐の周りに貼る例。442～445は口縁部を細い粘土紐が巡るもので、その下に442は半裁竹管によるX字状の沈線、443は山形沈線、444は刺突風の短沈線、445は横位の押し引き沈線が施されている。刻みはすべて粘土紐に対して直角に刻まれる。

B：刻みのない細い粘土紐を貼り付けるもの（446～466）

446～452は外反する口縁部の内側と外の体上部に粘土紐を貼り付けるものである。すべて小型の深鉢と推測され、粘土紐は波状もしくはハート形などを基調とする。446はちぎって貼り付けたような鋸歯状、447は波状、448は太い粘土紐と細い粘土紐が一体化する。449は口唇部裏に幾何学的な文様を織りなす。450は口縁部裏が鋸歯状、体上部が波状、451と452はハート形をそれぞれ貼り付ける。453～460は表のみの貼付。453は外傾するが外反しないもので波状、454は3段の鋸歯状の粘土紐が巡るもので、大型の（粘土貼付としては）深鉢である。455は内湾する浅鉢か？ 457は交点にボタン状の粘土紐がみられる。

461～464ははしご状や格子目状の粘土紐を貼り付けるもの。461は浅鉢の可能性がある。462は波状口縁、463ははしご状とX状で構成される突起を持ったもの、464は3～4単位の突起を伴った波状口縁ではしご状を基調として様々な文様が施文される。465や466はハート形を基調としたものである。

C　粘土紐貼付と巻き貝による刺突が伴ったもの（467・468）

D　刻みや刺突のあるやや太い粘土紐を貼り付けるもの（469～483）－いわゆる隆帯－

469～471は円形の刺突文（竹管？）、472～475は篦状工具もしくは爪状の刺突文、476は口縁すぐ下の隆体に斜位の刻みが入る。477は指頭圧痕、478・479は縦位の粘土紐がほぼ垂直に刻まれる。480は連続押引き文、

481・482は棒状工具による深い刺突文が施される。483は竹管文に指頭圧痕が伴うもの。

E　刻みのない太い粘土紐を貼り付けるもの（484～489）

484は波状を呈するものでハート形の貼付、485は渦巻状に貼り付ける。487はアーチ状の突手と突起の付いた球胴の鉢で、菱形に貼り付ける。488と489は渦巻やS字の粘土紐内を沈線施文する。

F　縄文の充填された太い粘土紐やその他（490～492）

490は突起から垂下するS字状の粘土紐に縄文を充填する。491は方形となる。492は刺突のある粘土紐で隆帯から垂下する。

○5類　突起もしくはアクセント状の粘土紐貼付類（493～512）

口唇部に突起を施すもの（ア）や粘土貼付の中でアクセント風なもの（イ）をまとめた。493・494は刺突のあるドーナツ状、495～497は渦巻状となる。498～500は刺突や沈線を施したS字・ハート型突起である。501は正面を向いた2つの菱形渦巻状突起が体部でX字に交差するのではないかと思われるもの、502はボタン状の突起で、503～506は羊頭状や波状の粘土紐貼付が大きく単一となるものである。そのうち504は巻き貝による刺突が観察される。507～512にアクセント風に装飾体を貼り付けるものをまとめた。508は突手状になるが、装飾体とはいえないかもしれない。512は2つの瘤が特徴的な波状口縁となる小型の土器である。

○6類　粗製土器（513～517）

出土層位や器形あるいは文様から前期中葉から後葉に比定されると判断した土器である。

○7類　底部資料（遺構内のみ）

●第Ⅴ群　前期後葉から中期初頭に属するであろう土器群（518～536）

大木6式や7a式に比定できるものをまとめた。Ⅳ群の中にも一部含まれている可能性が高い。

○1類　口縁部を肥厚するもの（518・519・521～524）

ボタン状貼付の518や刻み目を施す太い隆帯を持つ519・522や太い隆帯と沈線文の521・523は、大木6式に比定できるものである。ただし524おいては定かではない。

○2類　その他の沈線文の土器（520・525～536）

沈線文や粘土貼付を施す520や平行沈線や縦あるいは横位の鋸歯状沈線を施す526～532、竹管刺突の533・534、縦位連続沈線の536までは大木6式に比定できる。525・535は大木7a式と考えられる。

●第Ⅵ群　異系統土器群（537～540）

○1類　前期前葉の土器（537・538）

円筒下層式土器に酷似し、繊維の混入することから円筒下層a式土器と捉えた。

○2類　前期中葉の土器（539・540）

539は諸磯b式の縁孔土器の破片で、口縁部に浮き線文が観察できる。540は福島県網取貝塚の資料から諸磯式の土器と捉えた。

●第Ⅶ群　中期から後期の土器（541～547）

541～545は中期中葉から後葉にかけて、546・547は後期中葉から後葉の土器である。

●第Ⅷ群　時期の曖昧な土器（548～559）

548・549は同一個体と思われる。非常に薄いが焼成はよく早期の可能性がある。550・551は前期初頭か。552～558は不明だが、前期中葉の可能性が高い。559は繊維が多く混入する内湾の浅鉢で、底部まで施文が残る。口縁部は結節文と細い粘土紐貼付である。前期初頭か前期中葉のどちらかに属する土器である。

●第Ⅸ群 底部資料（560～575）

Aは底部施文のないもの（560～566）、Bは底部施文がみれるもの（567～571）、Cは尖底（572～575）となる。561は前期後葉に属するか。562は大きく膨らむもので球胴深鉢の底部かもしれない。571～575は早期後葉から前期前葉にかけてのもので572は乳頭状に膨らむ。

（5） 出土石器・石製品・土製品 第68図～80図 写真図版58～67

2年間の調査で、大コンテナ1箱の石器・石製品が出土している。遺構外の石器を中心に紹介する。

① 石鏃（642～658）：37点の出土のうち、31点掲載した。柳葉形は642の1点のみ。654・655が基部形状が平基となり、ほかは少なからず抉りを有するが644のように深いものは少ない。産地は遺構内の641が北海道赤井川産である他はすべて北上山地産で、石材は大部分が頁岩であるが、一部凝灰岩や砂岩がある。

② 石匙（659～708?）：出土は65点で掲載は59点。包含層1での出土が多い。すべてが北上山地産の頁岩である。縦形のもの（659～681・683～687）と横形（682・688～697）、また縦形で断面形が楕円形状のもの（698～708）の大きく3種類に分かれる。縦形では平面形が左右違うものが多いが、小型の665や678は左右同じで、「切る」よりは「突き刺す」用途を想定できる。また686は石錐の可能性もある。687は釣針？。横形は682を除き大きさがそろっている観がある。断面形楕円形状のものにはつまみ部が大きい698のようなものと、小さい706のような2種類があり、用途の違いが考えられる。

③ 石篦（709～713？・714）：篦状石器は出土すべて掲載した。そのうち712は石鏃の未製品、713は尖頭器かもしくは石匙の欠損品か。

④ 尖頭器（715～718）：出土品すべて掲載。716は基部がなかご状に作られており、基部の縁辺に装着痕と見られる不規則な剥離が観察できる。

⑤ スクレーパー（719～762）：116点出土した。遺構内外で比較的剥離調整の明確な58点を登録し、うち42点を図化（16点は写真掲載のみ）した。石材はほとんどが地元産の頁岩である。736・746・761は石匙の可能性がある。719～722は比較的大きく丁寧な剥離調整を施す。

⑥ 磨製石斧（763～767）：5点出土ですべて掲載。4点が基部のみ、1点が刃部のみの出土で完形品はない。766は断面形に厚みがあり大型になりそう。767は使用痕が認められる。

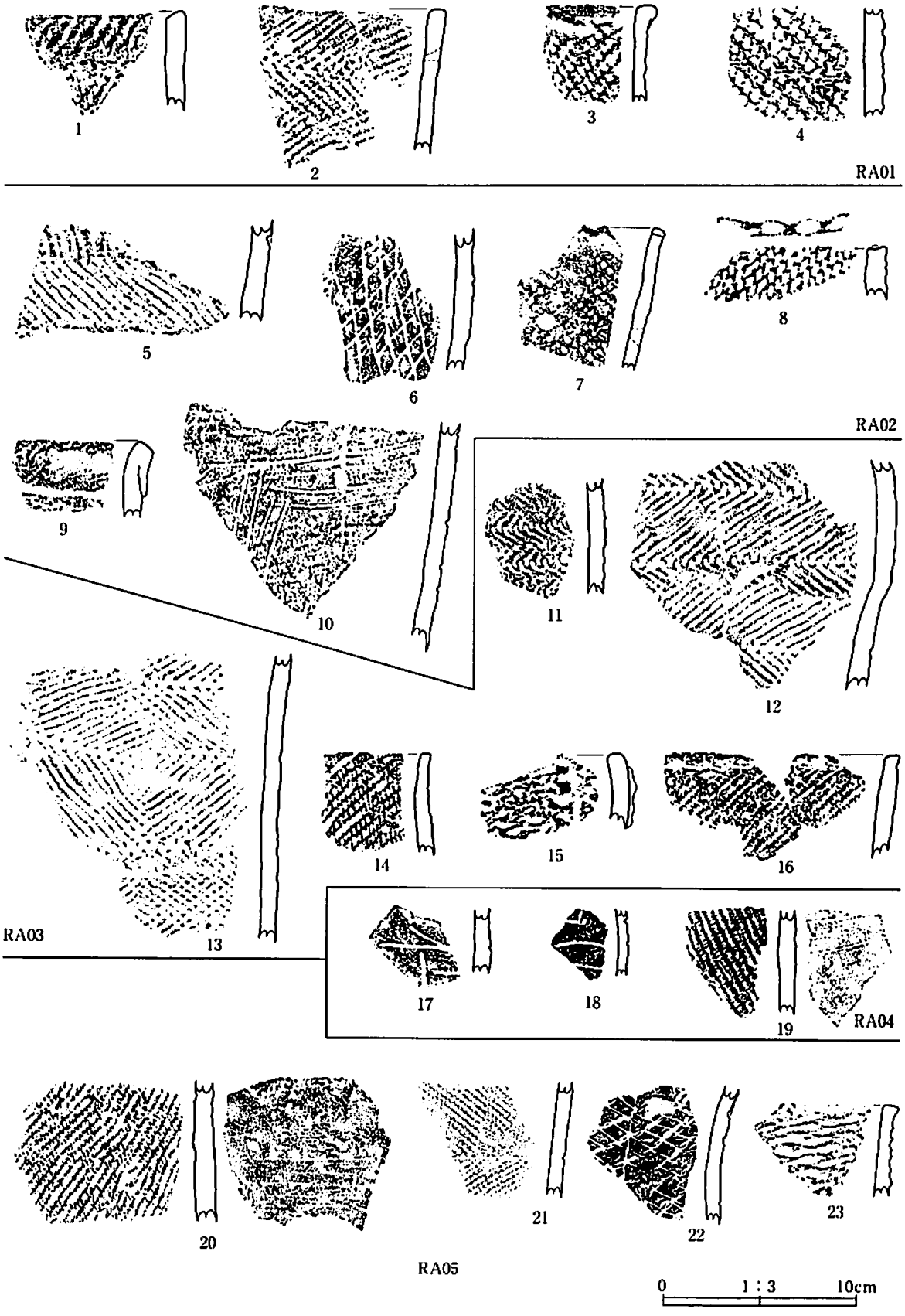
⑦ 礫石器（768～786）：RA09と包含層1上位に出土が多い。遺構内外合わせて凹石2点、敲石12点、磨石13点の掲載である。敲石には小型のものが多い。781の磨石は円形に整形しており石製品かもしれない。782の磨石は近世の産業に伴う可能性がある。

⑧ 石核？（787）黒曜石と見られた787は、分析の結果カルシウムを50%含むガラス質のもので、製鉄などに伴って生成するスラグの類であることが判明した。よって縄文時代ではなく近世の遺物となる。

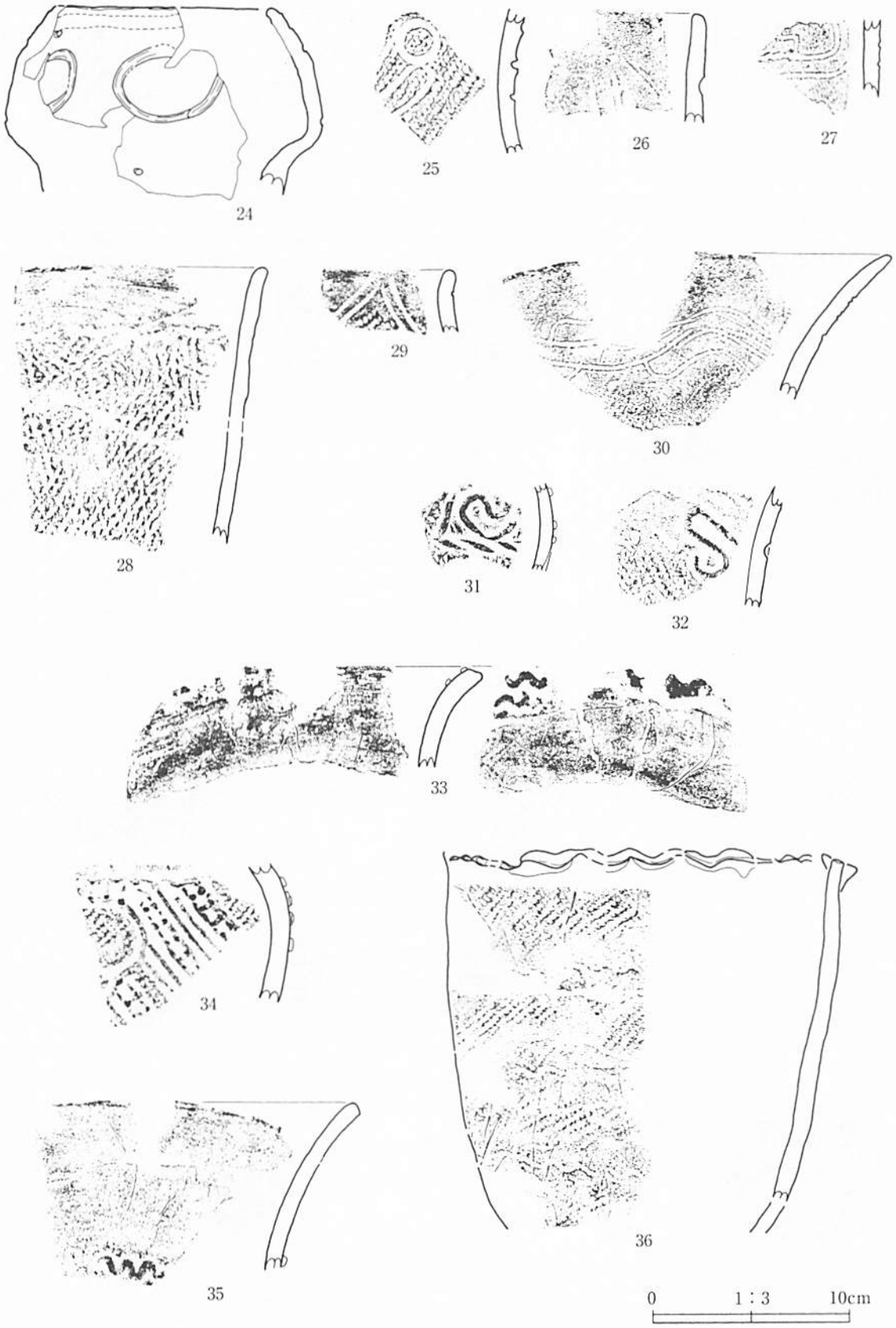
⑨ 礫器（788・789）：788は礫石斧と考えられ、刃部の先端が細くなる。使用痕が認められる。799は片刃の打製石斧で基部がややへこむ。788は斧のような役割、789は鉈のような役割を想定する。

⑩ 石製品（790～797）：790・791は抉状耳飾りで欠損が見られる。792は穴のあいた石剣風のアクセサリーで不明の石棒（793～795）も同類か。796は環状石斧状で抉状耳飾りの未製品かもしれない。797は軽石製で、頂部に3つの穴があいており人顔にも見える。アクセサリーの一種か、それとも石偶か、不明である。

⑪ 土製品（798～800）：798は小型ミニチュア土器の破片。799は綾絡文の800は表裏縄文の円盤状土製品で、時期は799が前期前葉、800が前期初頭と考えれる。



第35図　遺構内出土土器1（RA01～04）

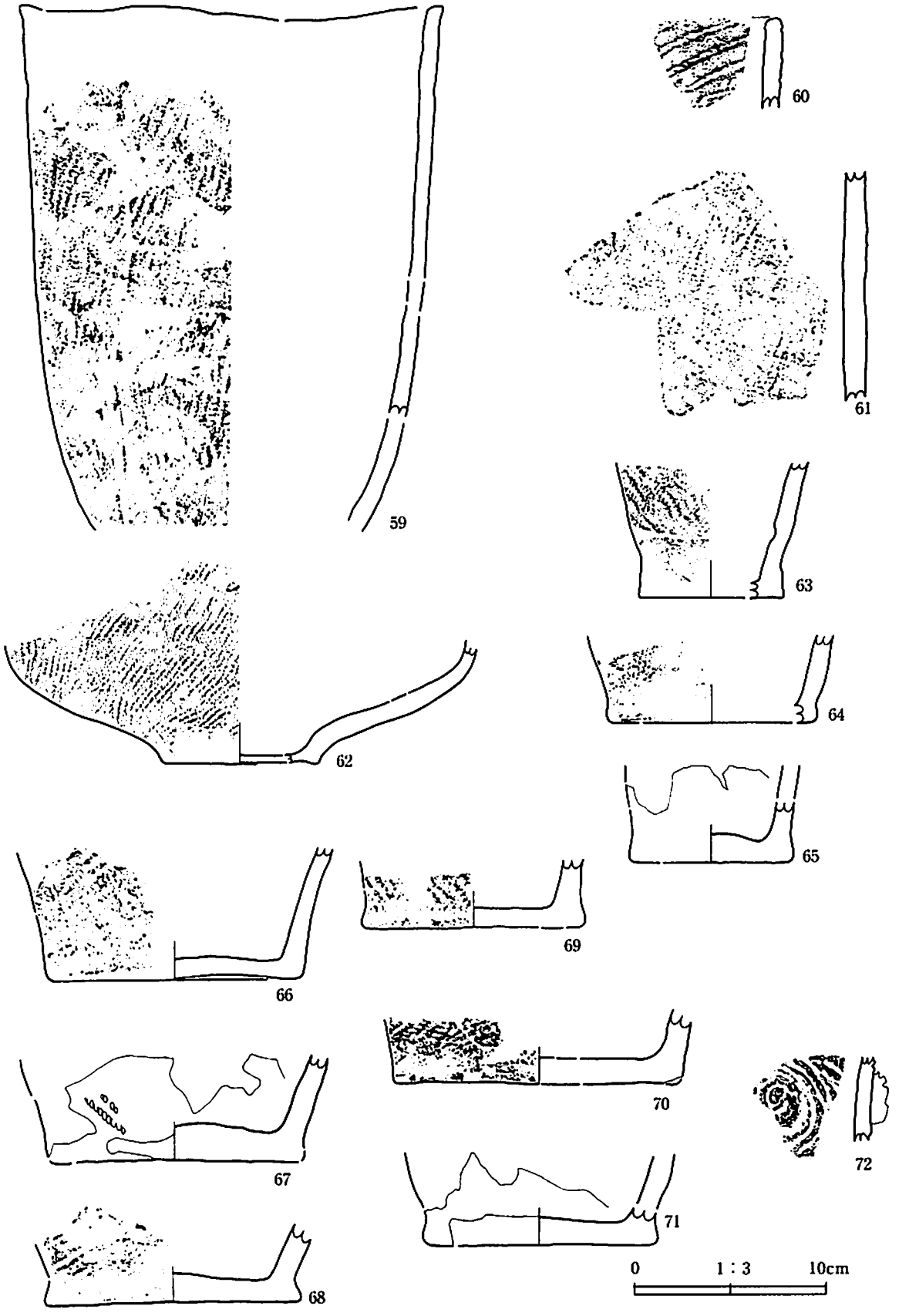


第36図　遺構内出土土器2（RA07）

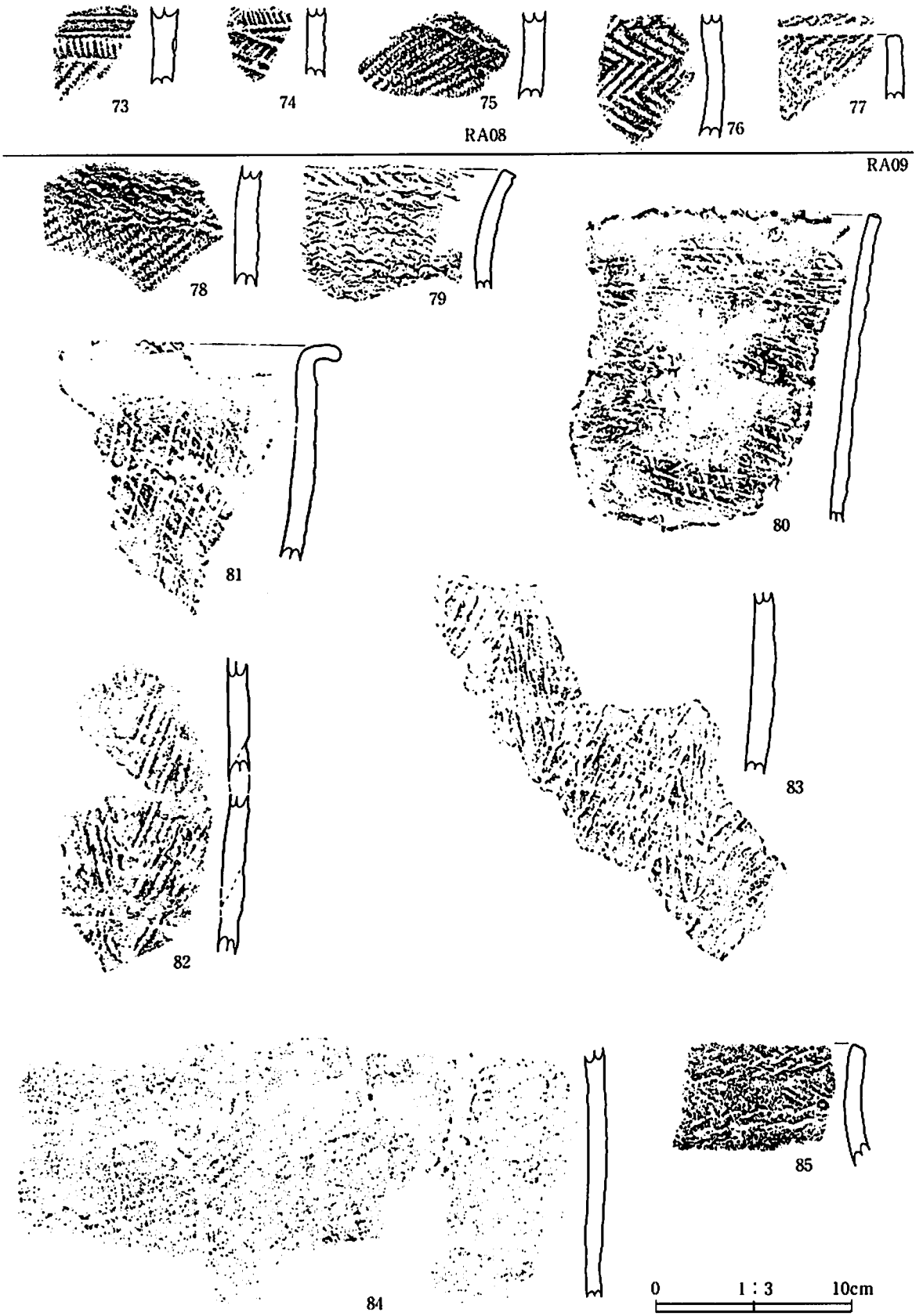
第37図　遺構内出土土器3（RA07）

第38図　遺構内出土土器4（RA07）

第39図　遺構内出土土器5（RA07）

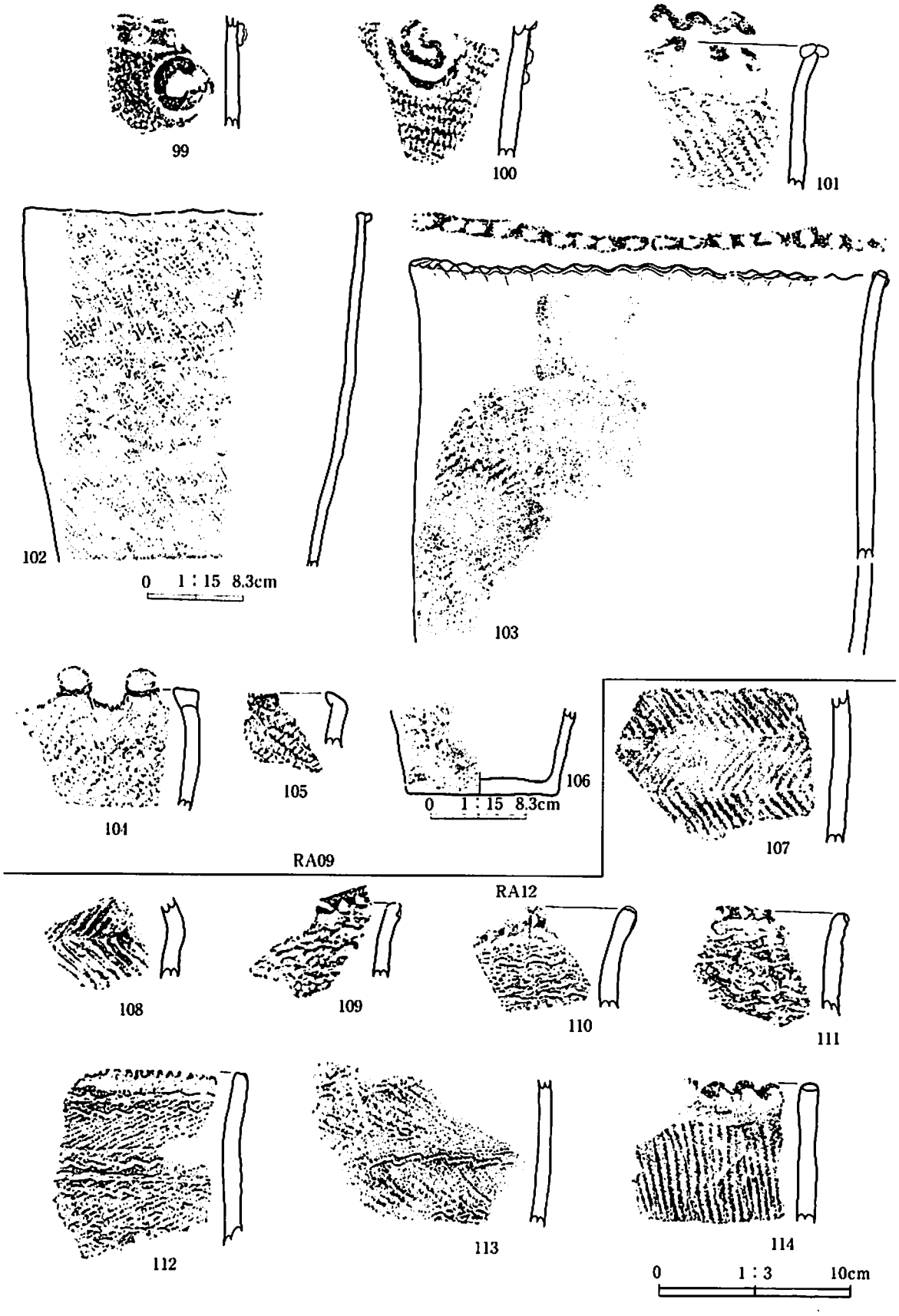


第40図　遺構内出土土器6（RA07）

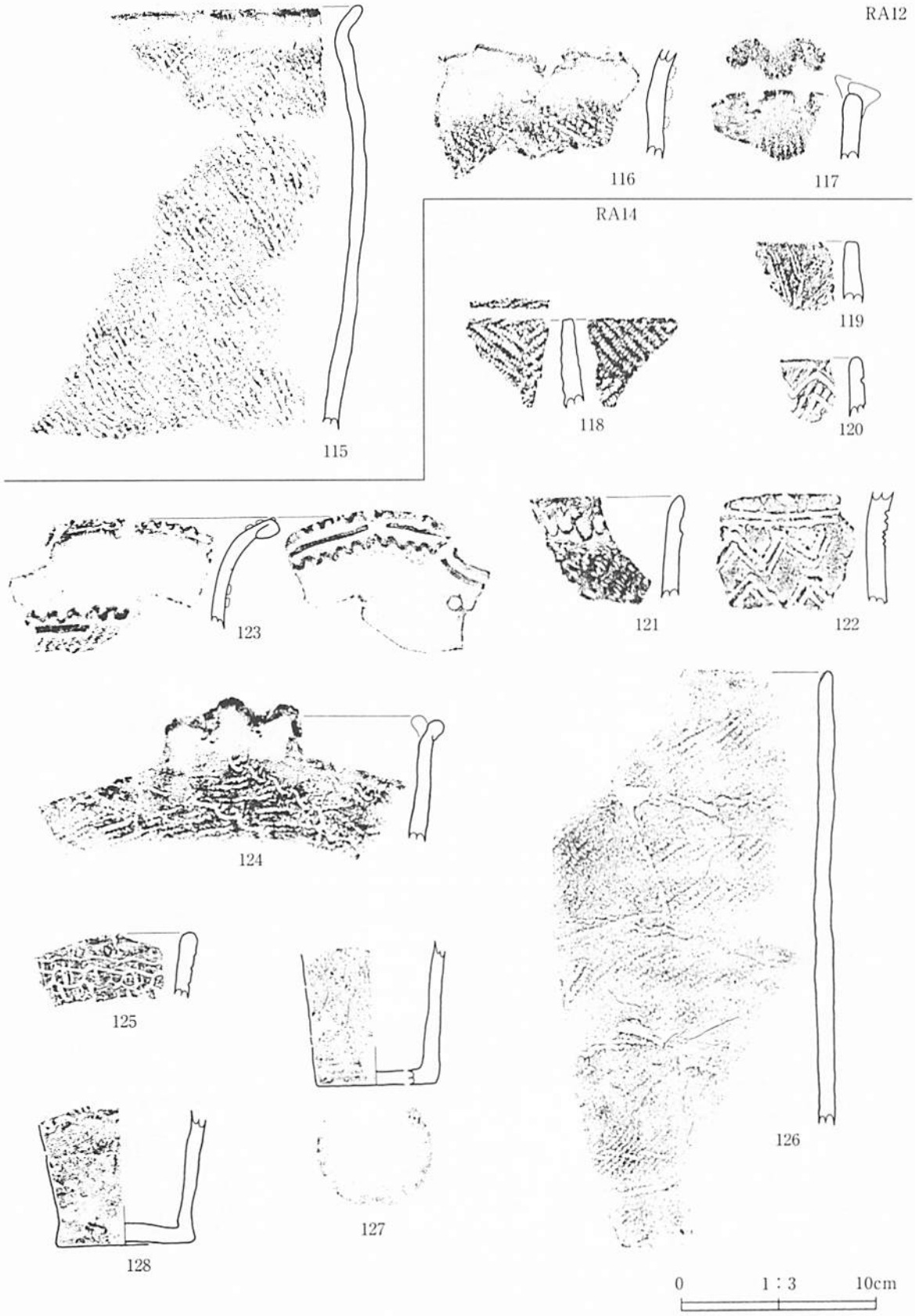


第41図　遺構内出土土器7（RA08・09）

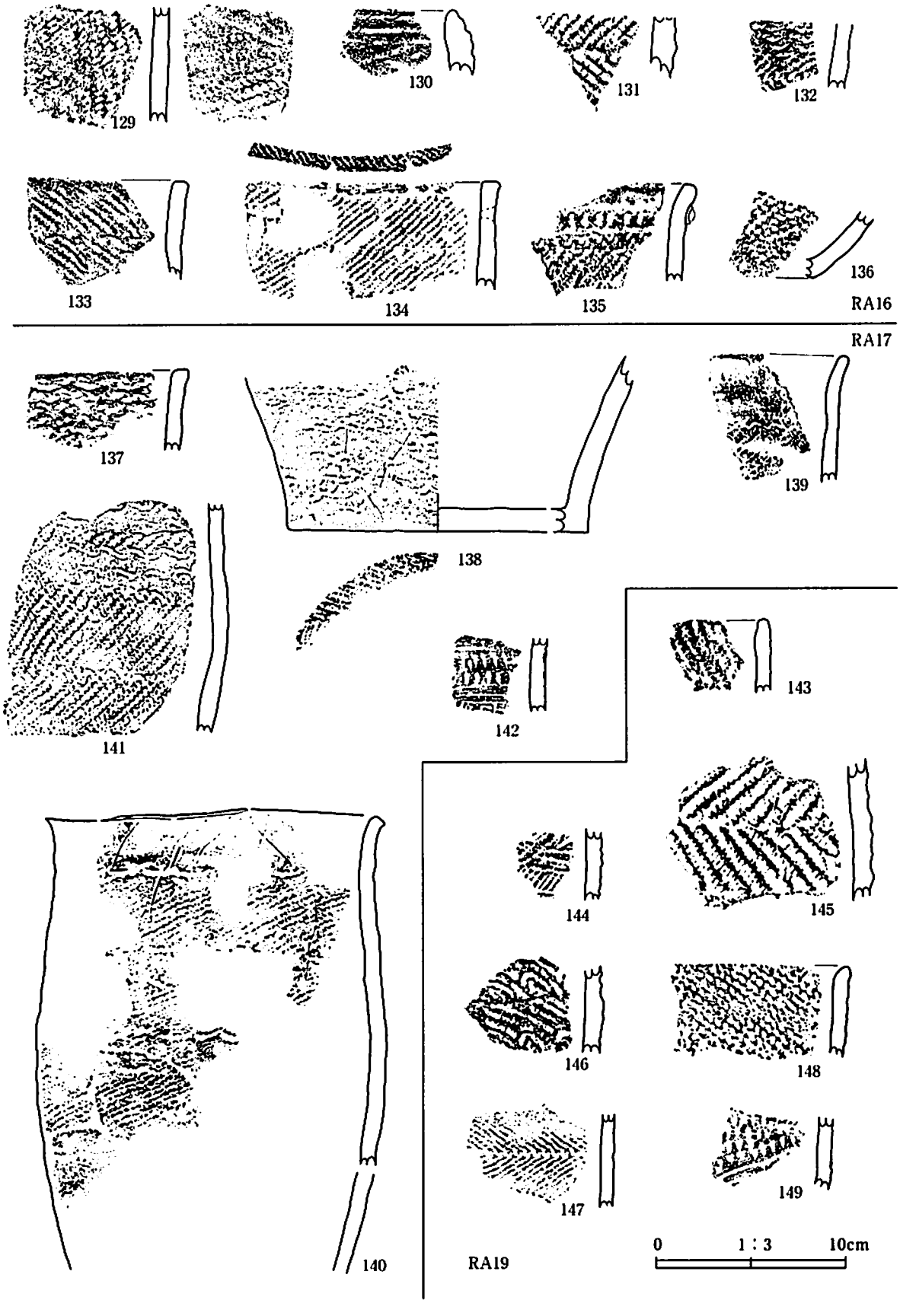
第42図　遺構内出土土器8（RA09）



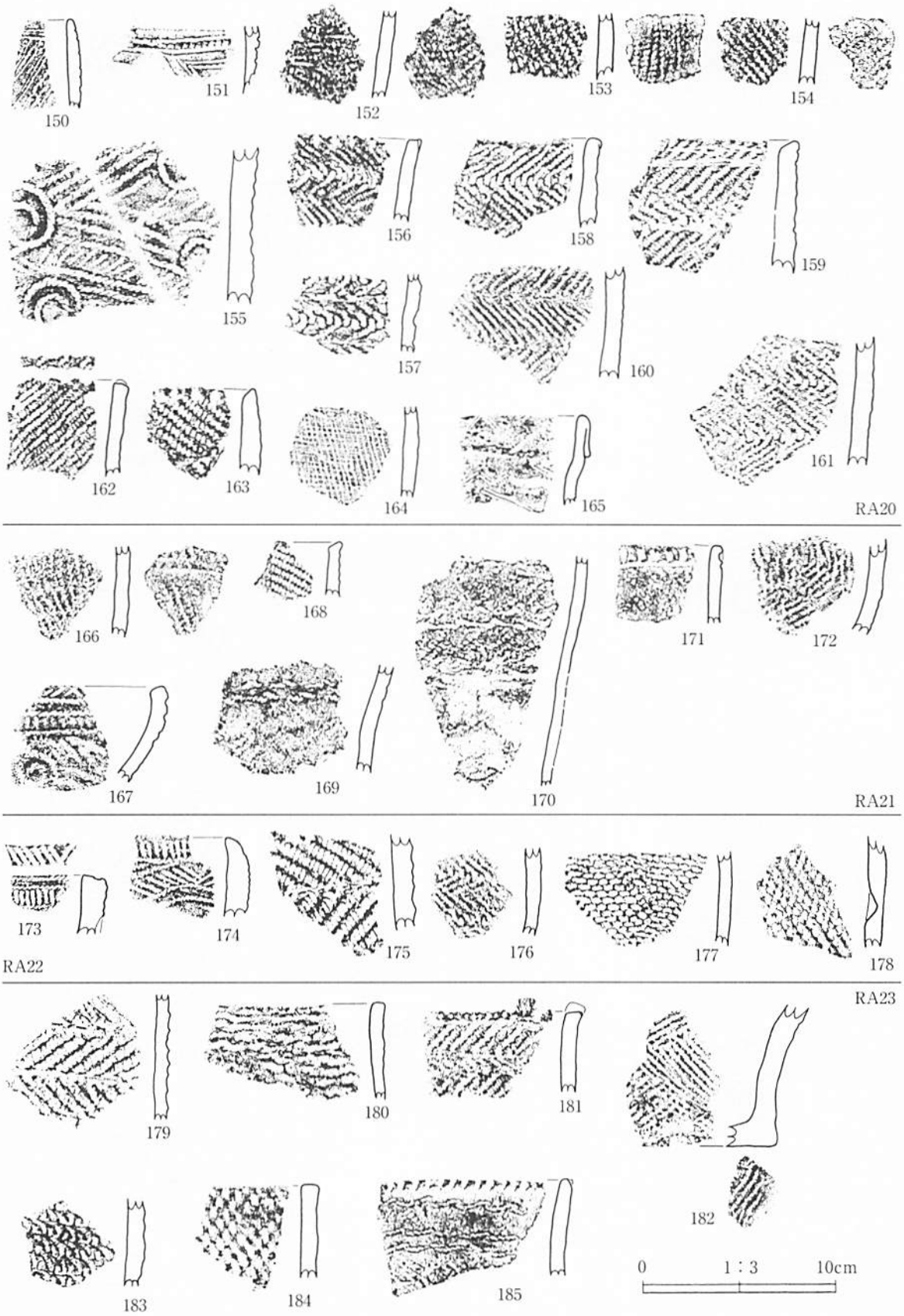
第43図　遺構内出土土器9（RA09・12）



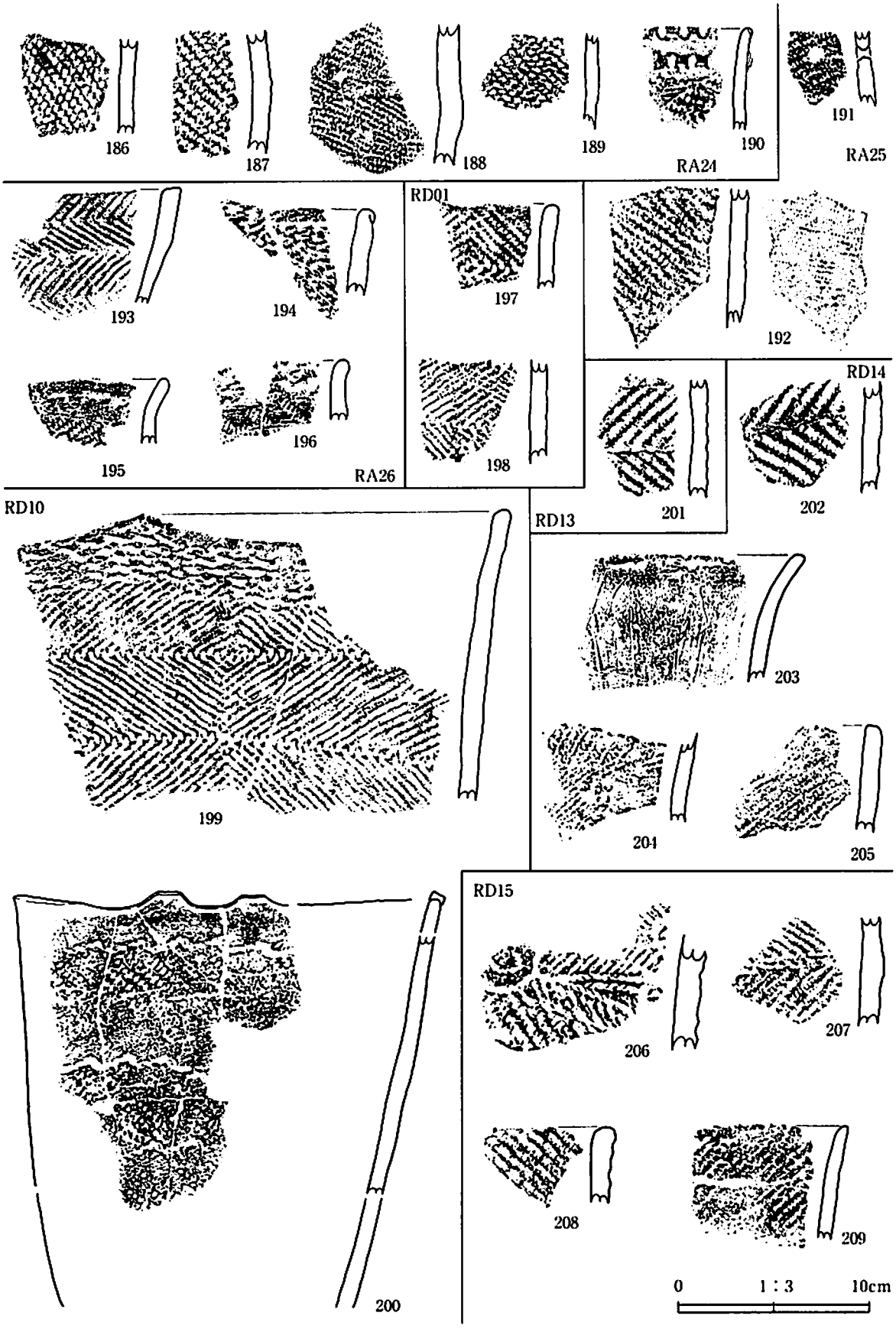
第44図　遺構内出土土器10（RA12・14）



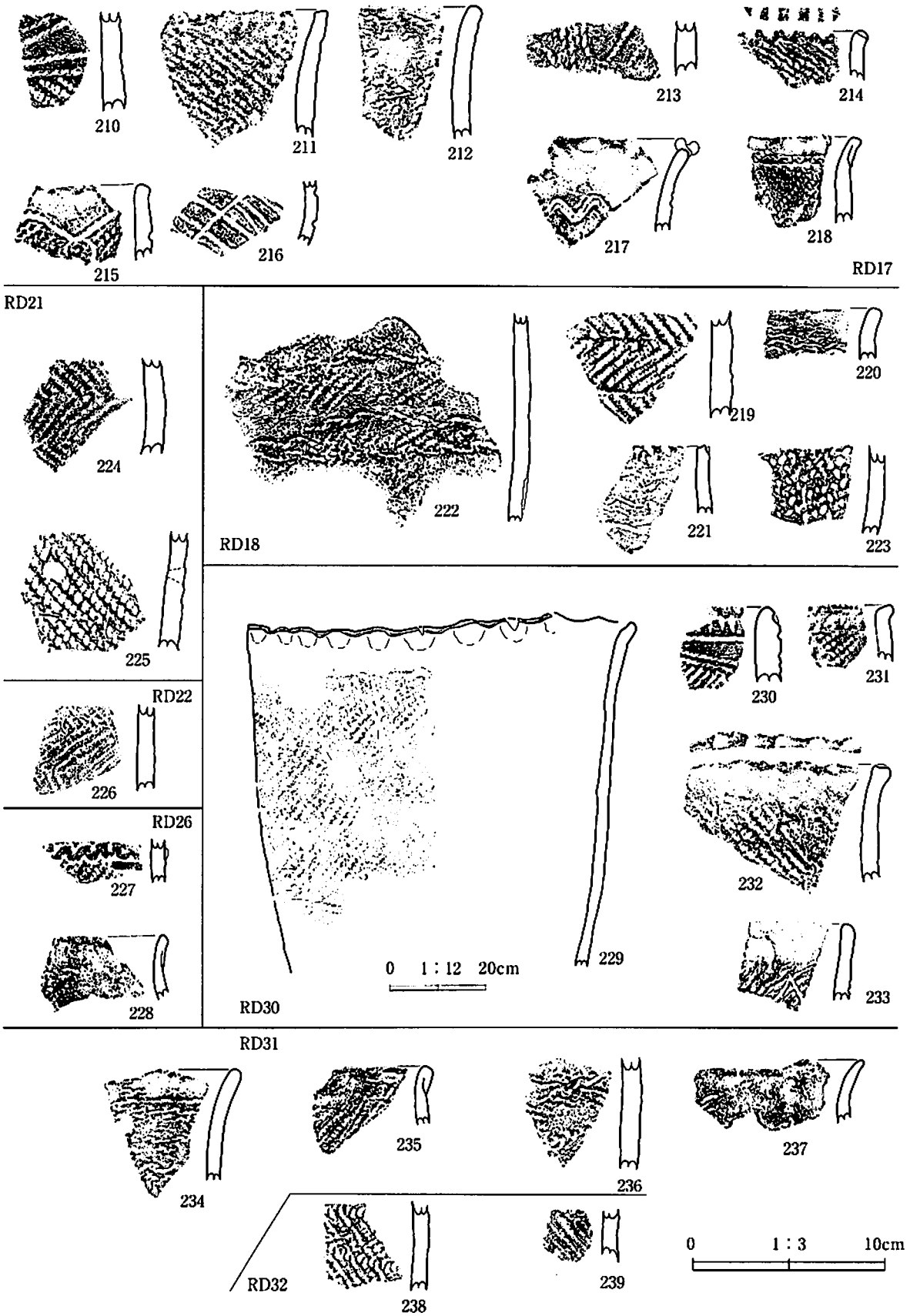
第45図　遺構内出土土器11（RA16・17・19）



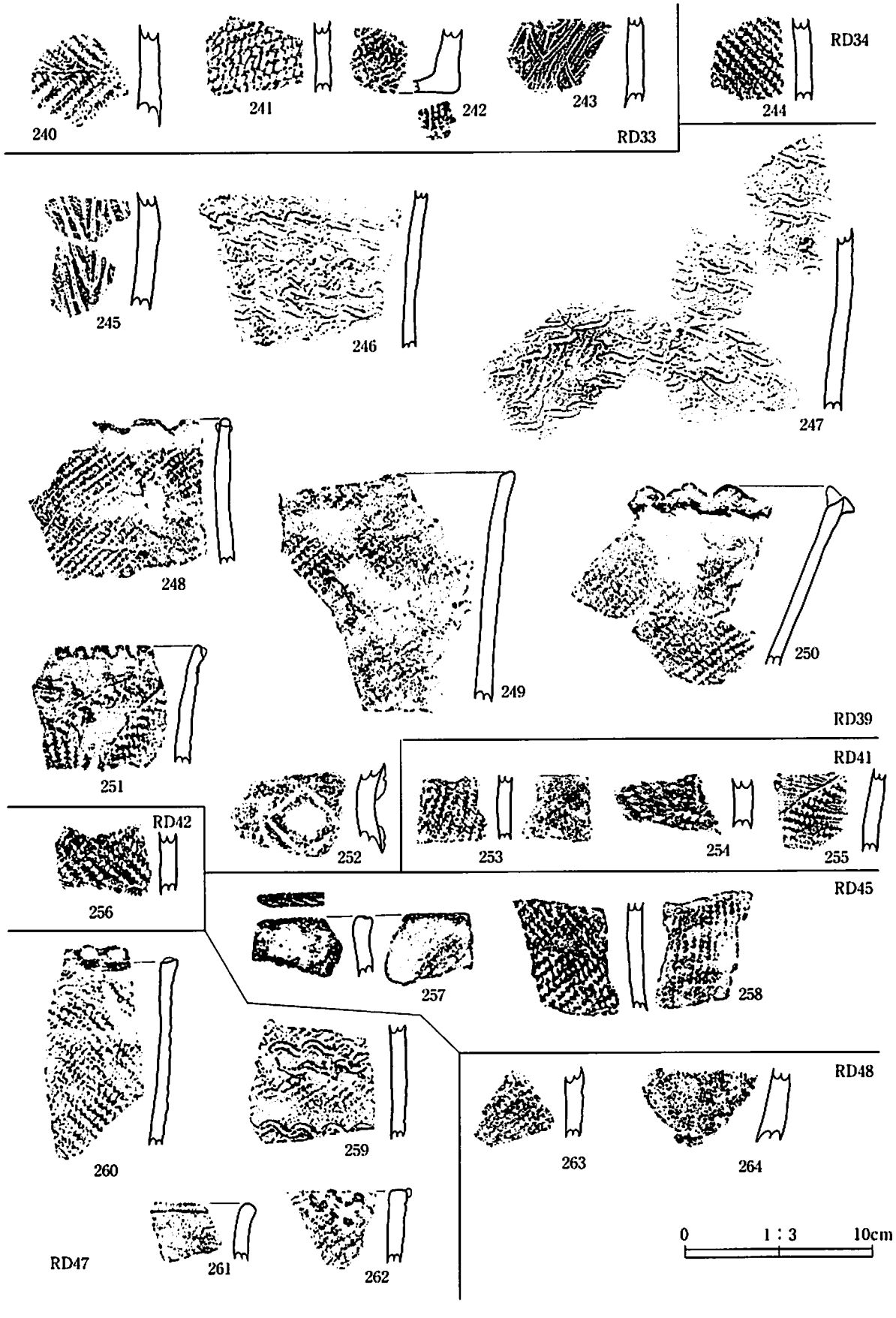
第46図　遺構内出土土器12（RA20～23）



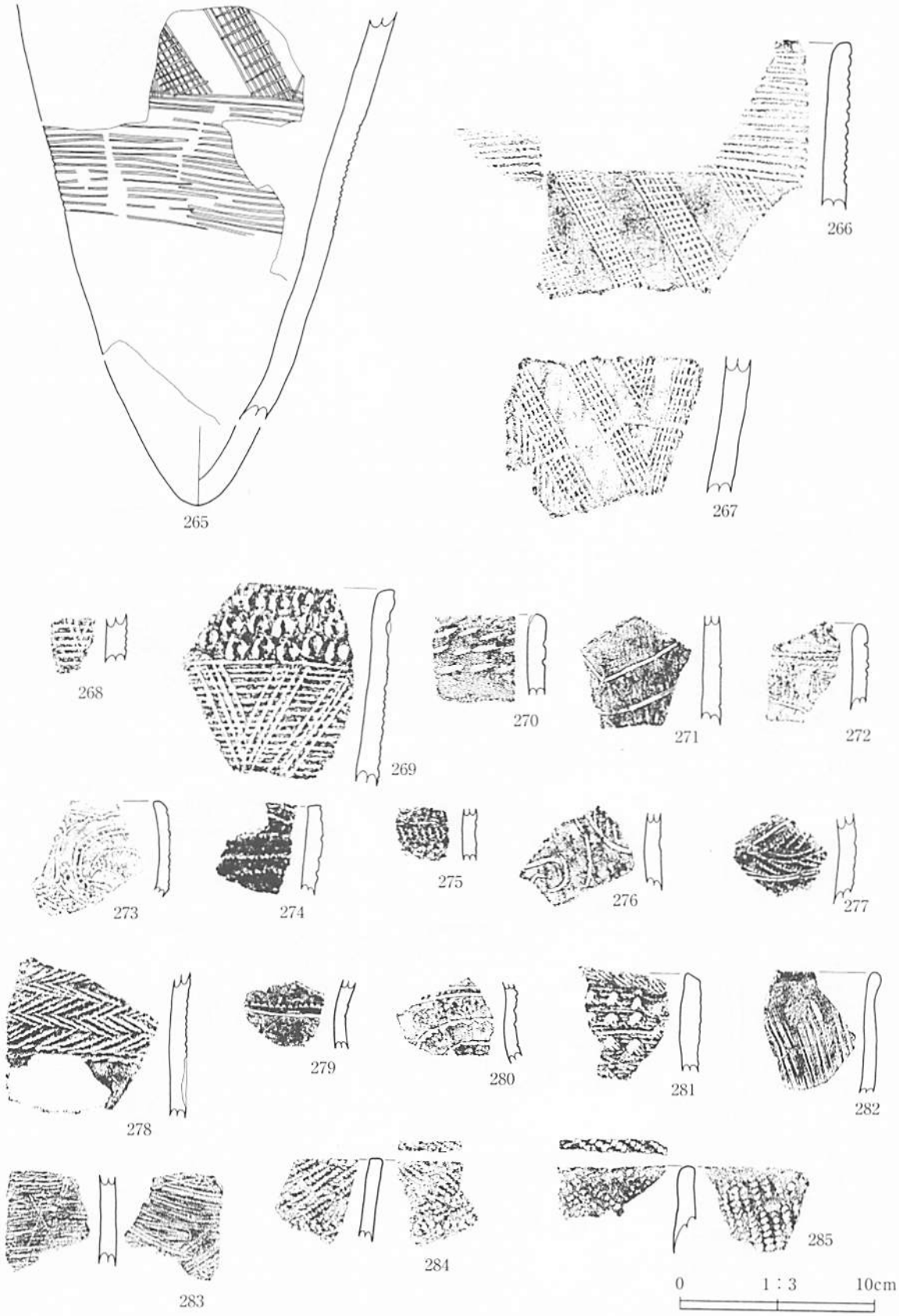
第47図　遺構内出土土器13（RA24～26　RD01・10・13・14・15）



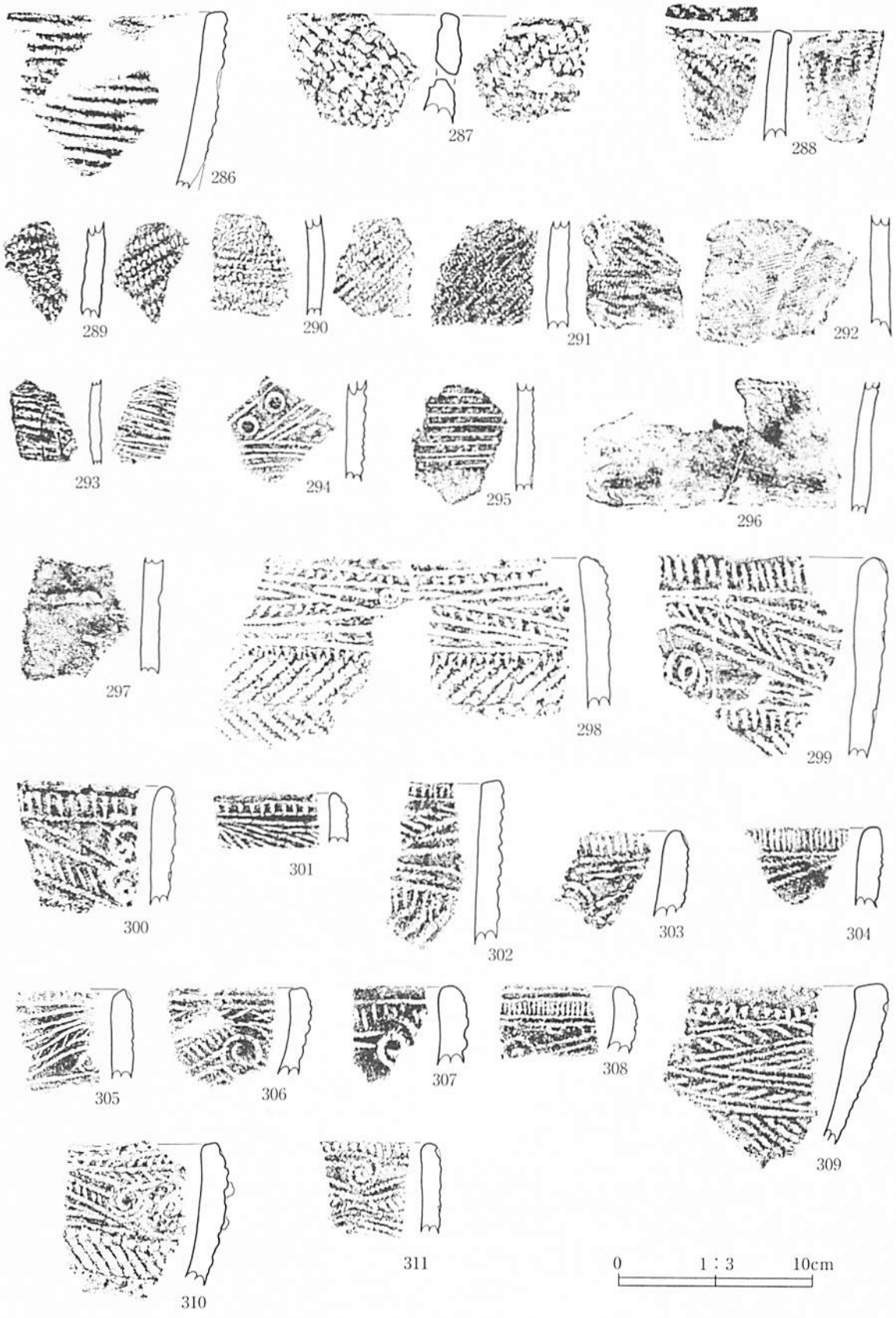
第48図　遺構内出土土器14（RD17・18・21・22・26・30・32）



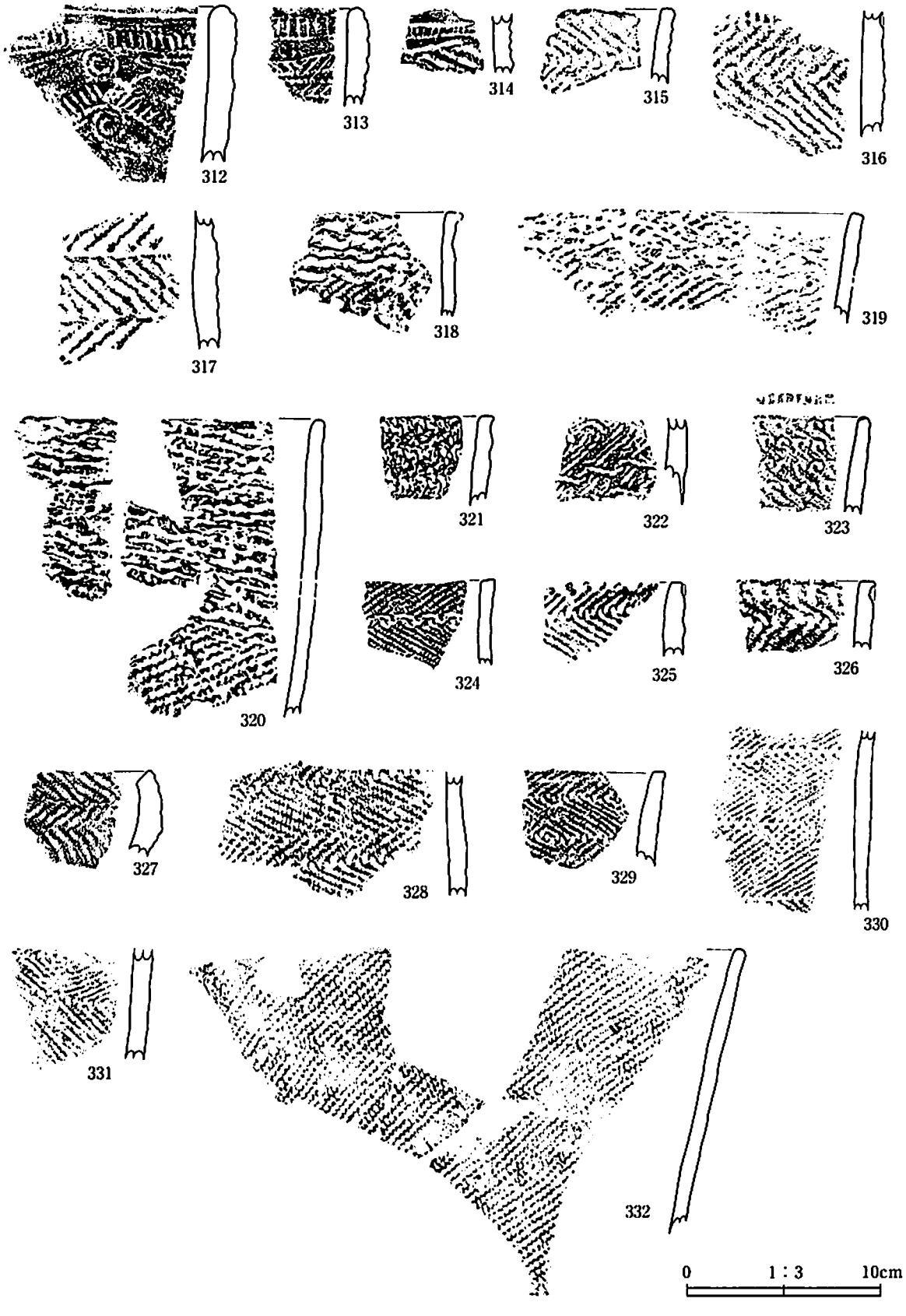
第49図　遺構内出土土器15（RD33・34・39・41・42・45・47・48）



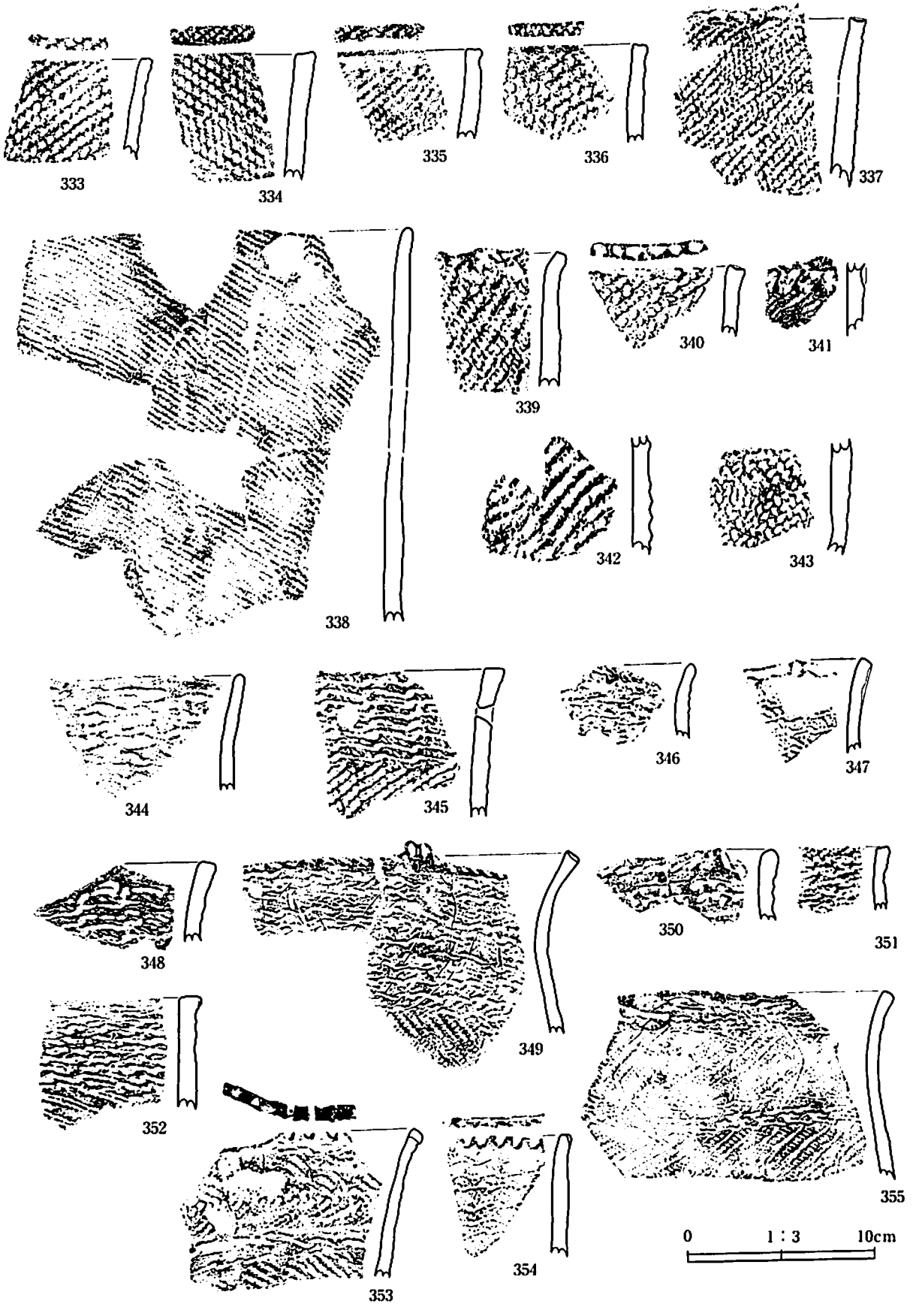
第50図　遺構外出土土器



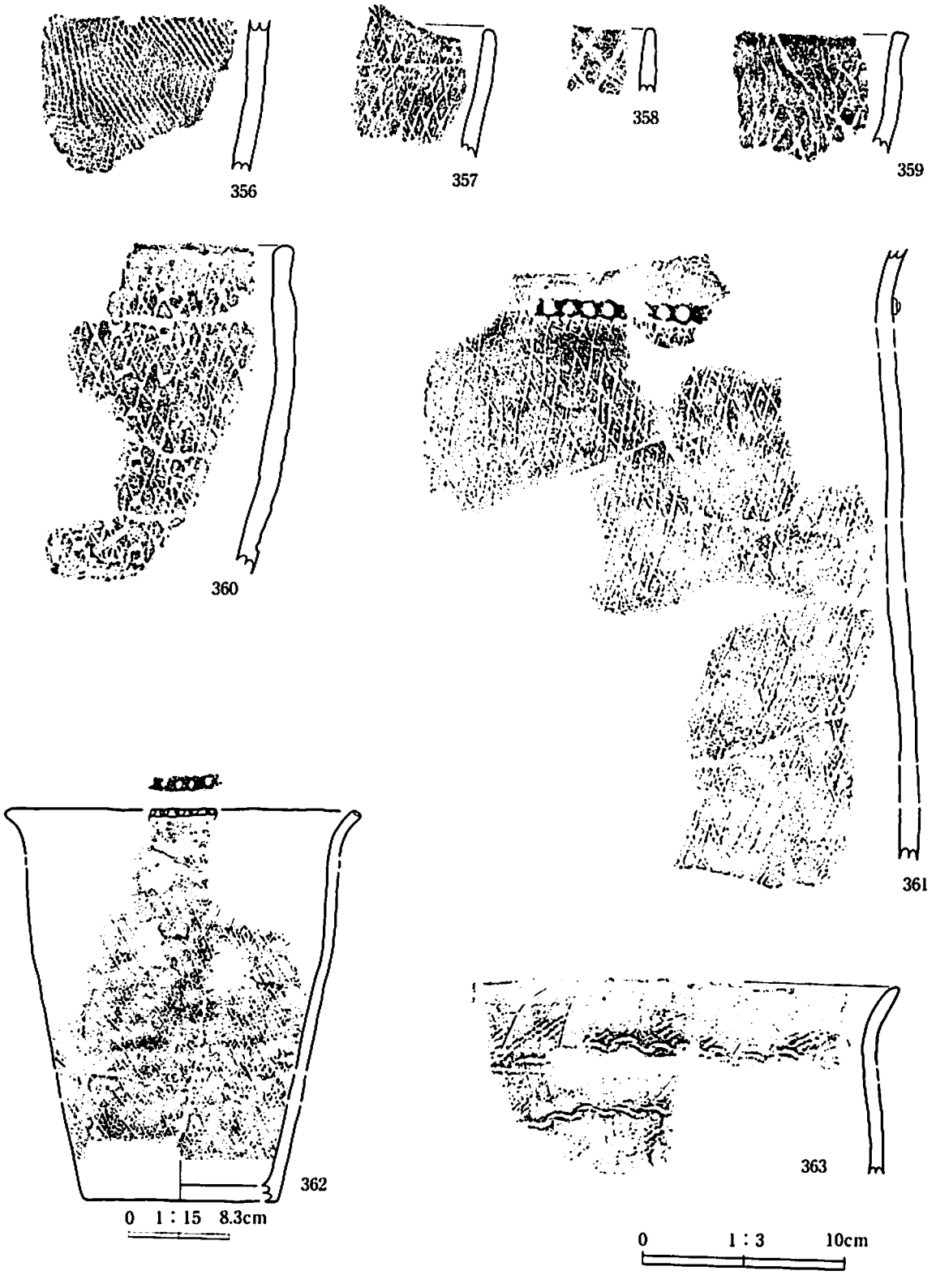
第51図　遺構外出土土器 2



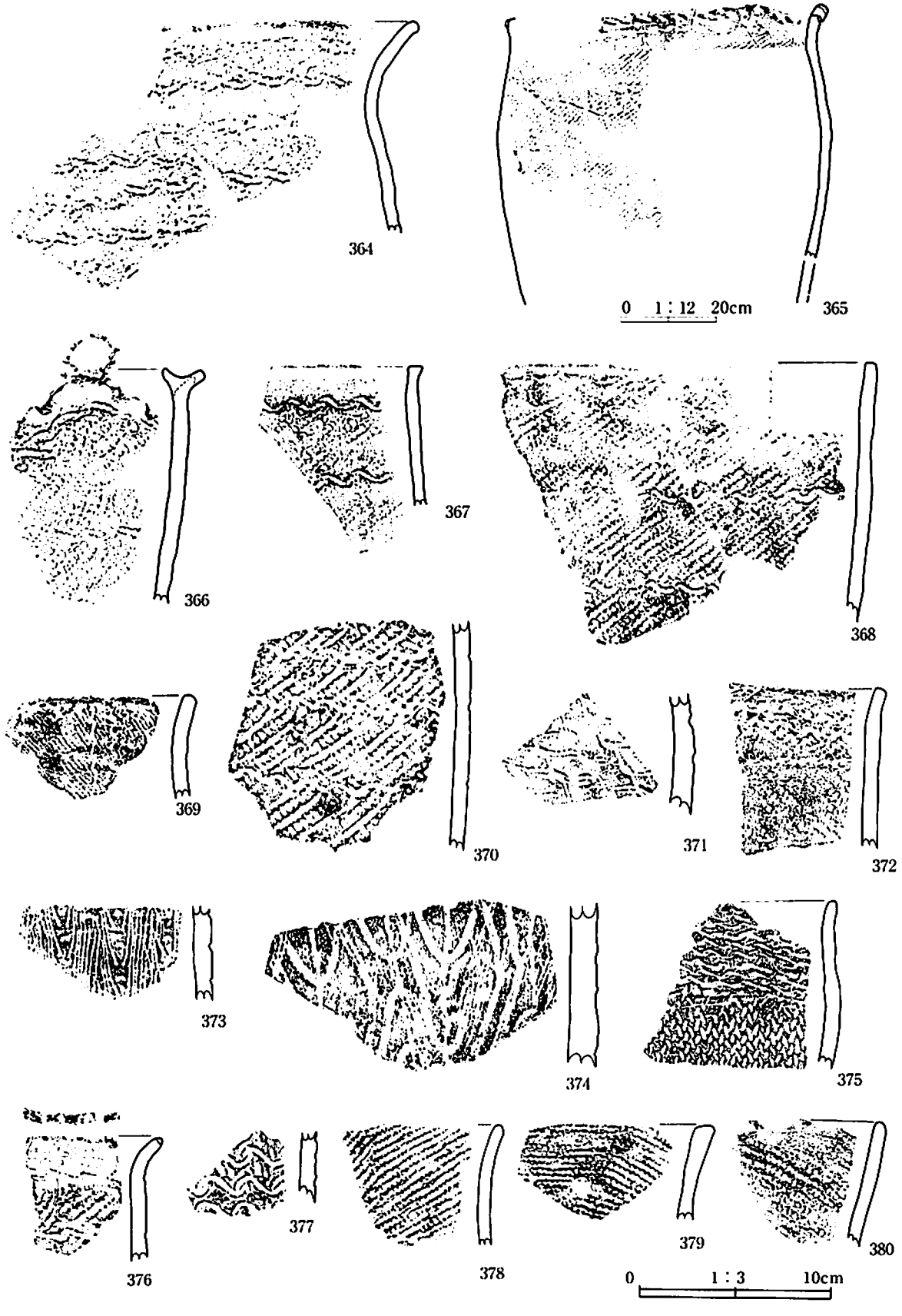
第52図　遺構外出土土器 3



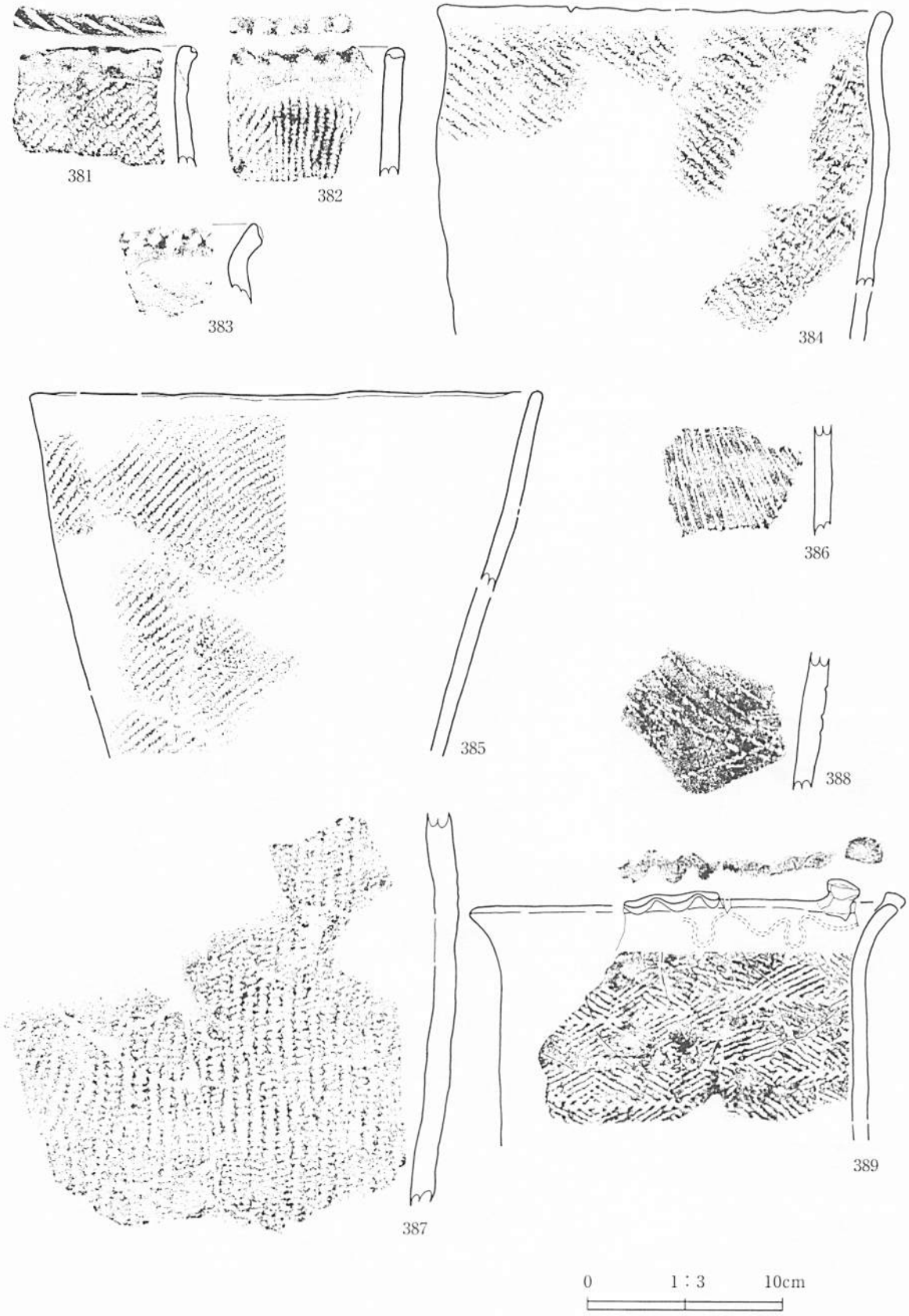
第53図　遺構外出土土器 4



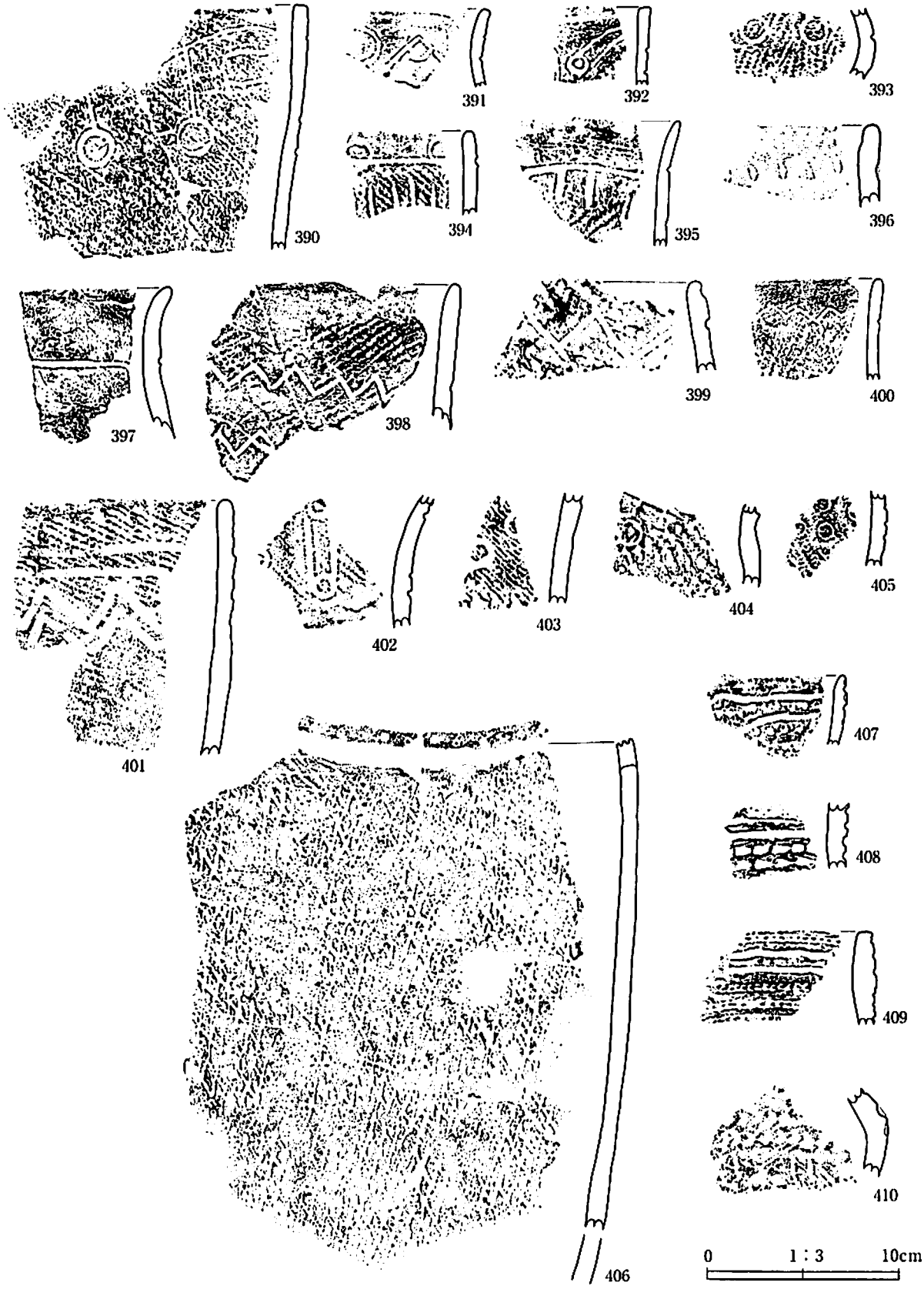
第54図　遺構外出土土器 5



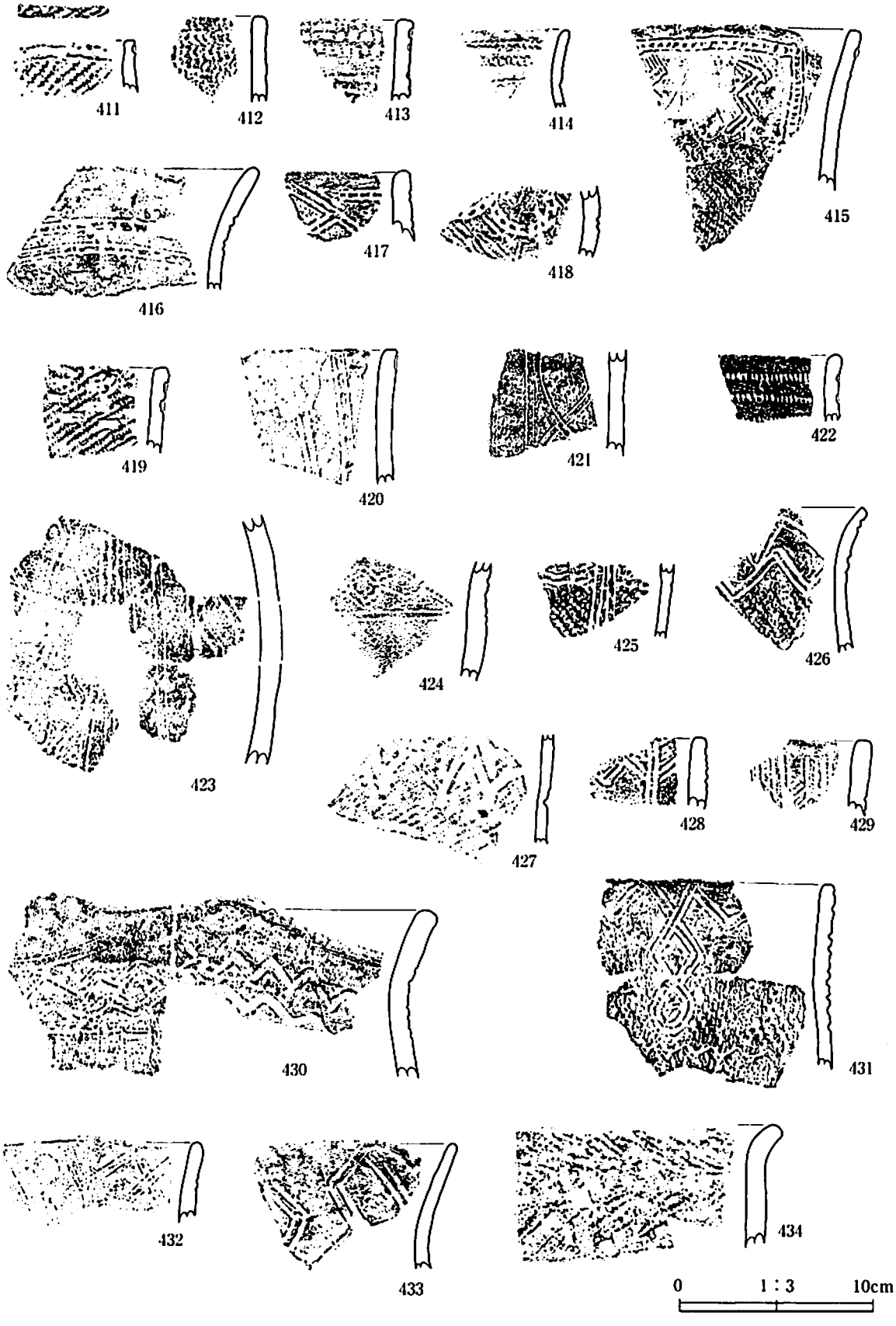
第55図　遺構外出土土器 6



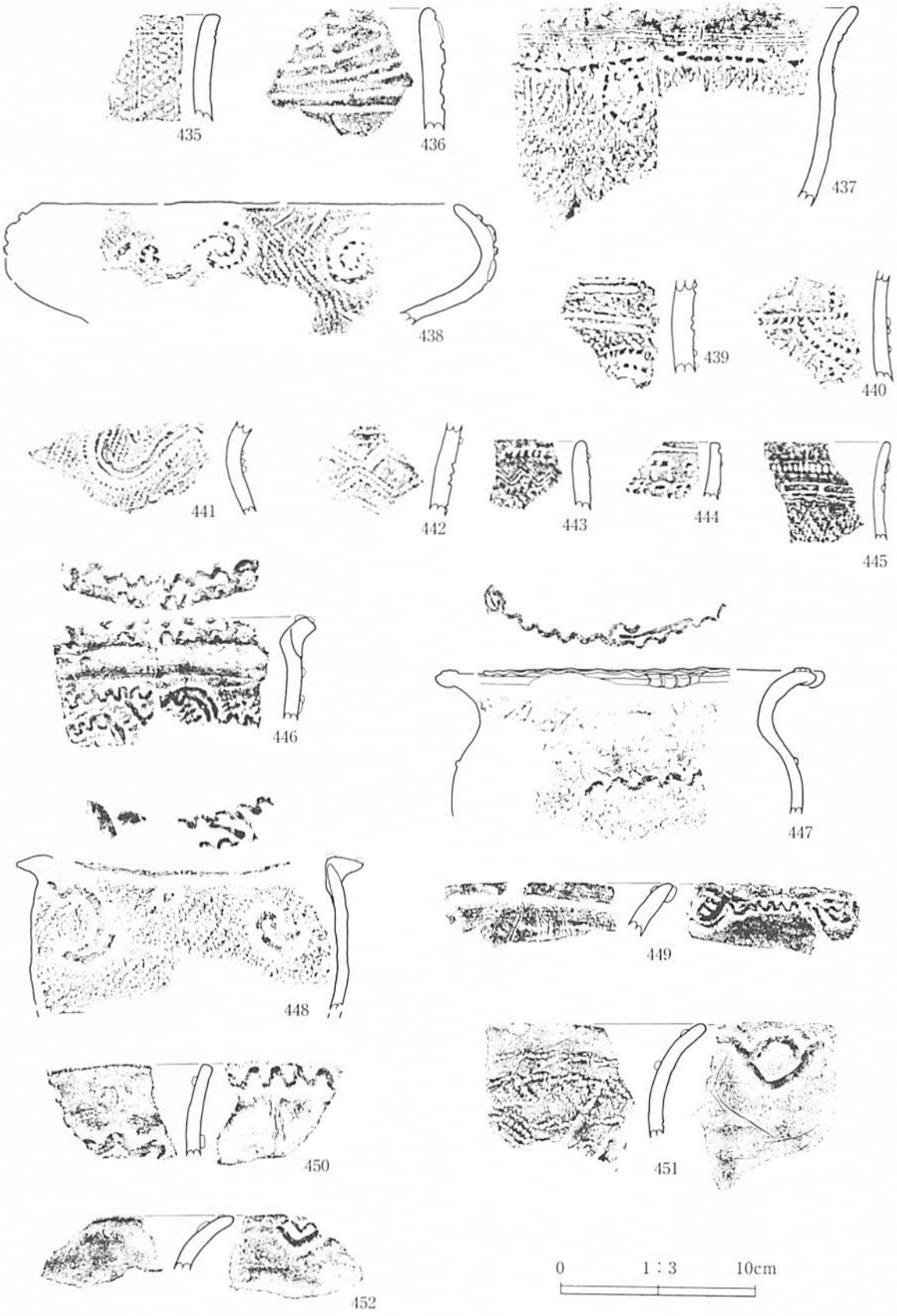
第56図　遺構外出土土器 7



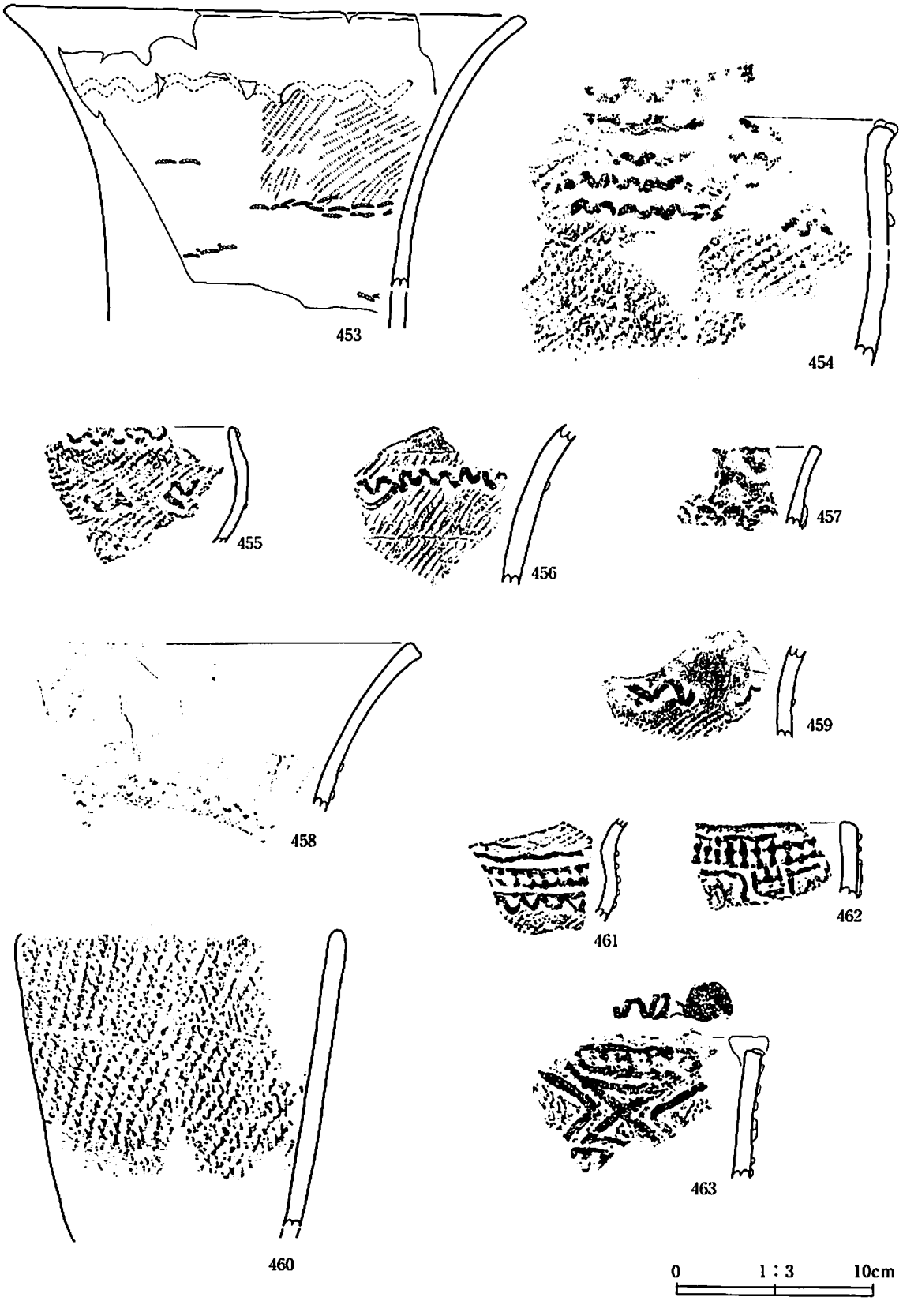
第57図　遺構外出土土器 8



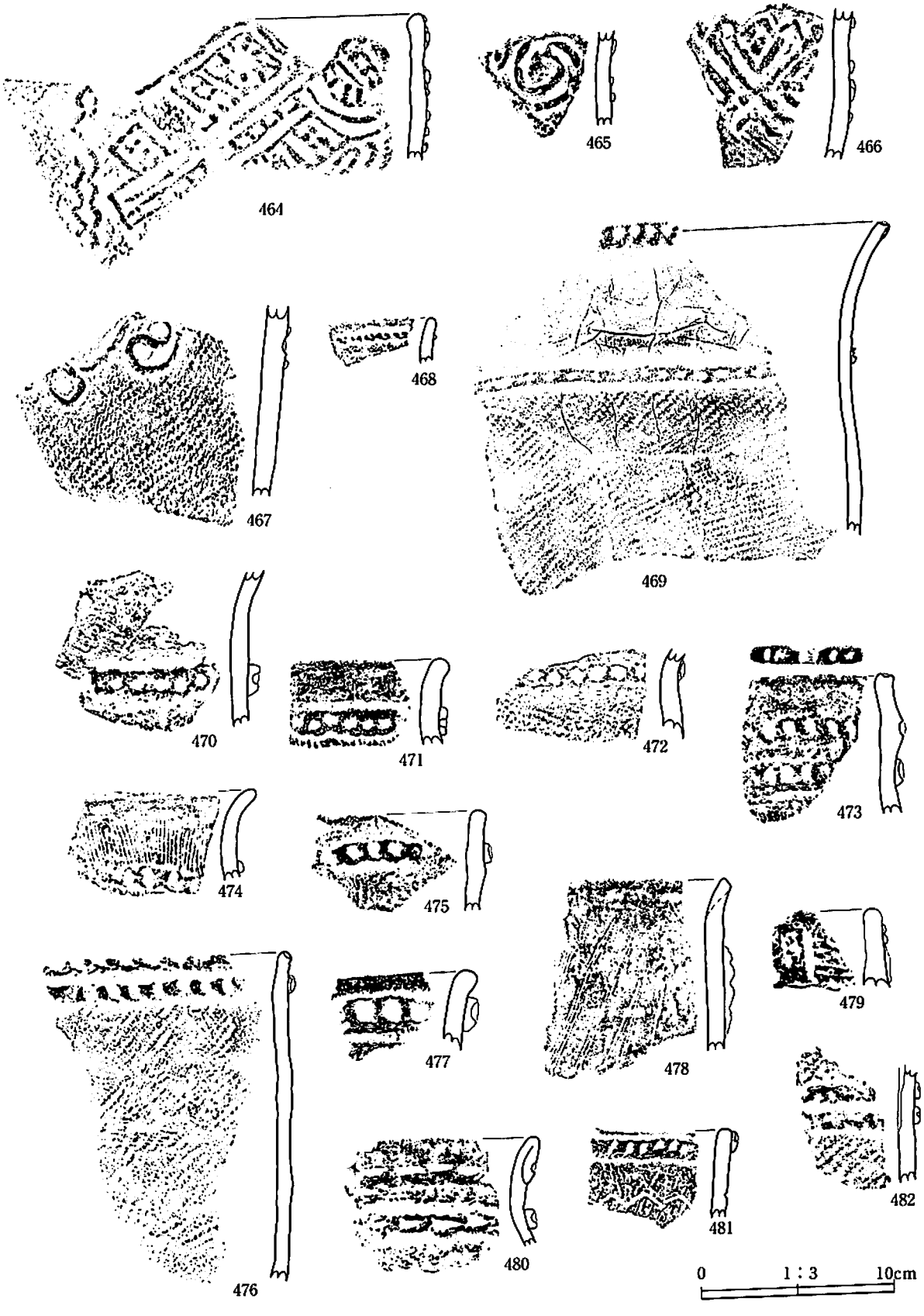
第58図　遺構外出土土器 9



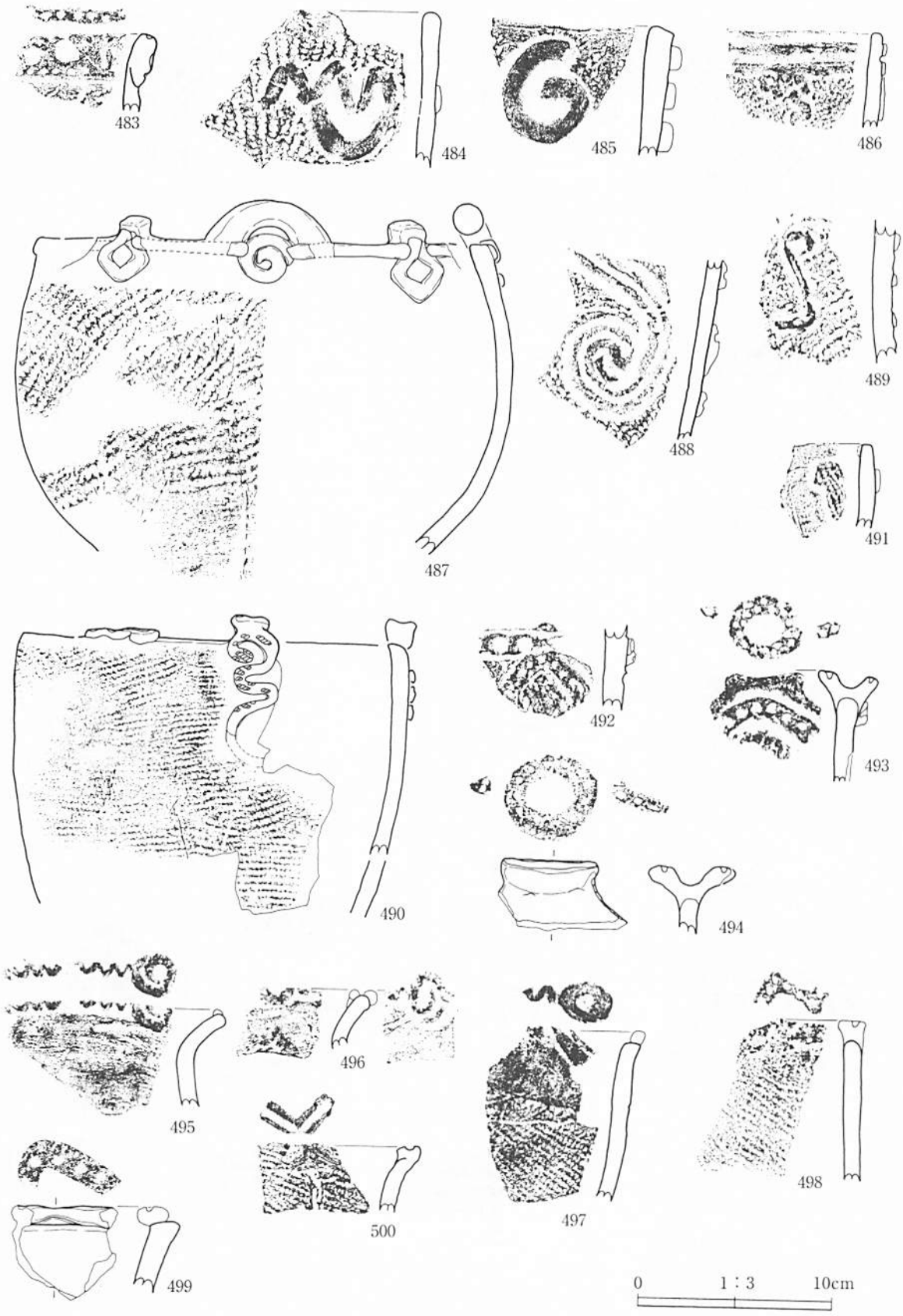
第59図　遺構外出土土器 10



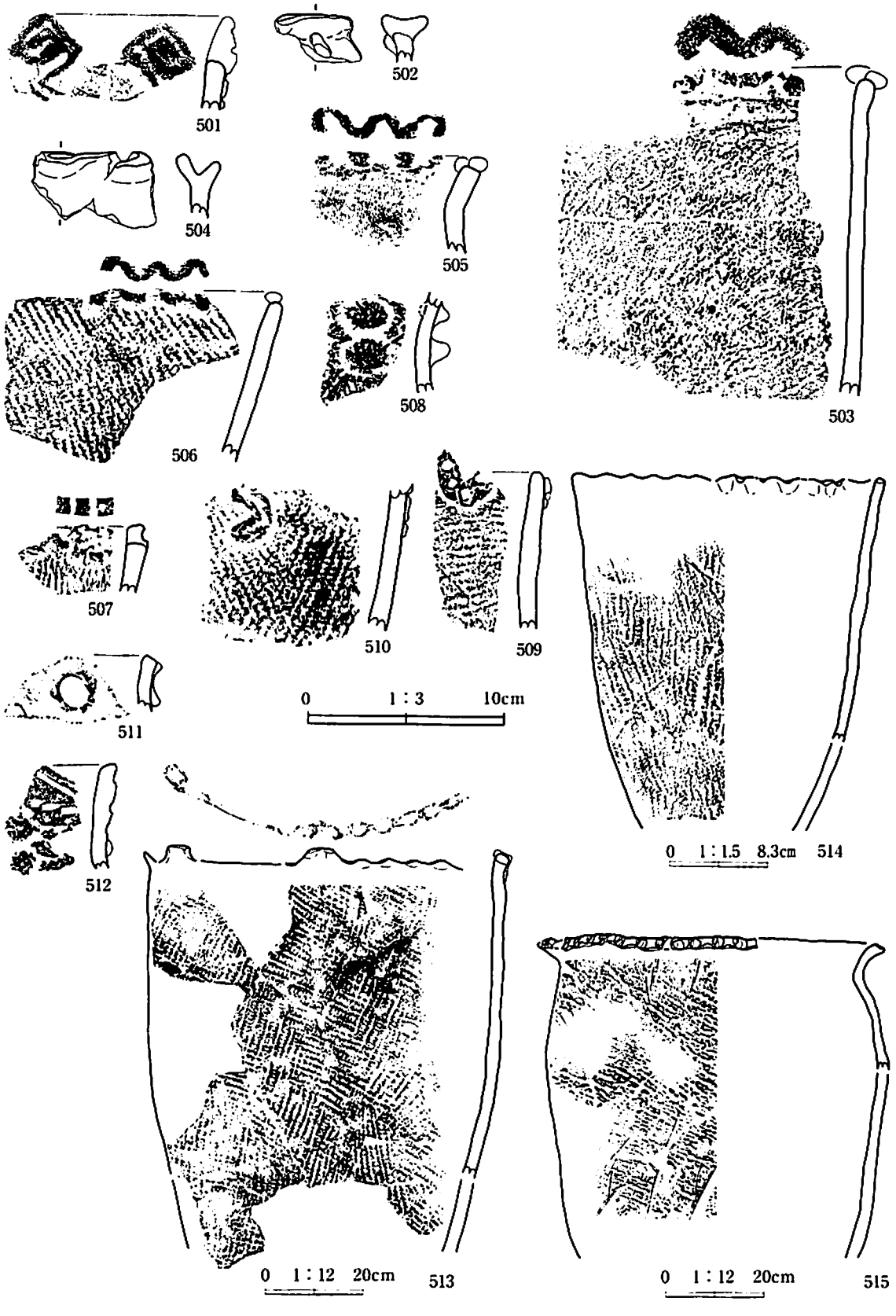
第60図　遺構外出土土器 11



第61図　遺構外出土土器 12



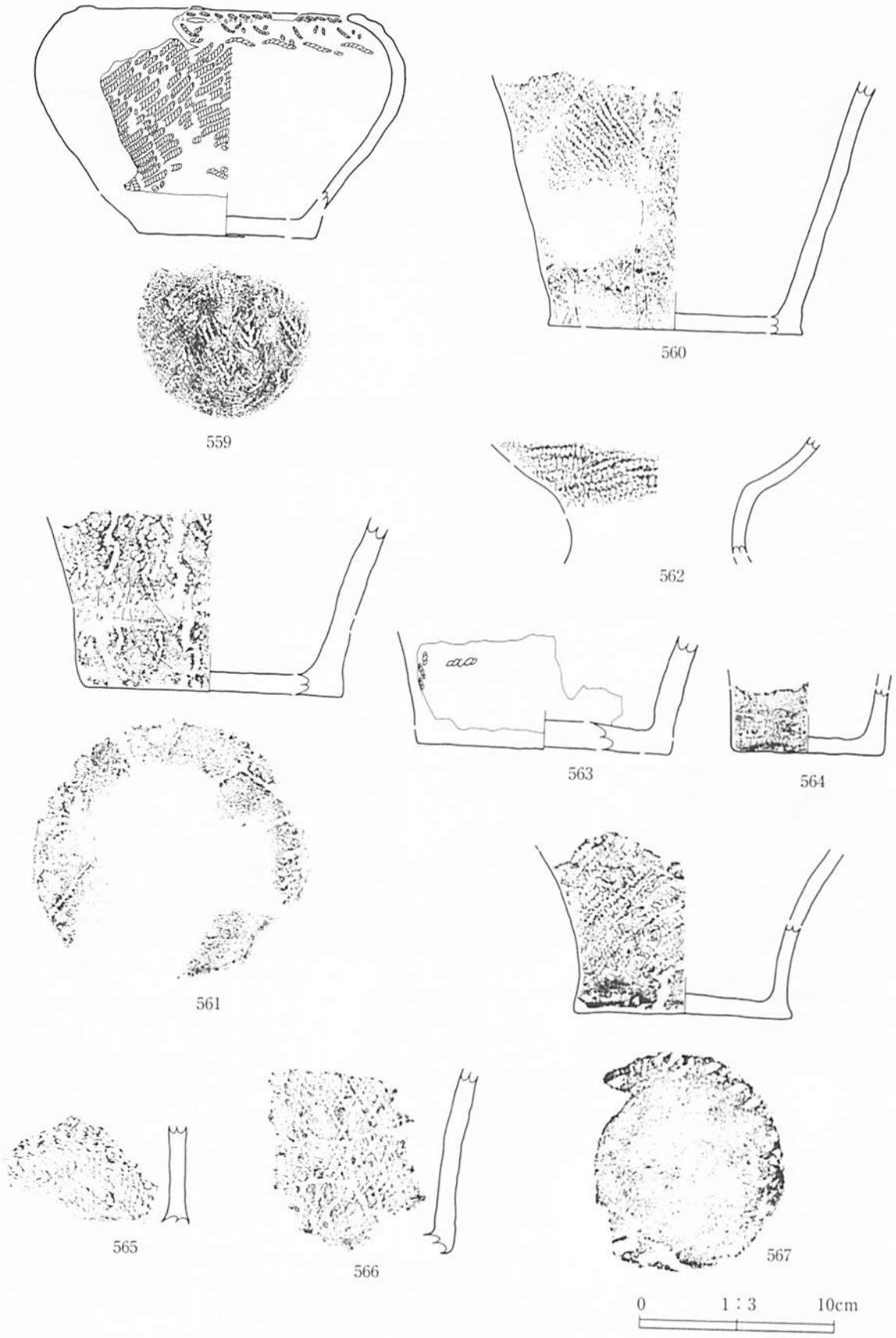
第62図　遺構外出土土器 13



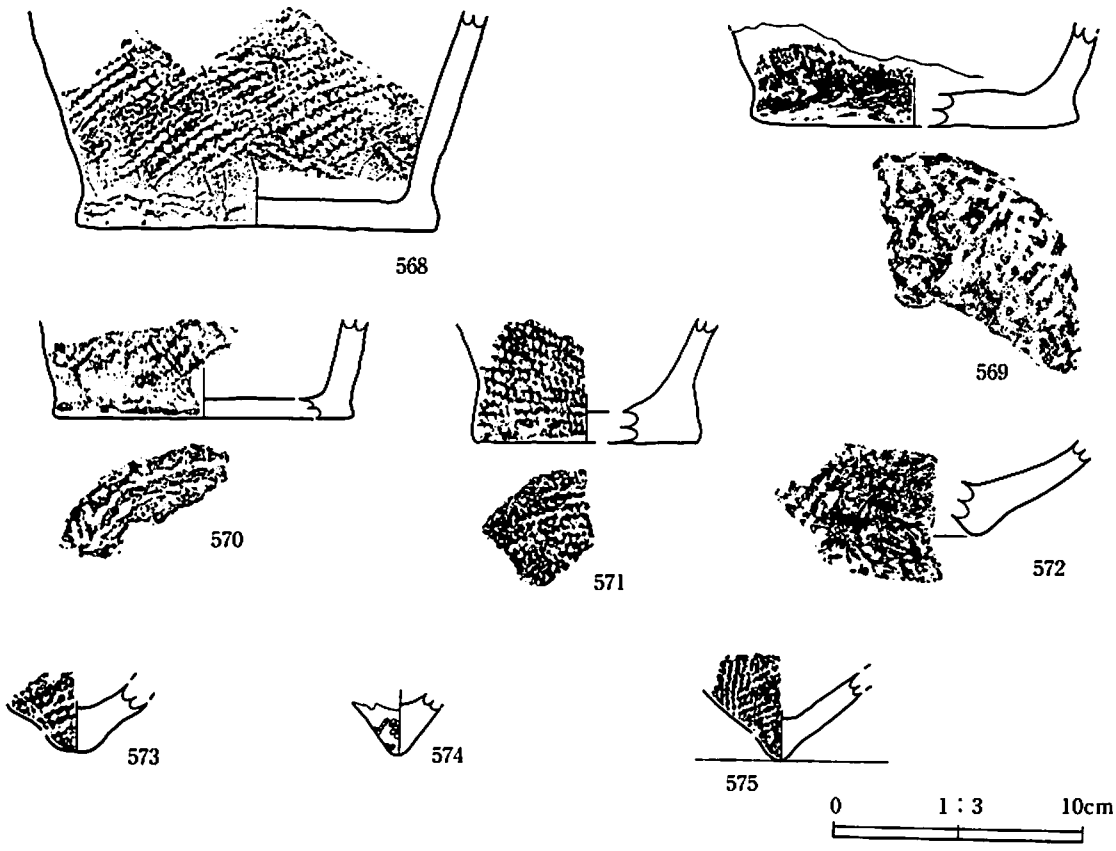
第63図　遺構外出土土器 14

第64図　遺構外出土土器 15

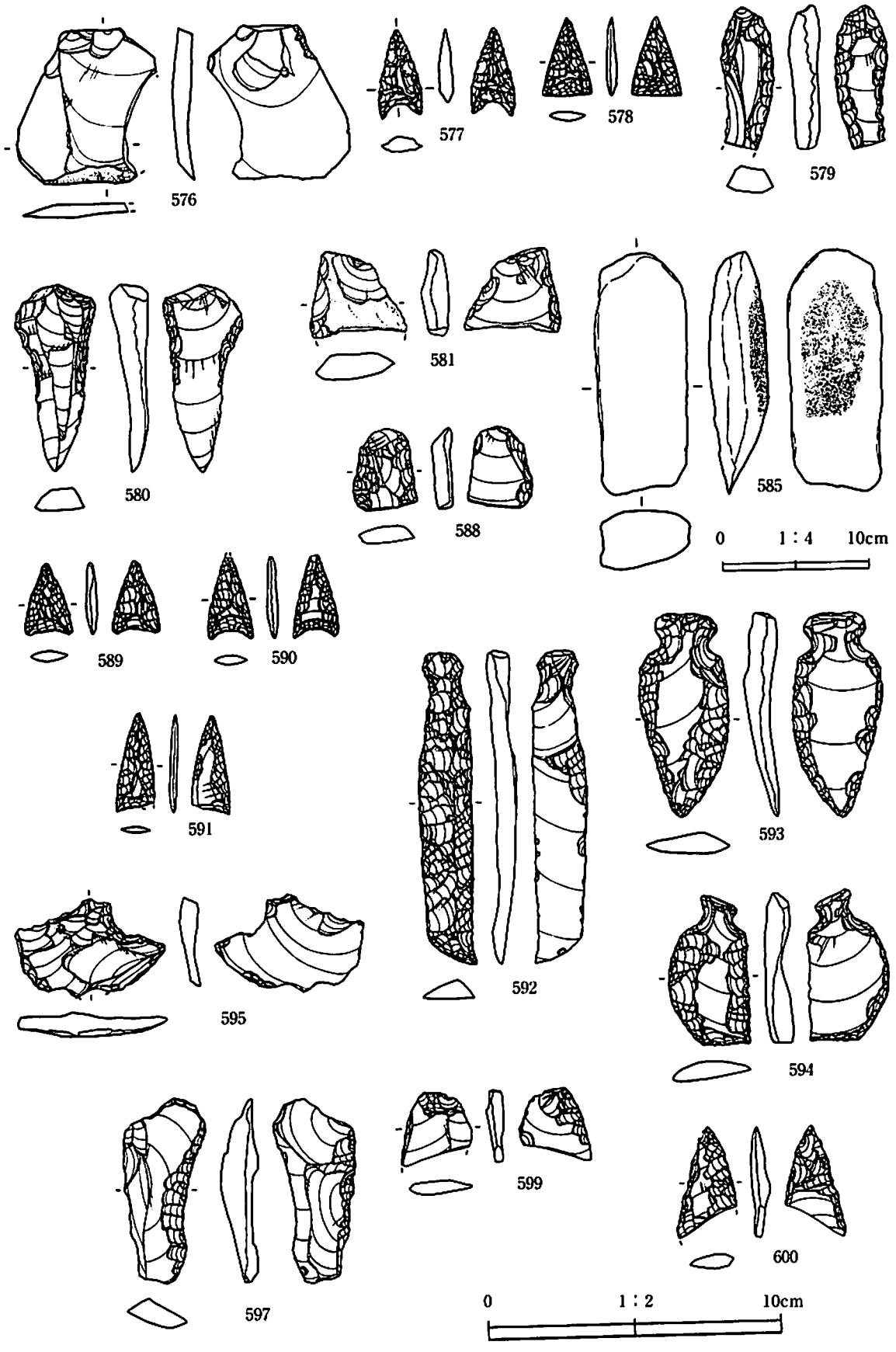
第65図　遺構外出土土器 16



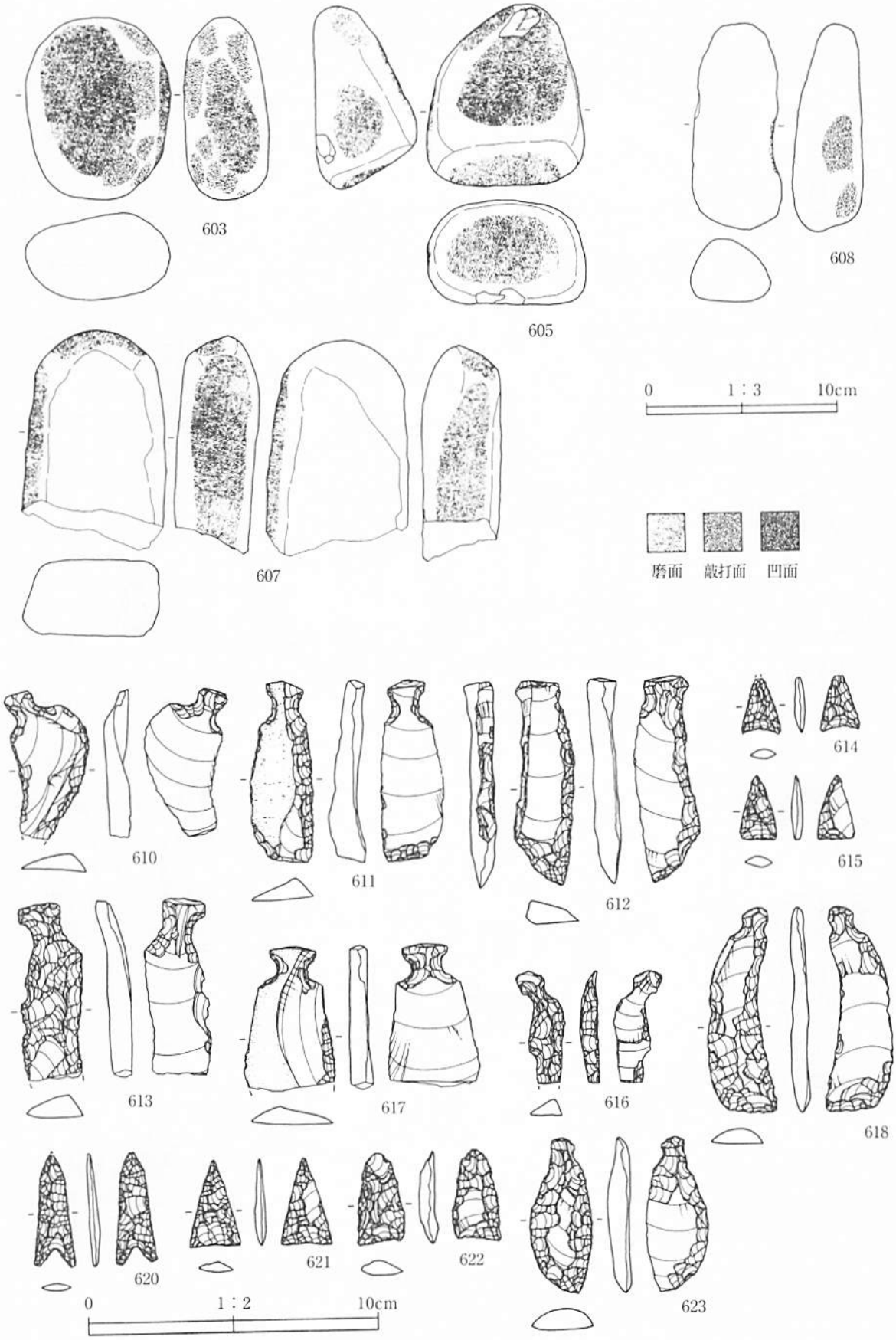
第66図　遺構外出土土器 17



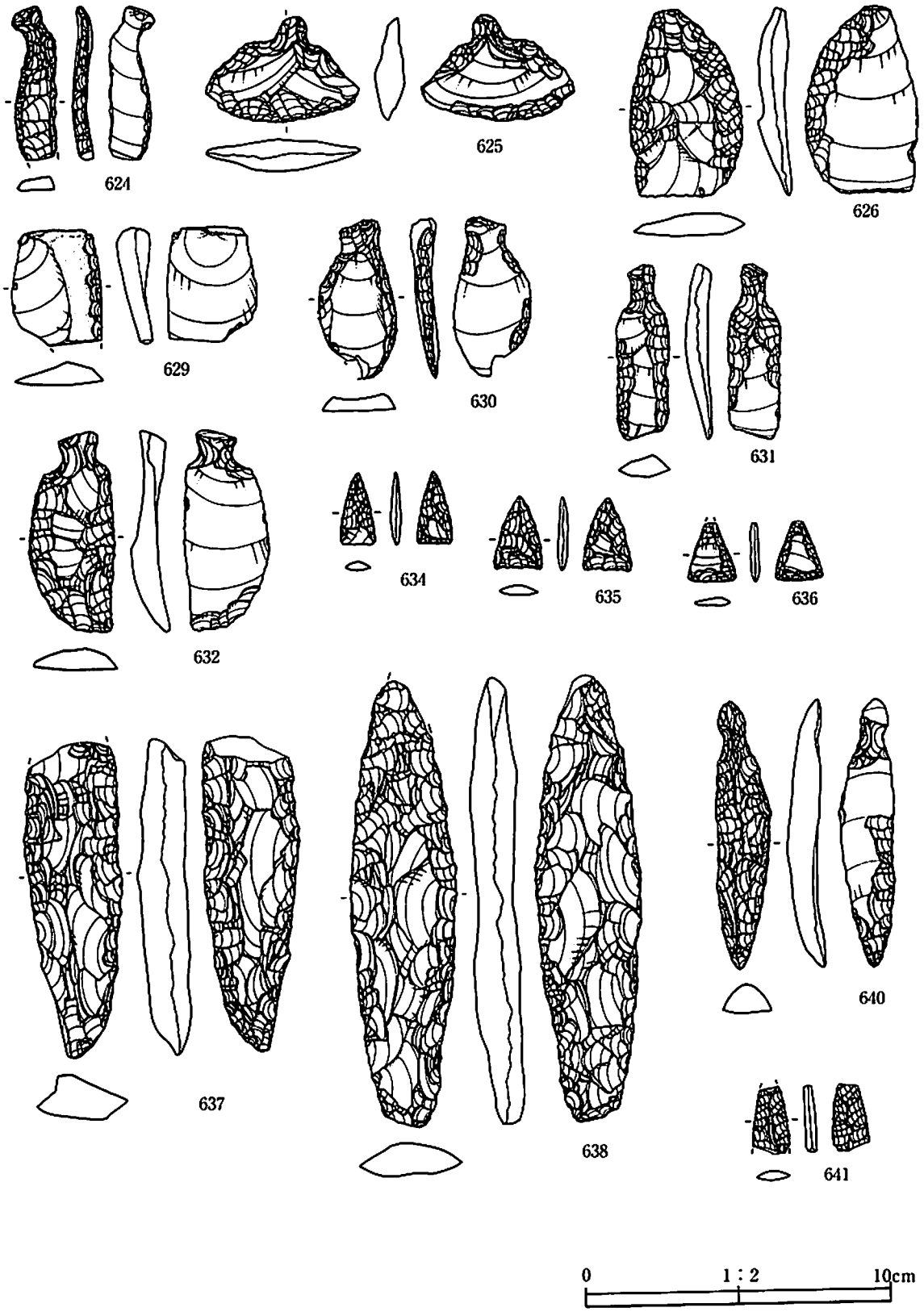
第67図　遺構外出土土器 18


576
577
578
579
580
581
585
588
589
590
591
592
593
594
595
597
599
600
0 1：4 10cm
0 1：2 10cm

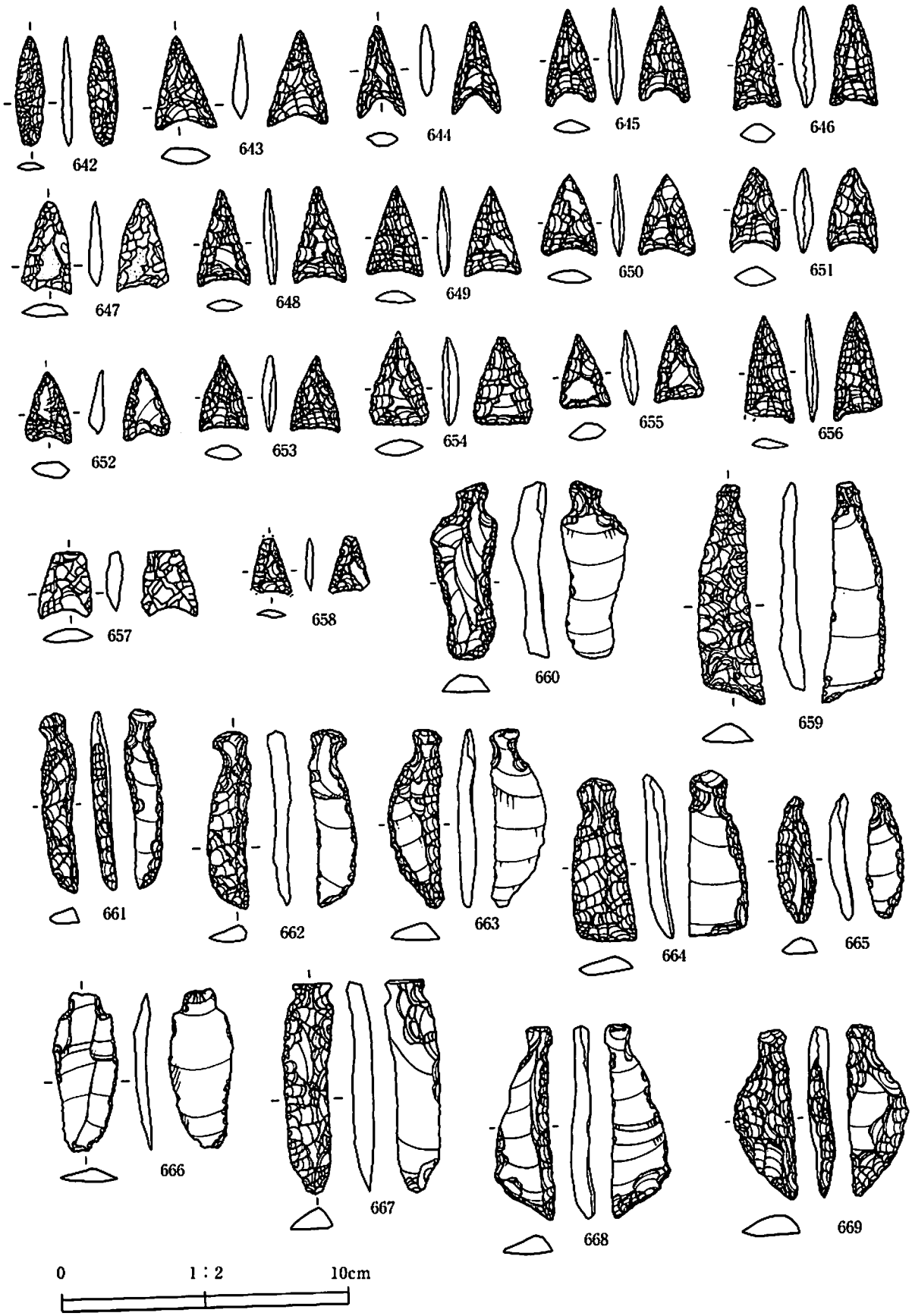
第68図　出土石器 1


603
605
608
607
0
1：3
10cm
磨面
敲打面
凹面
610
611
612
614
615
613
617
616
618
620
621
622
623
0
1：2
10cm

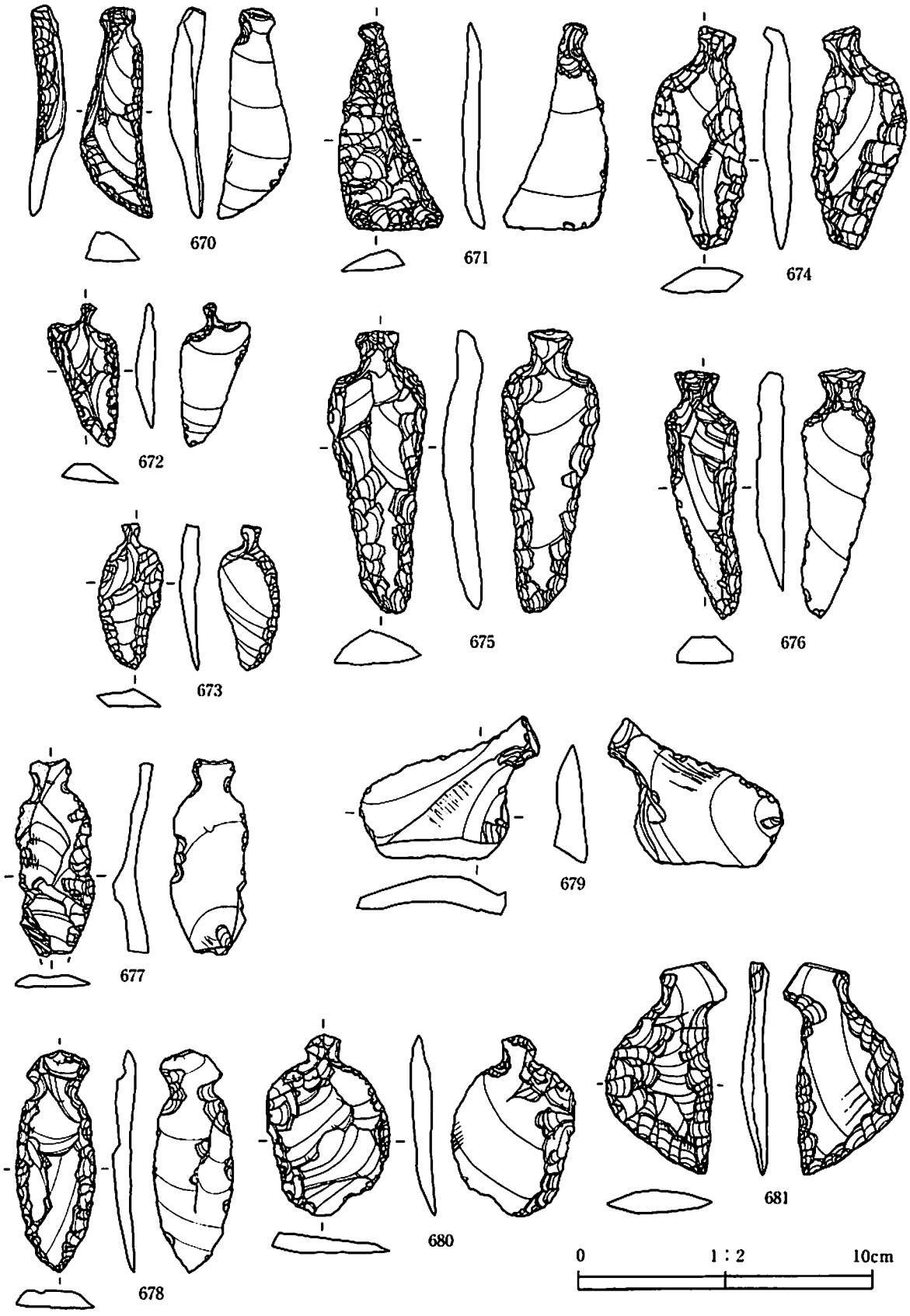
第69図　出土石器２



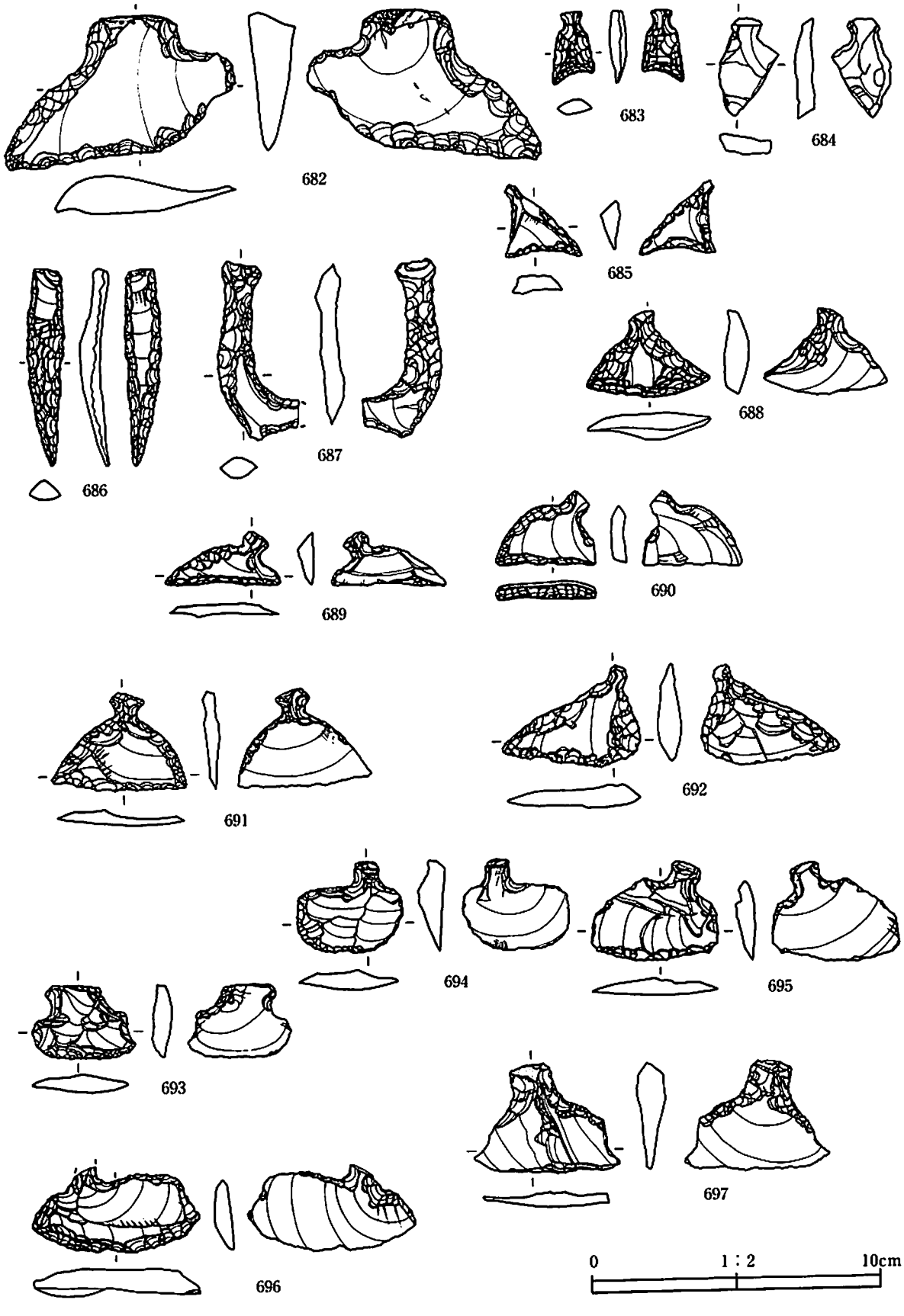
第70図　出土石器 3


642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
0
1：2
10cm

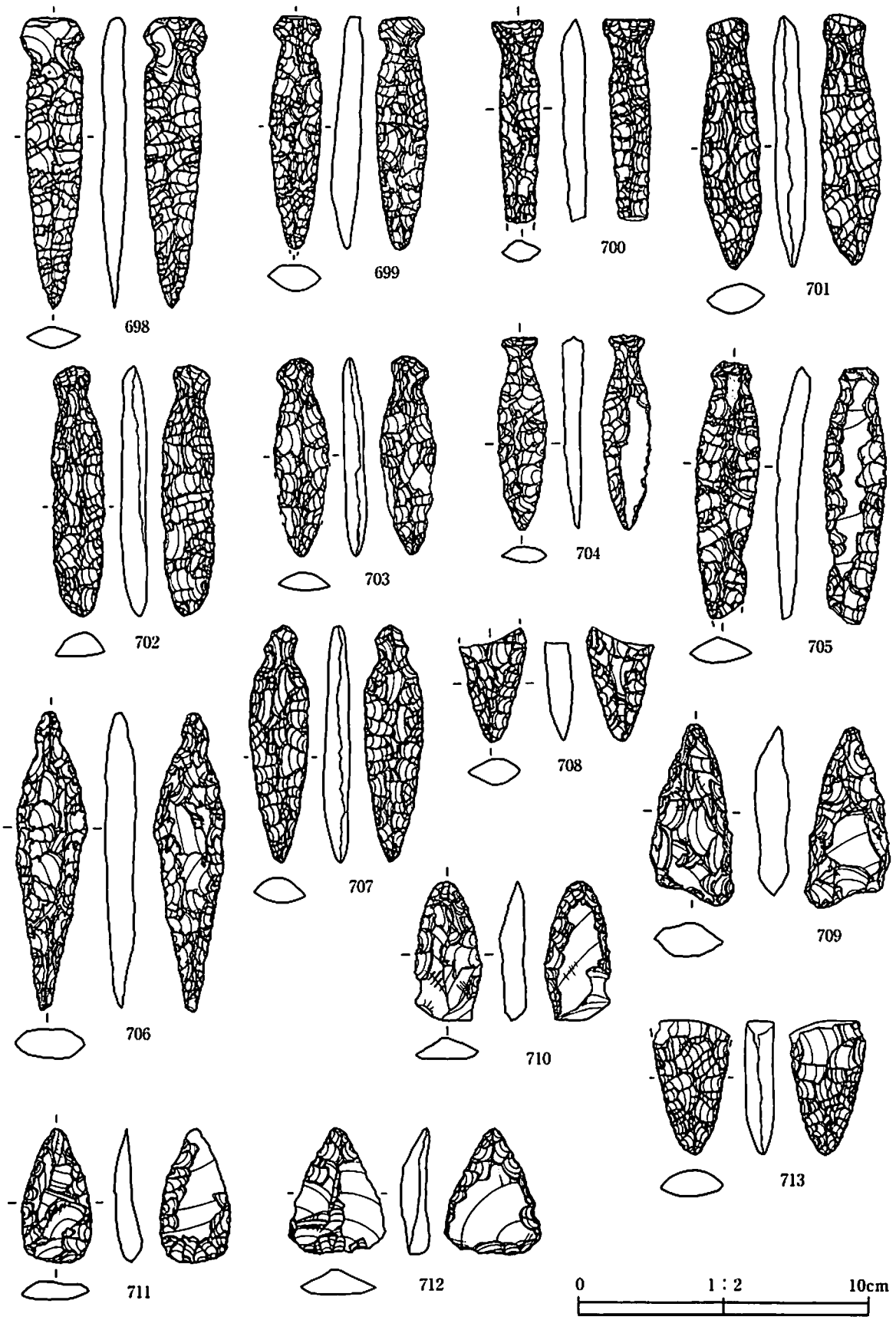
第71図　出土石器 4



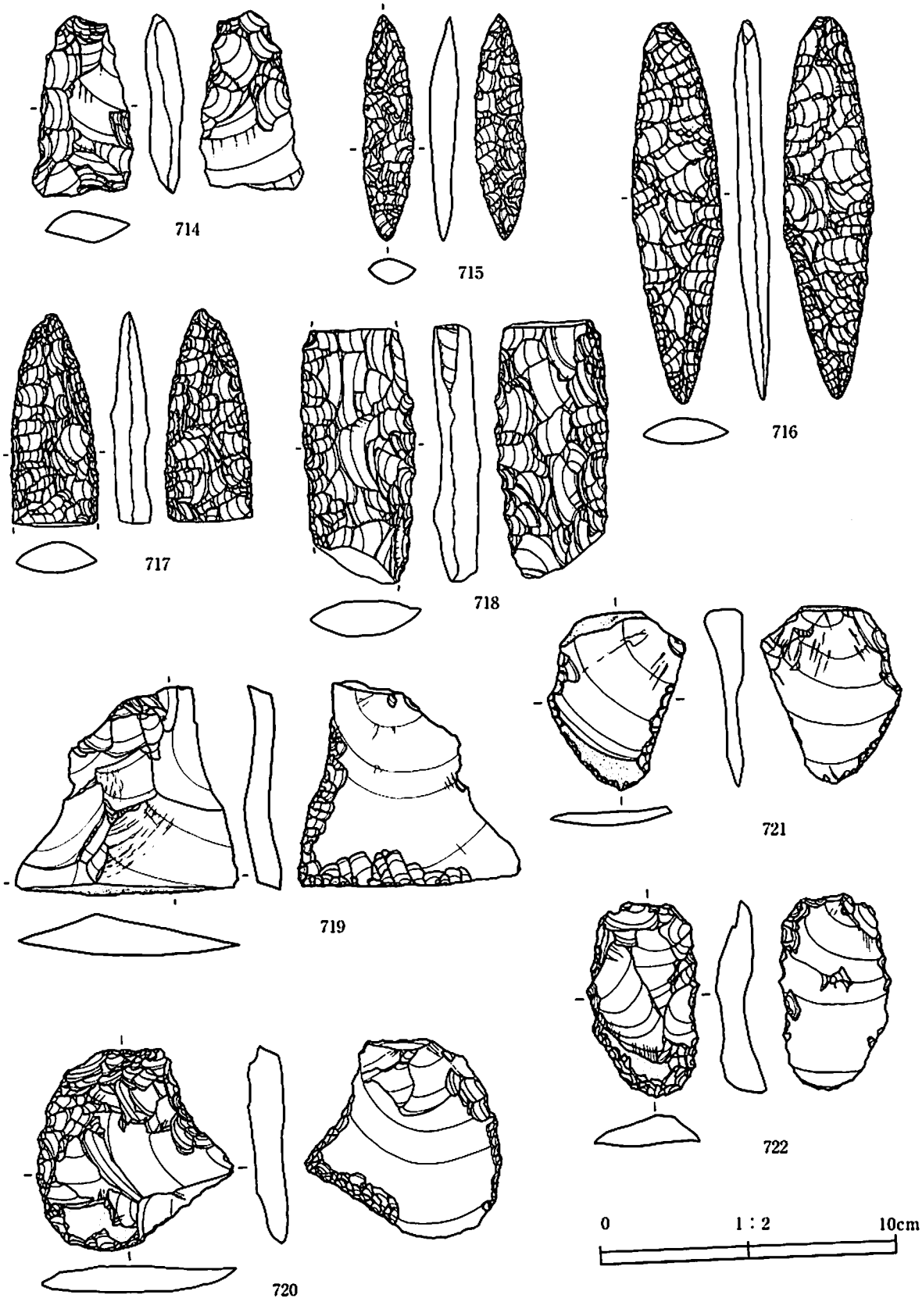
第72図　出土石器 5


682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
0
1：2
10cm

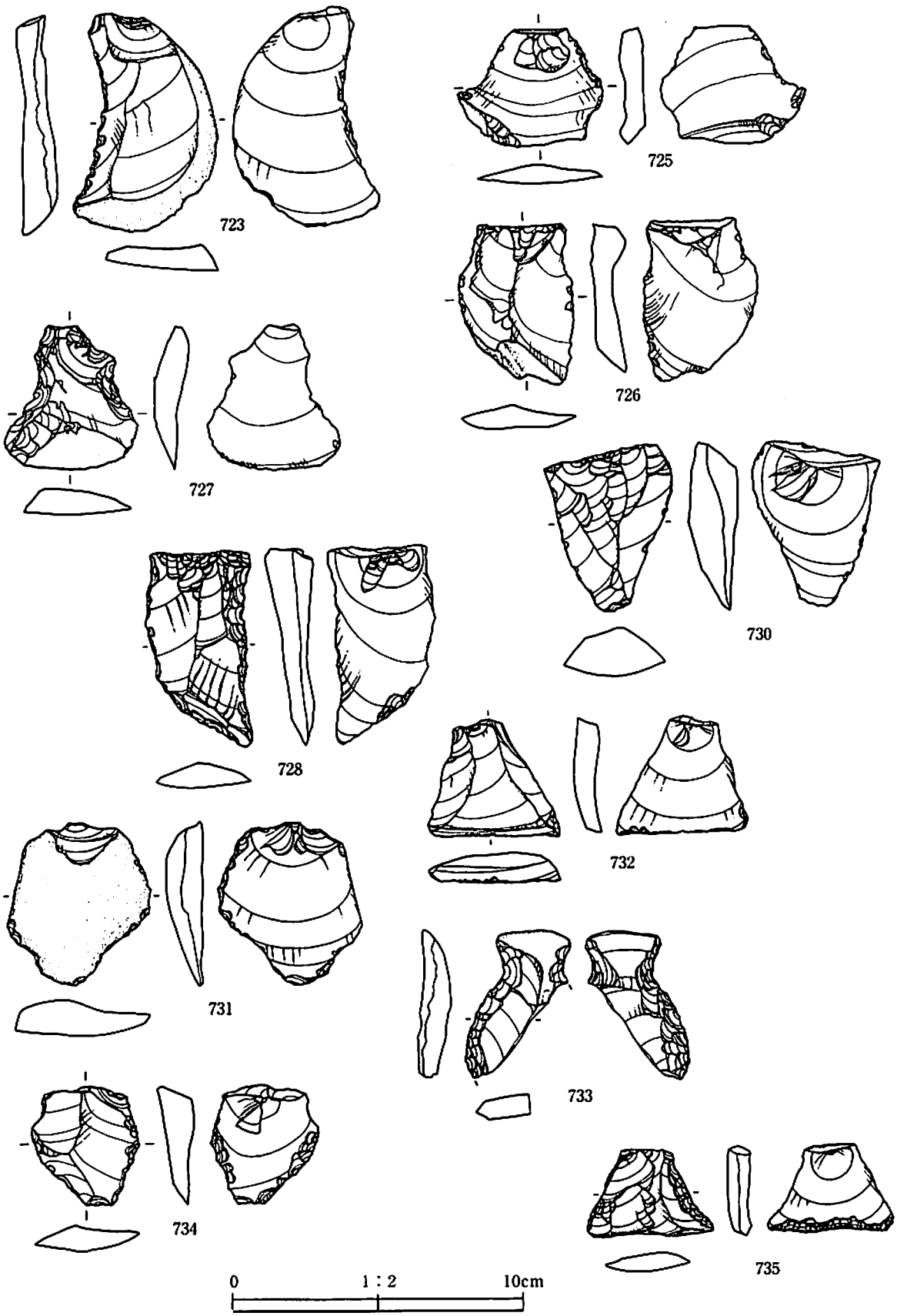
第73図　出土石器 6


698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
0
1：2
10cm

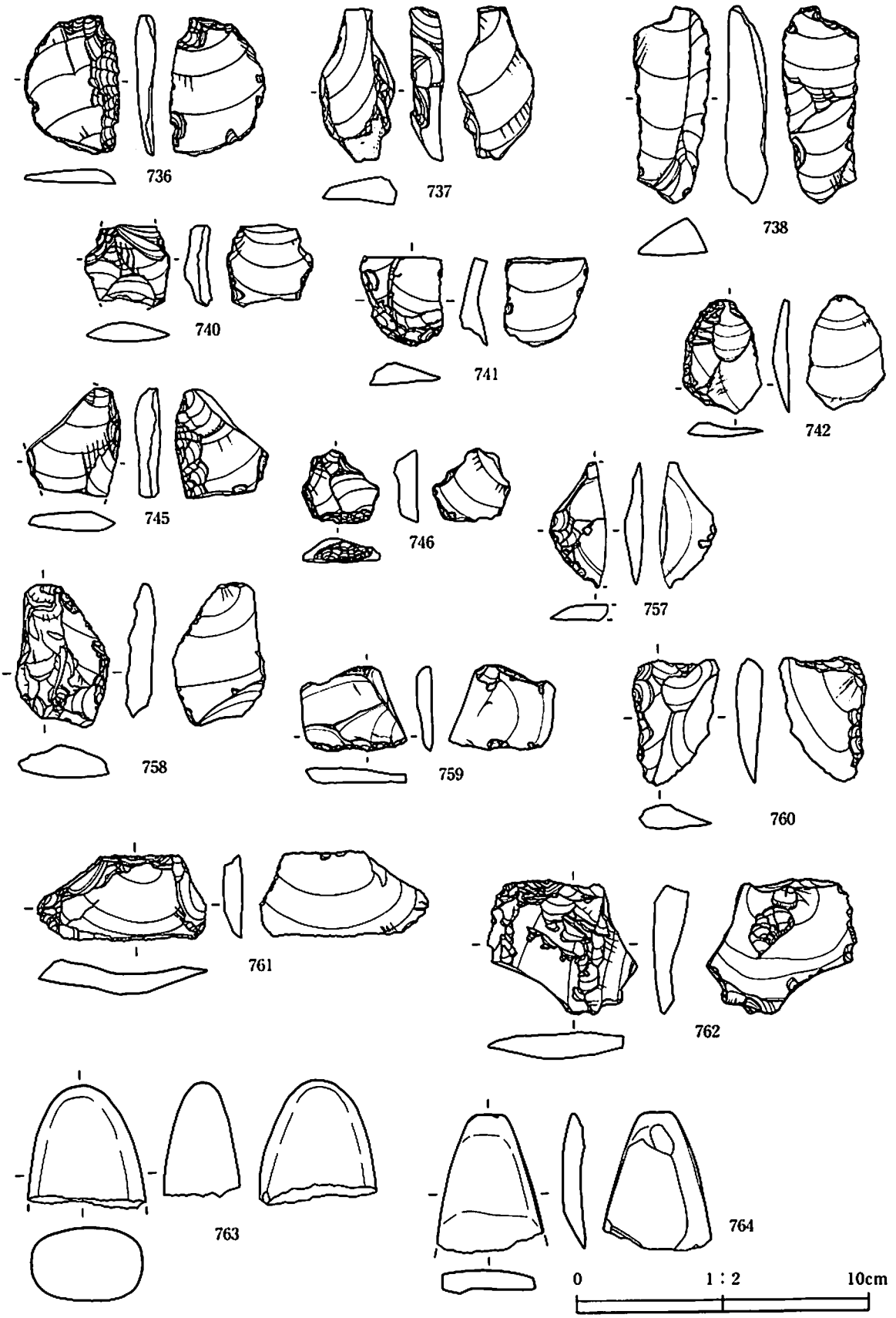
第74図　出土石器 7



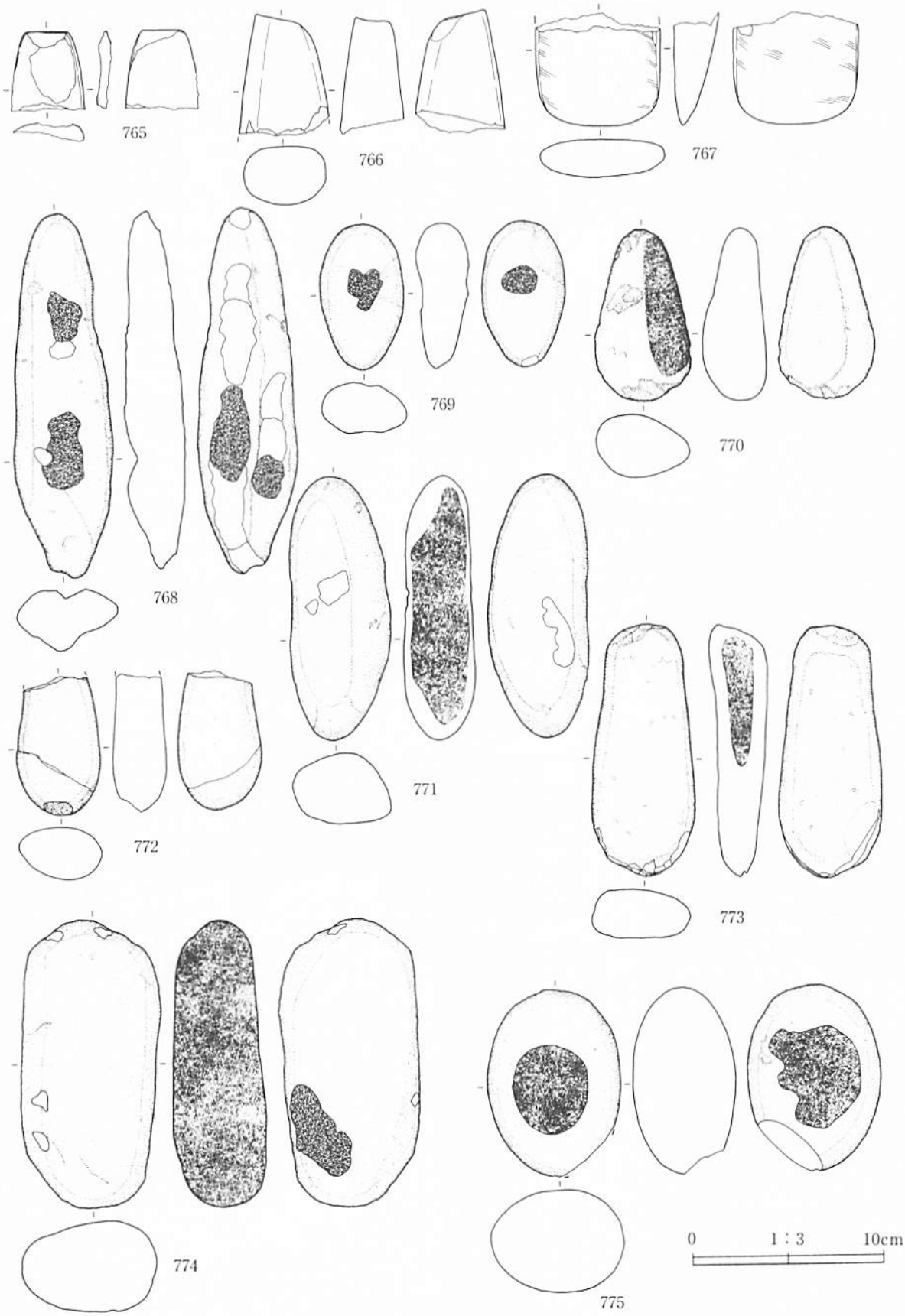
第75図　出土石器 8



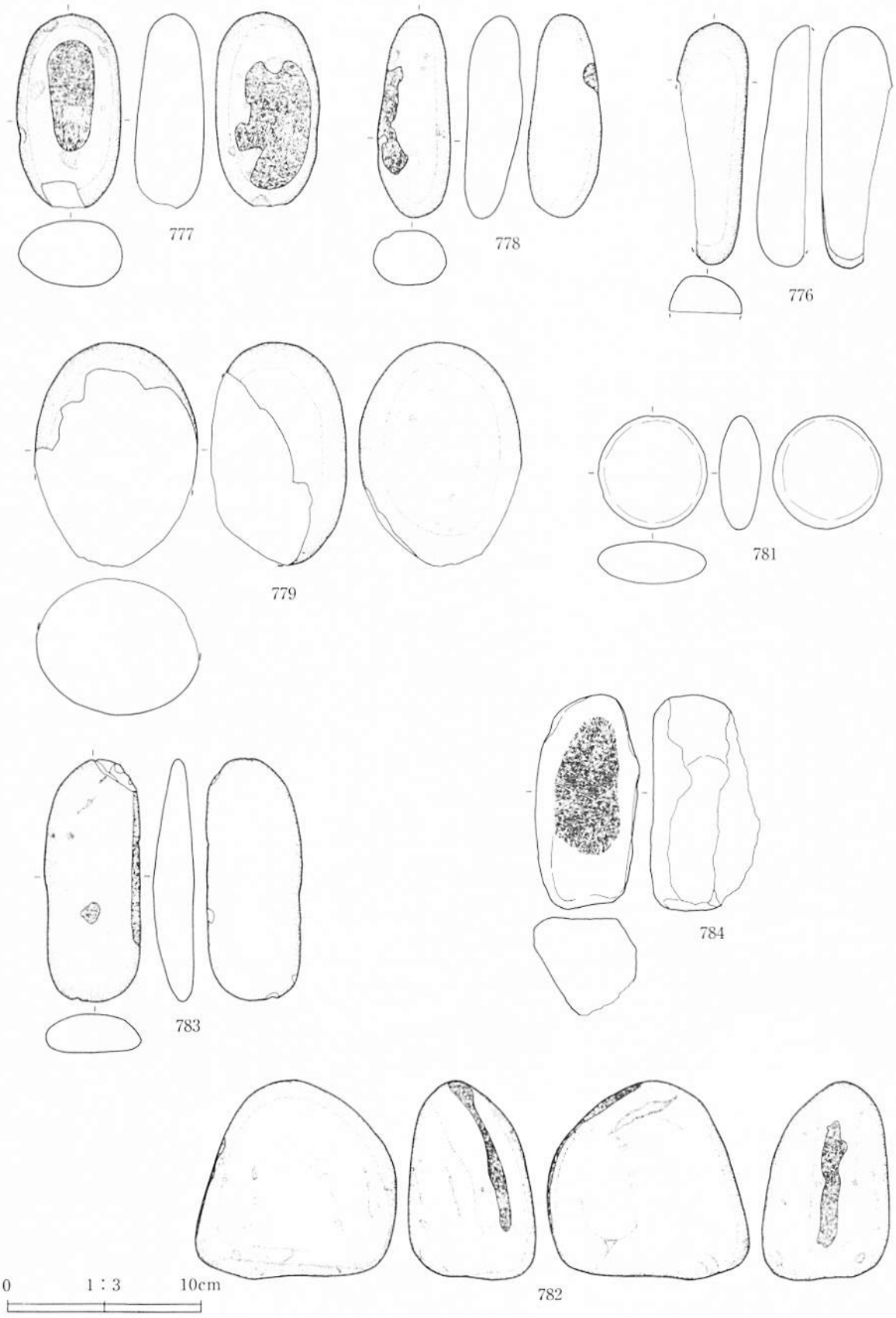
第76図　出土石器 9


736
737
738
740
741
742
745
746
757
758
759
760
761
762
763
764
0
1：2
10cm

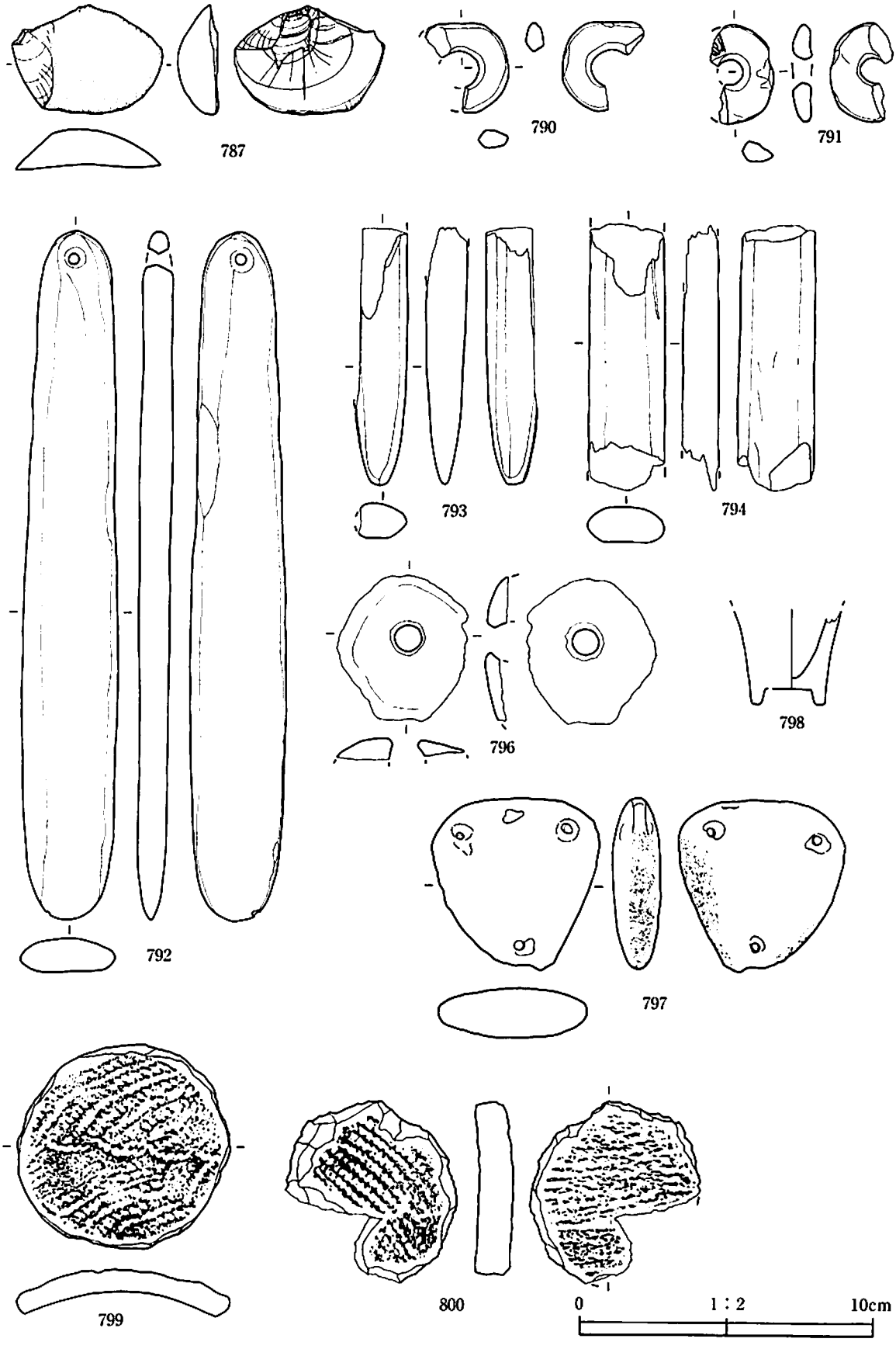
第77図　出土石器 10



第78図　出土石器 11



第79図　出土石器 12



第80図　出土石器 13　石製品　土製品

表4　縄文土器観察表1

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
1	2	RA01	埋土中	深鉢	口縁	うちそぎ　ループ文？　L-R	繊維少	Ⅲ１Ｂ	
2	3	RA01	埋土中	深鉢	口縁	小波状形？　径５㎝ほどの孔　羽状縄文	繊維多い	Ⅲ１Ｃイ	
3	1	RA01	埋土黒色土	深鉢	口縁	折返し状に肥厚させている口唇部　L-R	繊維少	Ⅲ１Ｄ	
4	4	RA01	埋土中	深鉢	体部	複節斜縄文　L-R-L	繊維少	Ⅲ１Ｄ	
5	10	RA02	埋土中	深鉢	体部	棒状工具で押し引き（連続）　羽状縄文	繊維少量	ⅡＤ	
6	30	RA02	埋土中	深鉢	体部	網目状撚糸文　内面にスス		Ⅲ２Ｂ	
7	6	RA02	埋土中	深鉢	口縁	口唇部　指頭圧痕による歪み　孔		Ⅲ２Ｄア	
8	7	RA02	埋土中	深鉢	口縁	口唇部　連続した指頭圧痕　横位R-L	繊維少量	Ⅲ２Ｄア	
9	5	RA02	埋土中	深鉢	口縁	折返し状に肥厚させている　縄文を充填　磨り消し	繊維無？	Ⅲ２Ｄウ	
10	11	RA02	埋土中	深鉢	体部	半裁？竹管による沈線模様　三角形状か		Ⅲ２Ｄウ	
11	16	RA03	埋土下	深鉢	体部	結束羽状縄文もしくはループ文？		Ⅲ１Ｂ	
12	18	RA03	埋土下	深鉢	体部	結束羽状縄文　　体中央部に張り出しを持つ器形か	繊維多い	Ⅲ１Ｃア	
13	19	RA03	埋土下	深鉢	体部	結束の羽状縄文で、菱形の文様を作り出す	繊維多い	Ⅲ１Ｃイ	
14	14	RA03	埋土中	深鉢	口縁	少し外傾する（小型深鉢か？）　L-R斜位	繊維少量	Ⅲ１Ｄウ	
15	15	RA03	埋土中	深鉢	口縁	小波状（山形）口縁　撚糸文　縦位　粘土紐貼り付け　刻み		Ⅲ２Ａア	
16	34	RA03	埋土	深鉢	口縁	やや内そぎの口唇部　口唇部にLrrの圧痕文（撚糸）　L-R		Ⅲ２Ｄウ	
17	21	RA04	埋土下	深鉢	体部	貝殻沈線文	小石混入	１２Ａ	
18	37	RA04	埋土下	深鉢	体部	貝殻沈線文	小石混入	１２Ａ	
19	36	RA04	埋土下位	深鉢	体部	R-L斜位　内面に条痕？	繊維？	Ｉ５	
20	25	RA05	埋土中	深鉢	体部	L-R　内面に縄文？	繊維多い	Ｉ４	
21	26	RA05	埋土中	深鉢	体部	羽状縄文　0段多条　上Lrr　下RⅡ	繊維？	Ⅲ１Ｃア	
22	24	RA05	埋土	深鉢	体部	S字状連鎖鎖文　もしくは網目状撚糸文		Ⅲ２Ｃ	
23	22	RA05	埋土	深鉢	口縁	小さく外反する　不整撚糸文	繊維？	Ⅲ１Ａ	
24	833	RA07	埋土下位	浅鉢	半完形	太い粘土紐貼付痕　一本沈線による円形の施文　孔　小型の壺？		Ⅳ１Ａ	搭載の影響？
25	368	RA07	床面	深鉢	体部	やや外反　楕円状の沈線文（X字状？）　円形の沈線文　L-R		Ⅳ１Ａ	
26	370	RA07	埋土	深鉢	口縁	平行な斜位の短沈線		Ⅳ１Ｂ	
27	398	RA07	床面～床下	深鉢	体部	一本沈線による方形？の文様		Ⅳ１Ｃ	
28	388	RA07	床（一括）	深鉢	口縁	折り返し口縁　頸部波状沈線？		Ⅳ３Ａ	
29	384	RA07	埋土	深鉢	口縁	半裁竹管による沈線（X字）		Ⅳ３Ｃ	
30	394	RA07	埋土下位	深鉢	口縁	外反　乱雑な沈線文		Ⅳ３Ｃ	
31	366	RA07	床面上	深鉢	体部	ややキャリパー　刻みのある粘土紐貼付　ハート形の貼付が一体となる		Ⅳ４Ａ	
32	367	RA07	床面上	深鉢	体部	外反？　S字状の粘土紐貼付　山形沈線　刺突文		Ⅳ４Ｂ	
33	386	RA07	床上	深鉢	口縁	大きく外反する　口唇部太い粘土紐　裏面細い粘土紐貼付　口縁部無文		Ⅳ４Ｂ	
34	378	RA07	埋土下	深鉢	体部	キャリパー　粘土紐貼付（はしご状　円形　波形）　L-R	小石多い	Ⅳ４Ｂ	
35	393	RA07	埋土	深鉢	口縁	大きく外傾し外反　　波型の細い粘土紐貼付		Ⅳ４Ｂ	
36	746	RA07	床面	深鉢	口縁～体部	波状の突起　口唇部指頭圧痕　幅が統一された綾格文		Ⅳ４Ｂ	
37	766	RA07	床面	深鉢	口縁～体部	円形のあるハート形の突起　口唇部連続の刺突　綾格文？	摩滅激しい	Ⅳ４Ｂ	
38	395	RA07	床一括	深鉢	口縁	ドーナツ状の装飾体　口唇部に連続の竹管文　原体圧痕		Ⅳ５Ａ	
39	708	RA07	床面～床下	深鉢	口縁	2対の台状突起　撚糸？		Ⅳ５Ｃ	
40	387	RA07	埋土	深鉢	口縁	刺突を施したボタン状突起		Ⅳ５Ｄ	
41	377	RA07	埋土	深鉢	口縁	山形口縁　網目状撚糸文		Ⅳ６Ａ	
42	749	RA07	床面	深鉢	口縁	やや外反する　網目状撚糸文		Ⅳ６Ａ	
43	831	RA07	埋土	深鉢	口縁	小波状？　網目状撚糸文		Ⅳ６Ａ	
44	753	RA07	床面	深鉢	口縁	斜位の複節斜縄文と綾格文		Ⅳ６Ｂ	
45	756	RA07	埋土下位	深鉢	口縁	簡略された綾格文　L-R　内面ケズリ調整		Ⅳ６Ｂ	
46	765	RA07	床面	深鉢	体部	体上部がやや張る器形？　綾格文　雑な斜縄文		Ⅳ６Ｂ	
47	757	RA07	床面	深鉢	体部	753と同一個体		Ⅳ６Ｂ	
48	762	RA07	埋土下位	深鉢	体・底部	綾格文　内煤		Ⅳ６Ｂ	
49	760	RA07	埋土下位	深鉢	底部	綾格文　曲線的に立ち上がる　小型の壺の可能性もある		Ⅳ６Ｂ	
50	770	RA07	床面	深鉢	口縁	小型の深鉢　口縁部綾格文　体部　間の空いた斜縄文　L-R		Ⅳ６Ｄ	

縄文土器観察表 2

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
51	751	RA07	床面	深鉢	口縁	やや外反する口縁　口唇部円形刻突（4単位）体上部がやや膨らむ　R-L斜位		Ⅳ６Ｃ	
52	752	RA07	埋土	深鉢	口縁	口唇部　指頭圧痕による小波状の口縁		Ⅳ６Ｃ	
53	754	RA07	床面	深鉢	口縁	底部で絞り込みが大きい　8？単位の突起状の指頭圧痕　雑な縄文		Ⅳ６Ｃ	
54	748	RA07	埋土	深鉢	口縁	口唇部　篦状工具による押し引き　小波状口縁		Ⅳ６Ｃ	
55	383	RA07	床面	深鉢	口縁	口唇部刻み　磨消　粘土紐貼付痕	小石多い	Ⅳ６Ｃ	
56	755	RA07	埋土下位	深鉢	口縁	小波状　R-L　体上部で最大径となる器形か？　内煤付着		Ⅳ６Ｃ	
57	747	RA07	床面	深鉢	口縁～体部	小型　やや波打つ口縁　R-L斜位		Ⅳ６Ｃ	
58	768	RA07	床面	深鉢	口縁～体部	やや外反する　2個1対のS字状突起が4単位か　口縁下磨消		Ⅳ６Ｄ	
59	767	RA07	床面	深鉢	半完形	ほぼ直立的にあがる　小波状　L-R斜位　口縁部下磨消　底部でやや丸みを持つ		Ⅳ６Ｄ	
60	379	RA07	埋土	深鉢	口縁	やや内そぎの口縁　原体圧痕	繊維？	Ⅳ６Ｄ	
61	759	RA07	床面	深鉢	体部～底部	L-R　内面ややすくしまった感じのする体部　55と同一個体の可能性が大きい		Ⅳ６Ｄ	
62	776	RA07	床面	浅鉢？	体部～底部	ややキャリパーする器形か　0段多条と単節の斜縄文		Ⅳ７	器種の影響？
63	773	RA07	埋土下位	深鉢	体部～底部	張り出し大きい　やや内湾して立ち上がる　底部施文なし		Ⅳ７	
64	764	RA07	埋土下位	深鉢	底部	やや張り出す　上部で丸みを持つ　59の底部の可能性がある。		Ⅳ７	
65	774	RA07	床面	深鉢	底部	ゆるく張り出しほぼ垂直に立ち上がる　無文もしくは磨消		Ⅳ７	
66	775	RA07	床面	深鉢	底部	張り出し無く緩やかに立ち上がる　やや上げ底風		Ⅳ７	
67	777	RA07	床面	深鉢	底部	やや張り出し少し外反して立ち上がる　無文		Ⅳ７	
68	778	RA07	床面	深鉢	底部	大きく張り出す　大きく外反して立ち上がる　50の底部？		Ⅳ７	写真なし
69	783	RA07	床面	深鉢	底部	ゆるく張り出しほぼ垂直に立ち上がる　無文もしくは磨消		Ⅳ７	
70	784	RA07	床面	深鉢	底部	張り出し無く緩やかに立ち上がる　L-R		Ⅳ７	
71	785	RA07	床面	深鉢	底部	底に笹らしき痕跡　無文		Ⅳ７	
72	375	RA07	埋土	深鉢	口縁	渦巻状の沈線文と突起		ⅤＤ	
73	428	RA08	埋土	深鉢	体部	原体側面圧痕　押し引き文　羽状縄文	繊維？	ⅡＤア	
74	429	RA08	埋土	深鉢	体部	原体側面圧痕　押し引き文　羽状縄文	繊維？	ⅡＤア	
75	425	RA08	埋土	深鉢	体部	撚糸文　L-R	繊維混入	Ⅲ１Ａ	
76	426	RA08	埋土	深鉢	体部	結束のない羽状縄文	繊維混入	Ⅲ１Ｃア	
77	431	RA08	埋土	深鉢	口縁	口唇部原体圧痕	繊維？	Ⅲ１Ｄウ	
78	403	RA09	埋土下位	深鉢	口縁	撚糸文と羽状縄文？	繊維？	Ⅲ２Ａウ	
79	671	RA09	Ⅰ層	深鉢	口縁	やや外反　口唇部斜位の連続沈線　不整撚糸文		Ⅲ２Ａウ	
80	723	RA09	2～3層	深鉢	口縁	口唇部指頭圧痕　撚糸文		Ⅲ２Ａウ	
81	719	RA09	2～3層	深鉢	口縁	ほぼ垂直に外湾（外反）する。網目状撚糸文	繊維？	Ⅲ２Ｂ	
82	718	RA09	床面	深鉢	体部	原体の大きい木目状撚糸文	繊維？	Ⅲ２Ｂ	
83	730	RA09	床面	深鉢	体部	木目状撚糸文		Ⅲ２Ｂ	
84	816	RA09	床面	深鉢	体部	斜位の綾絡文？　もしくは結節部を残すもの		Ⅲ２Ｂ	
85	413	RA09	埋土下位～床面	深鉢	口縁	2条ずつのS字状連鎖沈文		Ⅲ２Ｃ	
86	722	RA09	床面	深鉢	口縁	山形口縁　口唇部竹管による刺突文　沈線　縄巻縄文		Ⅲ２Ｄア	
87	811	RA09	床面	深鉢	口縁～体部	小波状口縁　山形突起上竹管による刺突　口唇部篦状工具での刺突　L-R	繊維？	Ⅲ２Ｄイ	
88	401	RA09	P1埋土	深鉢	口縁	3連続の折り返し口縁？		Ⅲ２Ｄウ	
89	717	RA09	床面	深鉢	口縁	やや外反　斜縄文R-L		Ⅲ２Ｄウ	
90	410	RA09	床面	深鉢	体部	結束のない羽状縄文		Ⅲ２Ｄ	
91	810	RA09	床面	深鉢	口縁	やや外傾　波状口縁　指頭圧痕　一本沈線による大柄な文様		Ⅳ１Ａ	
92	405	RA09	埋土2層	深鉢	体上部	一本沈線による鋸歯状（山形？）の文様		Ⅳ１Ｂ	
93	411	RA09	埋土2層	深鉢	口縁	斜位の一本沈線		Ⅳ１Ｃ	
94	406	RA09	P2	深鉢	口縁	一本沈線による階段状の文様		Ⅳ１Ｃ	
95	400	RA09	埋土下位	深鉢	体部	半截竹管による連続押し引き文		Ⅳ２Ｃ	早期の土器？
96	418	RA09	埋土2層	深鉢	体部	細い粘土紐貼付　はしご状？		Ⅳ４Ｂ	
97	412	RA09	埋土下位～床面	深鉢	口縁	やや内そぎの口縁　指頭圧痕された太い粘土紐貼付		Ⅳ４Ｃ	
98	818	RA09	2～3層	深鉢	体部	刺突の施された太い粘土紐貼付　ひし形文様？		Ⅳ４Ｃ	
99	409	RA09	埋土下位	深鉢	体部	指頭圧痕された太い粘土紐を横位にされない粘土紐を円形に貼り付ける		Ⅳ４Ｄ	
100	423	RA09	埋土下位	深鉢	体部	太い粘土紐を渦巻状に貼り付ける　L-R斜位		Ⅳ４Ｄ	

縄文土器観察表 3

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
101	417	RA09	埋土2層	深鉢	口縁	S字状突起　綾格文		Ⅳ5A	
102	815	RA09	床面	深鉢	半完形	S字状突起（刺突）　合い撚り　R-L		Ⅳ5A	
103	812	RA09	床面	深鉢	口縁～体部	指頭圧痕による小波状の口縁		Ⅳ5C	
104	421	RA09	埋土2層	深鉢	口縁	2対のボタン状突起　内煤　L-R		Ⅳ5C	
105	416	RA09	埋土2層	深鉢	口縁	ほぼ垂直に内湾する　R-L		Ⅳ5D	
106	819	RA09	床面	深鉢	底部	103の底部の可能性が高い		Ⅳ6	
107	433	RA12	埋土	深鉢	体部	結束のない羽状縄文	繊維混入	ⅡD	
108	434	RA12	埋土	深鉢	体部	結束のない羽状縄文でくの字状に屈曲する体部	繊維混入	ⅡD	
109	659	RA12	埋土下位	深鉢	口縁	波状　撚糸文　棒・篦状工具での刺突文	繊維？	Ⅲ2A	
110	673	RA12	埋土下位	深鉢	口縁	山形口縁の頂部刺突　口唇部斜位の連続爪形状刺突　撚糸文		Ⅲ2Aイ	
111	725	RA12	床面	深鉢	口縁	口縁部最上部に爪状刺突　撚糸文		Ⅲ2Aウ	
112	432	RA12	埋土下位	深鉢	口縁	正整な撚糸文　口唇部刻み		Ⅲ2Aウ	
113	588	RA12	埋土下位	深鉢	体部	正整化された綾格文		Ⅲ2B	
114	727	RA12	埋土下位	深鉢	口縁	口唇部篦状工具押し引きで小波状を成す　L-R斜位？		Ⅲ2Dア	
115	820	RA12	埋土下位	深鉢	口縁～体部	短く外反する　縦位の結節文	小石混入	Ⅲ2D	
116	724	RA12	下位	深鉢	体上部	渦巻状に太い粘土紐を貼り付けた形跡を持つ		Ⅳ4D	
117	681	RA12	埋土下位	深鉢	口縁	S字状突起		Ⅳ5A	
118	543	RA14	埋土	深鉢	体部	表裏縄文　表　縦　裏横位の羽状縄文（上製品？）		Ⅰ5	
119	544	RA14	埋土	深鉢	口縁	小波状？　木目状撚り糸文		Ⅲ2B	
120	441	RA14	埋土	深鉢	口縁	一本沈線による山形沈線文		Ⅳ1D	
121	545	RA14	埋土	深鉢	口縁	竹管での斜位の連続押し引き文		Ⅳ2C	
122	537	RA14	埋土	深鉢	体上部	半截竹管による横沈線と山形沈線		Ⅳ3B	
123	542	RA14	埋土	深鉢	口縁	外傾して外反　波状　太い粘土紐貼付　裏面細い粘土紐貼付		Ⅳ4B	
124	821	RA14	埋土	深鉢	口縁	台状に突出する口縁上部にS字状突起　斜位の綾格文もしは結節残り		Ⅳ5A	
125	538	RA14	埋土	深鉢	口縁	波状口縁　幅の広い綾格文		Ⅳ6B	
126	823	RA14	埋土	深鉢	口縁～体部	間隔が統一された綾格文　R-L		Ⅳ6B	
127	824	RA14	埋土	深鉢	底部	小型深鉢　もしくは大きく花弁状に開く器形の底部		Ⅳ7	
128	541	RA14	床面	深鉢	底部	無文　ほぼ垂直にゆるやかに立ち上がる		Ⅳ7	
129	854	RA16	埋土	深鉢	体部	表裏縄文　表裏　L-R斜位		Ⅰ4	
130	439	RA16	埋土	深鉢	口縁	原体面圧痕　摩滅激しい	繊維混入	ⅡBア	
131	443	RA16	埋土1層	深鉢	体部	羽状縄文	繊維混入	ⅡD	
132	437	RA16	埋土	深鉢	口縁	口縁部不整撚糸文　羽状縄文？	繊維混入	Ⅲ1A	
133	444	RA16	埋土	深鉢	口縁	斜縄文　R-L	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
134	662	RA16	埋土	深鉢	口縁	口唇部原体圧痕　斜縄文L－R　孔	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
135	442	RA16	埋土	深鉢	口縁	刻みのある太い粘土紐貼付　L-R		Ⅳ4C	
136	436	RA16	埋土	深鉢	底部	尖底	繊維混入	ⅨC	
137	446	RA17	埋土1層	深鉢	口縁	不整撚糸文	繊維混入	Ⅲ1A	
138	826	RA17	埋土	深鉢	底部	撚糸文　直線的に斜めに立ち上がる		Ⅲ2A	
139	450	RA17	埋土3層	深鉢	口縁	やや外反　綾縁文？　L-R		Ⅲ2B	
140	825	RA17	4層	深鉢	口縁～体部	波状口縁　口縁部磨消　間隔の均等化した綾格文（結節文）		Ⅲ2B	
141	449	RA17	埋土4層	深鉢	体部	R-L縦回転の地文の上位を磨消　正整な撚糸文		Ⅲ2B	
142	447	RA17	埋土3層	深鉢	体部	斜位の短い連続押し引き文　沈線文	繊維？	Ⅳ2D？	
143	457	RA19	埋土2層	深鉢	口縁	表裏縄文？		Ⅰ4	
144	462	RA19	埋土1層	深鉢	体部	原体面圧痕	繊維混入	ⅡB	
145	454	RA19	埋土1層	深鉢	体部	非結束の羽状縄文	繊維少	ⅡD	
146	455	RA19	埋土1層	深鉢	体部	ループ文	繊維多い	Ⅲ1B	
147	453	RA19	埋土	深鉢	体部	結束のある羽状縄文	繊維多い	Ⅲ1Cア	
148	452	RA19	埋土	深鉢	口縁	やや内そぎ　ピッチリ縄文？　R-L	繊維多い	Ⅲ1Dア	
149	459	RA19	埋土2層	深鉢	体部	篦状工具での斜位の連続押し引き文	繊維多い	Ⅲ1Dエ	
150	524	RA20	埋土2層～床面	深鉢	口縁	平行沈線　貝殻背圧文	粗砂	Ⅰ2C	

縄文土器観察表 4

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
151	734	RA20	1層	深鉢	体部	貝殻沈線文　物見台式？	細砂	Ⅰ2A	
152	533	RA20	埋土1層	深鉢	体部	表裏縄文	繊維無？	Ⅰ4	
153	534	RA20	埋土2層～床面	深鉢	体部	表裏縄文　表　R-L横位　　裏　斜位	繊維無？	Ⅰ4	
154	535	RA20	埋土2層～床面	深鉢	体部	表裏縄文　円盤形土製品？	繊維無？	Ⅰ4	
155	737	RA20	1層	深鉢	体部	原体側面圧痕　斜短沈線（大柄な施文）	繊維多い	ⅡBア	
156	527	RA20	埋土2層～床面	深鉢	口縁	小波状　刺突　羽状縄文（ループ文）	繊維混入	Ⅲ1B	
157	733	RA20	1層	深鉢	体部	ループ文	繊維多い	Ⅲ1B	
158	526	RA20	埋土2層～床面	深鉢	口縁	外にやや折り返す　結束1種羽状縄文	繊維多い	Ⅲ1Cア	
159	530	RA20	埋土2層～床面	深鉢	口縁	内そぎした平口縁　平行沈線　結束羽状縄文	繊維多い	Ⅲ1Cア	
160	735	RA20	埋土下位	深鉢	体部	羽状縄文　区画があるのは前形式の名残か？	繊維多い	Ⅲ1Cア	
161	736	RA20	2層床面	深鉢	体部	羽状縄文　菱形を成す	繊維多い	Ⅲ1Cイ	
162	528	RA20	埋土2層～床面	深鉢	口縁	口唇部ループ状の原体圧痕　斜縄文L-R	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
163	525	RA20	埋土2層～床面	深鉢	口縁	内そぎ　押し引き　斜縄文L-R	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
164	732	RA20	2層床面	深鉢	体部	櫛引文　沈線文	繊維多い	Ⅲ1Dエ	
165	389	RA20	埋土	深鉢	口縁	折り返し口縁　多燃竹管？による山形沈線		Ⅳ2B	
166	474	RA21	埋土	深鉢	体部	表裏縄文　R-L斜位	繊維？	Ⅰ4	
167	471	RA21	埋土	深鉢	口縁	ややキャリパー　原体側面圧痕	繊維？	ⅡBア	
168	465	RA21	埋土	深鉢	口縁	斜縄文　L-R斜位	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
169	469	RA21	埋土	深鉢	体下部	不整撚糸文		Ⅲ2A	
170	470	RA21	埋土	深鉢	体部	不整撚糸文		Ⅲ2A	
171	467	RA21	埋土	深鉢	口縁	連続押し引き文　沈線文		Ⅳ2D	
172	466	RA21	埋土	深鉢	体下部	尖底？	繊維多い	ⅨC	
173	477	RA22	埋土	深鉢	口縁	平口縁　短沈線　原体側面圧痕	繊維少	ⅡBア	
174	481	RA22	埋土	深鉢	口縁	キャリパー　外そぎ　原体側面圧痕	繊維？	ⅡBア	
175	480	RA22	埋土	深鉢	体部	節の大きい非結束の羽状縄文	繊維混入	ⅡD	
176	479	RA22	埋土	深鉢	体部	結束羽状縄文	繊維混入	Ⅲ1Cア	
177	482	RA22	埋土	深鉢	体部	ピッチリ縄文　疑似羽状縄文？	繊維混入	Ⅲ1Dア	
178	478	RA22	埋土	深鉢	体部	複節斜縄文　L-R-L	繊維多い	Ⅲ1Dイ	
179	488	RA23	埋土下位	深鉢	体部	節の大きい非結束の羽状縄文		ⅡD	
180	497	RA23	埋土下位	深鉢	口縁	波状口縁　不整撚糸文	繊維混入	Ⅲ1A	
181	500	RA23	埋土下位	深鉢	口縁	口唇部刻み　ボタン状突起　羽状縄文	繊維混入	Ⅲ1Cア	
182	490	RA23	埋土下位	深鉢	底部	羽状縄文　底部施文　平底	繊維混入	Ⅲ1Cア	
183	496	RA23	埋土下位	深鉢	体部	組紐回転文？	繊維少	Ⅲ1Dエ	
184	486	RA23	埋土下位	深鉢	口縁	斜縄文　L-R	繊維少	Ⅲ1Dウ	
185	498	RA23	埋土下位	深鉢	口縁	綾絡文が正整化する		Ⅲ2B	
186	502	RA24	埋土	深鉢	体上部	ピッチリ縄文　R-L	繊維多い	Ⅲ1Dア	
187	505	RA24	埋土	深鉢	体部	ピッチリ縄文？　R-L	繊維多い	Ⅲ1Dア	
188	510	RA24	埋土下位	深鉢	体部	体中央部でくの字状に屈曲するか	繊維？	Ⅲ1Dウ	
189	504	RA24	埋土	深鉢	体部	斜縄文　R-L	繊維混入	Ⅲ1Dウ	
190	508	RA24	埋土下位	深鉢	口縁	太い粘土紐貼付　口唇部から粘土紐に原体圧痕　R-L斜位		Ⅳ4D	
191	512	RA25	埋土下位	深鉢	体部	撚糸文　孔	繊維？	Ⅲ1A	
192	851	RA25	埋土下位	深鉢	体部	表　縄文　裏　条痕文		Ⅰ4	
193	514	RA26	埋土下位	深鉢	口縁	非結束の羽状縄文	繊維混入	Ⅲ1Cア	
194	518	RA26	埋土下位	深鉢	口縁	波状　折り返し口縁　撚糸もしくは竹管による刺突	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
195	513	RA26	埋土下位	深鉢	口縁	やや外反　L-R　内煤		Ⅲ2Dウ	
196	517	RA26	埋土下位	深鉢	口縁	撚り糸もしくは斜位の原体圧痕		Ⅲ2Dウ?	
197	31	RD01	埋土	深鉢	口縁	波状口縁　　羽状縄文	繊維多い	Ⅲ1Cア	
198	32	RD01	埋土	深鉢	体部	羽状縄文　ひし形文様？	繊維多い	Ⅲ1Cア	
199	28	RD10	墓坑　床面	深鉢	口縁～体部	小波状口縁　口縁上部不整撚糸　体部羽状縄文　菱形の文様	繊維多い	Ⅲ1A	
200	29	RD10	墓坑　埋土中	深鉢	完形	小波状口縁山形突起の先端を指圧痕　結条帯圧痕	繊維少量	Ⅲ1Dウ	

縄文土器観察表 5

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
201	580	RD13	埋土中	深鉢	体部	非結束の羽状縄文	繊維多い	Ⅱ 4	
202	582	RD14	埋土	深鉢	体部	節の大きい羽状縄文	繊維多い	Ⅱ 4	
203	547	RD14	埋土	深鉢	口縁	やや外反　横引文？　内煤		Ⅶ	
204	546	RD14	埋土（上位）	深鉢	体上部	斜縄文		Ⅶ	
205	583	RD14	埋土（上位）	深鉢	体部	斜縄文L-R		Ⅶ	
206	550	RD16	埋土	深鉢	体上部	原体側面圧痕　押し引き文　羽状縄文	繊維混入	ⅡBア	
207	584	RD16	埋土	深鉢	体部	節の大きい羽状縄文	繊維多い	ⅡD	
208	548	RD16	埋土	深鉢	口縁	斜縄文　原体の大きいR-L	繊維？	Ⅲ1Dウ	
209	549	RD16	埋土下位	深鉢	口縁	内そぎ　斜縄文　L-R	繊維混入	Ⅲ1Dウ	
210	590	RD17	埋土中	深鉢	体部	原体側面圧痕　羽状縄文	繊維混入	ⅡBア	
211	562	RD17	埋土中	深鉢	口縁	斜縄文R-L（ループ文？）	繊維多い	Ⅲ1B	
212	557	RD17	埋土中	深鉢	口縁	不整の撚糸文	繊維？	Ⅲ2A	
213	591	RD17	埋土中	深鉢	体部	木目状撚糸文		Ⅲ2B	
214	556	RD17	埋土中	深鉢	口縁	口唇部篦状工具による圧痕　R-L	繊維？	Ⅲ2Dア	
215	554	RD17	埋土中	浅鉢	口縁	波状　一本沈線による円形の文様　壺の可能性もあり		Ⅳ1A	
216	592	RD17	埋土中	深鉢	体部	キャリパー　斜位の一本沈線		Ⅳ1C	
217	555	RD17	埋土上位	深鉢	口縁	やや外反　半裁竹管による波状沈線　S字状突起		Ⅳ2A	
218	551	RD17	埋土中	深鉢	口縁	やや外反する　折り返し　L-R		Ⅳ4D	
219	597	RD18	埋土下位	深鉢	体部	節の大きい羽状縄文	繊維多い	ⅡD	
220	563	RD18	埋土	深鉢	口縁	不整の撚糸文		Ⅲ2A	
221	564	RD18	2層	深鉢	口縁	不整の撚糸文　口唇部刺突		Ⅲ2A	
222	599	RD18	埋土上位	深鉢	体部	綾絡文　L-R		Ⅲ2B	
223	598	RD18	埋土下位	深鉢	体部	組紐回転文？		Ⅲ2Dエ	
224	600	RD21	埋土中	深鉢	体部	羽状縄文	繊維少	Ⅲ1Cア	
225	601	RD21	埋土中	深鉢	体部	複節斜縄文（ピッチリ？）　R-L-R	繊維少	Ⅲ1Dイ	
226	602	RD22	埋土中	深鉢	体部	羽状縄文	繊維少	Ⅲ1Cア	
227	603	RD26	埋土中	深鉢	体部	細い粘土紐貼付（波状）		Ⅳ4B	
228	566	RD26	埋土中	深鉢	口縁	口唇部刺突　短沈線		Ⅳ5C	
229	840	RD30	埋土上位（一括）	深鉢	半完形	交互連続指頭圧痕による小波状口縁　原体圧痕？　L-R		Ⅳ5C	
230	569	RD30	埋土上位	深鉢	口縁	原体側面圧痕　押し引き文　羽状縄文	繊維？	ⅡBア	
231	567	RD30	埋土上位	深鉢	口縁	ループ文？	繊維多い	Ⅲ1A	
232	570	RD30	埋土上位	深鉢	口縁	口唇部篦状工具による押し引き　R-L		Ⅲ2Dイ	
233	568	RD30	埋土上位	深鉢	口縁	山形の一本沈線	繊維？	Ⅳ1C	
234	572	RD31	埋土	深鉢	口縁	山形口縁　撚糸文		Ⅲ2Aイ	
235	574	RD31	埋土	深鉢	口縁	折り返し　斜縄文		Ⅲ2Dウ	
236	604	RD31	3層	深鉢	体部	撚糸文		Ⅲ2Aウ	
237	571	RD31	埋土	深鉢	口縁	山形口縁　無文		Ⅲ2Dウ	
238	606	RD32	埋土下位	深鉢	体部	ループ文？	繊維混入	Ⅲ1B	
239	605	RD32	埋土下位	深鉢	体部	羽状縄文もしくはループ文	繊維？	Ⅲ1Cア	
240	610	RD33	埋土上位	深鉢	体部	羽状縄文（節の大きい、0段多細）	繊維多い	ⅡD	
241	607	RD33	埋土上位	深鉢	体部	斜縄文　L－R斜位	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
242	611	RD33	埋土上位	深鉢	底部	羽状縄文？　底部施文	繊維多い	Ⅲ1Dウ	
243	608	RD33	埋土	深鉢	体部	撚糸文（木目状もしくは屈曲）	繊維？	Ⅲ2B	
244	612	RD34	埋土	深鉢	体部	斜縄文　R-L	繊維混入	Ⅲ1Dウ	
245	613	RD39	埋土下位	深鉢	体部	縦位の木目状撚糸文		Ⅲ2B	
246	843	RD39	埋土下位	深鉢	体部	正整な綾絡文		Ⅲ2B	
247	844	RD39	埋土下位	深鉢	体下部	正整な綾絡文　246と同一か		Ⅲ2B	
248	576	RD39	埋土下位	深鉢	口縁	口唇部　篦状工具での押し引き文　斜縄文　L-R		Ⅲ2Dイ	
249	577	RD39	埋土下位	深鉢	口縁～体部	小型深鉢　山形口縁　斜縄文　L-R　内煤		Ⅲ2Dウ	
250	578	RD39	埋土下位	深鉢	口縁	S字状突起　斜縄文L-R		Ⅲ2Dウ	

縄文土器観察表 6

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
251	579	RD39	埋土下位	深鉢	口縁	原体圧痕による口唇部の施文　竹管文？		Ⅲ２Dウ	
252	680	RD39	埋土上位(一括)	深鉢	体部	太い粘土紐貼付　菱形状沈線		Ⅳ４D	
253	847	RD41	埋土	深鉢	体部	表裏縄文　表　L-R　内煤		Ⅰ４	
254	619	RD41	埋土下位	深鉢	体部	斜縄文　摩滅激しい	繊維無？	Ⅶ	
255	620	RD41	埋土下位	深鉢	体部	斜縄文　摩滅激しい	繊維無？	Ⅶ	
256	621	RD42	埋土下位	深鉢	体部	羽状縄文？	繊維混入	Ⅲ１Cア	
257	532	RD45	集石埋土	深鉢	口縁	表裏縄文　口唇部原体圧痕	繊維無？	Ⅰ４	
258	531	RD45	集石埋土	深鉢	体部	表裏縄文　表　羽状縄文　裏　斜縄文	繊維無？	Ⅰ４	
259	738	RD47	埋土	深鉢	体部	綾絡文　L-R		Ⅲ２B	
260	741	RD47	埋土	深鉢	口縁	口唇部指頭圧痕　斜縄文		Ⅲ２Dア	
261	740	RD47	埋土	深鉢	口縁	無文		Ⅲ２Dウ	
262	742	RD47	埋土	深鉢	口縁	細い粘土紐貼付		Ⅳ４B	
263	744	RD48	埋土	深鉢	体部	斜縄文		Ⅲ２Dウ	
264	745	RD48	埋土	深鉢	体部	無文		Ⅲ２Dウ	
265	251	包含層1	Ⅶ層	深鉢	体～底部	尖底　胴下無文　胴上沈線文　口縁刻V字（7～8本の沈線）を刻目（横）	粗砂小石	Ⅰ１A	姥王洞Ⅱ式
266	272	包含層1	Ⅶ層	深鉢	口縁	やや内そぎした口唇　6～7の斜位沈線　13条の平行？沈線に横位の沈線	粗砂	Ⅰ１A	
267	264	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	深鉢	体部	V字形の沈線　（5～6本）縦位の沈線	小石多い	Ⅰ１A	
268	269	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	横位の沈線にV字線を充填	細砂	Ⅰ１A	
269	48	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	平口縁　口唇部に3列の爪形状文　横位と斜位の平行沈線によるV字文様	粗砂	Ⅰ１A	
270	47	包含層1	Ⅲ層下	深鉢	口縁	沈線文　区画内横位の短い押引文	粗砂	Ⅰ１B	
271	43	ⅥA1f	検出面	深鉢	体部	沈線によって描かれた四角形状の区画	小石混入	Ⅰ１B	
272	51	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	山形口縁　貝殻復縁圧痕による平行文　縦位の連続圧痕　沈線　孔	粗砂	Ⅰ２A	
273	45	ⅥA1f	Ⅶ層	深鉢	口縁	沈線による円形もしくは渦巻き状の文様　区画内貝殻復縁文	細砂	Ⅰ２A	
274	54	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	深鉢	口縁？	縦位の貝殻復縁連続圧痕文	粗砂	Ⅰ２A	
275	42	ⅥA1f	検出面	深鉢	体部	沈線内に区画された貝殻腹縁文	粗砂	Ⅰ２A	
276	44	ⅥA1f	検出面	深鉢	体部	沈線によって描かれた区画内に貝殻腹縁文	細砂	Ⅰ２A	
277	55	包含層1	Ⅵ層	深鉢	口縁	貝殻横位羽状復縁圧痕文	細砂	Ⅰ２B	
278	50	包含層1	Ⅶ層	深鉢	体部	横位の貝殻羽状復縁圧痕文	粗砂	Ⅰ２B	
279	622	ⅢA6d	検出面	深鉢	体上部	沈線　貝殻背圧文	粗砂	Ⅰ２C	
280	46	ⅥA1f	Ⅶ層	深鉢	体部	沈線内の隆帯に刻み　貝殻背圧文	細砂	Ⅰ２C	
281	58	包含層1	Ⅵ層上	深鉢	口縁	外そぎ状　縄目撚糸文　口唇部の貝殻背圧痕と爪形の刺突	粗砂	Ⅰ２C	小堀内遺跡類似
282	194	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	斜位の条痕文	粗砂	Ⅰ３	
283	625	ⅣA10f	Ⅱ層	深鉢	体部	条痕・条痕	粗砂	Ⅰ３	
284	623	ⅢA1d	検出面	深鉢	口縁	表裏縄文　口唇部から表　R-L縦位　裏横位　原体同じ	繊維混入	Ⅰ４	
285	624	ⅢA2d	検出面	深鉢	口縁	表裏縄文　口唇部から表　R-L横位　裏斜位	繊維少	Ⅰ４	
286	628	ⅣA10f	Ⅱ層	深鉢	口縁	表裏縄文　表　節の大きいR-L斜位　裏原体同じ？	繊維多い	Ⅰ４	
287	848	ⅣA2d	Ⅱ層下	深鉢	口縁	表裏縄文　表　L-R（原体の大きい）　外煤	繊維？	Ⅰ４	
288	850	ⅤA2d	Ⅱ層下	深鉢	口縁	表裏縄文　折り返し状　口唇部原体圧痕　R－L	繊維？	Ⅰ４	
289	350	包含層2	Ⅲ層	深鉢	体部	表裏縄文　表　羽状縄文　裏　斜縄文	繊維多い	Ⅰ４	
290	852	包含層2	Ⅶ層	深鉢	体部	表裏縄文　表L-R斜位　裏　L-R横	繊維？	Ⅰ４	
291	64	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	表裏縄文　表L-R横　裏L-R縦？	繊維多い	Ⅰ４	
292	265	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	条痕文？　裏　条痕文	小石多い	Ⅰ５A	Ⅰ３？
293	62	ⅡA5d	Ⅶ層	深鉢	体部	押しがた文？　裏に条痕？	細砂	Ⅰ５A	
294	365	包含層2	Ⅳ層	深鉢	体部	斜位の並んだ円文　平行沈線文　爪形状刺突文	細砂	Ⅰ５A	
295	267	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	横位の連続沈線	細砂	Ⅰ５B	Ⅰ１の可能性有
296	282	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体下部	沈線　内面にすす　写真天地逆	細砂	Ⅰ５B	Ⅰ２の可能性有
297	268	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	横位の短沈線	細砂	Ⅰ５B	
298	65	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	小波状　2本の平行沈線間に斜位の連続刺突　原体渦巻圧痕　非結束羽状縄文	繊維多い	ⅡA	
299	66	包含層1	Ⅵ層	深鉢	口縁～胴部	口唇部うちそぎ風　絡条帯圧痕文　棒状工具による押し引き　羽状縄文	繊維多い	ⅡBア	
300	67	包含層1	Ⅵ層	深鉢	口縁	外内そぎの口唇部　絡条帯圧痕文	繊維少	ⅡBア	

縄文土器観察表７

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
301	634	ⅢA3d	検出面	深鉢	口縁	原体側面圧痕　（間のない圧痕で回転？）　沈線	繊維多い	ⅡBア	
302	637	ⅢA4c	検出面	深鉢	口縁	原体側面圧痕　沈線	繊維少	ⅡBア	
303	707	ⅢA7d	Ⅲ層	深鉢	口縁	原体側面圧痕　斜短沈線	繊維少	ⅡBア	
304	632	ⅤA1f	Ⅱ層	深鉢	口縁	原体側面圧痕　やや長めの沈線	繊維少	ⅡBア	
305	640	ⅤA4h	Ⅳ層	深鉢	口縁	原体側面圧痕　斜短沈線が簡略化される	繊維多い	ⅡBア	
306	639	ⅢA10f	検出面	深鉢	口縁	原体側面圧痕　圧痕により隆起体を作る	繊維少	ⅡBイ	
307	633	ⅣA4c	検出面	深鉢	口縁	やや外そぎ　原体側面圧痕　圧痕により隆起体を作る	繊維少	ⅡBイ	
308	636	ⅣA4e	Ⅱ層	深鉢	口縁	やや外そぎ　原体側面圧痕　圧痕により隆起体を作る	繊維少	ⅡBイ	
309	710	ⅢA7d	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇部の押し引き文以外はすべて原体圧痕で施文される。	繊維混入	ⅡBウ	
310	630	ⅣA7f	Ⅱ層	深鉢	口縁	波状のキャリパー　蹼手状圧痕文　円形の粘土粗　羽状縄文	繊維多い	ⅡC	
311	68	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	蹼手状圧痕文	繊維少	ⅡC	
312	638	ⅢA2d	検出面	深鉢	口縁	大柄な蹼手状圧痕文が3条以上施文される。	繊維少	ⅡC	
313	631	ⅤA2g	Ⅱ層	深鉢	口縁	蹼手状圧痕文	繊維少	ⅡC	
314	217	包含層1	中掘上	深鉢	口頸	原体圧痕に小さな刻み目　羽状縄文	繊維	ⅡD	
315	271	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	羽状縄文（結束1種）	繊維含む	ⅡD	
316	70	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	羽状縄文　同一原体　L-R	繊維少	ⅡD	
317	71	包含層1	層位不明	深鉢	体部	羽状縄文　結束なし	繊維少	ⅡD	
318	649	ⅣA10f	Ⅱ層	深鉢	口縁	不整撚糸文　L-R斜位（羽状縄文？）	繊維混入	Ⅲ１A	
319	39	ⅥA1f	Ⅱ層	小型深鉢	口縁	小波状　上部　不整撚糸文　下部　L-Rの斜縄文もしくは羽状縄文	繊維多い	Ⅲ１A	
320	38	ⅥA1f	Ⅱ層	深鉢	口縁～体部	上部　Lの不整撚糸文　　下部L-Rの斜縄文	繊維多い	Ⅲ１A	
321	105	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	ループ文	繊維混入	Ⅲ１B	
322	643	ⅤA1f	Ⅱ層	深鉢	口縁	ループ文もしくは綾織り文	繊維少	Ⅲ１B	
323	644	ⅤA1f	Ⅱ層	深鉢	口縁	口唇部押し引き文　ループ文	繊維多い	Ⅲ１B	
324	106	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	平縁　うすでで焼成よし　結束羽状縄文	繊維混入	Ⅲ１Cア	
325	654	ⅢA2d	検出面	深鉢	口縁	爪状刺突文　結束羽状縄文	繊維？	Ⅲ１Cア	
326	660	ⅣA5d	Ⅱ層下	深鉢	口縁	竹管での押し引き文　羽状縄文？	繊維？	Ⅲ１Cア	
327	641	ⅤA4h	Ⅱ層下	深鉢	口縁	キャリパーに屈曲する　内そぎ　羽状縄文	繊維多い	Ⅲ１Cア	
328	72	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	羽状縄文　結束あり	繊維少	Ⅲ１Cア	
329	655	ⅢA2c	Ⅰ層	深鉢	口縁	結束羽状縄文　菱形文様	繊維多い	Ⅲ１Cイ	
330	73	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	羽状縄文　結束あり　菱形の形状？	繊維少	Ⅲ１Cイ	
331	75	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	縦位の羽状縄文　結束あり　菱形の形状？	繊維少	Ⅲ１Cイ	
332	291	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	粗製（ピッチリ縄文）	繊維混入	Ⅲ１Dア	
333	206	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	ピッチリ縄文　口唇部まで　複節斜縄文L-R-L	繊維多い	Ⅲ１Dア	
334	657	ⅣA9c	検出面	深鉢	口縁	口唇部から表　複節斜縄文L-R-L（ピッチリ？）	繊維多い	Ⅲ１Dア	
335	661	ⅢA4c	検出面	深鉢	口縁	口唇部圧痕　複節斜縄文　L-R-L	繊維多い	Ⅲ１Dイ	
336	664	ⅣA10f	Ⅱ層下	深鉢	口縁	口唇部圧痕　複節斜縄文　L-R-L	繊維多い	Ⅲ１Dイ	
337	714	包含層2	Ⅳ層	深鉢	体部	口唇部指頭圧痕　複節斜縄文L-R-L	繊維多い	Ⅲ１Dイ	
338	289	包含層1	Ⅲ層下	深鉢	口縁～体部	平口縁　単節斜縄文R-L　薄手で非常に焼成よし	繊維多い	Ⅲ１Dウ	
339	658	ⅣA4e	Ⅱ層	深鉢	口縁	やや外反　内そぎ　口唇部原体圧痕　斜縄文L-R	繊維多い	Ⅲ１Dウ	
340	656	ⅣA5c	Ⅱ層下	深鉢	口縁	口唇部施状工具押し引き　斜縄文L-R？	繊維多い	Ⅲ１Dウ	
341	218	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	指頭圧痕文　斜縄文？	繊維含む	Ⅲ１Dウ	Ⅰ類の可能性有り
342	202	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	LR（強く）　圧痕風に回転させる	繊維多い	Ⅲ１Dウ	
343	207	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	4本組紐による？	繊維多い	Ⅲ１Dエ	
344	672	ⅢA1d	検出面	深鉢	口縁	波打つ口縁（小波状）　不整撚糸文		Ⅲ２Aア	
345	648	ⅤA3g	Ⅱ層	深鉢	口縁	波状　不整撚糸文　複節斜縄文L-R-L　孔	繊維少	Ⅲ２Aア	
346	88	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	小波状口縁　口唇部に刻み目　不整撚糸文		Ⅲ２Aア	
347	677	ⅢA7d	Ⅰ層	深鉢	口縁	山形口縁　口唇部竹管による沈線　撚糸文		Ⅲ２Aイ	
348	646	ⅤA5h	検出面	深鉢	口縁	山形口縁　不整撚糸文　孔	繊維？	Ⅲ２Aイ	
349	178	包含層1	Ⅲ層	壺形	口縁～体部	外傾　口縁～頸撚糸文　体部　　R-L羽状？	繊維？	Ⅲ２Aウ	
350	322	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	山形口縁　　口唇部斜位の刻み	小石多い	Ⅲ２Aウ	

縄文土器観察表 8

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
351	645	ⅢA10d	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	不整撚糸文？		Ⅲ２Aウ	
352	647	ⅤA6h	Ⅱ層	深鉢	口縁	やや折り返し　不整な撚糸文　木目状撚糸文の横位？	繊維？	Ⅲ２Aウ	
353	181	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	やや外反　羽状縄文間に撚糸痕文	繊維少？	Ⅲ２Aウ	
354	187	包含層1	中撹面	深鉢	口縁～体部	口唇部にへら状工具による刻目　不整撚糸文		Ⅲ２Aウ	
355	196	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	S字状連鎖沈文　不整撚糸文		Ⅲ２Aウ	
356	230	ⅡA5d	Ⅵ層	深鉢	体部	撚糸文（横位→斜位）		Ⅲ２Aウ	
357	314	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	小波状　網目状撚糸文		Ⅲ２Bア	
358	330	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	網目状撚糸文	小石多い	Ⅲ２Bア	
359	229	ⅡA5d	Ⅲ層	深鉢	口縁	小型　網目状撚糸文		Ⅲ２Bア	
360	285	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	網目状撚糸文		Ⅲ２Bア	
361	302	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	深鉢	口縁～体部	粘土紐　刻み目　網目状撚糸		Ⅲ２Bア	
362	305	包含層1	Ⅲ層	深鉢	ほぼ完形	口縁外傾　口唇部指（爪形？）刻み目　網目状撚糸		Ⅲ２Bア	
363	791	包含層2	中撹下	深鉢	口縁	やや外反する口縁　綾絡文　地文　弱い斜縄文		Ⅲ２Bイ	
364	792	包含層2	Ⅳ層上	深鉢	口縁	やや外反する口縁　外そぎ　綾絡文（結節文）		Ⅲ２Bイ	
365	797	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	刻みのある山形突起　口唇部原体圧痕　斜位の連続沈線　綾絡文		Ⅲ２Bイ	
366	796	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	ボタン状突起　指頭交互圧痕　綾絡文		Ⅲ２Bイ	
367	675	ⅢA2d	検出面	深鉢	口縁	小さく外反　間隔の広がる綾絡文		Ⅲ２Bイ	
368	260	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	平行に展開する綾絡文　R-L		Ⅲ２Bイ	
369	263	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	外反　縦位の綾絡文（結節文）が2条ずつ平行化　頸部がややくびれる形か？		Ⅲ２Bイ	
370	198	包含層1	中撹上	深鉢	体部	綾絡が間隔を取って平行に		Ⅲ２Bイ	
371	208	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	綾絡文or網目状撚糸文		Ⅲ２Bイ	
372	327	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	口縁部　不整撚糸文　体部木目状撚糸もしくは羽状縄文		Ⅲ２Bウ	
373	92	包含層1	中撹下	深鉢	体部	縦回転の木目状撚糸文	繊維？	Ⅲ２Bウ	
374	199	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	木目状撚糸文（縦）　厚手		Ⅲ２Bウ	
375	104	包含層1	Ⅳ層	深鉢	口縁～頸部	口縁　葺瓦状撚紋　組紐回転文		Ⅲ２Bエ	
376	188	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	大きく外反する　口唇部刻み　S字状連鎖沈文？		Ⅲ２C	
377	674	ⅤA5g	Ⅱ層	深鉢	体部	S字状連鎖沈文　連続押し引き文		Ⅲ２C	
378	84	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	やや波状に波打つ口縁　外反する	繊維？	Ⅲ２Dア	
379	193	包含層1	中撹上	深鉢	口縁	小波状口縁？　原体の違うR-L斜位	繊維？	Ⅲ２Dア	
380	670	ⅤA5g	Ⅱ層	深鉢	口縁	山形口縁（波状）　複節斜縄文　L-R-L		Ⅲ２Dア	
381	185	包含層1	中撹上	深鉢	口縁～体部	やや外反　口唇部に斜位の刻み目　口縁部磨り消し		Ⅲ２Dイ	
382	666	ⅢA1c	検出面	深鉢	口縁	口唇部　爪状刺突　L-R横位と斜位		Ⅲ２Dイ	
383	702	ⅢA7d	Ⅰ層	深鉢	口縁	やや外反　口唇部刺突		Ⅲ２Dイ	
384	828	ⅢA1d	検出面	深鉢	口縁	やや外反する　斜縄文R-L		Ⅲ２Dウ	
385	787	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁～体部	ほぼ直立的にあがる　目の詰まった斜縄文L-R	繊維？	Ⅲ２Dウ	
386	209	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	斜行回転0段		Ⅲ２Dエ	
387	836	ⅢA1d	検出面	深鉢	体部	縦のR-L　RA11に関連するか		Ⅲ２Dエ	
388	629	ⅢA7d	Ⅱ層	深鉢	体部	原体側面圧痕の連続もしくは間の空いた斜縄文	小石多い	Ⅲ２Dエ	Ⅱ類の可能性有り
389	292	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	やや外反　口唇部にボタン状突起と波状突起　羽状縄文で菱形文様　内煤		Ⅲ２E	
390	279	包含層1	中撹上	深鉢	口縁	1本沈線による円形　楕円形　R-L	繊維少？	Ⅳ１A	
391	108	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	山形口縁　一本沈線　円形　方形		Ⅳ１A	
392	692	ⅢA1d	検出面	深鉢	口縁	一本沈線による円形沈線とつながる2本の沈線		Ⅳ１A	
393	689	ⅤA2g	Ⅱ層	深鉢	体部	キャリパーに屈曲する　円形沈線		Ⅳ１A	
394	111	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	竹管文の下に口縁を巡る1本の横位沈線　その下に縦位の短沈線		Ⅳ１A	
395	107	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	一本沈線　横位・　短い縦位　内面すす		Ⅳ１B	
396	424	包含層2	層位不明	深鉢	口縁	短沈線風な篦状工具での連続刺突文（列点文）		Ⅳ１B	
397	191	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	横位の1本沈線　やや外反する	繊維？	Ⅳ１C	
398	711	包含層2	Ⅵ層	深鉢	口縁	2条の一本沈線による山形沈線	繊維？	Ⅳ１D	
399	133	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	竹管による鋸歯状の一本沈線		Ⅳ１D	
400	134	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	竹管による山形状の一本沈線		Ⅳ１D	

縄文土器観察表 9

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
401	81	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	へら状工具による平行な2本の沈線　横位の鋸歯状沈線　0段多条L-r	繊維？	Ⅳ1D	
402	109	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	円形の竹管文を2本の沈線でつなぐ		Ⅳ2A	
403	110	包含層1	中撹上	深鉢	口縁	竹管文（円形）　鋸歯状沈線？		Ⅳ2A	
404	363	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	体部	波状口縁　竹管文		Ⅳ2A	
405	691	ⅢA10d	Ⅱ層	深鉢	体部	竹管による連続の刺突文		Ⅳ2A	
406	303	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁～体部	小波状口縁　口唇部竹管による円形の刺突文　網目状撚糸		Ⅳ2A	
407	130	包含層1	Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口縁	小波状口縁　竹管による沈線　沈線間を連続刺突文で埋める		Ⅳ2A	
408	129	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口頸部	半裁竹管の裏を使った2本の沈線　2条の押し引き文		Ⅳ2A	
409	316	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	背面の半裁竹管による平行沈線と連続刺突文		Ⅳ2A	
410	131	包含層1	Ⅲ	深鉢	口頸部～体部	キャリパー状の器形か？　肩に2条の半裁竹管による連続刺突文　撚糸文（縦）		Ⅳ2A	
411	128	包含層1	中撹下	小型深鉢	口縁	口唇部側面圧痕　竹管による連続刺突文		Ⅳ2A	
412	704	ⅣA3c	検出面	深鉢	体部	連続の爪状刺突文		Ⅳ2B	
413	705	ⅢA6c	検出面	深鉢	口縁	連続の箆状刺突文		Ⅳ2B	
414	706	ⅤA3f	Ⅱ層	深鉢	口縁	連続刺突文と押し引き文		Ⅳ2B	
415	77	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	半円状のくぼみ　竹管による刻みをつけた平行沈線　縦位の波状沈線		Ⅳ2C	
416	126	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	やや外反する　頸部に2条の半裁竹管による押し引き文		Ⅳ2C	
417	696	ⅡA1c	Ⅱ層	深鉢	口縁	一本沈線による沈線と半裁竹管による押し引き		Ⅳ2C	
418	358	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	体部	半裁竹管による円形の押し引き列点文		Ⅳ2C	
419	667	ⅤA4h	検出面	深鉢	口縁	箆状工具で2回引いて連続押し引き文を作り出す	繊維？	Ⅳ2C	
420	99	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	体部	半裁竹管による縦位の沈線　押し引き風なものとそうでないものを交互に配列		Ⅳ2C	
421	211	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	体部	半裁竹管による縦位の沈線　X字状沈線		Ⅳ2C	
422	125	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	巻き紐の側面（L）圧痕　3条以上		Ⅳ2D	
423	197	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	半裁竹管による縦位の平行・波状沈線		Ⅳ3A	
424	360	包含層2	Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	体部	半裁竹管による波状沈線と横位の沈線		Ⅳ3A	
425	101	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	半裁竹管横位の山形と縦位の平行沈線		Ⅳ3B	
426	136	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	外反　鋸歯状の沈線2条		Ⅳ3B	
427	132	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口頸部～体部	多段？竹管による鋸歯状の沈線		Ⅳ3B	
428	694	ⅥA1f	検出面	深鉢	口縁	半裁竹管による横位の山形沈線と縦位の沈線		Ⅳ3B	
429	329	包含層2	Ⅵ層	深鉢	口縁	半裁竹管による縦位の沈線と横位の山形沈線		Ⅳ3B	
430	94	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	波状口縁　やや外反　半裁竹管による2条の山形沈線が鋸歯状沈線に変わる		Ⅳ3B	
431	137	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	半裁竹管による菱形文様　下部に円文		Ⅳ3C	
432	324	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	小波状　ボタン状貼り付け痕　X字文様の沈線		Ⅳ3C	
433	138	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	やや外反　竹管による菱形文様　縦位		Ⅳ3C	
434	78	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	外反する　頸部に平行沈線　口縁R-L　体部L-R		Ⅳ3C	
435	695	ⅥA1f	検出面	深鉢	口縁	半裁竹管による横位の沈線と縦位の沈線		Ⅳ3C	
436	220	包含層1	Ⅵ層	深鉢	口縁	平行沈線（幅広い）山形沈線	小石多い	Ⅳ3C	Ⅴ群の疑いあり
437	76	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	半裁竹管による2本の平行沈線　刻みのある細い粘土紐貼付が横位と円形		Ⅳ4A	
438	827	ⅢA2c	検出面一括	浅鉢？	口縁	キャリパー　刺突された細い粘土紐を渦巻状に装飾する		Ⅳ4A	
439	102	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	竹管による平行沈線と刻みのある細い粘土紐貼付		Ⅳ4A	
440	122	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	細かい爪による刻み目を施した細い粘土紐貼付		Ⅳ4A	
441	146	包含層1	層位不明	深鉢	口頸部	沈線で充填された横位のS字の粘土紐　周囲に細い粘土紐貼付（刻み）		Ⅳ4A	
442	139	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁？	粘土紐（刻み目）竹管による菱形文様　横位		Ⅳ4A	
443	124	包含層1	中撹上	小型深鉢	口縁	半裁竹管による横位の山形状沈線　刻みのある細い粘土紐貼付		Ⅳ4A	
444	687	ⅣA5d	Ⅱ層	深鉢	口縁	刻みのある細い粘土紐貼付　沈線　刺突		Ⅳ4A	
445	79	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	粘土紐貼付に刻み　半裁竹管による平行沈線　沈線内刻み		Ⅳ4A	
446	148	包含層1	Ⅱ層	深鉢	口縁	小さく外湾する　口唇部　口縁部に粘土紐貼付　ちぎらずに折り曲げる		Ⅳ4B	
447	788	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	大きく外反する　太い粘土紐と細い粘土紐（波状）		Ⅳ4B	
448	794	包含層2	中撹上	深鉢	口縁	複合口縁　ほぼ垂直に外反　粘土紐貼付		Ⅳ4B	
449	332	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	大きく外反　表　太い粘土紐を口唇部に　裏　細い粘土紐を山形に貼付		Ⅳ4B	
450	150	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	外傾する　口縁下部に山形　口縁裏に波状の粘土紐貼付		Ⅳ4B	

縄文土器観察表10

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
451	349	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	大きく外傾し外反　裏　ハート型の細い粘土紐貼付		Ⅳ4B	
452	351	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	大きく外反　表　太い粘土紐　裏　細い粘土紐をハート型に貼付	綾絡文	Ⅳ4B	
453	262	包含層1	Ⅱ層下	深鉢	口縁～体部	大きく外反　細い粘土紐貼付（波状）　綾絡文		Ⅳ4B	
454	832	ⅢA2c	Ⅰ層	深鉢	体部	3条の波状の粘土紐貼付		Ⅳ4B	
455	152	包含層1	Ⅲ層	浅鉢？	口縁	キャリパー状に内湾する　粘土状紐貼付		Ⅳ4B	
456	353	包含層2	Ⅳ層	深鉢	体部	細い粘土紐を波状に貼り付ける　L-R	繊維？	Ⅳ4B	
457	151	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	口縁下部に山形の粘土紐貼付　ボタン状貼付		Ⅳ4B	
458	830	ⅢA2d	検出面	深鉢	口縁	大きく外反する　細い粘土紐を波状に貼り付ける		Ⅳ4B	
459	154	包含層1	中掘上	深鉢	口頸部～体部	大きく外反する　波状の粘土紐貼付		Ⅳ4B	
460	300	包含層1	中掘上	深鉢	体部	小型深鉢　細い粘土紐貼付　太い原体を利用した斜縄文　L-R？		Ⅳ4B	写真破片
461	159	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	キャリパー状に内湾し外傾する　はしご状		Ⅳ4B	
462	158	包含層1	中掘上	深鉢	口縁	波状口縁　粘土紐貼付　はしご状		Ⅳ4B	
463	160	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	渦巻き状突起　口唇部粘土紐（波状）　はしご状　×状		Ⅳ4B	
464	842	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	台状突起　波状口縁　粘土紐貼付　はしご状　格子状など多様な貼付		Ⅳ4B	
465	153	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁？	渦巻き状の貼付		Ⅳ4B	
466	157	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	粘土紐　ハート形　×状		Ⅳ4B	
467	147	包含層1	中掘上	深鉢	体部	細い粘土紐貼付　J字や円形　内部先のとがった棒状工具か巻き貝頂で刺突		Ⅳ4C	
468	219	包含層1	中掘上	深鉢	口縁	粘土紐を巻き貝状の工具で刻み目		Ⅳ4C	
469	795	包含層2	中掘上	深鉢	口縁	やや外反　口唇部篦状押し引き　太い粘土紐貼付　竹管による刺突		Ⅳ4D	
470	103	包含層1	Ⅳ層	深鉢	口縁～頸部	頸部に粘土紐貼付（太い）　円形の刺突　半裁竹管による沈線？		Ⅳ4D	
471	338	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	やや外反　太い粘土紐貼付　円形の刺突文		Ⅳ4D	
472	119	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	篦状工具による刻み入りの粘土紐貼付		Ⅳ4D	
473	117	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	口唇部に爪形　横位の連続爪形文と篦状工具で刻まれた太い粘土紐貼付		Ⅳ4D	
474	115	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	大きく外反し胴上部に最大径をもつ器形か？　篦状工具で刻みをつけた粘土紐		Ⅳ4D	
475	118	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	小波状口縁　篦状工具で刻まれた粘土紐貼付		Ⅳ4D	
476	841	ⅢA1d	検出面	深鉢	口縁	口唇部刻み　斜位の刻みのある粘土紐貼付		Ⅳ4D	
477	311	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	やや外反　指頭圧痕された太い粘土紐貼付　篦状工具による刺突		Ⅳ4D	
478	95	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	斜位の半裁竹管による弱い沈線　縦位の刻み目のある粘土紐貼付		Ⅳ4D	
479	89	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	多裁竹管による平行沈線　縦位の太い粘土紐貼付	小石多い	Ⅳ4D	
480	116	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	頸部にくびれ　横位の連続押し引き文　押し引きのある太い粘土紐貼付		Ⅳ4D	
481	347	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	竹管による刺突のはいった太い粘土紐貼付　山形沈線		Ⅳ4D	
482	120	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	棒状工具で刺突された2本のやや太い粘土紐貼付		Ⅳ4D	
483	143	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	口唇部円形の連続刺突文　肉厚の口縁部　指頭圧痕　縄文充填？		Ⅳ4D	
484	276	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	大柄の粘土紐貼付　波状～ハート形　口縁部　小波状？		Ⅳ4E	
485	337	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	外そぎ　大柄の太い粘土紐を渦巻状に貼り付ける		Ⅳ4E	
486	156	包含層1	中掘上	深鉢	口縁	山形突起　やや太い粘土紐2本の横位　縦位の波状		Ⅳ4E	
487	789	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁～体部	金魚鉢形　突手　突起　太い粘土紐　渦巻状　菱形　4単位		Ⅳ4E	
488	355	包含層2	Ⅲ層	深鉢	体部	沈線の引かれた太い粘土紐貼付（渦巻状）		Ⅳ4E	
489	155	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	沈線の引かれた太い粘土紐貼付（S字状）		Ⅳ4E	写真右天
490	829	ⅢA2c	Ⅰ層	深鉢	口縁	S字状突起　ボタン状突起につながる縄文の充填された粘土紐貼付		Ⅳ4F	
491	686	ⅢA2d	検出面	深鉢？	口縁	縄文の充填された粘土紐貼付（方形？）		Ⅳ4F	
492	85	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	棒状工具で刺突された菱形の太い粘土紐貼付		Ⅳ4G	
493	339	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	円形の刺突のついた太い粘土紐貼付（菱形）　ドーナツ状突起（窓有り　刺突）		Ⅳ5A	
494	167	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	装飾体（突起）　ドーナツ状（窓有，刺突）		Ⅳ5A	
495	319	包含層2	中掘上	深鉢	口縁	外反する　口唇部に粘土紐貼付（波状から渦巻）		Ⅳ5A	
496	342	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	外反　渦巻状に粘土紐を貼りつける（突起状）		Ⅳ5A	
497	169	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	装飾体（突起）　ドーナツ状　口唇部　波状に粘土紐巡らせる		Ⅳ5A	
498	688	ⅢA1d	検出面	深鉢	口縁	装飾体（突起）　刺突の有るS字状		Ⅳ5A	
499	82	包含層1	中掘下	深鉢	口縁	装飾体（突起）　刺突の有るS字状		Ⅳ5A	
500	165	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	装飾体（突起）　沈線の引かれたハート形		Ⅳ5A	

縄文土器観察表11

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
501	163	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	装飾体（突起）　菱形の渦巻状　がX字状に展開するか		Ⅳ5A	
502	166	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	装飾体（突起）　円形（ボタン状？）		Ⅳ5A	
503	304	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	装飾体（突起）　羊頭状		Ⅳ5B	
504	164	包含層1	中撹上	深鉢	口縁	装飾体（突起）　S字状　内部巻貝頂による刺突		Ⅳ5B	
505	335	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	外反　装飾体（突起）　S字状		Ⅳ5B	
506	162	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	装飾帯（突起）　波状　R-L		Ⅳ5B	
507	182	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	刻み目で作られた楕円形の装飾帯		Ⅳ5C	
508	354	包含層2	Ⅳ層	深鉢	体部	楕円形のボタン状突起　裏　粘土紐貼付痕		Ⅳ5C	
509	310	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	ハート形粘土紐貼付　中に竹管による刺突文		Ⅳ5C	
510	275	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	粘土紐貼付　ハート形？		Ⅳ5C	
511	113	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	小波状口縁　円形の粘土貼付の中を指頭圧痕で潰す		Ⅳ5C	
512	87	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	波状口縁　へら状工具による押し引き文　頸部に粘土紐貼付　縄	小石多い	Ⅳ5C	
513	255	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	ボタン状突起とU字型突起　指頭圧痕（連続）　L-R		Ⅳ6	
514	252	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁～底部	口唇部へら状工具での刻み目　口縁部　へら磨き	小石多い	Ⅳ6	
515	253	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	半完形	口唇部に刻み目　口縁外傾にして外湾　肩部に最大径を持つ　不整撚糸		Ⅳ6	
516	179	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	波状口縁　山形状突起をへら状工具で刻む		Ⅳ6	
517	177	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	口縁部　突起　山形状　格条帯圧痕　R-L		Ⅳ6	
518	288	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	口縁肥厚　ボタン状貼付　X字状の沈線　半裁竹管による波状沈線　粘土紐刺突文		ⅤA	
519	259	包含層1	Ⅲ層下	深鉢	口縁～体部	肥厚　口唇部爪形の刻み目　口縁縦位の連続短沈線　R-L		ⅤA	
520	86	包含層1	中撹下	深鉢	口縁	肥厚口縁？　やや外反　一本沈線による縦位の短沈線　波状沈線　剪まれた粘土紐		ⅤA	
521	171	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	肥厚させた口縁部をへら状工具で押し引き突起を作る　鋸歯状沈線		ⅤA	
522	346	包含層2	中撹上	深鉢	口縁	外反　折り返し口縁　口唇部刻み　刻みのある太い粘土紐貼付		ⅤA	
523	175	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口縁	肉厚の口縁部を横位の鋸歯状沈線		ⅤA	
524	140	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	肉厚な口縁上に斜位の雑な短い平行沈線		ⅤA	
525	223	ⅡA5d	層位不明	深鉢	口縁	口縁部肥厚　押し引き　波状沈線　平行沈線		ⅤA	
526	142	包含層1	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁	やや外反　折り返し口縁　V字形の平行沈線		ⅤA	
527	216	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	肥厚した口縁　沈線		ⅤA	
528	170	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口頸	平行な2本の沈線と2条の山形沈線		ⅤB	
529	173	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口頸部	半裁竹管背面による縦位の鋸歯状沈線　連続される		ⅤB	
530	172	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	体部	半裁竹管による縦位の鋸歯状沈線		ⅤB	
531	174	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	半裁竹管による横位の鋸歯状沈線		ⅤB	Ⅳ群の可能性ある
532	224	ⅡA5d	層位不明	浅鉢？	口縁	渦巻状沈線　鋸歯状沈線		ⅤB	
533	225	ⅡA5d	Ⅲ層	浅鉢？	口縁	キャリパーする器形　肩部に竹管の連続刺突　渦巻状沈線		ⅤB	
534	315	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	山形口縁　口唇部斜位の刻み　半裁竹管による乱雑な沈線		ⅤB	
535	357	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線で刻まれた楕円形（舟形）の粘土紐貼付　押し引き列点文　山形沈線		ⅤB	
536	325	包含層2	Ⅳ層？	深鉢	口縁	細い棒状工具での縦位の不整な沈線		ⅤB	
537	651	ⅤA5g	Ⅱ層	深鉢	口縁	薄手　幅のない撚り糸文　斜縄文　L-R　円筒系土器？	繊維混入	Ⅵ1	
538	650	ⅤA5h	Ⅳ層	深鉢	口縁	薄手　幅のない撚り糸文　斜縄文　L-R　円筒系土器？	繊維混入	Ⅵ1	
539	221	包含層1	Ⅲ層	浅鉢	口縁	口縁くの字状に屈曲　口唇部に浮線文　孔　沈線間に爪形状刻み　諸磯b式土器		Ⅵ2	
540	121	包含層1	Ⅲ上層	深鉢	口頸部？	十文字状の粘土紐貼付　大型円形刺突　諸磯式？		Ⅵ2	福島綱取貝塚類似
541	226	ⅡA5d	Ⅳ層	深鉢	口縁	沈線による隆帯文　大木7？		Ⅶ	
542	697	ⅣA2e	撹乱土	深鉢	口縁	キャリパー　沈線　大木8		Ⅶ	
543	698	ⅢA6c	撹乱土	深鉢	口縁	キャリパー　隆体　刺突　大木8？		Ⅶ	
544	699	ⅢA6c	撹乱土	深鉢	口縁	磨り消し　縄文充填　大木9？		Ⅶ	
545	215	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線　渦巻状		Ⅶ	
546	700	ⅢA6c	撹乱土	浅鉢？	口縁	沈線　縄文充填　後期？		Ⅶ	
547	343	包含層2	Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線　縄文充填　後期		Ⅶ	
548	53	包含層1	Ⅵ層	深鉢	体部	平行波状沈線間に4列の小さい連続刺突　早期？	細砂	Ⅷ	
549	52	包含層1	Ⅳ層	深鉢？	口縁	小波状口縁　4列の平行な小さい連続刺突　548と同一？　早期？	細砂	Ⅷ	
550	627	ⅥA1c	検出面	深鉢	体部	斜縄文　もしくは原体圧痕　貝殻背圧文　前期初頭の可能性大	繊維混入	Ⅷ	

縄文土器観察表12

番号	仮番	出土地点	層位	器種	部位	観察	胎土	分類	備考
551	144	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	小波状口縁　折り返された口縁部に縄文充填LR　前期初頭か　室浜式？		Ⅶ	
552	192	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	やや外反　口頸部に3本以上の原体圧痕文　前期の土器	小石多い	Ⅶ	
553	190	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	外反する　口縁を肉厚する　L-R縦　小型深鉢もしくは鉢　前期前葉か	繊維？	Ⅶ	
554	189	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁～体部	0段多縄　1の斜位　縦回転		Ⅶ	
555	312	包含層2	Ⅳ層	深鉢	口縁	多軸格条帯		Ⅶ	
556	228	ⅡA5d	Ⅲ層下	深鉢	口縁	波状口縁　0段多条l-r		Ⅶ	
557	283	包含層1	Ⅲ層	深鉢	口縁	小型　やや体部が膨らむ　壺形？		Ⅶ	
558	201	包含層1	Ⅲ層	深鉢	体部	格子目文（沈線）		Ⅶ	
559	222	包含層1	中掘上	浅鉢	完形	キャリパー　粘土紐貼付　原体圧痕文　口縁不整撚糸文	繊維混入	Ⅶ	
560	837	ⅢA2c	検出面	深鉢	体下部～底部	少し張り出しなだらかに立ち上がる　単節斜縄文R-L		ⅨA	
561	798	包含層2	Ⅲ層	深鉢	底部	縦位の綾絡文　木葉痕？		ⅨA	
562	258	包含層1	中掘上	深鉢	体～底部	下部においてくびれ　磨き　底部やや張り出すか？　L-R縦横		ⅨA	
563	845	包含層2	Ⅲ層	深鉢	底部	なだらかに立ち上がる　内煤付着　底部施文なし		ⅨA	
564	242	包含層1	Ⅲ層	深鉢	底部	張り出しほとんどなし　ほとんど直立する		ⅨA	
565	250	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	深鉢	底部	張り出し無くほぼ直立する　底部横R-L		ⅨA	
566	231	ⅡA5d	Ⅶ層	深鉢	底部	外傾して立ち上がる　最下部まで施文　網目状撚糸文	繊維混入	ⅨA	
567	243	包含層1	Ⅲ層	深鉢	底部	張り出し少なくほぼ緩やかに外傾して立ち上がる　L-R		ⅨB	
568	257	包含層1	Ⅲ層	深鉢	底部	底部　張り出し　原体圧痕　L-R		ⅨB	
569	238	包含層1	Ⅲ層	深鉢	底部	張り出し小さい　底は垂直にはる		ⅨB	
570	241	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	深鉢	底部	底部の上位縄文すり消し　底部原体圧痕	繊維少	ⅨB	
571	239	包含層1	Ⅲ層下	深鉢	底部	張り出し小さいが大きく湾曲して立ち上がる　底部施文　L-R縦	繊維混入	ⅨB	
572	626	ⅤA4f	Ⅱ層	深鉢	底部	乳頭状　縄文施文	繊維混入	ⅨC	
573	232	包含層1	Ⅲ層	深鉢	底部	尖底（平底風）　緩やかに外湾	繊維混入	ⅨC	
574	233	包含層1	中掘下	深鉢	底部	尖底　直線的に外傾	繊維混入	ⅨC	
575	234	ⅥA1f	Ⅳ層	深鉢	底部	尖底　緩やかに外傾する	繊維混入	ⅨC	

石器観察表 1

番号	仮番	器種	出土地点	層位	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
576	F11	スクレーパー	RA02	埋土中	削器	5.2	(4.7)	0.7	18.23	頁岩（奥羽山脈）	
577	A1	石鏃	RA03	埋土中	凹基	3.0	1.5	0.5	1.69	頁岩（奥羽山脈）	
578	A9	石鏃	RA07	埋土2層	平基	26.7	16.8	3.6	1.0	頁岩（奥羽山脈）	
579	B26	石匙	RA07	埋土下位	縦型	48.3	18.0	10.9	8.6	頁岩（奥羽山脈）	石錐？
580	E28	スクレーパー	RA07	埋土下位	二次加工剥片	63.1	27.5	13.2	13.6	頁岩（奥羽山脈）	
581	E19	スクレーパー	RA07	埋土下位	石器断片	28.8	33.2	9.6	8.2	頁岩（奥羽山脈）	
582	E46	スクレーパー	RA07	埋土下位	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
583	E45	スクレーパー	RA07	床面	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
584	E27	スクレーパー	RA07	埋土下位	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
585	H37	礫石器	RA07	埋土下位	磨石					ホルンフェルス（北上山地）	
586	M9	石製品	RA07	床面上	石棒？					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
587	M11	石製品	RA07	埋土下位	石棒？					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
588	E30	スクレーパー	RA08	埋土中	削器	27.4	22.2	7.1	4.5	頁岩（奥羽山脈）	
589	A11	石鏃	RA09	P3埋土	凹基	24.5	16.0	4.1	1.2	頁岩（奥羽山脈）	
590	A13	石鏃	RA09	埋土2層	凹基	27.9	15.5	3.9	1.2	頁岩（奥羽山脈）	
591	A10	石鏃	RA09	埋土2層	凹基	33.1	13.2	2.7	0.8	頁岩（奥羽山脈）	
592	B28	石匙	RA09	埋土2層	縦形	105.2	19.2	9.5	13.2	頁岩（奥羽山脈）	
593	B31	石匙	RA09	埋土2層	縦形	68.6	31.2	11.6	16.1	頁岩（奥羽山脈）	
594	B32	石匙	RA09	埋土1層	縦形	51.0	27.7	10.2	10.4	頁岩（奥羽山脈）	
595	B27	石匙	RA09	P1埋土	横形	33.4	51.2	8.1	8.5	頁岩（奥羽山脈）	
596	B58	石匙	RA09	埋土2層	縦型					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
597	E17	スクレーパー	RA09	埋土下位	削器	62.2	28.4	12.9	13.3	頁岩（奥羽山脈）	石匙？
598	E37	スクレーパー	RA09	埋土中	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
599	E43	スクレーパー	RA09	埋土下位	石器断片	25.0	24.5	6.1	2.7	頁岩（奥羽山脈）	
600	E54	スクレーパー	RA09	埋土3層	石器断片	37.3	20.5	6.7	2.7	頁岩（奥羽山脈）	
601	E56	スクレーパー	RA09	埋土2層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
602	H40	礫石器	RA09	床面	敲石					閃緑岩（北上山地）	写真のみ
603	H41	礫石器	RA09	床面	敲石					閃緑岩（北上山地）	
604	H44	礫石器	RA09	床面	敲石					閃緑岩（北上山地）	写真のみ
605	H28	礫石器	RA09	床面	磨石					閃緑岩（北上山地）	
606	H33	礫石器	RA09	床面	磨石					花崗閃緑岩（北上山地）	写真のみ
607	H38	礫石器	RA09	床面	磨石					ひん岩（北上山地）	
608	H42	礫石器	RA09	床面	磨石					閃緑岩（北上山地）	
609	H43	礫石器	RA09	床面	磨石					凝灰岩（北上山地）	写真のみ
610	B29	石匙	RA10	埋土下位	縦形	50.8	29.2	9.1	9.1	頁岩（奥羽山脈）	
611	B33	石匙	RA16	埋土	縦形	62.3	22.0	13.3	12.3	頁岩（奥羽山脈）	
612	B34	石匙	RA16	埋土	縦形	70.2	22.3	10.3	14.8	頁岩（奥羽山脈）	
613	B35	石匙	RA16	埋土	縦形	60.8	22.3	11.4	11.8	頁岩（奥羽山脈）	
614	A14	石鏃	RA19	埋土2層	凹基	19.0	13.5	3.9	0.7	頁岩（奥羽山脈）	
615	A15	石鏃	RA19	埋土2層	平基	22.0	13.0	4.1	0.7	頁岩（奥羽山脈）	
616	B36	石匙	RA19	埋土1層	縦形	38.5	17.0	7.0	2.7	頁岩（奥羽山脈）	
617	B56	石匙	RA19	埋土2層	縦形	49.2	31.7	8.5	10.3	頁岩（奥羽山脈）	
618	B57	石匙	RA19	埋土2層	縦形	70.4	23.8	6.7	10.2	頁岩（奥羽山脈）	
619	H35	礫石器	RA19	埋土下位	敲石					砂岩（北上山地）	写真のみ
620	A16	石鏃	RA20	埋土1層	凹基	38.6	14.4	4.0	1.4	頁岩（奥羽山脈）	
621	A17	石鏃	RA20	床面	平基	29.3	17.7	4.0	1.3	頁岩（奥羽山脈）	
622	A18	石鏃	RA20	床面	未製品？	31.1	16.6	6.6	2.4	頁岩（奥羽山脈）	
623	B49	石匙	RA20	埋土1層	縦形	52.9	21.9	8.4	8.8	頁岩（奥羽山脈）	
624	B50	石匙	RA20	埋土下	縦形	50.1	15.1	7.0	3.9	頁岩（奥羽山脈）	
625	B48	石匙	RA20	埋土1層	横形	34.7	50.7	10.6	11.8	頁岩（奥羽山脈）	

石器観察表 2

番号	仮番	器　種	出土地点	層　位	形　態	長さ	幅	厚さ	重さ	石　質	備　考
626	E32	スクレーパー	RA20	床面上	削器	60.7	37.3	10.7	20.4	頁岩（奥羽山脈）	
627	E31	スクレーパー	RA20	床面上	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
628	E36	スクレーパー	RA20	床面上	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
629	E53	スクレーパー	RA20	埋土1層	削器	38.0	29.8	11.3	10.4	頁岩（奥羽山脈）	
630	B51	石匙	RA22	埋土	縦形	51.6	25.7	8.6	7.7	頁岩（奥羽山脈）	
631	B52	石匙	RA24	埋土下位	縦形	56.8	17.8	9.0	6.0	頁岩（奥羽山脈）	
632	B53	石匙	RA26	埋土下位	縦形	65.4	28.4	12.6	13.3	頁岩（奥羽山脈）	
633	M10	石製品	RD14	埋土下位	石棒					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
634	A19	石鏃	RD16	埋土	平基	23.2	11.6	3.7	0.6	頁岩（奥羽山脈）	
635	A20	石鏃	RD17	埋土中	凹基未製品	23.4	15.9	3.9	0.9	頁岩（奥羽山脈）	
636	A21	石鏃	RD17	埋土中	平基	19.2	15.7	3.1	0.7	頁岩（奥羽山脈）	
637	J2	尖頭器	RD17	埋土中	欠損	103.5	31.4	16.8	51.8	頁岩（奥羽山脈）	
638	J3	尖頭器	RD17	埋土中	・	145.2	35.0	15.7	73.8	頁岩（奥羽山脈）	
639	H31	礫石器	RD17	埋土3層	敲石					閃緑岩（北上山地）	写真のみ
640	B59	石匙	RD21	埋土	縦形	86.8	18.3	12.2	14.9	頁岩（奥羽山脈）	
641	A22	石鏃	RD25	埋土中	欠損	22.1	12.3	4.1	1.0	黒曜石（赤井川）	
642	A03	石鏃	包含層1	中掘下	柳葉形	3.8	1.0	0.3	1.14	頁岩（奥羽山脈）	
643	A02	石鏃	包含層1	Ⅲ層	凹基	3.3	2.1	0.5	2.38	頁岩（奥羽山脈）	
644	A05	石鏃	包含層1	中掘面上	凹基	3.1	1.65	0.45	1.97	凝灰岩（奥羽山脈）	
645	A26	石鏃	包含層2	Ⅵ層	凹基	32.9	17.6	5.1	1.6	頁岩（奥羽山脈）	
646	A30	石鏃	ⅣA9・10c	Ⅲ層	凹基	34.6	16.6	7.3	3.0	頁岩（奥羽山脈）	
647	A06	石鏃	ⅤA6・7h	Ⅱ層	凹基	(3.2)	1.85	0.45	2.41	砂岩（北上山地）	
648	A29	石鏃	包含層2	Ⅵ層	凹基	32.8	18.5	5.0	1.6	頁岩（奥羽山脈）	
649	A31	石鏃	ⅢA3d	Ⅲ～Ⅳ層	凹基	30.7	19.7	4.8	1.7	頁岩（奥羽山脈）	
650	A24	石鏃	包含層2	Ⅲ層	凹基	27.7	19.6	4.5	1.5	頁岩（奥羽山脈）	
651	A27	石鏃	包含層2	Ⅵ層	凹基	28.6	17.4	6.8	2.2	頁岩（奥羽山脈）	
652	A07	石鏃	不明	不明	凹基	2.5	1.6	0.6	1.81	頁岩（奥羽山脈）	
653	A28	石鏃	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	凹基	25.9	17.2	5.0	1.3	頁岩（奥羽山脈）	
654	A25	石鏃	包含層2	Ⅲ層	平基	30.2	20.5	5.8	2.7	頁岩（奥羽山脈）	
655	A12	石鏃	ⅡA10d	検出面	平基	25.5	17.6	5.6	1.7	頁岩（奥羽山脈）	
656	A23	石鏃	包含層2	Ⅵ層	凹基	37.0	17.1	4.0	1.5	頁岩（奥羽山脈）	
657	A08	石鏃	包含層1	中掘下	凹基	(2.2)	1.9	0.5	2.01	頁岩（奥羽山脈）	
658	A04	石鏃	包含層1	層位不明	凹基	(1.9)	(1.4)	0.3	0.73	頁岩（奥羽山脈）	
659	B08	石匙	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	縦形	7.7	2.3	0.8	9.30	頁岩（奥羽山脈）	
660	B47	石匙	包含層2	Ⅵ層	縦形	61.1	23.4	11.9	10.8	頁岩（奥羽山脈）	
661	B55	石匙	VA3f	Ⅱ層	縦形	61.8	12.9	6.9	4.5	頁岩（奥羽山脈）	
662	B16	石匙	VA	検出面	縦形	6.1	1.6	0.7	5.71	頁岩（奥羽山脈）	
663	B54	石匙	包含層2	Ⅵ層	縦形	61.5	19.5	6.8	6.0	頁岩（奥羽山脈）	
664	B41	石匙	ⅣA1c	Ⅱ層下	縦形	56.9	21.7	8.1	8.3	頁岩（奥羽山脈）	
665	B37	石匙	VA9f	Ⅱ層	縦形	43.5	13.2	7.8	3.1	頁岩（奥羽山脈）	
666	B02	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	5.5	2.25	0.6	5.98	頁岩（奥羽山脈）	
667	B24	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	7.3	1.8	0.8	10.10	頁岩（奥羽山脈）	
668	B30	石匙	ⅡA10d	Ⅱ層下	縦形	66.8	21.8	8.2	7.8	頁岩（奥羽山脈）	
669	B38	石匙	ⅣA	排土	縦形	59.0	21.1	8.7	8.6	頁岩（奥羽山脈）	
670	B45	石匙	V3f・g	Ⅱ層	縦形	71.0	24.7	12.4	13.0	頁岩（奥羽山脈）	
671	B09	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	7.0	3.6	0.8	13.83	頁岩（奥羽山脈）	
672	B14	石匙	包含層1	Ⅳ～Ⅵ層	縦形	4.8	2.4	0.65	5.28	頁岩（奥羽山脈）	
673	B12	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	4.9	2.1	0.6	5.58	頁岩（奥羽山脈）	
674	B01	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	7.5	3.2	1.0	20.27	頁岩（奥羽山脈）	
675	B07	石匙	包含層1	Ⅲ～Ⅵ層	縦形	9.6	3.4	1.4	31.17	頁岩（奥羽山脈）	

石器観察表 3

番号	仮番	器種	出土地点	層位	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
676	B25	石匙	包含層1	Ⅳ～Ⅵ層	縦形	8.5	2.5	0.9	18.72	頁岩（奥羽山脈）	
677	B06	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	(6.6)	2.6	1.2	12.67	頁岩（奥羽山脈）	
678	B11	石匙	包含層1	中掘下	縦形	7.6	2.7	0.8	14.34	頁岩（奥羽山脈）	
679	B23	石匙	Ⅱ A8･9d	Ⅱ層	縦形	4.9	6.0	1.1	25.65	頁岩（奥羽山脈）	
680	B15	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	6.1	4.2	0.9	18.05	頁岩（奥羽山脈）	
681	B40	石匙	Ⅲ A9c	Ⅱ層下	縦形	71.5	41.1	9.4	16.6	頁岩（奥羽山脈）	
682	B20	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	5.3	8.1	1.7	46.75	頁岩（奥羽山脈）	
683	B43	石匙	Ⅱ A2f・g	検出面	縦形	24.8	14.8	6.2	1.5	赤色頁岩（奥羽山脈）	
684	B13	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	3.4	2.0	0.7	4.18	赤色頁岩（奥羽山脈）	
685	B21	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	2.5	2.65	0.7	2.98	頁岩（奥羽山脈）	
686	B42	石匙	Ⅱ A8d･e	Ⅱ層	縦形	67.9	13.2	10.6	5.5	頁岩（奥羽山脈）	石錐？
687	B10	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	6.2	2.8	1.0	7.26	頁岩（奥羽山脈）	
688	B39	石匙	Ⅳ A9･8d	Ⅱ層	横形	29.8	42.9	9.6	7.6	頁岩（奥羽山脈）	
689	B18	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	1.8	4.0	0.55	2.34	頁岩（奥羽山脈）	
690	B44	石匙	Ⅲ A4c	検出面	横形	25.7	34.8	7.0	4.9	頁岩（奥羽山脈）	
691	B05	石匙	Ⅴ A6h	検出面	横形	3.3	4.7	0.6	6.20	頁岩（奥羽山脈）	
692	B17	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	3.5	4.8	0.8	9.36	頁岩（奥羽山脈）	
693	B04	石匙	包含層1	中掘下	横形	2.6	3.6	0.7	5.92	頁岩（奥羽山脈）	
694	B19	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	3.1	3.7	0.9	7.41	頁岩（奥羽山脈）	
695	B03	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	3.4	4.4	0.7	9.10	頁岩（奥羽山脈）	
696	B46	石匙	Ⅴ A1e	Ⅱ層	横形	30.1	58.2	10.0	12.0	頁岩（奥羽山脈）	
697	B22	石匙	包含層1	Ⅲ層	横形	3.75	5.0	1.0	10.56	頁岩（奥羽山脈）	
698	C02	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	6.7	1.7	0.7	6.91	頁岩（奥羽山脈）	
699	C01	石匙	包含層1	Ⅲ層	縦形	(8.0)	1.8	1.1	13.95	頁岩（奥羽山脈）	
700	C05	石匙	包含層1	Ⅲ層	ほぼ菱形	(6.9)	1.95	0.85	9.17	頁岩（奥羽山脈）	
701	C10	石匙	Ⅲ A3d	Ⅰ層	縦形	86.0	20.7	11.2	18.1	頁岩（奥羽山脈）	
702	C11	石匙	Ⅲ A3a	Ⅰ層	縦形	86.0	18.3	9.6	16.3	頁岩（奥羽山脈）	
703	C09	石匙	Ⅲ A6d	Ⅰ層	縦形	67.9	19.1	7.8	9.4	頁岩（奥羽山脈）	
704	C03	石匙	包含層1	中掘面上	やや扁平	10.1	2.2	0.8	17.22	頁岩（奥羽山脈）	
705	C04	石匙	包含層1	中掘面下	縦形	(8.9)	2.15	1.0	16.72	頁岩（奥羽山脈）	
706	C06	石匙	Ⅱ A8･9d	Ⅱ層下	やや扁平	10.3	2.4	1.1	25.54	頁岩（奥羽山脈）	
707	C08	石匙	包含層2	Ⅲ層	縦形	80.9	20.3	9.6	14.1	頁岩（奥羽山脈）	
708	C07	石匙	包含層1	Ⅲ層下	縦形	(3.9)	2.25	0.95	7.69	頁岩（奥羽山脈）	
709	D2	篦状石器	包含層1	Ⅲ層		6.2	2.9	1.2	19.92	頁岩（奥羽山脈）	
710	D1	石篦?	包含層1	中掘下		4.75	2.3	0.9	8.62	頁岩（奥羽山脈）	
711	D4	石篦	包含層1	中掘上		4.6	2.4	1.0	8.75	頁岩（奥羽山脈）	
712	D5	石篦	包含層2	Ⅵ層		43.3	33.4	10.0	9.2	頁岩（奥羽山脈）	石鏃未製品?
713	D6	石篦	包含層2	Ⅲ層		46.2	26.6	10.5	12.6	頁岩（奥羽山脈）	尖頭器？
714	D7	石篦	包含層2	Ⅲ層		60.3	34.9	12.4	24.5	珪質頁岩（奥羽山脈）	
715	J1	尖頭器	包含層1	Ⅲ層	木葉型・両面	7.6	1.8	1.0	13.90	頁岩（奥羽山脈）	
716	J6	尖頭器	Ⅴ A2g	Ⅰ層						頁岩（奥羽山脈）	
717	J4	尖頭器	近世土坑	埋土中						頁岩（奥羽山脈）	
718	J5	尖頭器	Ⅴ A2g	Ⅱ層						頁岩（奥羽山脈）	
719	E06	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	掻器	7.0	7.5	1.5	60.01	頁岩（奥羽山脈）	
720	E01	スクレーパー	包含層1	中掘下	掻器	6.7	6.7	1.2	49.63	頁岩（奥羽山脈）	
721	E05	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	掻器	6.0	4.8	1.3	25.59	頁岩（奥羽山脈）	
722	E09	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	掻器	6.6	3.9	1.6	35.63	頁岩（奥羽山脈）	
723	E34	スクレーパー	包含層2	中掘下	鋸歯縁削器	74.8	50.7	12.6	32.5	頁岩（奥羽山脈）	
724	E20	スクレーパー	包含層2	Ⅵ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
725	E11	スクレーパー	包含層1	Ⅵ層	削器	4.1	5.0	0.8	16.83	頁岩（奥羽山脈）	

石器観察表 4

番号	仮番	器種	出土地点	層位	形態	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
726	E13	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	削器	5.6	4.0	1.3	22.00	頁岩（奥羽山脈）	
727	E14	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	削器	5.0	4.6	1.2	19.69	頁岩（奥羽山脈）	
728	E52	スクレーパー	ⅣA4c	Ⅱ層	削器	67.9	36.6	16.5	24.6	凝灰岩（奥羽山脈）	
729	E26	スクレーパー	ⅣA7c	Ⅱ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
730	E24	スクレーパー	ⅡA3c	Ⅱ層	使用痕剥片	57.2	44.3	17.5	29.8	頁岩（奥羽山脈）	
731	E42	スクレーパー	ⅡA8d･e	Ⅰ層	使用痕剥片	55.9	50.1	12.9	31.0	頁岩（奥羽山脈）	
732	E47	スクレーパー	ⅢA9c	検出面	使用痕剥片	40.7	45.5	10.5	15.6	頁岩（奥羽山脈）	
733	E35	スクレーパー	ⅣA7c	層位不明	縦形	50.6	36.3	11.5	12.4	頁岩（奥羽山脈）	
734	E08	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	掻器	4.1	3.7	0.7	13.63	頁岩（奥羽山脈）	
735	E38	スクレーパー	ⅤA5h	Ⅱ層	削器	29.9	43.7	8.5	8.2	頁岩（奥羽山脈）	
736	E41	スクレーパー	ⅤA1f･g	Ⅱ層	掻器	47.5	32.8	7.3	8.5	頁岩（奥羽山脈）	石匙？
737	E29	スクレーパー	包含層2	Ⅵ層	使用痕剥片	52.4	26.0	12.1	12.2	頁岩（奥羽山脈）	
738	E16	スクレーパー	ⅢA1b･c	Ⅰ層	削器	67.1	26.6	14.7	22.2	頁岩（奥羽山脈）	
739	E25	スクレーパー	包含層2	Ⅲ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
740	E44	スクレーパー	ⅡA8d･e	Ⅰ層	使用痕剥片	28.3	29.4	9.8	5.6	頁岩（奥羽山脈）	
741	E04	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	削器	3.0	2.9	0.9	7.84	頁岩（奥羽山脈）	
742	E07	スクレーパー	ⅡA8･9d	Ⅲ～Ⅳ	削器	3.9	2.7	0.5	6.69	頁岩（奥羽山脈）	
743	E40	スクレーパー	ⅢA2d	Ⅰ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
744	E48	スクレーパー	カクラン	土中	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
745	E15	スクレーパー	包含層2	Ⅵ層	石器断片	37.5	32.1	9.0	9.7	頁岩（奥羽山脈）	
746	E51	スクレーパー	ⅡA3c	検出面	掻器	25.2	26.9	8.4	5.0	頁岩（奥羽山脈）	機形石匙？
747	E33	スクレーパー	包含層2	Ⅵ層	削器					珪質頁岩（北上）	写真のみ
748	E55	スクレーパー	ⅡA1g	Ⅰ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
749	E39	スクレーパー	ⅢA10f	Ⅱ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
750	E57	スクレーパー	ⅢA1b	検出面	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
751	E23	スクレーパー	ⅢA2b･c	Ⅰ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
752	E21	スクレーパー	ⅣA10g	Ⅱ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
753	E22	スクレーパー	ⅣA3c･d	Ⅰ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
754	E49	スクレーパー	ⅣA7c	検出面	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
755	E50	スクレーパー	ⅣA7c	検出面	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
756	E18	スクレーパー	ⅣA9･10f	Ⅱ層	削器					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
757	F01	スクレーパー	包含層1	Ⅲ層	削器	4.3	(2.0)	0.6	4.86	頁岩（奥羽山脈）	
758	F07	スクレーパー	包含層1	中掘下	削器	4.85	3.2	1.1	16.78	頁岩（奥羽山脈）	
759	F09	スクレーパー	包含層1	Ⅰ層下	削器	2.9	3.7	0.5	7.52	頁岩（奥羽山脈）	
760	F15	スクレーパー	包含層1	Ⅳ層下	削器	4.4	2.9	0.9	8.32	頁岩（奥羽山脈）	
761	F16	スクレーパー	包含層1	Ⅲ	掻器？	3.0	5.7	0.7	15.38	頁岩（奥羽山脈）	石匙？
762	F17	スクレーパー	包含層1	Ⅲ	削器	4.6	5.2	1.2	20.23	頁岩（奥羽山脈）	
763	G3	磨製石斧	包含層1	中掘下	刃部欠損	(4.2)	4.1	2.6	62.27	頁岩（奥羽山脈?）	
764	G2	磨製石斧	包含層1	Ⅲ層	片刃小型	(4.7)	3.7	0.8	20.53	砂岩（北上山地）	
765	G6	磨製石斧	ⅢA9c	Ⅳ層	刃部欠損					頁岩（奥羽山脈）	
766	G4	磨製石斧	包含層1	中掘上	刃部欠損	(6.3)	4.7	3.4	146.60	不明	
767	G5	磨製石斧	包含層2	Ⅵ層	両刃大型					頁岩（奥羽山脈）	
768	H01	礫石器	包含層1	Ⅲ層	凹石	19.05	5.3	3.2	341.60	凝灰岩（奥羽山脈）	
769	H19	礫石器	包含層1	Ⅲ層	凹石	7.6	4.4	2.8	103.80	凝灰岩（奥羽山脈）	
770	H14	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	9.0	5.1	3.40	192.30	花崗門緑岩（北上山地）	
771	H17	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	13.7	5.4	3.8	397.00	砂岩（北上山地）	
772	H05	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	(7.3)	4.4	2.8	142.00	斑糲岩（北上山地）	
773	H03	礫石器	包含層1	Ⅲ層	磨石	13.2	5.4	3.1	258.90	凝灰岩（奥羽山脈）	
774	H11	礫石器	包含層1	不明	磨石	15.0	7.4	4.7	1011.20	花崗門緑岩（北上山地）	
775	H02	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	9.8	7.0	5.4	534.80	門緑岩（北上山地）	

石器観察表 5

番号	仮番	器　種	出土地点	層　位	形　態	長さ	幅	厚さ	重さ	石　質	備　考
776	H15	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	12.5	(3.7)	(2.5)	155.5	閃緑岩（北上山地）	
777	H09	礫石器	包含層1	Ⅲ	敲石	(10.0)	5.4	3.4	279.40	花崗閃緑岩（北上山地）	
778	H10	礫石器	包含層1	Ⅲ	敲石?	10.5	3.8	3.0	150.20	花崗閃緑岩（北上山地）	
779	H06	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	(11.5)	8.4	(7.0)	914.70	花崗岩（北上山地）	
780	H39	礫石器	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	砥石					凝灰岩（北上山地）	写真のみ
781	H07	礫石器	包含層1	Ⅲ層	敲石	5.9	5.6	2.2	101.00	花崗閃緑岩（北上山地）	
782	H13	礫石器	ⅡA8d	Ⅱ層	磨石	10.3	10.5	6.6	1818.20	せん鉄 橋野	
783	H25	礫石器	ⅡA8d	Ⅲ層	磨石	12.5	5.0	2.5	192.30	ｱﾌﾟﾗｲﾄ（北上山地）	
784	H27	礫石器	ⅣA2d	検出面	磨石					閃緑岩（北上山地）	
785	H36	礫石器	ⅤA5h	Ⅱ層下	磨石					花崗岩（北上山地）	写真のみ
786	H32	礫石器	ⅢA3c	Ⅰ層	磨石					砂岩（北上山地）	写真のみ
787	I1	石核？	ⅣA区	排土	剥片	37.1	51.5	14.2	26.8	黒曜石（産地不明）	
788	H30	礫石器	ⅤA	Ⅰ層	礫石斧					ホルンフェルス（北上山地）	写真のみ
789	H29	礫石器	ⅣA8f	検出面	礫石斧					砂岩（北上山地）	写真のみ
790	M08	石製品	包含層1	Ⅲ	抉状耳飾	(3.0)	(2.8)	0.6	5.34	不明	
791	M06	石製品	包含層1	Ⅲ層下	抉状耳飾	3.35	(2.2)	0.7	5.47	滑石（北上山地）	
792	M01	石製品	ⅡA8d	Ⅲ層	首飾り	23.5	3.5	1.2	138.90	粘板岩（北上山地）	
793	M04	石製品	ⅤA区	Ⅲ層下	石棒	(8.7)	(1.75)	1.4	29.49	粘板岩（北上山地）	
794	M05	石製品	包含層1	Ⅲ層	石棒	(9.05)	2.6	1.2	48.83	粘板岩（北上山地）	
795	M12	石製品	ⅤA3e	Ⅱ層	石棒？					頁岩（奥羽山脈）	写真のみ
796	M07	石製品	包含層1	Ⅵ	環状石斧？	(4.9)	(4.5)	(0.75)	13.54	砂岩（北上山地）	
797	M13	石製品	包含層2	Ⅲ～Ⅳ層	ペンダント					軽石（奥羽山脈）	
798	N3	土製品	ⅣA7･8g	検出面	ﾐﾆﾁｭｱ土器	—	2.8	3.2	7.23		
799	N1	土製品	包含層1	Ⅲ層	円盤状	6.9	7.3	1.5	55.18		
800	N2	土製品	包含層1	Ⅲ層	円盤状	5.8	6.2	1.3	38.17		

（6）小結

沢田2遺跡における縄文時代の遺構・出土遺物を概観してきたが、ここでは竪穴住居跡と土坑の時期区分をし、背景についての考察を含めて小結としたい。出土遺物についてはⅤでまとめる。

① 竪穴住居跡の変遷

今回発掘調査された区域で検出された竪穴住居跡は27棟、土坑は50基である。検出された遺構のうち出土遺物が明確でなかったものは本文では不明としたが、ここでは積極的に時期を推測し集落の変遷を考えていきたい。土坑は主なものを取り上げる。

時期は1期：早期中葉　2期：早期末葉から前期初頭　3期：前期前葉　4期：前期前葉後半期～中葉　5期：前期中葉～後葉　6期：後葉以降として順にまとめる。

1期：早期において中葉に属すると思われるＲＡ04は調査区の南側にある。周囲に他の住居跡は検出されない。当期に属する土器を出土させる土坑はない。当期の土器は包含層1の下層から出土するが、出土層は北側の県道下に延びると考えている。北と南の共通点は調査区の標高の低い区域だということで、早期中葉において川沿いに居住区があった可能性を指摘できる。

2期：早期末葉期の住居跡は定かではないが、調査区の中央区ＲＡ20の下位から検出されたＲＡ27と近接するＲＡ25が当期に属するか。平面形は楕円形を呈する。調査区に限れば、他の早期土器の出土頻度と比較して表裏縄文土器は多く出土する。早期末葉から集落としての形成が始まり、前期中葉期の隆盛につながったのかもしれない。前期初頭の住居跡は長方形で長軸5ｍ前後の3？棟（ＲＡ18？20・23）と、楕円形の3～4ｍ程の小型住居状遺構8棟（ＲＡ06・08・09・11・16・19・22・24）を検出した。前者のうちＲＡ20からは地床炉を確認している。2つの方形の住居跡は遺跡中央部に土坑を伴ってまとまっているが、小型のものは調査区全体に広がりを見せる。この小型のものは柱穴がはっきりせず、簡易的な（キャンプ地的な）印象を受ける。季節的な居住地であろうか。

土坑は主なものでは、ＲＡ20と23に挟まれて検出された3基（ＲＤ40・41・45）がある。ＲＤ41は貯蔵穴、ＲＤ45は墓坑の可能性がある。この集石土坑は3期にも出現する。

3期：いわゆる大木1式から2ａ式を出土させる遺構である。調査区中央区のやや南側で4棟？の竪穴住居跡を検出した。埋土状況などから古い順にＲＡ01・03・04？02である。隅丸の方形で主軸方位はほぼ南－北となる。壁柱穴状の小穴が壁面を巡る特色があるが、主柱穴は判然としない。規模はもっとも新しいＲＡ02で、4ｍ前後と小さい。その配置には規則性は感じられない。

当期に伴う土坑にはＲＤ01・04・06・10があり、埋土に礫を含む特色がある。ＲＤ06はＲＡ01とＲＤ10はＲＡ03と南で隣接する。そのうちＲＤ10とＲＡ03の出土土器が接合する。2期で検出した集石土坑も隣接する住居跡出土の土器と同じ時期である。この事から住居跡と墓坑が隣り合う例は、前期初頭（早期末葉）から前期前葉へと受け継がれてきたに違いない。

また、前期初頭を含めた土器を出土させる土坑は4期の住居跡が集中する区域にも検出される。これら土坑は、4期の竪穴住居跡造成の際に人為的に埋められた？可能性を考えている。

4期：大木2ｂ式から3式の土器を出土させる遺構である。大型の住居跡ＲＡ09やＲＡ12が当期に当たる。ここでは削平を受けているＲＡ13や15も当期として考える。規模はＲＡ09でみると長軸7ｍ前後、平面形は楕円形を呈し、主軸方位はほぼ北西から南東に延びる。この傾向はＲＡ12にも当てはまる。配置で考えるとＲＡ13と15を含めて遺跡北よりのやや標高の高い区域に集中しており、旧河川の南側の住居跡が集中する区

域にはない。これらの事実は規則性を持つ「ムラ」の出現を想定させる。

土坑は住居跡に関連して検出されることが多い。ＲＡ09とＲＡ07に挟まれて前葉の土坑があるが、この上位にＲＡ15があったと推定している。また、幕廣状のＲＤ16もＲＡ13に埋まった可能性を考えている。このような土坑を埋めて住居跡を作り上げる例は次の５期にも見える。

５期：大木４・５式を主体とした土器を出土させる遺構である。並列に２棟？（ＲＡ07・14？）検出した。ＲＡ07は大型の竪穴住居跡で、長軸９ｍを計り、２基の地床炉を備えることからロングハウスとして差し支えないかもしれない。主軸方位は４期と同軸となり系統性が伺える。土坑を埋めて住居跡を建築することも４期と同様である。しかし床面が礫に覆われていることや２基ある地床炉は焼成悪く、出土する礫石器も少ないという相違点もある。また、土器が大型の礫に潰されているかのように出土している。これらから推測すれば作業場としての機能を果たすために、必要最低限の機能を持てばいいという考えがあったのではないか。使われなくなった土器を廃棄する場所を兼ねていたのではないかということである。当期の居住地は近隣の地区に広がっていると思われる。

６期：後葉以降を推測する。大木６式や７式の土器は、包含層１の上位層に出土するが、田の広がる調査区中央部からは少量しか出土しない。（削平されたとも考えれるが）この事から後葉以降は、遺跡北東方向に広がる可能性を指摘できる。また、調査区の北東側には沢田１遺跡があり、中期から後期の土器を出土させることから、中期以降は５期より標高の高い区域に「ムラ」が存在したと予測する。

② まとめ（背景からの考察）

以上のように変遷してきたであろう沢田２遺跡（沢田１を含めて）の時代背景を考えてみたい。まずは自然環境からみてみると、遺跡は旧河川に横切られている。これは鵜住居川の流路の変更と思われるが、その礫層中にも縄文時代の遺構は存在する。ただし、早期の住居跡が旧河川近くに存在することから、少なくとも早期中葉期には鵜住居川は現在の状況にあったのではないかと推測する。よってその礫を取り除いて住居跡を構築したことにはなんらかの意味を持たねばなるまい。それはおそらく縄文時代早期末葉から前期初頭前後に起こったことであろう。そこに集落としての始源があったのではないかと推測する。また、中葉期頃から居住区が標高の高い位置に移ることの背景には、縄文時代の前期前半の縄文海進と「ムラ」の発生、または人口の増加がこのような変遷を引き起こしたと考えれる。というのはこの遺跡が遠方との関わりを強く想定させるからである。次に人的背景から沢田２遺跡の特色について考えたい。

出土遺物でみると、縄文時代前期前葉から中葉に、北との関わりが強い遺物が確認された。前期初頭から前葉の土器を出土させた土坑（ＲＤ25）から、北海道赤井川原産と思われる黒曜石製の石鏃が出土している。また円筒下層ｂ式と思われる土器片（537・538）も出土する。中葉期の土器に体部を網目状撚糸文や木目状撚糸文で施文するのは北の影響であろう。一方で前期中葉から後葉期になると関東諸磯系の土器が出現する。539は諸磯ｂ式の縁孔土器であるが、そのほかにも影響受けたと思われる内湾する浅鉢？が多く存在する。（24・62など）沢田２遺跡が古くから遠方との関わりを見せ、中葉期において北と南の交流がもっとも盛んになったと思われ、そこに「ムラ」の発生と人口増加を仮想する。

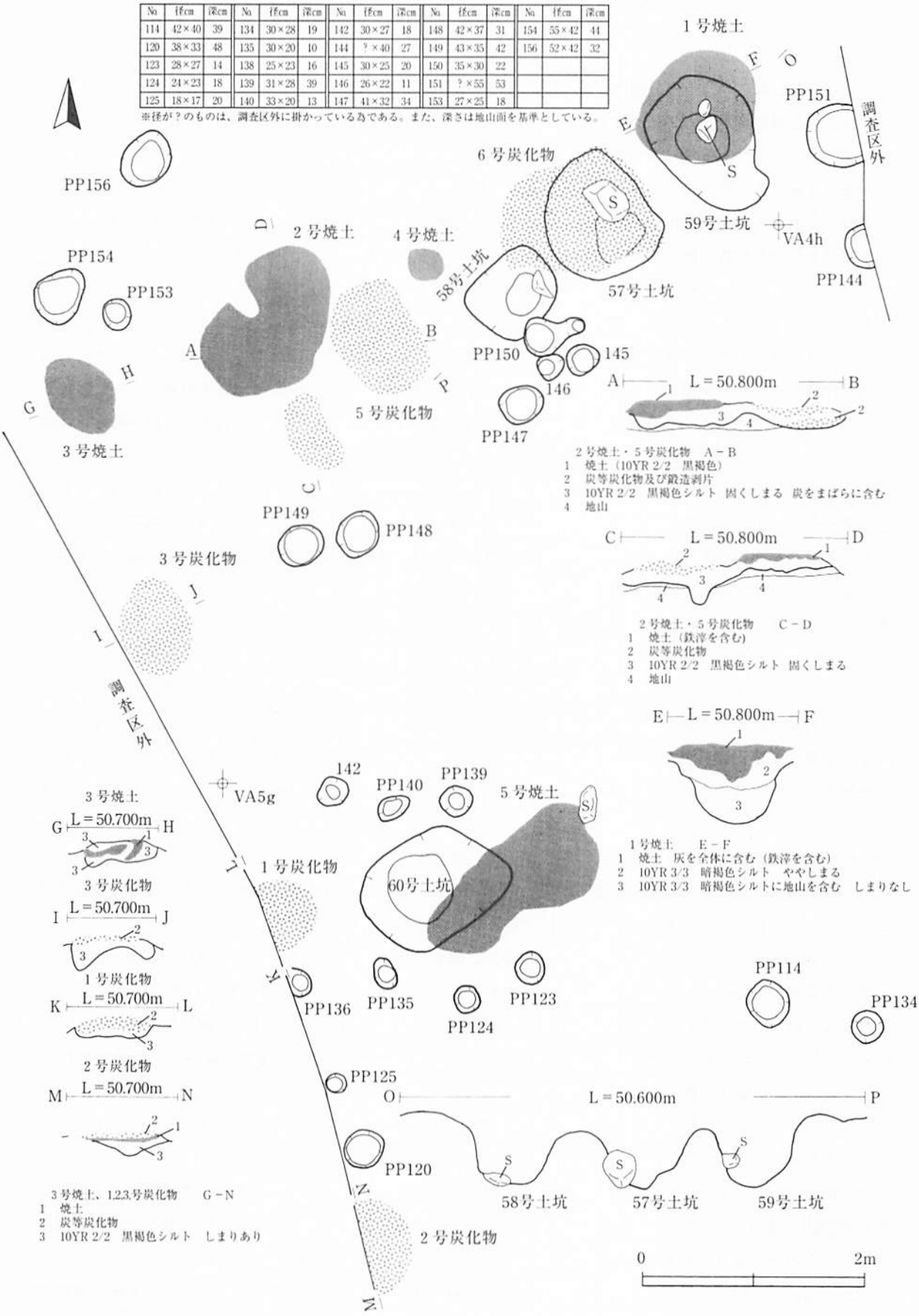
地理的背景からみると三方を高い山で囲まれ、隔離されている感じを持つ。しかし、東に海がある。縄文時代の沢田２遺跡を支えていたのは豊富な海の資源と川の恵みであったに違いない。魚労具などの遺物は出土していないが、遠方との交流が盛んだったことをみれば、当然のことのように思える。

沢田２遺跡は、縄文時代早期から前期全般の生活を解明する充分な資料を提示しているが、沢田１遺跡を含めれば、それは中期から後期もしくは弥生さらに近世へと続く資料となる可能性を秘めている。

近世柱穴群（PP）一覧　　単位：cm

No	径cm	深cm	No	径cm	深cm	No	径cm	深cm	No	径cm	深cm	No	径cm	深cm
114	42×40	39	134	30×28	19	142	30×27	18	148	42×37	31	154	55×42	44
120	38×33	48	135	30×20	10	144	?×40	27	149	43×35	42	156	52×42	32
123	28×27	14	138	25×23	16	145	30×25	20	150	35×30	22			
124	24×23	18	139	31×28	39	146	26×22	11	151	?×55	53			
125	18×17	20	140	33×20	13	147	41×32	34	153	27×25	18			

※径が？のものは、調査区外に掛かっている為である。また、深さは地山面を基準としている。



2号焼土・5号炭化物　A－B
1　焼土（10YR 2/2　黒褐色）
2　炭等炭化物及び鍛造剥片
3　10YR 2/2　黒褐色シルト　固くしまる　炭をまばらに含む
4　地山

2号焼土・5号炭化物　C－D
1　焼土（鉄滓を含む）
2　炭等炭化物
3　10YR 2/2　黒褐色シルト　固くしまる
4　地山

1号焼土　E－F
1　焼土　灰を全体に含む（鉄滓を含む）
2　10YR 3/3　暗褐色シルト　ややしまる
3　10YR 3/3　暗褐色シルトに地山を含む　しまりなし

3号焼土、1,2,3号炭化物　G－N
1　焼土
2　炭等炭化物
3　10YR 2/2　黒褐色シルト　しまりあり

第81図　近世の鍛冶炉跡

2　近世の遺構と遺物

（1）鍛冶場跡　第81図　写真図版34

ＶＡ－３～６・ｆ～ｉグリット内から鍛冶の作業場跡と思われる焼土が５カ所、鍛造剥片や炭を含む炭化物の固まりが５カ所検出された。正確な規模は調査区外まで遺構が伸びており把握できないが、検出面でみれば東西に７ｍ・南北に11ｍの範囲内にある。また、１～３号焼土と３～６号炭化物の並びは、県道に対して直角方向（北東の方向）を向いている。

その他、焼土下や炭化物の下から鍛造炉跡と思われる土坑を４基検出している。鍛造施設に関連したと思われる柱穴も多数検出しているが、位置関係は確認できていない。

出土遺物は２号焼土から羽口片（31・32）、鉄滓（19等）及び釘等の鉄製品（１～５・11）、３号焼土から鉄滓（20）及び鉄製品（13）、２号炭化物の北側柱穴ＰＰ120から羽口片（33）及び鉄滓が数点出土している。羽口片には鉄が熔着しているものもある。炉跡は検出していないが、たたら製鉄が行われていた可能性もある。周辺覆土からは釘などの鉄製品（７～10）や、江戸末期のものと思われる陶磁器片が数点（51・52等）出土している。また、６号炭化物跡下位のＲＤ58土坑南側口縁からは、鹿の角が出土しているが時期は特定できていない。

各土坑の規模及び形態は下表の通りである。

近世焼土・炭化物下土坑（ＲＤ）一覧　　単位：cm

N	径	深	形　態	埋　土	備　考
57	110×94	72	不整な円形	大型の礫を多量に含む。	６号炭化物の下
58	82×68	60	角丸の方形	大型の礫を多量に含む。	６号炭化物の下
59	128×92	70	不整な楕円形	３層に分かれる。	１号焼跡土下。１層目に鉄滓Ⅳ灰を含む。
60	118×98	56	角丸の長方形	大型の礫を多量に含む。	５号焼土の下

※深さは地山面を基準としている。

（2）土坑群　第82図　写真図版35・36

ⅣＡ－９～10・ｅ～ｇグリット内から、９基の土坑を検出している。規模・平面形については次表に示す。39号土坑以外の埋土は黒色シルトを下層に含み、前述の鍛冶場跡と同時期に造られた土坑と思われる。

32号土坑からは鞴の羽口片（279・280）や炉壁片（278）、鉄滓（1000等）がまとまって出土した。また、ＲＤ36からも鉄滓（25～28）や鉄製品（６）が出土している。この二つの土坑は鍛冶に関係したものと考えられるが、それ以外の土坑についてその性質は不明である。

周辺の覆土からは江戸時代末の頃のものと思われる陶磁器片が数点（P-12・13等）出土している。

（3）遺物　第84図　写真図版69・70・71

上記以外の区域からも、近世の陶磁器や鉄製品、鉄滓等の遺物が出土している。

①陶磁器

近世土坑群より北側のⅣＡ－３～８・ｄ区域のⅡ層から、近世の陶磁器片が数点（P-４～11等）出土している。

②鉄製品、鉄滓及びその他

遺構以外では、やはりⅣＡ－３～８・ｄ区域から釘などの鉄製品や鉄滓が出土している。

この区域からは近世の遺構は検出されていないが、出土品の数から言うと前述の遺構より多く、施設や住居があったことが予想される。

Ⅲグリット地区からも陶磁器片や鉄製品（７等）、鉄滓、古銭（37）といったものが出土しているがⅣ・Ⅴグリット地区に比べるとその数は少ない。

（４）小結

郷土史に、江戸時代の終わり頃から明治の初期にかけて鍛冶屋が栄えたことが載っていたが、そのことを裏付けるように焼土・炭化物が検出された。この時期は、大島高任が鵜住居川上流の橋野地区に洋式高炉を建設した頃と重複する。出土した羽口片に鉄が熔着しており、流動滓らしきものも出土していることから、たたら製鉄が行われていた可能性はあるが、鍛冶の鋼材がこの洋式高炉で精錬したものなのか、古来の製鉄法によるものなのかは今後調べてみるつもりである。

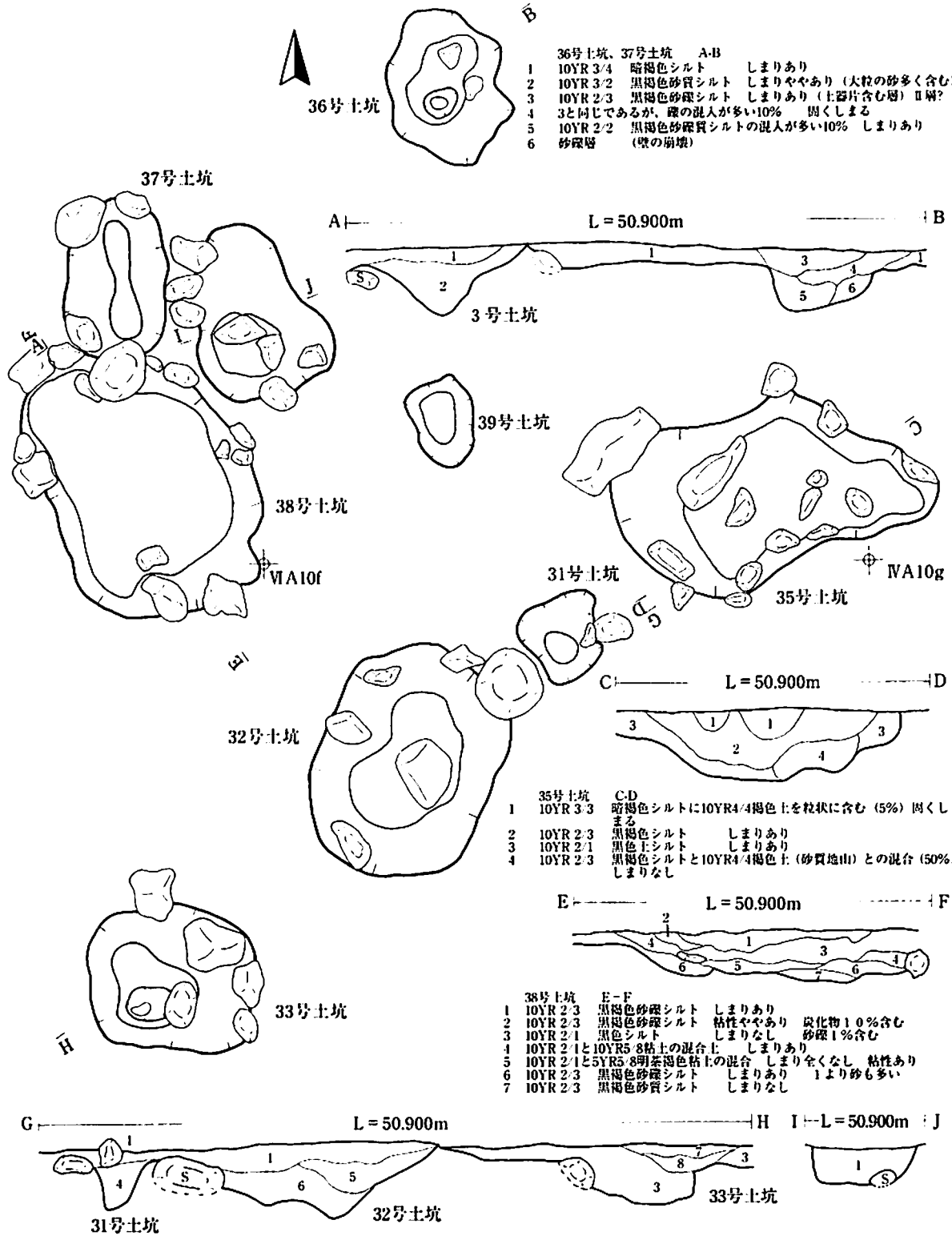
また、三浦命助氏の一揆があったのも同じ頃にあたり、この地区の調査は岩手県近世の産業経済・生活等の詳細を知る上で欠かせないと考える。

3　時代不明の柱穴状土坑群　第83図　写真図版36

ＶＡ－１～３・ｆグリットから柱穴状土坑群を検出している。調査区外（県道側）まで広がる可能性があり正確な広さは不明であるが、検出面の規模は南北に８ｍ、東西に6.5mの範囲内にある。東西・南北にある土坑の列はほぼ直線上に位置し、中間の土坑はやや不規則に並んでいる。また、それぞれの間隔は1.5～1.8mほどで若干の開きがある。各土坑の規模・平面の形態については図表に示す。

埋土の状態は、いずれも黒褐色シルトもしくは表土に似た暗褐色シルトを下層に含み、自然堆積と思われる層状を呈している。土坑内からは鉄滓等遺物は出土していないが、周囲の覆土からは鉄滓と江戸末期のものと思われる陶磁器片（55）が出土している。

若干不規則に並んでいるが、一区画にほぼ同じ大きさのものが検出されており、建物に伴う柱穴の可能性が高い。軸線や間隔が不規則なのは、何度か建て替えがあった為と考えられる。また、前述の焼土・炭化物と東西の並びが一致するが、鍛冶場と関連したものかは不明である。



36号土坑、37号土坑　A-B

1	10YR 3/4	暗褐色シルト	しまりあり
2	10YR 3/2	黒褐色砂質シルト	しまりややあり（大粒の砂多く含む）
3	10YR 2/3	黒褐色砂礫シルト	しまりあり（土器片含む層）Ⅱ層?
4	3と同じであるが、礫の混入が多い10%		固くしまる
5	10YR 2/2	黒褐色砂礫質シルトの混入が多い10%	しまりあり
6	砂礫層	（壁の崩壊）	

35号土坑　C-D

1	10YR 3/3	暗褐色シルトに10YR4/4褐色土を粒状に含む（5%）固くしまる	
2	10YR 2/3	黒褐色シルト	しまりあり
3	10YR 2/1	黒色土シルト	しまりあり
4	10YR 2/3	黒褐色シルトと10YR4/4褐色土（砂質地山）との混合（50%）	しまりなし

38号土坑　E-F

1	10YR 2/3	黒褐色砂礫シルト	しまりあり
2	10YR 2/3	黒褐色砂礫シルト	粘性ややあり　炭化物10%含む
3	10YR 2/1	黒色シルト	しまりなし　砂礫1%含む
4	10YR 2/1と10YR5/8粘土の混合土		しまりあり
5	10YR 2/1と5YR5/8明茶褐色粘土の混合		しまり全くなし　粘性あり
6	10YR 2/3	黒褐色砂礫シルト	しまりあり　1より砂も多い
7	10YR 2/3	黒褐色砂質シルト	しまりなし

31, 32, 33号土坑　G-H

1	10YR 2/1	黒色シルト	しまりあり
2	表土	（図になし）	
3	10YR 2/3	黒褐色シルト　しまりあり　礫混入	（Ⅱ層？）
4	10YR 2/3	黒褐色シルト　しまりなし　大粒の礫混入	
5	10YR 2/3	黒褐色シルト（3と同じかⅡ層）	
6	10YR 2/3	黒褐色シルト　しまりなし　大粒の礫混入	
7	10YR 2/1	黒色シルトと10YR5/8明茶褐色シルトの混合土　しまりあり（カクラン層）	
8	10YR2/1	黒色シルトと10YR5/8明茶褐色シルトの混合土　しまりなし	
9	7と同じであるが、黒色シルトの割合高く　しまりなし		

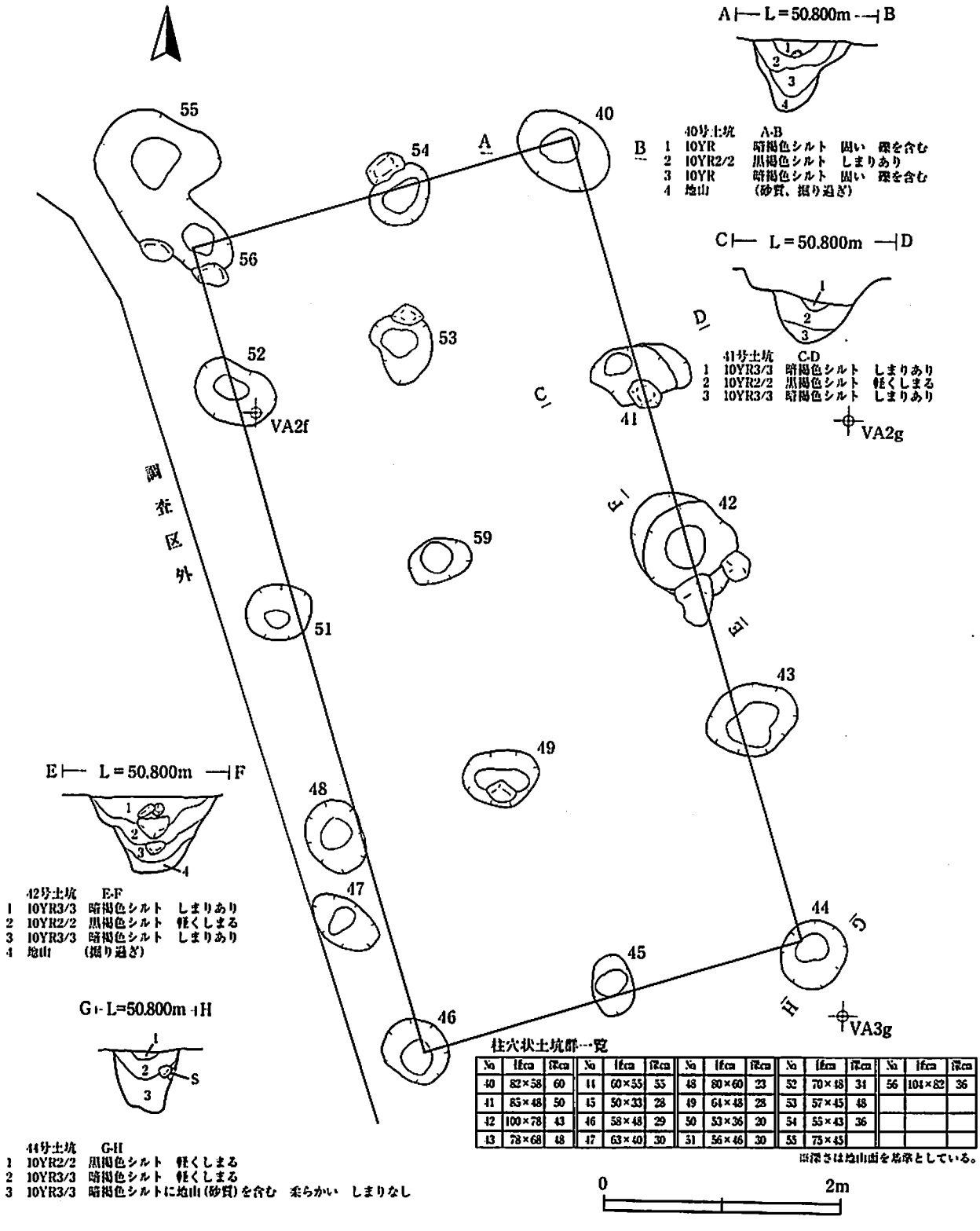
34号土坑　I-J

10YR 2/1　黒色と5/8砂礫との混合土　大粒の礫含む

31号土坑…柱穴
32号土坑…縄文の可能性有
33号土坑…近世もしくは現代

0　2m

第82図　近世土坑

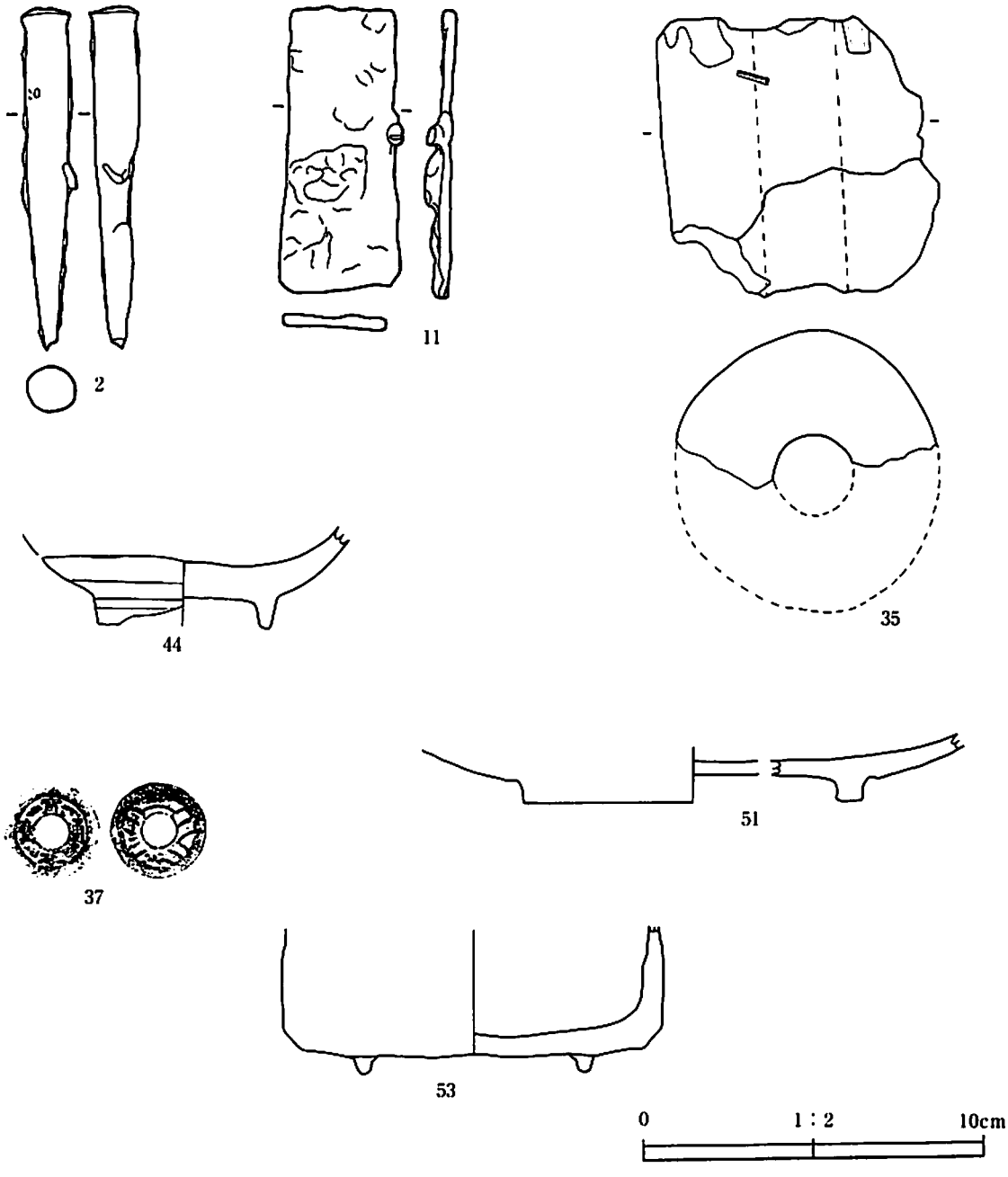


柱穴状土坑群一覧

No	長cm	深cm	No	長cm	深cm	No	長cm	深cm	No	長cm	深cm	No	長cm	深cm
40	82×58	60	44	60×55	55	48	80×60	23	52	70×48	34	56	104×82	36
41	85×48	50	45	50×33	28	49	64×48	28	53	57×45	48			
42	100×78	43	46	58×48	29	50	53×36	20	54	55×43	36			
43	78×68	48	47	63×40	30	51	56×46	30	55	75×45				

※深さは地山面を基準としている。

第83図　時代不明の掘立て柱建物跡



第84図　近世の出土遺物

表5　近世の鉄製品その他観察表

番号	仮番	器種	出土地点	層位	備考	番号	仮番	器種	出土地点	層位	備　考
1	O2	釘？	2号近世焼土	埋土		21	O21	鉄滓	32号土坑	埋土	
2	O3	釘？	2号近世焼土	埋土		22	O22	鉄滓	32号土坑	埋土	
3	O4	釘？	2号近世焼土	埋土		23	O23	鉄滓	32号土坑	埋土	
4	O5	釘？	2号近世焼土	埋土		24	O24	鉄滓	32号土坑	埋土	
5	O6	釘？	2号近世焼土	埋土		25	O25	鉄滓	32号土坑	埋土	
6	O32	釘？	36号土坑	埋土		26	O26	鉄滓	32号土坑	埋土	
7	O20	釘？	ⅢA2b	Ⅰ層		27	O27	鉄滓	32号土坑	埋土	
8	O11	釘？	ⅢA7b	Ⅱ層		28	O28	鉄滓	32号土坑	埋土	
9	O13	釘？	ⅢA7b	Ⅱ層		29	O33	鉄滓	36号土坑	埋土	
10	O14	釘？	ⅤA1f	Ⅱ層		30	O34	鉄滓	36号土坑	埋土	
11	O1	板状鉄	2号近世焼土	埋土		31	O35	羽口片	2号近世焼土	埋土	
12	O12	板状鉄	ⅢA7b	Ⅱ層		32	O36	羽口片	2号近世焼土	埋土	
13	O38	小刀	2号近世焼土	埋土		33	O30	棒状鉄	32号土坑	埋土	
14	O31	板状鉄	32号土坑	埋土		34	O46	羽口片	6号近世焼土	埋土	
15	O16	鉄滓	ⅤA1f	Ⅱ層		35	O42	羽口片	6号近世焼土	埋土	
16	O17	鉄滓	ⅤA5e・f	Ⅱ層		36	O43	羽口片	6号近世焼土	埋土	
17	O18	鉄滓	ⅤA5e・f	Ⅱ層		37	O40	古銭	3号近世焼土	埋土	寛永通寶
18	O19	鉄滓	ⅤA5e・f	Ⅱ層		38	N6	泥めんこ	ⅣA4d	Ⅱ層	
19	O39	鉄滓	2号近世焼土	埋土		39	H26	砥石	ⅣA7c	Ⅱ層下	砂岩（北上山地）
20	O41	鉄滓	3号近世焼土	埋土		40	Z1	獣骨	57号土坑	埋土	

表5　近世の陶磁器観察表

番号	写番	種別	出土地点	層位	器　種	製作地	製作年代	文様等
41	256	陶器	ⅣA8f	Ⅱ層	卸皿	瀬戸	15c	
42	259	磁器	ⅤA1g	Ⅱ層	碗	中国	15c後半	青磁　線描蓮弁文付
43	248	磁器	ⅢA4d	Ⅱ層	碗	肥前	18c	染付
44	257	磁器	ⅣA3d	Ⅰ層	碗	肥前	18c	染付　コンニャク印
45	254	磁器	ⅣA5	Ⅱ層	碗	肥前	18c	染付
46	249	陶器	ⅣA6d	Ⅱ層	小杯		18c	
47	250	陶器	ⅣA6d	Ⅱ層	小杯		18c	
48	261	陶器	ⅣA6d	Ⅱ層	小杯		18c	
49	253	陶器	ⅣA6d	Ⅱ層	鉢		18c	
50	247	陶器	ⅣA7c	Ⅱ層下	皿		18c	
51	252	陶器	ⅣA9d	Ⅱ層	皿	唐津	18c	
52	255	陶器	ⅣA9d	Ⅱ層	皿	瀬戸	18c	銅緑釉 見込剥ぎ
53	251	陶器	ⅤA3g	3層下	香炉	唐津	18c	
54	263	磁器	ⅤA6e	Ⅱ層	香炉	有田	18c	青磁
55	262	陶器	ⅥA5f	Ⅱ層	碗		江戸～明治	

Ⅴ　まとめと考察

縄文時代の遺構についてはⅣ１（６）、近世の遺構と遺物についてはⅣ２の小結をもってまとめとしたい。ここでは縄文時代の遺物についてⅣ１（５・６）の修正を含めて考察したい。

２度の発掘調査で得た縄文時代の遺物は大コンテナで35箱に及ぶ。しかし掲載は合わせて800点でしかない。遺跡を知る上で充分とは言えないが、限られたページ数と時間の中で、多くの資料を提示することが沢田２遺跡の調査担当者の責務と考え、可能な限り掲載するように努めた。よって本文中で誤った記述や説明不充分な箇所があったと思われる。

① 縄文土器

Ⅰ群：早期の土器である。沈線文土器から表裏縄文まで出土するが、Ⅰ群１類のいわゆる水戸式土器（265～268）は大新町遺跡出土に似る。また爪形刺突の269はやや下る白浜式となろうか。２類は物見台式だが、281は東北北部の吹切沢式またはムシリⅠ式の特色を持つ。４類表裏縄文土器のうち裏に条痕文のある192は素山上層式もしくは御赤堂式に類するもの、また繊維のないＲＡ20出土土器は薄く焼きが固いなどの特色から御赤堂式に近い時期観を与えられる。他の繊維を多く含む表裏縄文土器は早稲田５類に比定される。

Ⅱ群：上川名Ⅱ式土器である。ウについて補足するが、これら土器の胎土の特色から遺構内のＲＡ20出土の155や上記の300が蕨手状圧痕状となる可能性を指摘できる。当群は東北南半で見ると宮城県原頭遺跡第Ⅱ群土器（1986：村田）に類似する。この土器を、相原淳一氏は「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年」（1990：相原）の論考の中で東北北半の長七谷地Ⅲ群と併行とした。一方、宮古市千鶏遺跡では出土土器が北の影響を持つ岩手色の強い土器として千鶏Ⅰ式を設定し、長七谷地Ⅲ群や上川名Ⅱ式に併行するとしている。（1989：高橋）沢田２遺跡出土土器は千鶏Ⅰ式的要素を持つが、口縁部は東北南半の影響が強いように見え、花積下層式類似の岩手色強い上川名Ⅱ式土器群としておく。

Ⅲ群：大木１・２式土器である。１類Ａは大木２ａ式、Ｂは１式として差し支えないであろう。Ｃのうち非結束を１式、結束羽状縄文を２ａ式とするが、菱形文様となるものは１式の名残であろうか。Ｄア・イは１式、ウは１・２ａ式もしくは前群の上川名Ⅱ式に属するものが混在する可能性がある。組紐回転文の施文される183や343は大木１式に比定できると考えれる。またＲＤ10出土の200は繊維少量ながら大木２ａ式としてよいと思う。また竹管による刺突や沈線文などの土器は２ａ式となるのか。

２類のうち大木２ｂ式に属すると考えれる土器は、綾絡文や不整撚糸文が間隔をとって平行化するもの、指頭圧痕などが施文される隆帯を持つもの、Ｓ字状連鎖沈文となるものである。よってＡでは349や354・355、Ｂでは361や361～371、Ｃのすべてとなる。

Ⅳ群：大木３式から５式に相当する。類ごとに考察する。１類は大木３式に比定できるが396はⅤ群となるのか。２類は竹管文の施文されるものを集めたが、407～411は大木６式か大木７ａ式（Ⅴ群）となり、409は五領ヶ台式球胴深鉢の可能性が高い。他は大木３式となるか。３類は436を除き３式から４式に比定できる。そのうち弱い波状沈線のもの（425など）や一本沈線状に一筆書きする431～433は大木３式の施文に似る。４類Ａは大木３式に見られる特色であるが、×状に沈線が描かれるもの（442）は６式に属する可能性がある。Ｂは鋸歯状の粘土貼付となるもの（454）を除き４式に属するであろう。Ｃはいわゆる隆帯で便宜的にⅣ群に入れたが、隆帯を施す土器は大木２ｂ～７式まであり、詳細は不明である。４類Ｄと５類は４～５式に属するが、ドーナツ状の突起やボタン状の貼付は５式か。６類はＲＡ07出土に似ることから当類としたが、514はやや古いⅢ群に属する可能性を持つ。

Ⅴ群：口唇部を肥厚するものや縦位の鋸歯状沈線になるものは6式に属するか。また、7a式と思われるのは遺構外525・535とⅣ群4類Dに入れた隆帯を施す土器に一部含むと考えている。

その他：389はⅢ群に入れている。特色はⅣ4（4）で触れたが、大木2b～4式に属する。Ⅷ群の559は、繊維を多く含むことや体部の施文方法は前期初頭から前葉に見える。しかし内湾する浅鉢で、粘土紐貼付をふまえれば前期中葉になる。形式で言えば上川名Ⅱ式から大木4式に属することになる。どちらも4式と捉えればよいのかもしれないが、特に後者には前期初頭という時期観が与えられそうでしょうがない。これらの例から沢田2遺跡は北と南の文化を吸収しながらも独自性に富んだ遺跡という印象を強く受ける。

② 石器・石製品・土製品

沢田2遺跡出土の石器や石製品の特色をまとめる。○石鏃は基部の抉りが弱い凹基や平基のものが多い。○石匙では縦形が卓越し、両面剥離しているものが出土する。○石鏃と比較して石匙の出土数が多い。○礫石器は遺構内を除けば少なく、石皿など大型のものはない。○石製品には抉状耳飾りや石剣状の穴のあいたアクセサリーがある。これらの特色は陸前高田市牧田貝塚、盛岡市上八木田遺跡にも見え、縄文時代前期前葉から中葉頃の特徴であろうか。軽石製の石製品に付いては類例を探せなかったのだが、当時期に属すると言っていいと思う。

終わりに

沢田2遺跡は岩手県であまり調査例のない縄文時代早期から前期にかけての集落跡である。このような貴重な遺跡を調査させていただいたにもかかわらず、不充分な調査報告書を発刊せざるを得ないことを非常に心苦しく思う。しかし貴重な遺跡であり、今後の発掘調査や遺物研究に参考にしていただければ幸いである。

最後に、調査作業員及び室内整理作業員のみなさんに感謝するとともに、多くの便宜を図っていただいた釜石地方振興局・釜石市教育委員会には、厚く御礼申し上げる。

参考・引用文献

芹沢　長介　林　　謙作　1963　「岩手県蛇王洞洞窟」　石器時代　No7

興野　義一　1967～1973　「大木式土器理解のためにⅠ～Ⅵ」　考古学ジャーナル

大槌町教育委員会　1973　「崎山弁天遺跡」　大槌町教育委員会

岩埋文　1983　「小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書」　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第52集

北上市教育委員会　1983　「滝ノ上遺跡」　北上市文化財調査報告書第33集

宮城県教育委員会　1985　「今熊野遺跡」　宮城県文化財調査報告書第104集

八戸市教育委員会　1987　「田面木平遺跡（1）」　八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集

青森県教育委員会　1988　「表館遺跡Ⅲ」　青森県埋蔵文化財調査報告書第120集

宮古市教育委員会　1989　「千鶏遺跡発掘調査報告書」　宮古市埋蔵文化財調査報告書16

相原　淳・　1990　「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年の考察」　考古学雑誌76巻1号

山埋文　1994　「松原遺跡」　山形県埋蔵文化財センタ-第11集

岩埋文　1995　「上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書」　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集

岩埋文　1996　「牧田貝塚発掘調査報告書」　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第241集

岩埋文　1997　「沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書」　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集

岩埋文　2001　「清水ヶ野遺跡発掘調査報告書」　㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第351集

平凡社　1998　「古伊万里」　日本のこころ63　別冊太陽

写 真 図 版

東側上空から

真上から

写真図版１　航空写真

BVA区　調査前風景

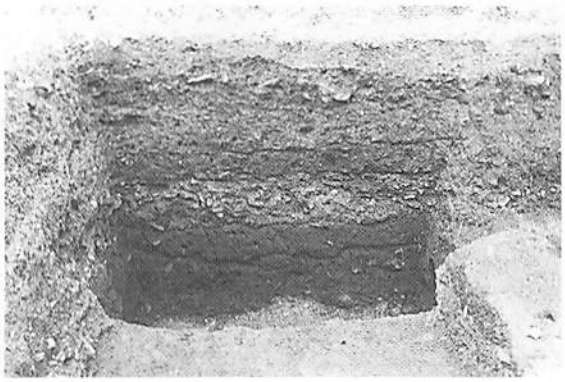
包含層１　調査前風景

ⅢA区　完掘状況

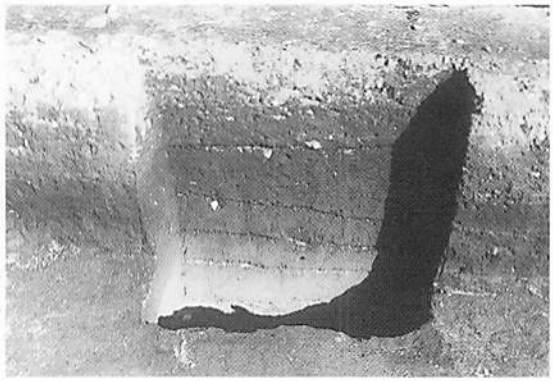
ⅣA～VA区　調査中

ⅡA区　検出炭ガマ（昭和30年代）

ⅠA区　層序

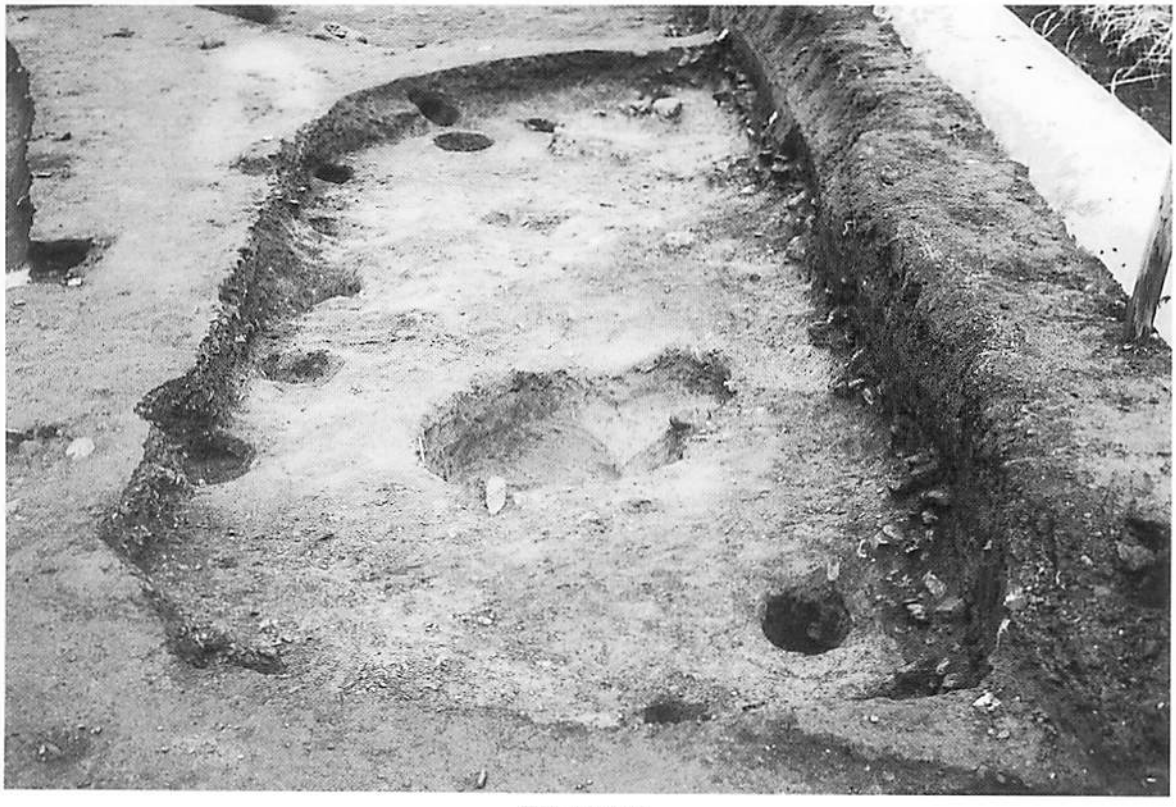


ⅠA区（平成11年AⅢ区）　層序



ⅤⅠ区　層序

写真図版２　基本土層　その他



平面（南から）

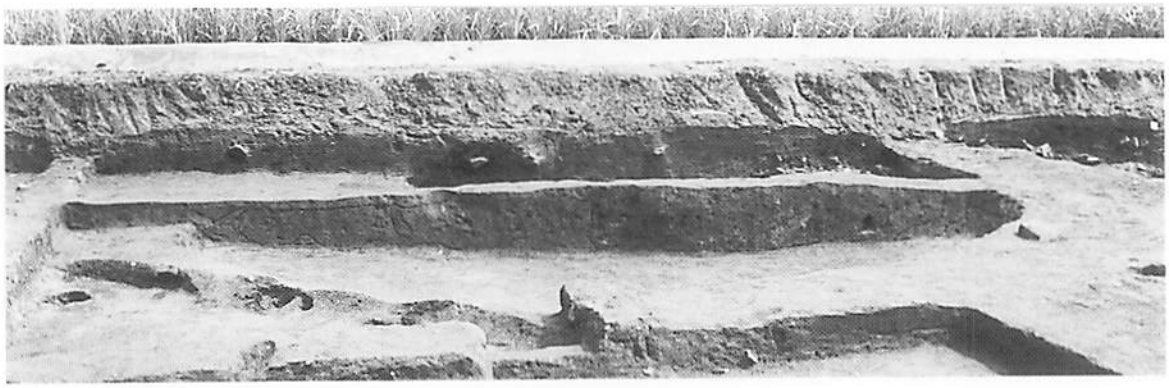
断面（N－S）

断面（E－W）

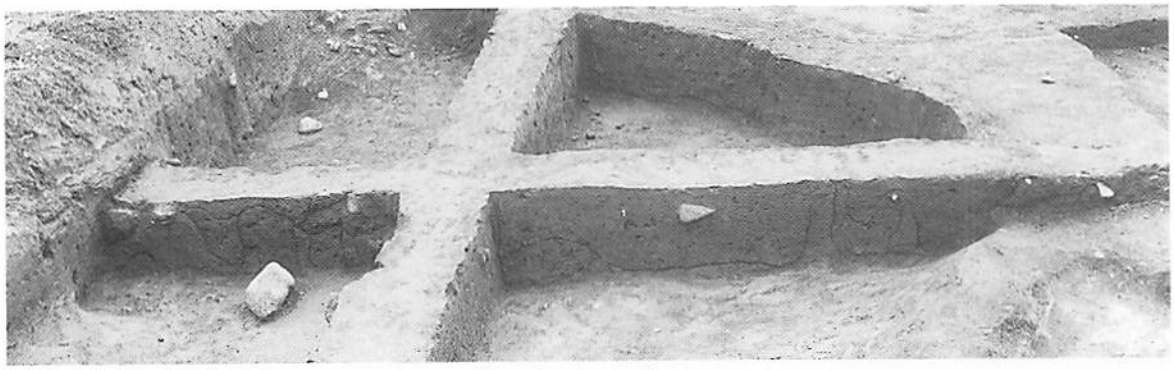
P１断面

写真図版３　ＲＡ０１

平面（北から）



断面（N－S）



断面（W－E）

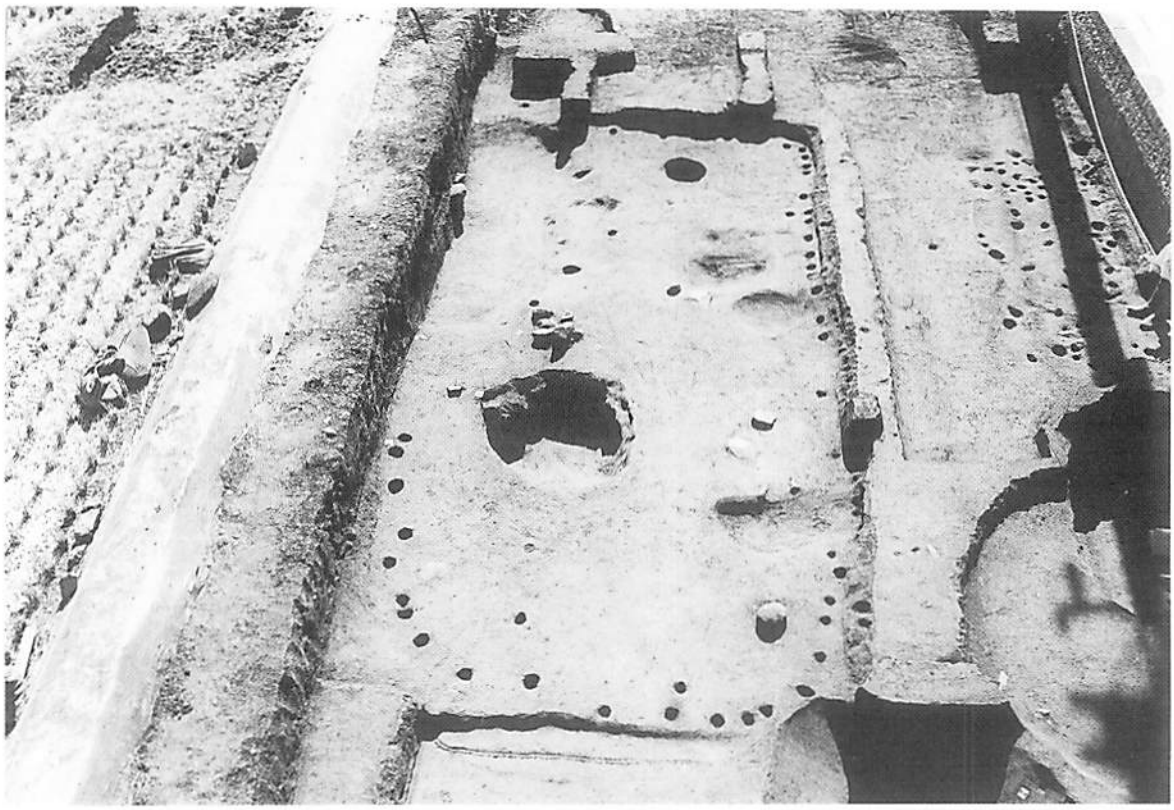
写真図版４　ＲＡ０２

平面（南から）

断面（S－N）

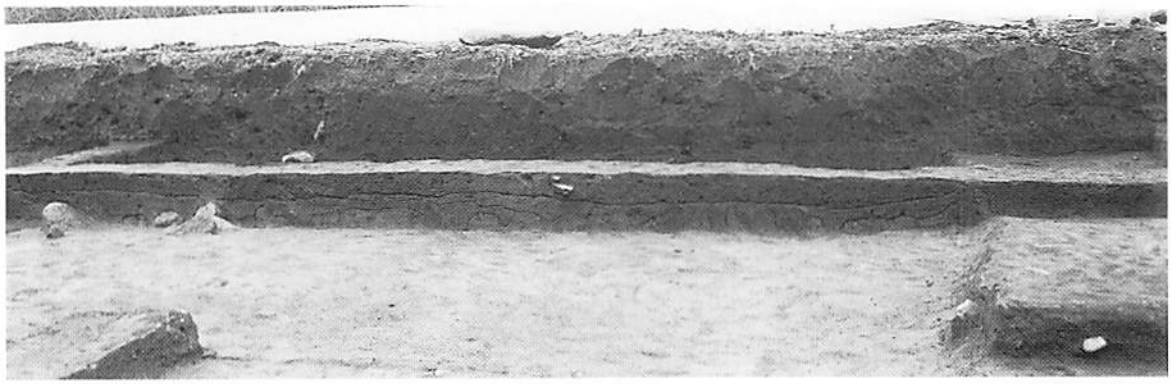
断面（W－E）

写真図版５　ＲＡ０３



平面（北から）

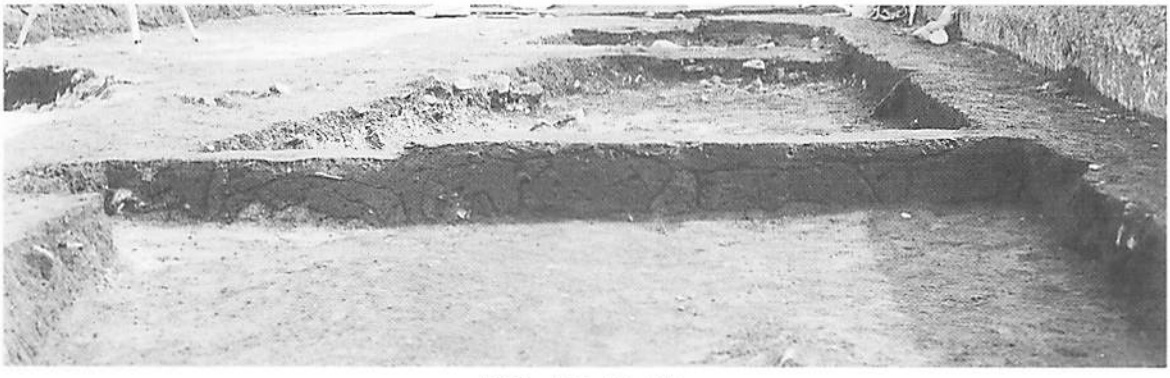
断面（E－W）



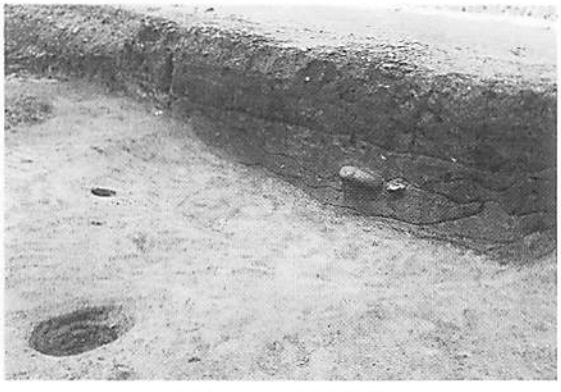
断面（N－S）

写真図版6　RA04

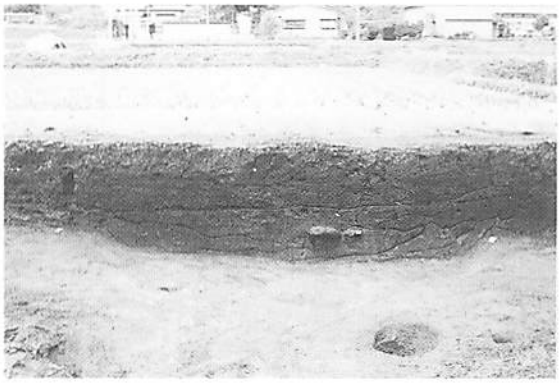
RA05　平面（南から）



RA05　断面（E－W）



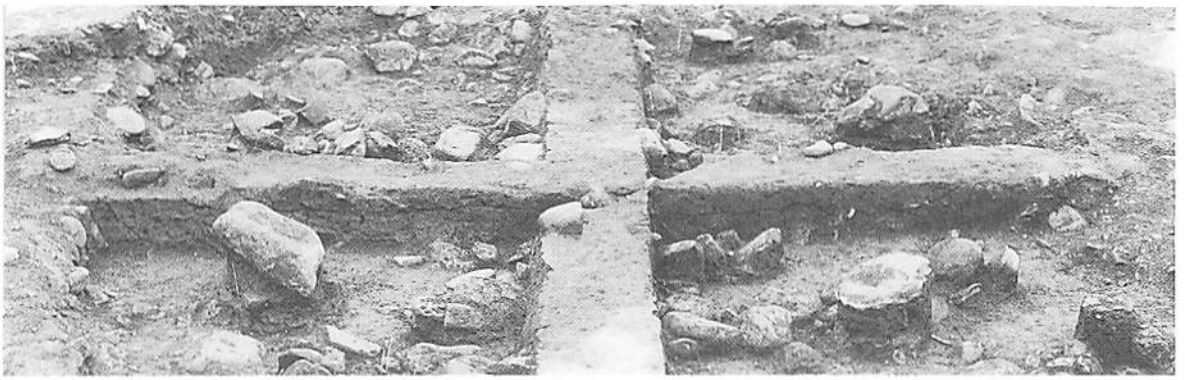
RA06　平面（南西から）



RA06　断面（N－S）

写真図版７　ＲＡ０５・ＲＡ０６

平面（西から）



断面（N－S）

1号炉跡　平面

断　　面

写真図版8　ＲＡ０７

RA07床面遺物出土

A

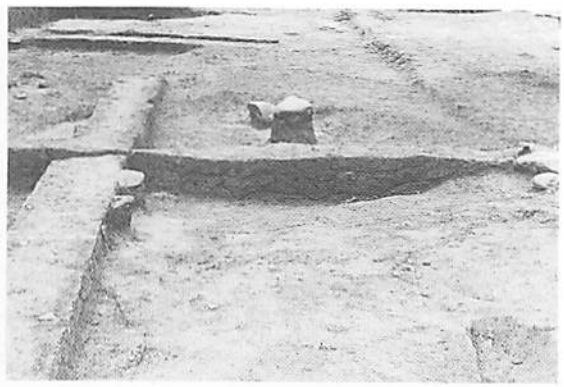
B

壁際出土

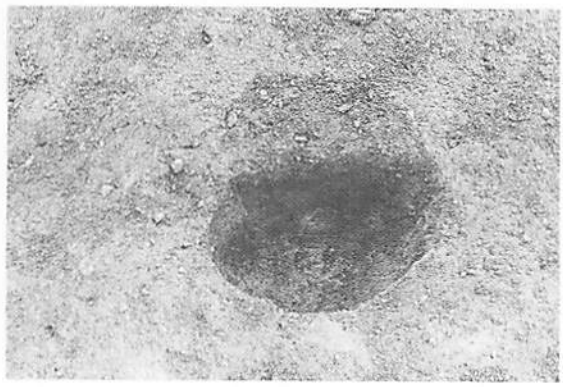
床面北出土

写真図版９　ＲＡ０７遺物出土状況

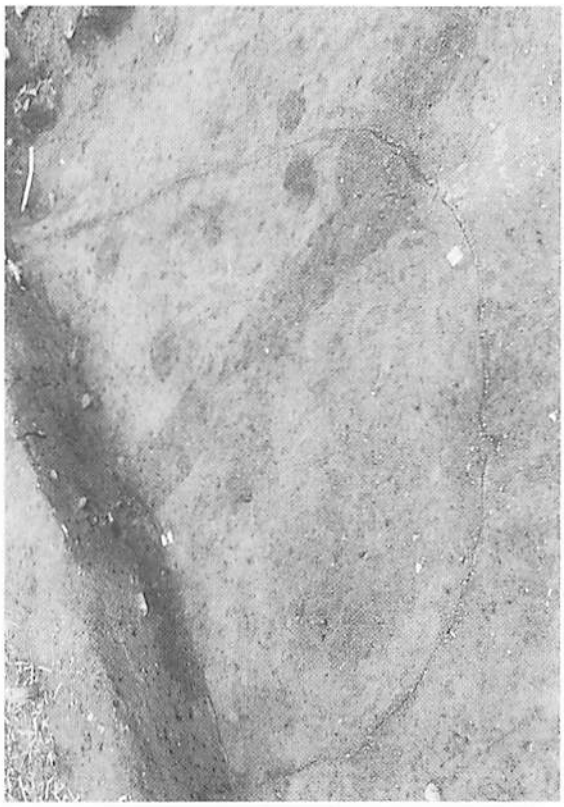
RA08平面　←北西



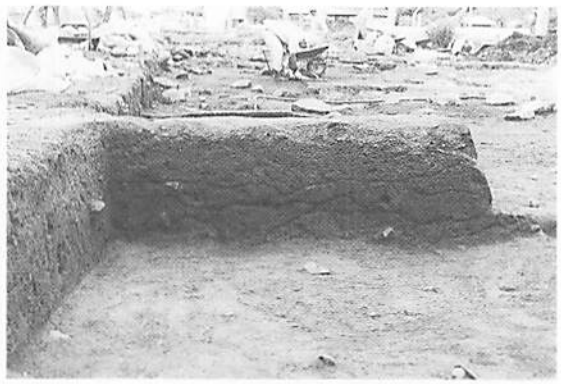
断面（E－W）



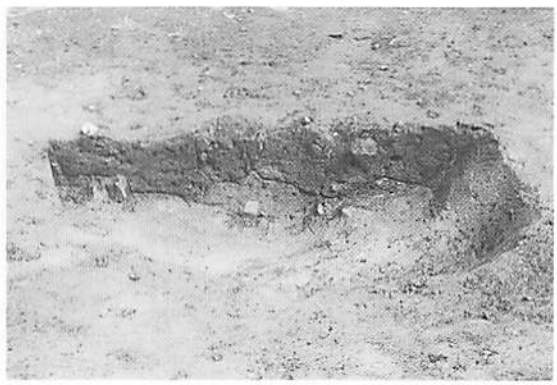
P１断面（W→）



RA10平面　←北西



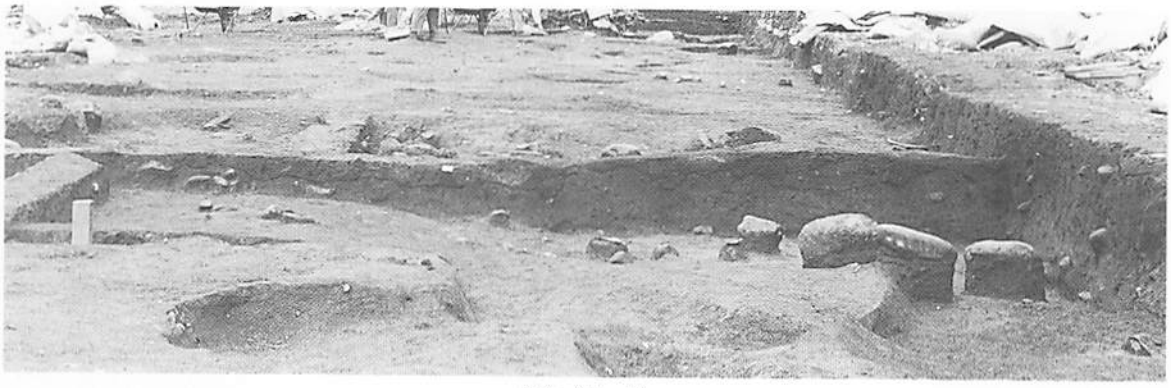
断面（E－W）



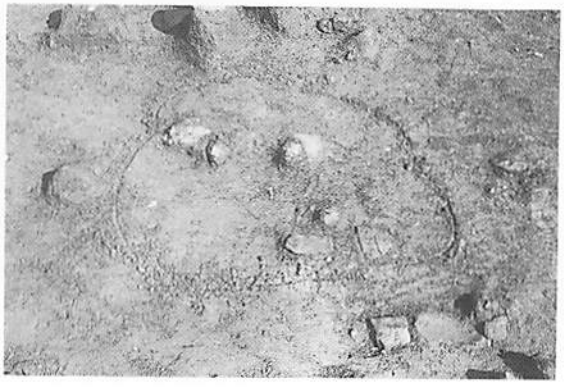
P１断面

写真図版10　ＲＡ０８・ＲＡ10

平面（南西から）



断面（W－E）



炉跡平面

遺物出土状況

写真図版11　ＲＡ０９

ＲＡ11　平面　←北西

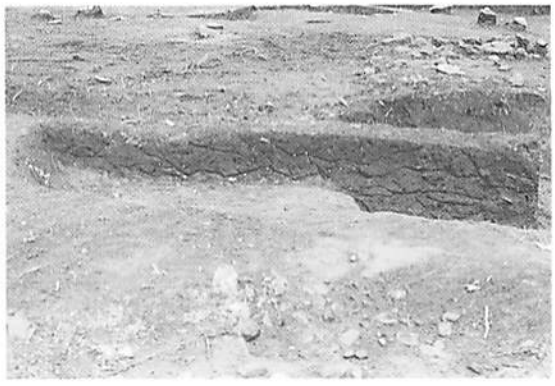
断面（W－E）

Ｐ１断面

ＲＡ12　平面　←北西

写真図版12　ＲＡ11・12

ＲＡ13　平面（完掘）←北西



断面（Ｎ－Ｓ）

ＰＰ10　断面

ＲＡ14平面（北西から）

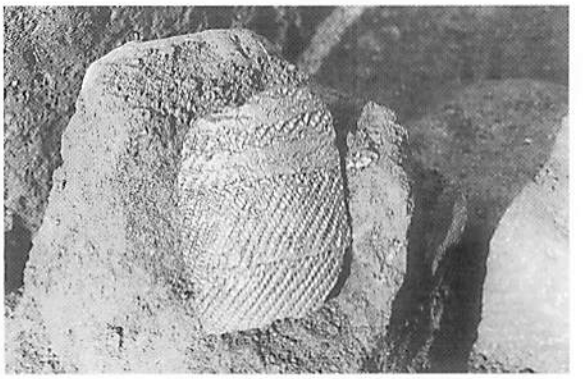
写真図版13　ＲＡ13　ＲＡ14

ＲＡ15　近隣の土坑と平面　西から

ＲＡ16　平面完掘　←北東

断面（Ｎ－Ｓ）

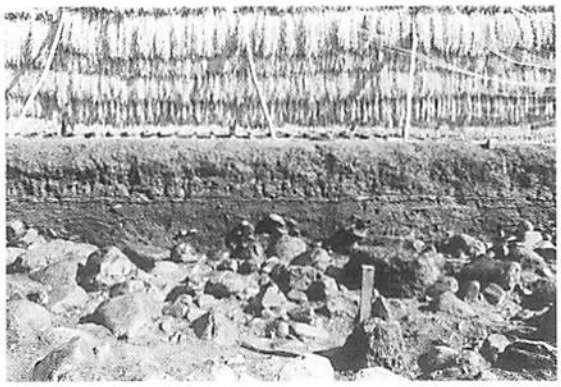
焼土　断面



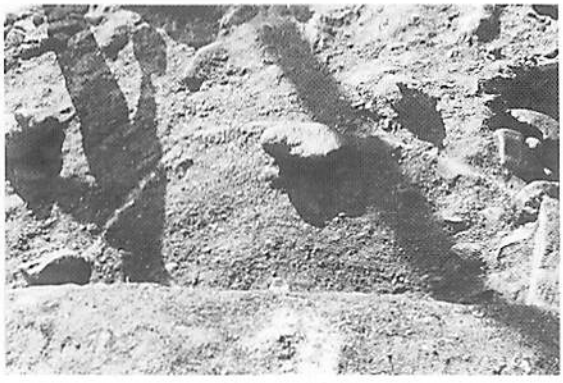
土器出土状況

写真図版14　ＲＡ15・16

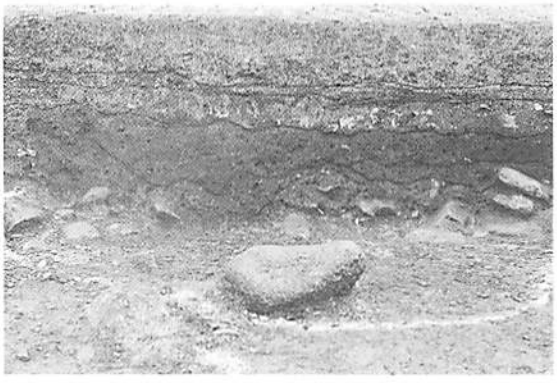
ＲＡ17　平面　完掘（西から）



断面（Ｎ－Ｓ）



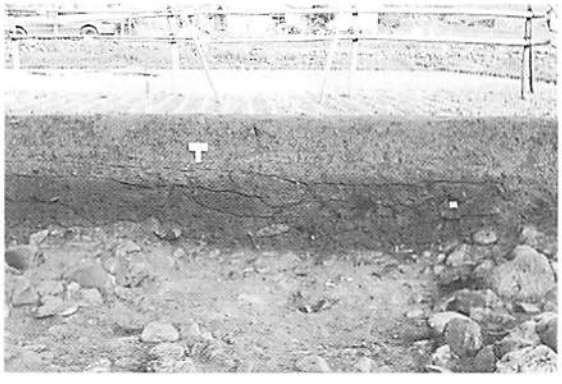
ＲＡ18　平面　完掘（東から）



断面（Ｎ－Ｓ）

ＲＡ19　平面（北東から）

断　面　①



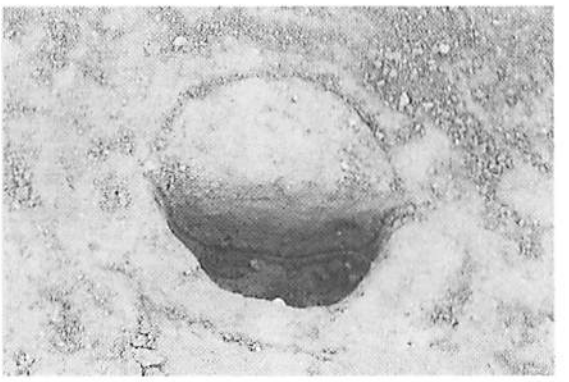
断　面　②

写真図版15　ＲＡ17・18・19

平面（北から）

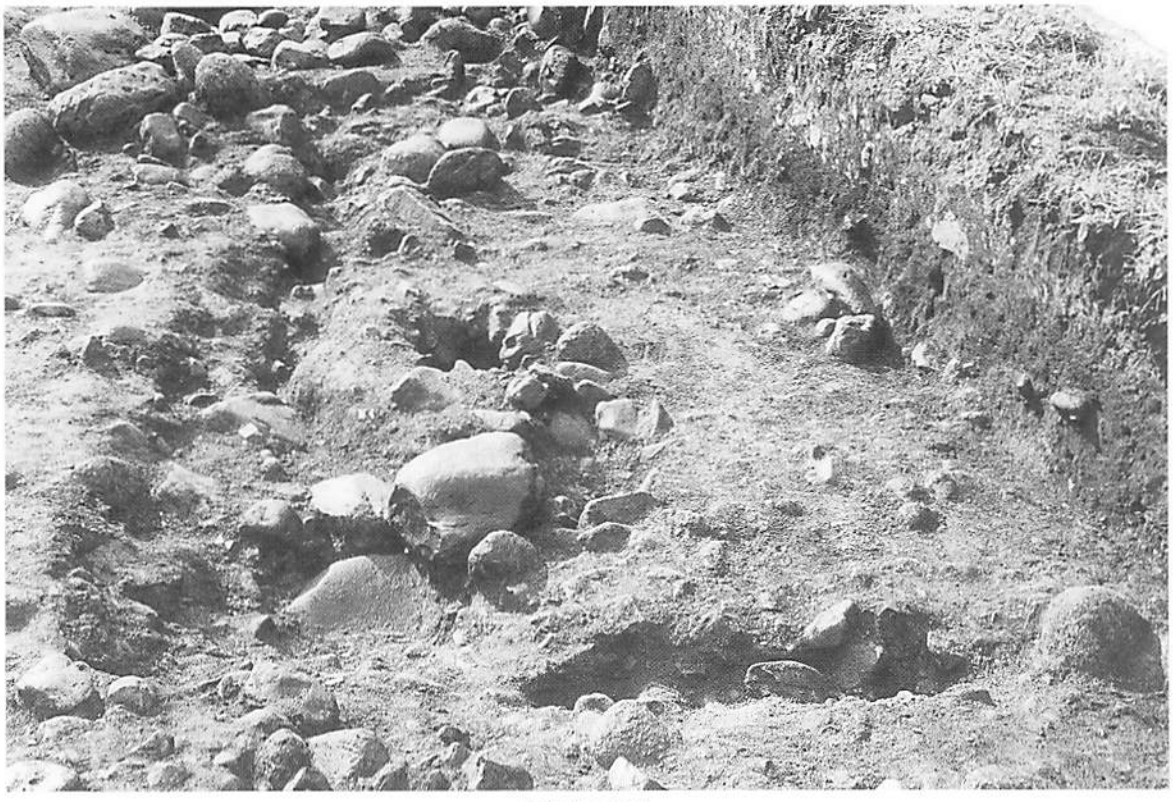
断面（N－S）

炉跡平面



P10断面

写真図版16　RA20



平面（北から）

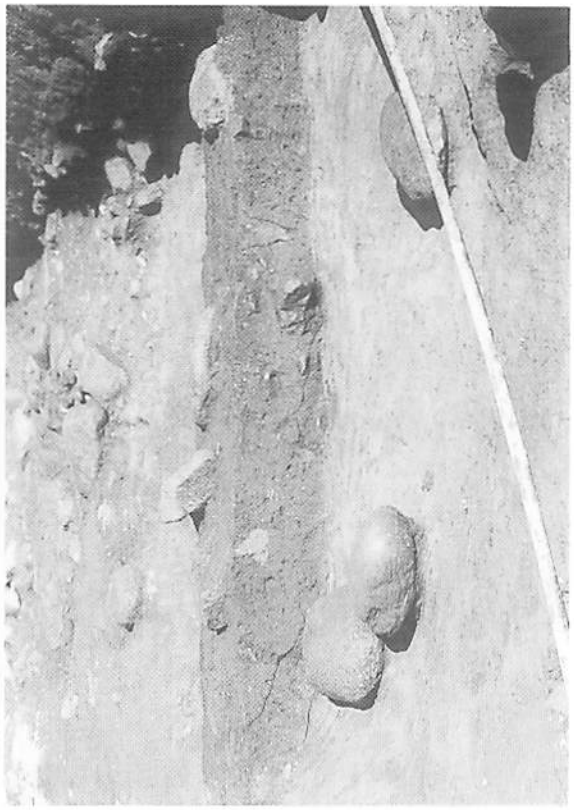
断面（S－N）

断面（E－W）

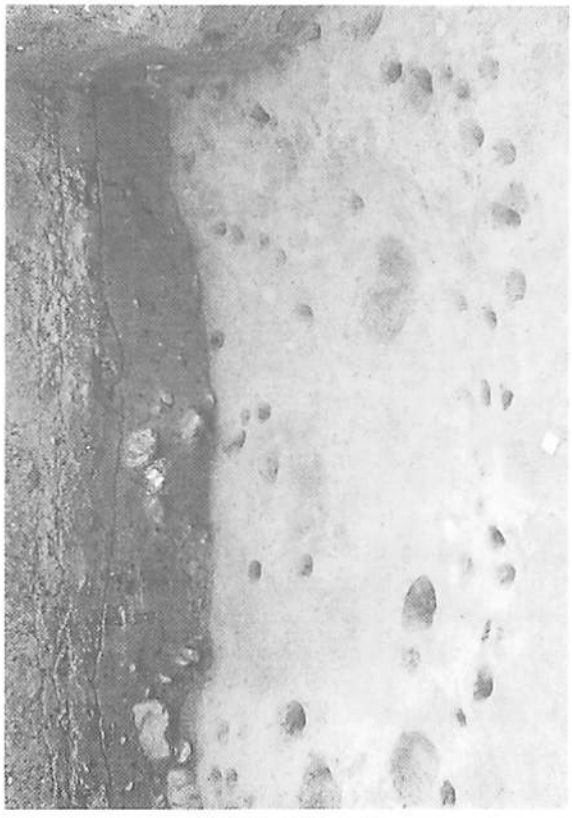
壁溝断面

写真図版17　RA21

ＲＡ22　平面　←西



断面（Ｗ－Ｅ）←南

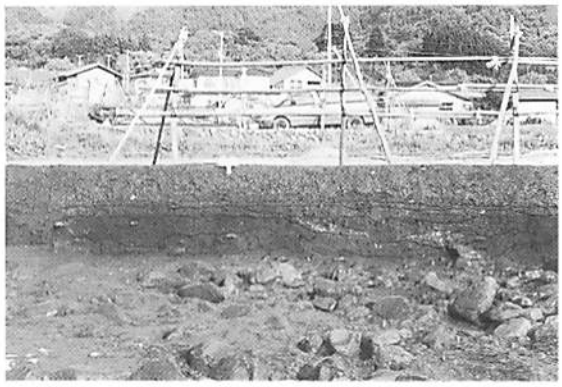


ＲＡ24　平面　←西

断面（Ｎ－Ｓ）←西

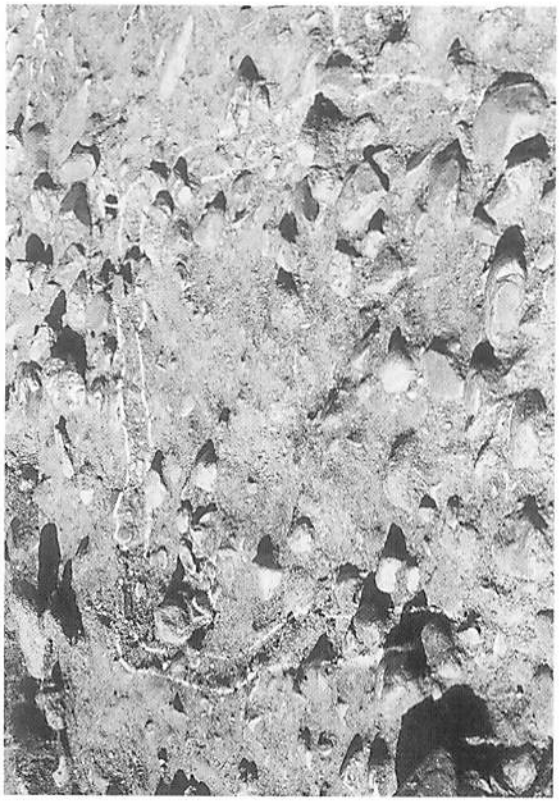
写真図版18　ＲＡ22・24

ＲＡ23　平面（北から）



断面（Ｎ－Ｓ）

断面（Ｗ－Ｅ）



ＲＡ25　平面　←東

断面（Ｎ－Ｓ）

断面（左側の黒色土）

写真図版19　ＲＡ23・25

ＲＡ26　平面　←西

断面（Ｎ－Ｓ）

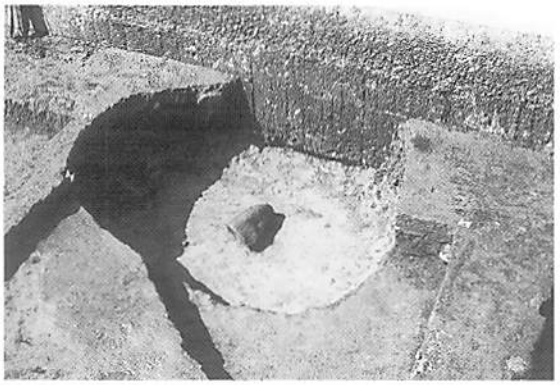
Ｐ１断面

ＲＡ27　平面　←南東

断面（北西側の壁）

壁溝？　断面

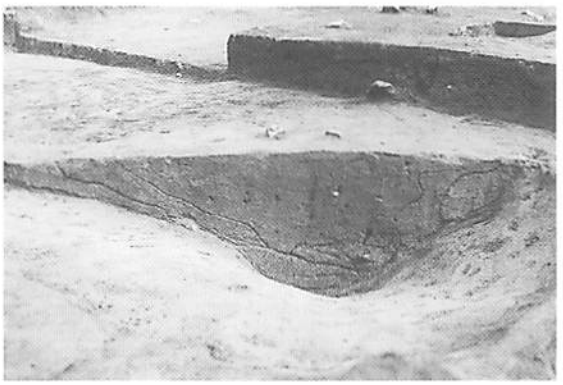
写真図版20　ＲＡ26・27



R D01　平面

断　面

R D02　平面



断　面

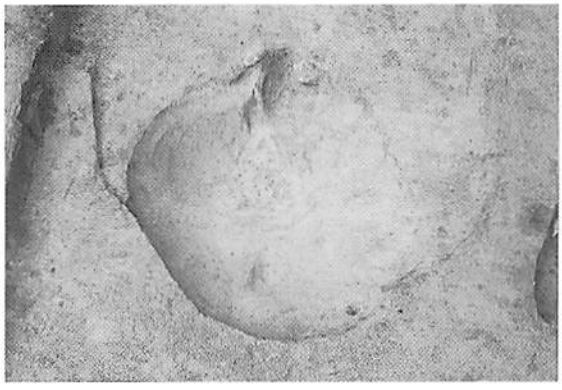
R D04　平面

断　面

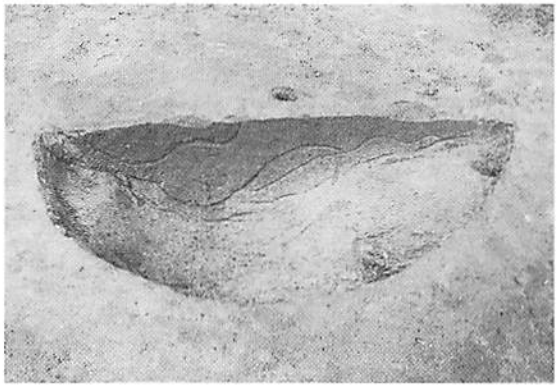
R D06　平面

断　面

写真図版21　RD01・02・04・06

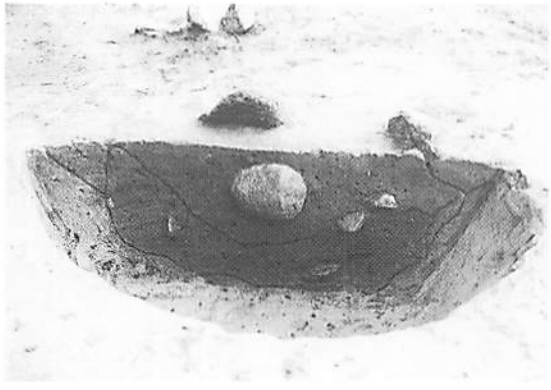


ＲＤ07　平面

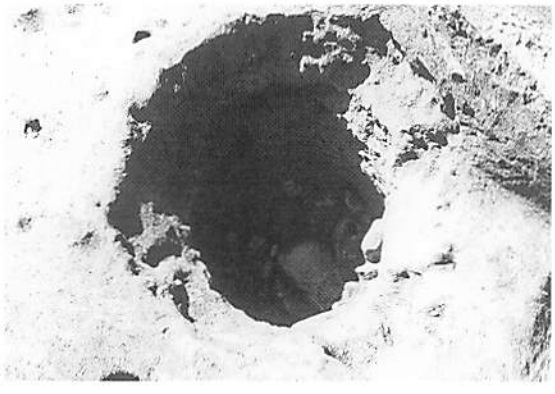


断　面

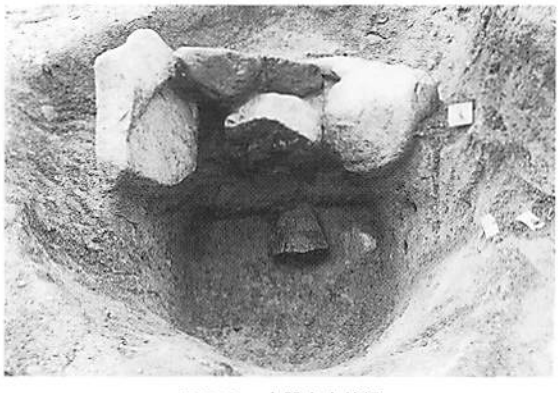
ＲＤ08　平面



断　面



ＲＤ10　完掘



ＲＤ10　土器出土状況

断　面

写真図版22　ＲＤ07・08・10

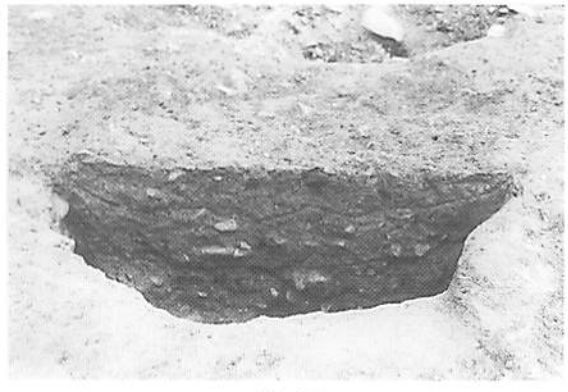
RD13　平面

断　面

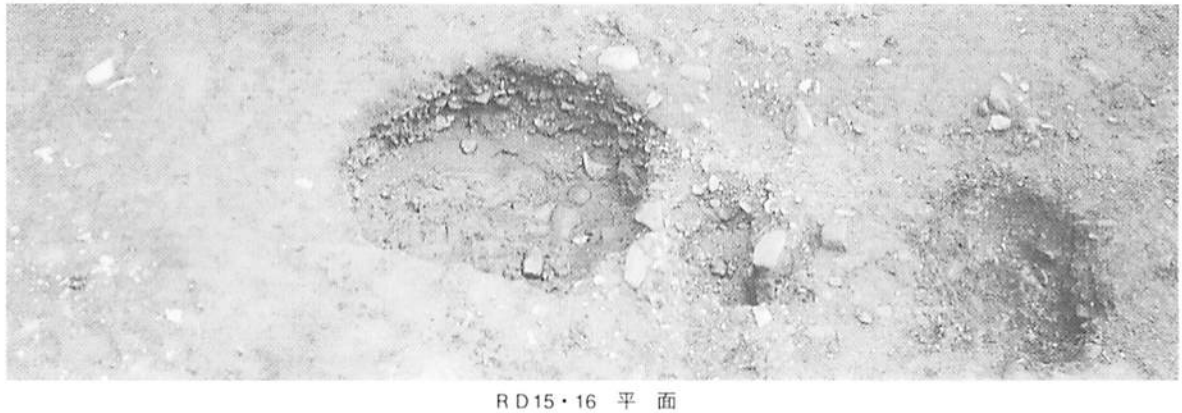
RD14　平面

断　面

RD15　平面



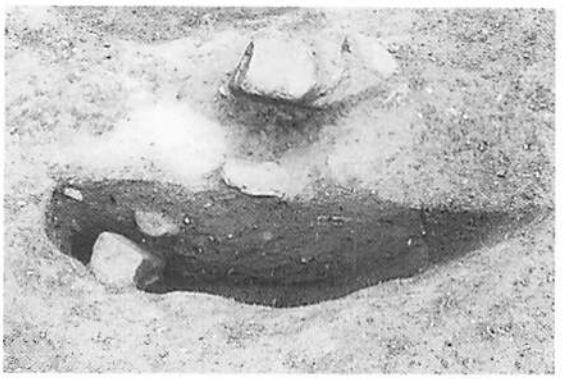
断　面



RD15・16　平　面

写真図版23　RD13～16

ＲＤ17　平面



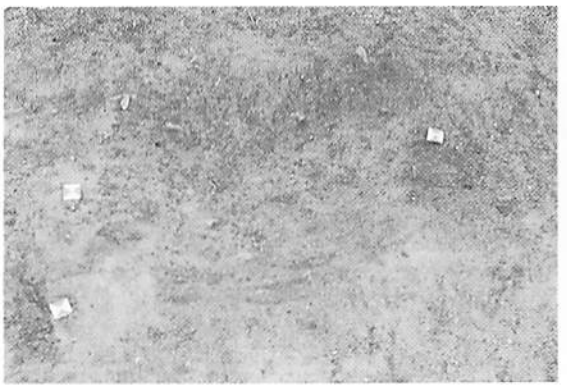
断　面

ＲＤ18　平面

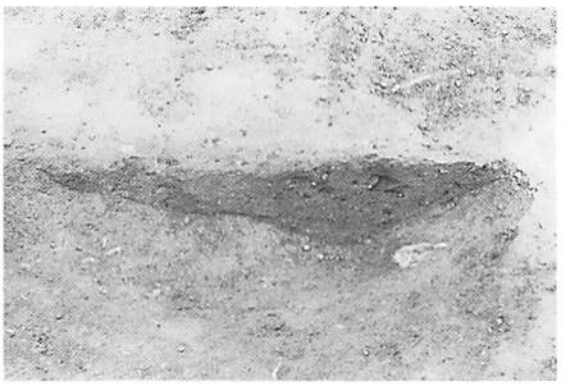
断　面

ＲＤ19　平面

断　面



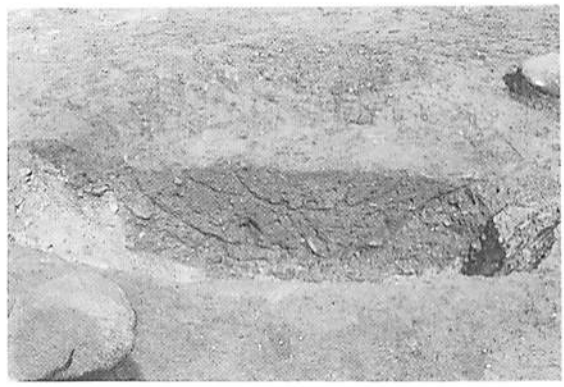
ＲＤ20　平面



断　面

写真図版24　ＲＤ17～20

R D21　平面



断　面

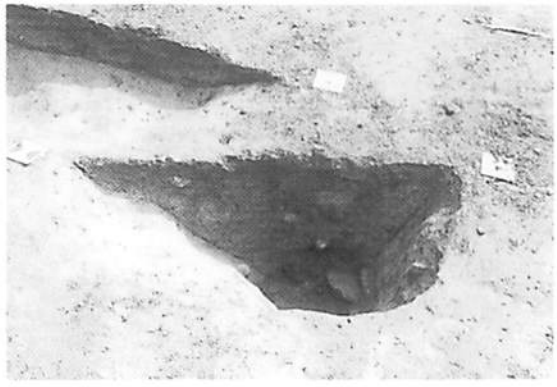
R D22　平面

断　面

R D23　平面

断　面

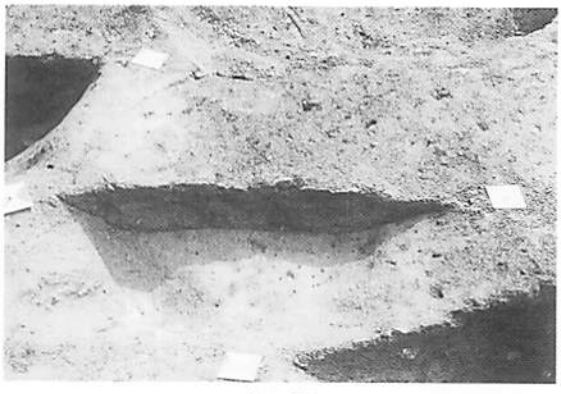
R D24　平面



断　面

写真図版25　R D21～24

R D25　平面



断　面

R D26　平面

断　面

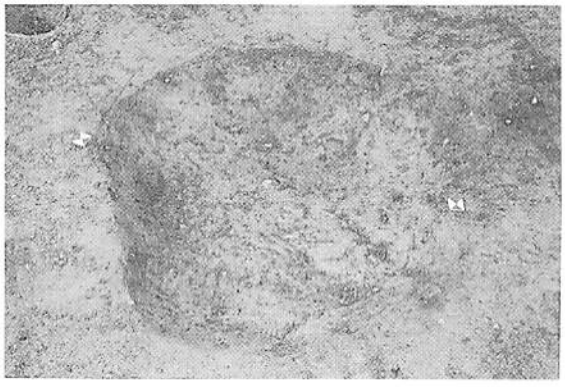
R D27　平面

断　面

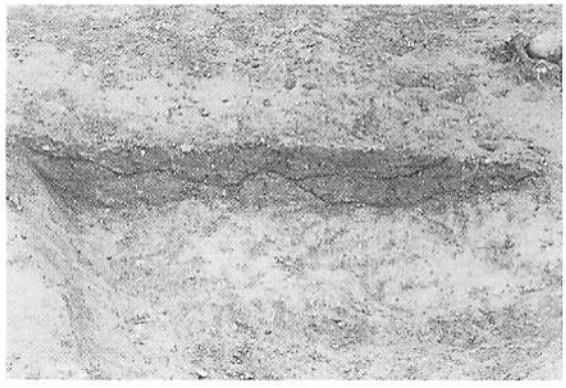
R D28　平面

断　面

写真図版26　R D25～28

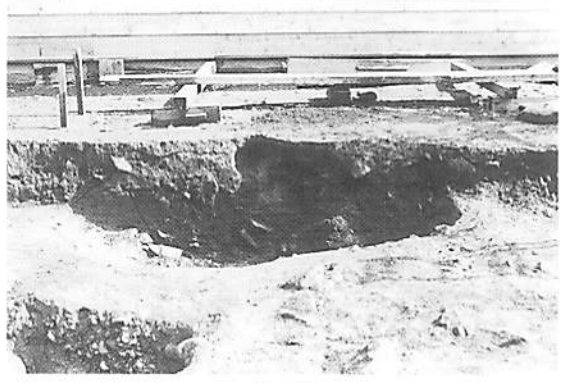


ＲＤ29　平面



断　面

ＲＤ30　平面

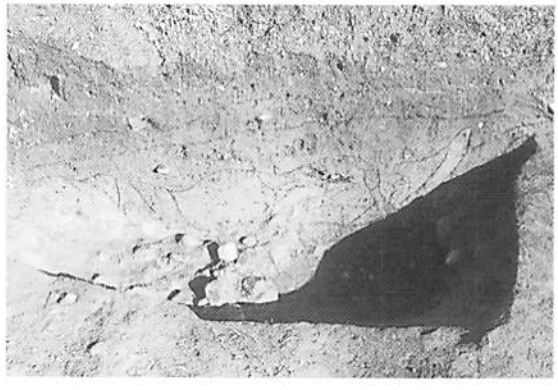


断　面

ＲＤ31　平面

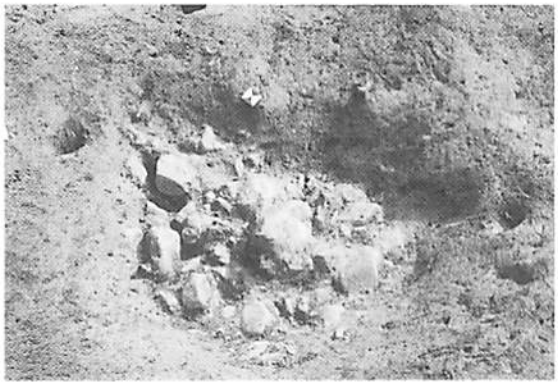
断　面

ＲＤ32　平面

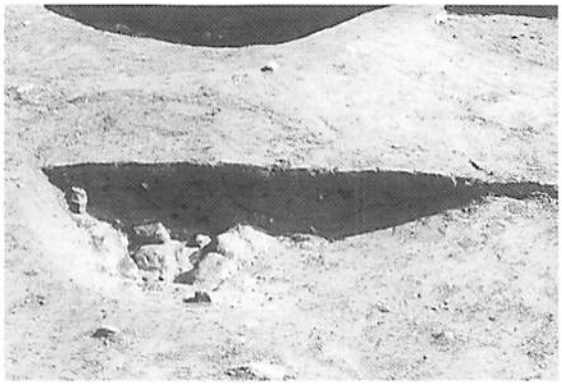


断　面

写真図版27　ＲＤ29～32



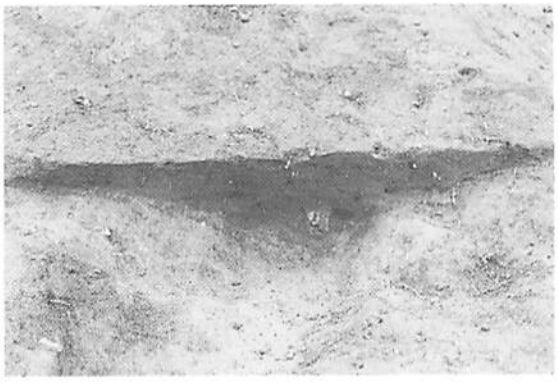
ＲＤ33　平面



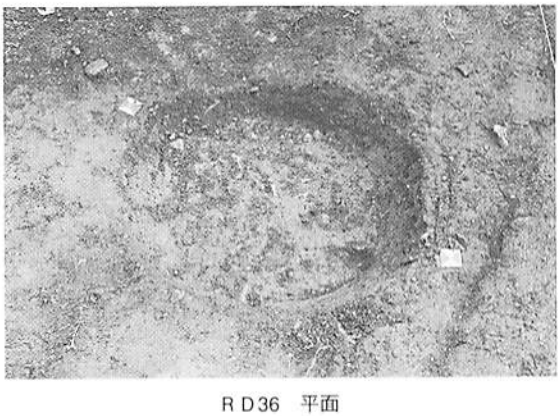
断　面

ＲＤ34　平面

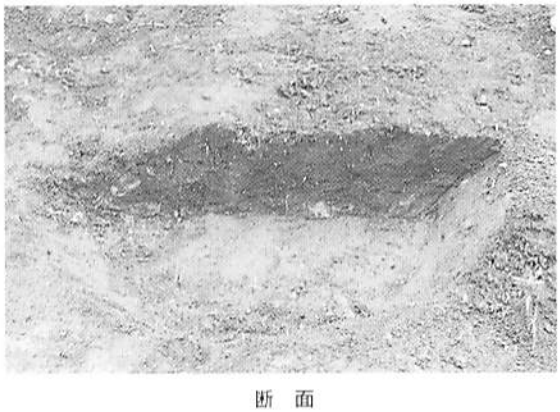
断　面



ＲＤ35　断面



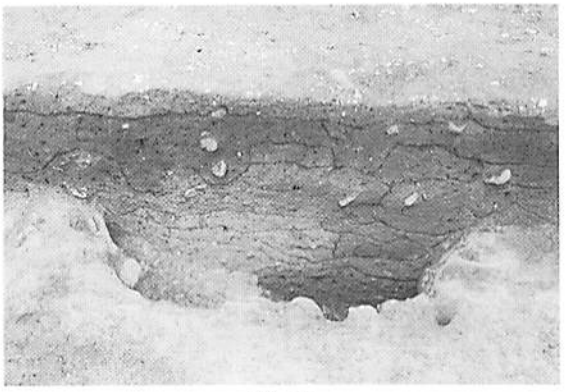
ＲＤ36　平面



断　面

写真図版28　ＲＤ33～36

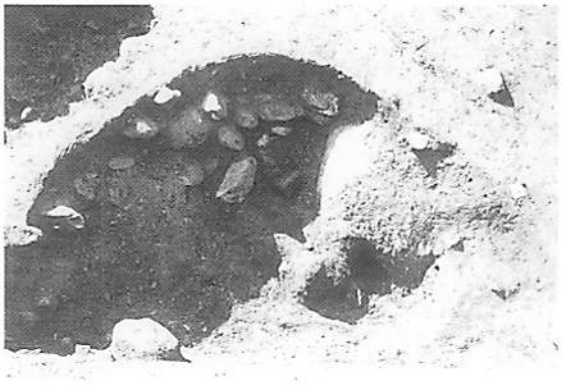
ＲＤ38　平面



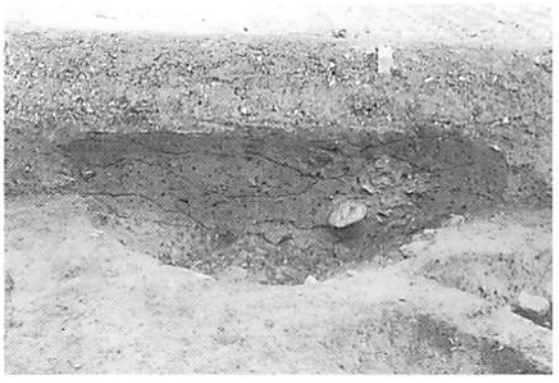
断　面

ＲＡ09・ＲＤ38～39の断面

ＲＤ39　平面

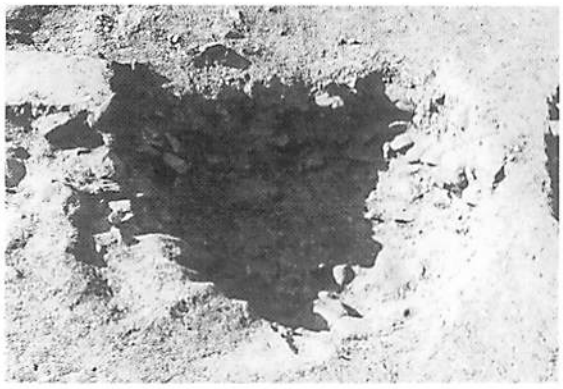


ＲＤ40　平面

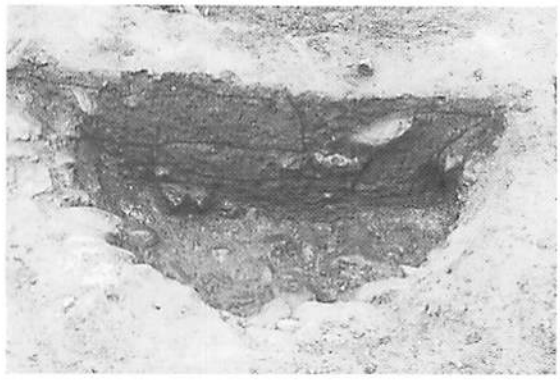


断　面

写真図版29　ＲＤ38～40（ＲＤ37はなし）



R D41　平面



断　面

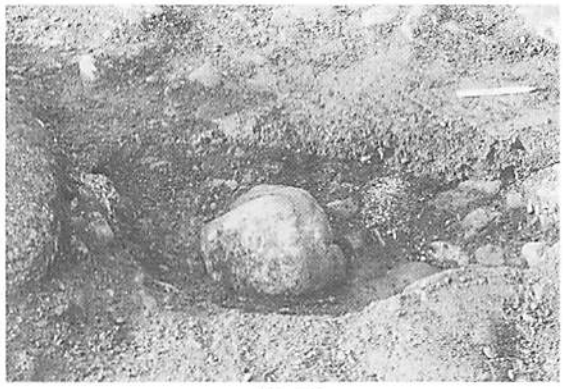
R D42　平面

断　面

R D43　平面

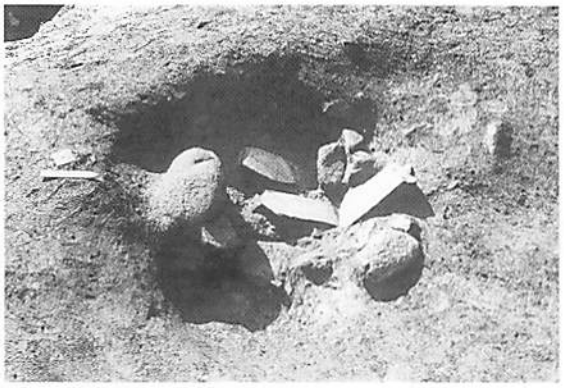
断　面

R D44　平面



断　面

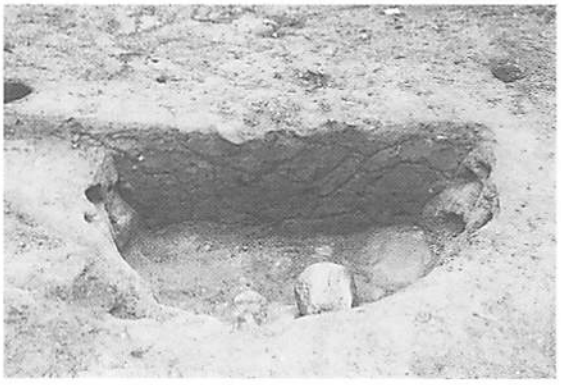
写真図版30　R D41～44



R D45　礫　検出1

R D45　礫　検出2

R D46　平面



断　面

R D47～50　平面

R D47　断面

写真図版31　R D45～50

包含層１　完掘状況

断面（W－S）

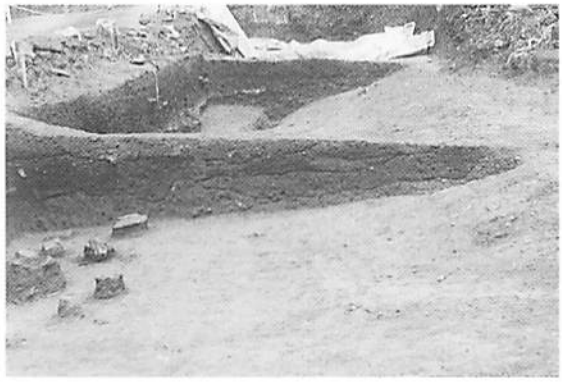
断面（W－E）

土器出土状況

土器出土状況

写真図版32　遺物包含層１

包含層２完掘状況



断面（W－Eの南）

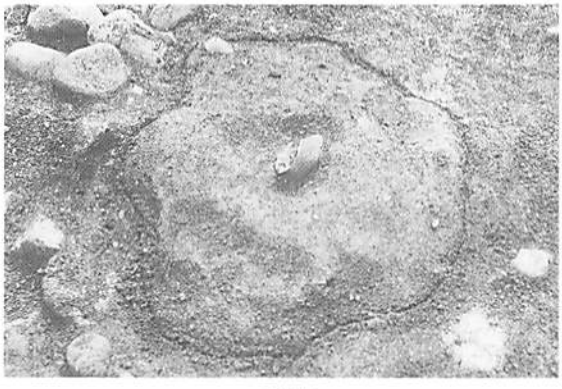
断面（W－Eの北）

土器出土状況

土器出土状況

写真図版33　遺物包含層２

近世の焼土（鍛冶）と炭化物



1号焼土

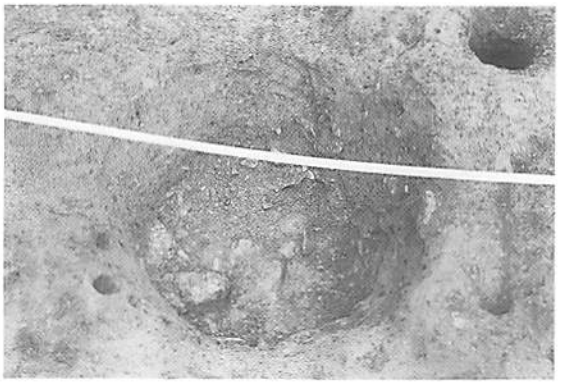
2号焼土と5号炭化物

5号焼土

断　面

写真図版34　近世の焼土

57～59号土坑



5号焼土下土坑

36号土坑

断　面

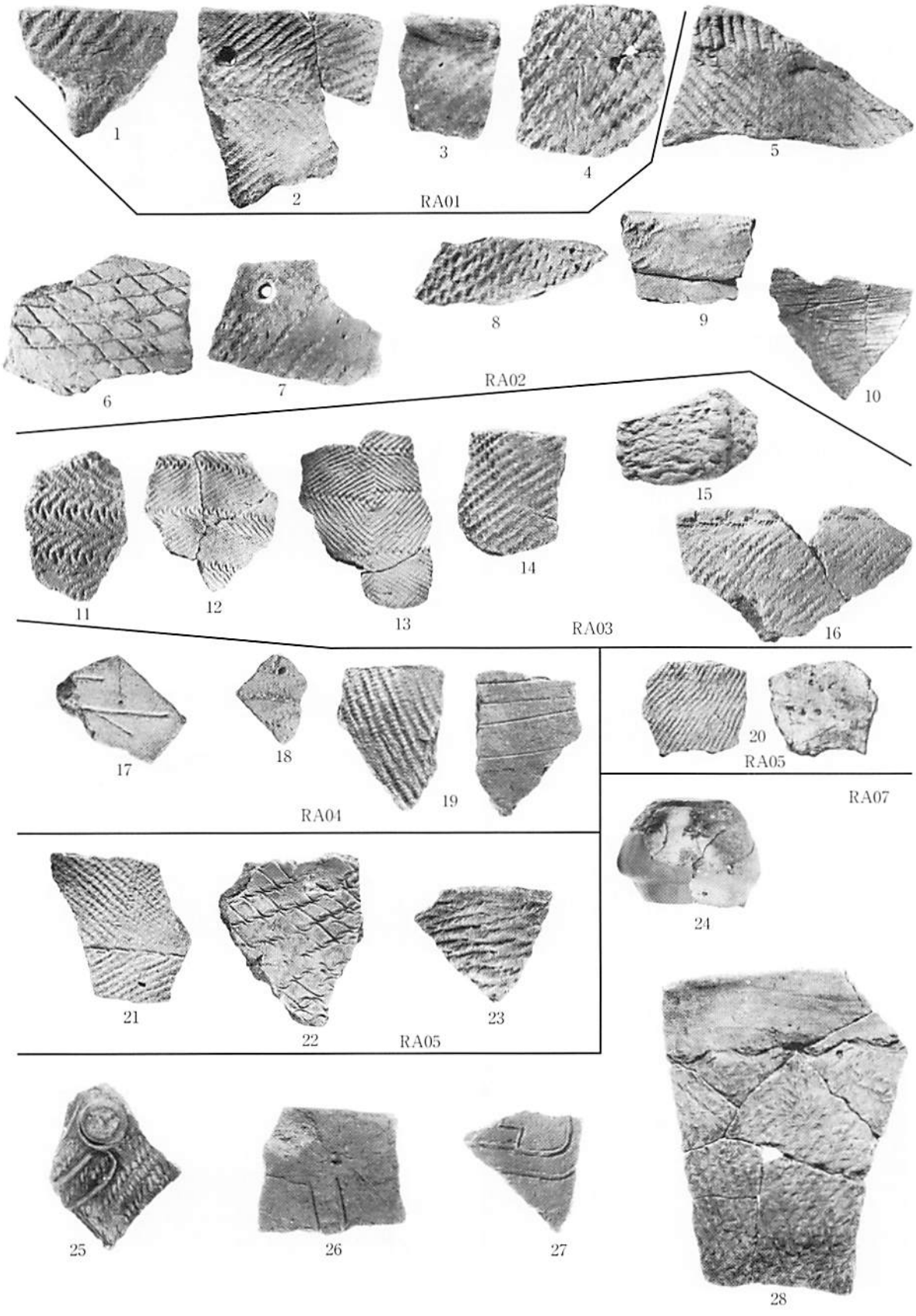
37号土坑

断　面

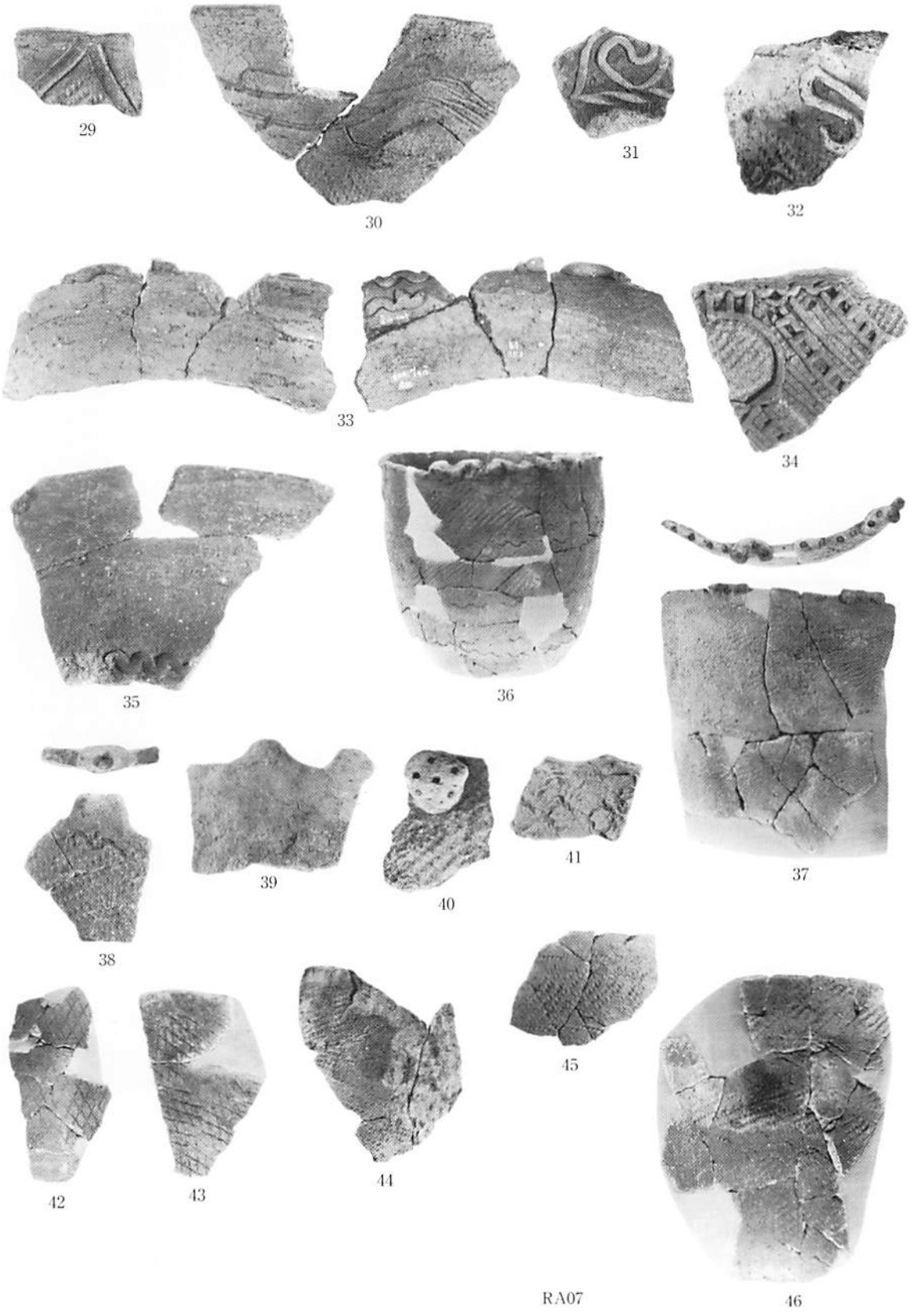
時代不明の掘立柱建物跡

40号土坑断面

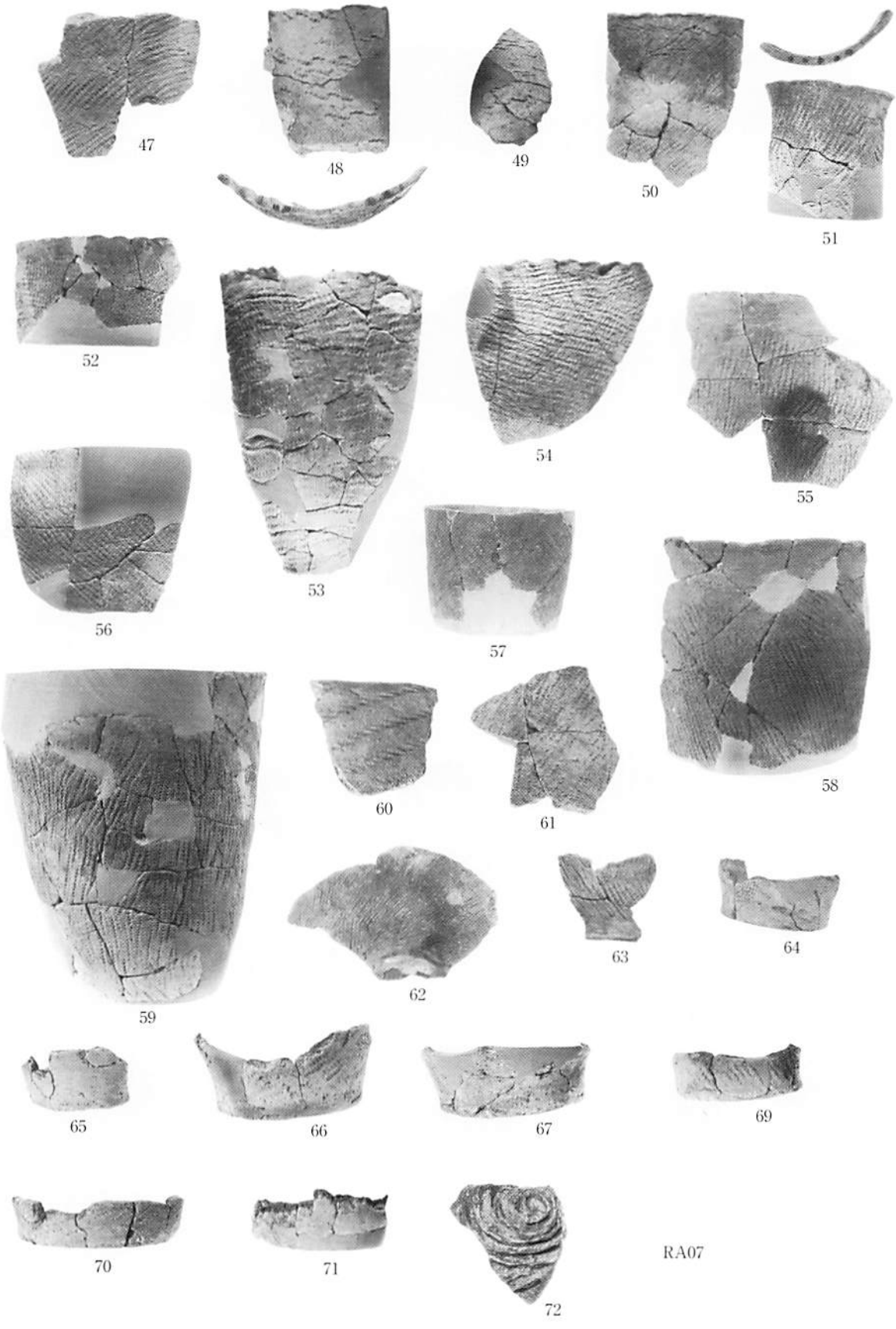
写真図版35　近世の土坑　掘立柱建物跡



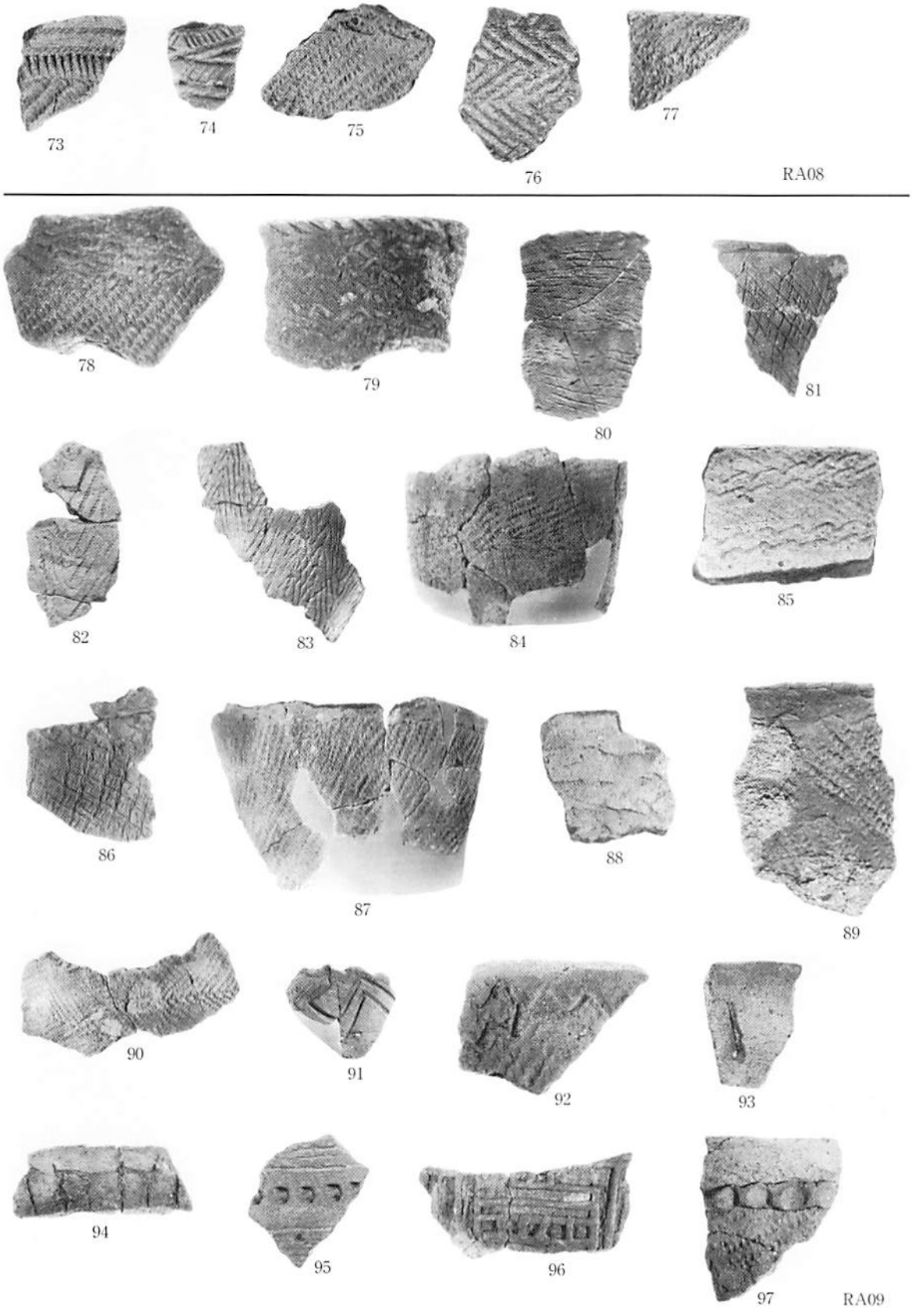
写真図版36　出土遺物（縄文土器 1）



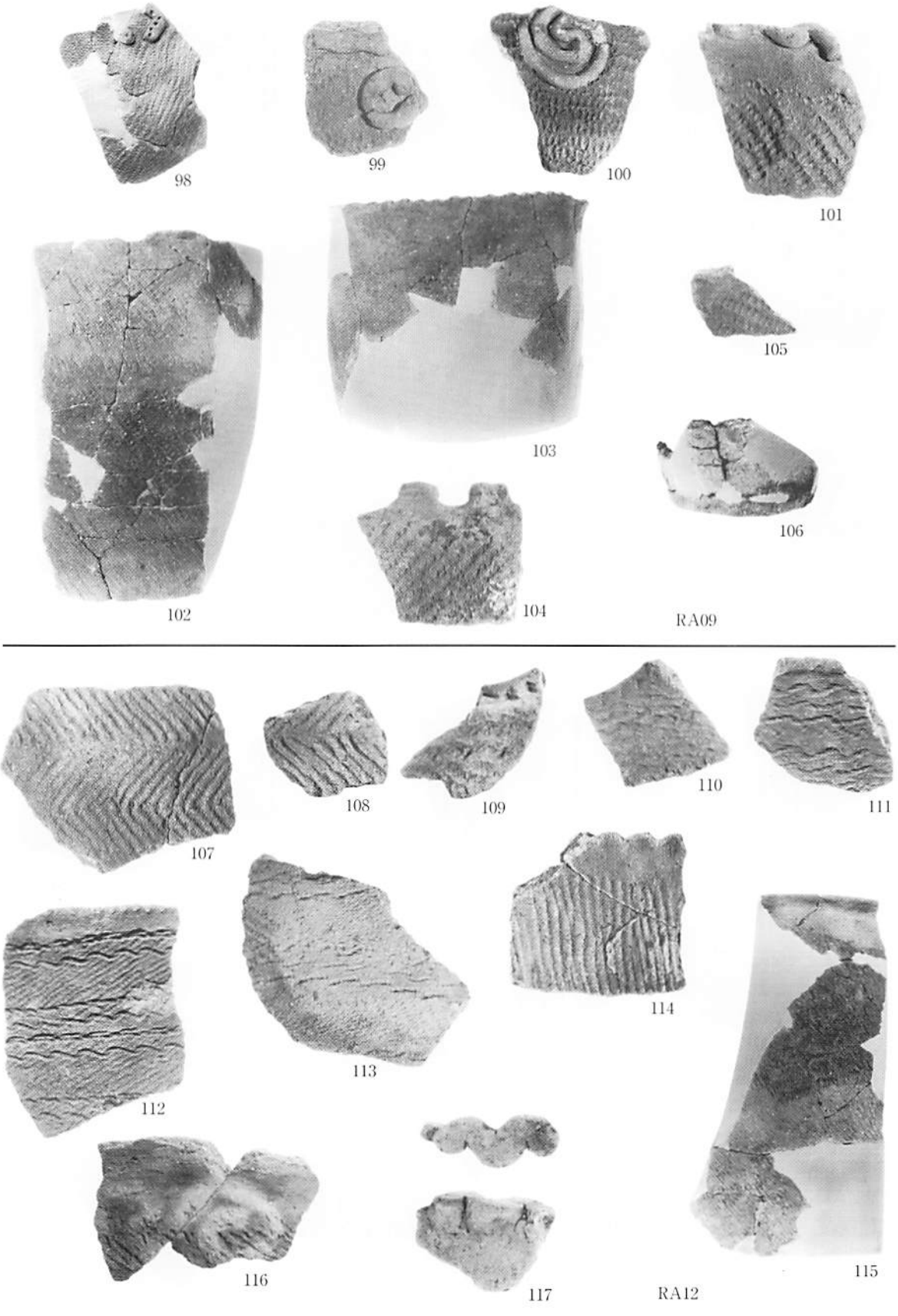
写真図版37　出土遺物（縄文土器 2）



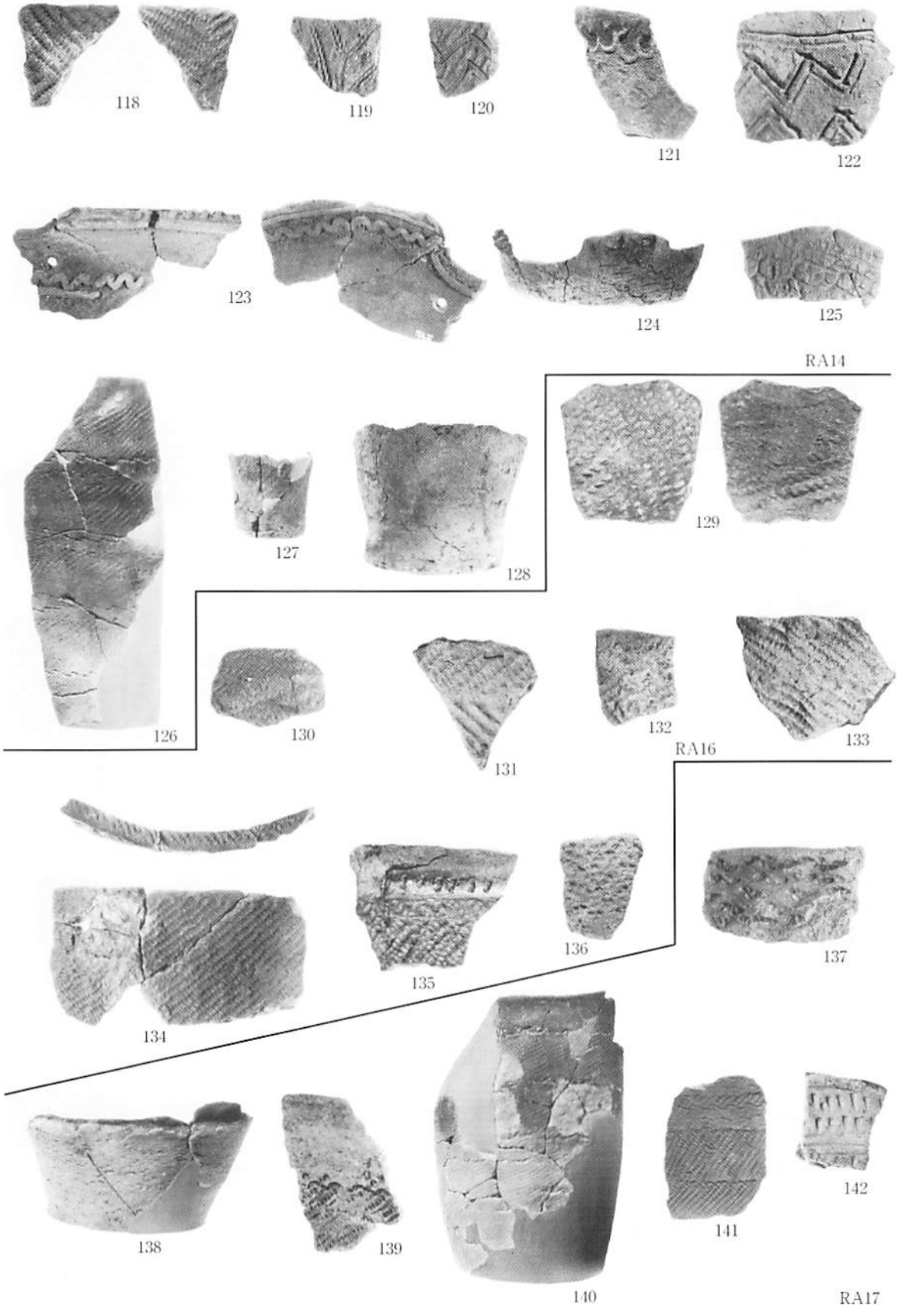
写真図版38　出土遺物（縄文土器 3）



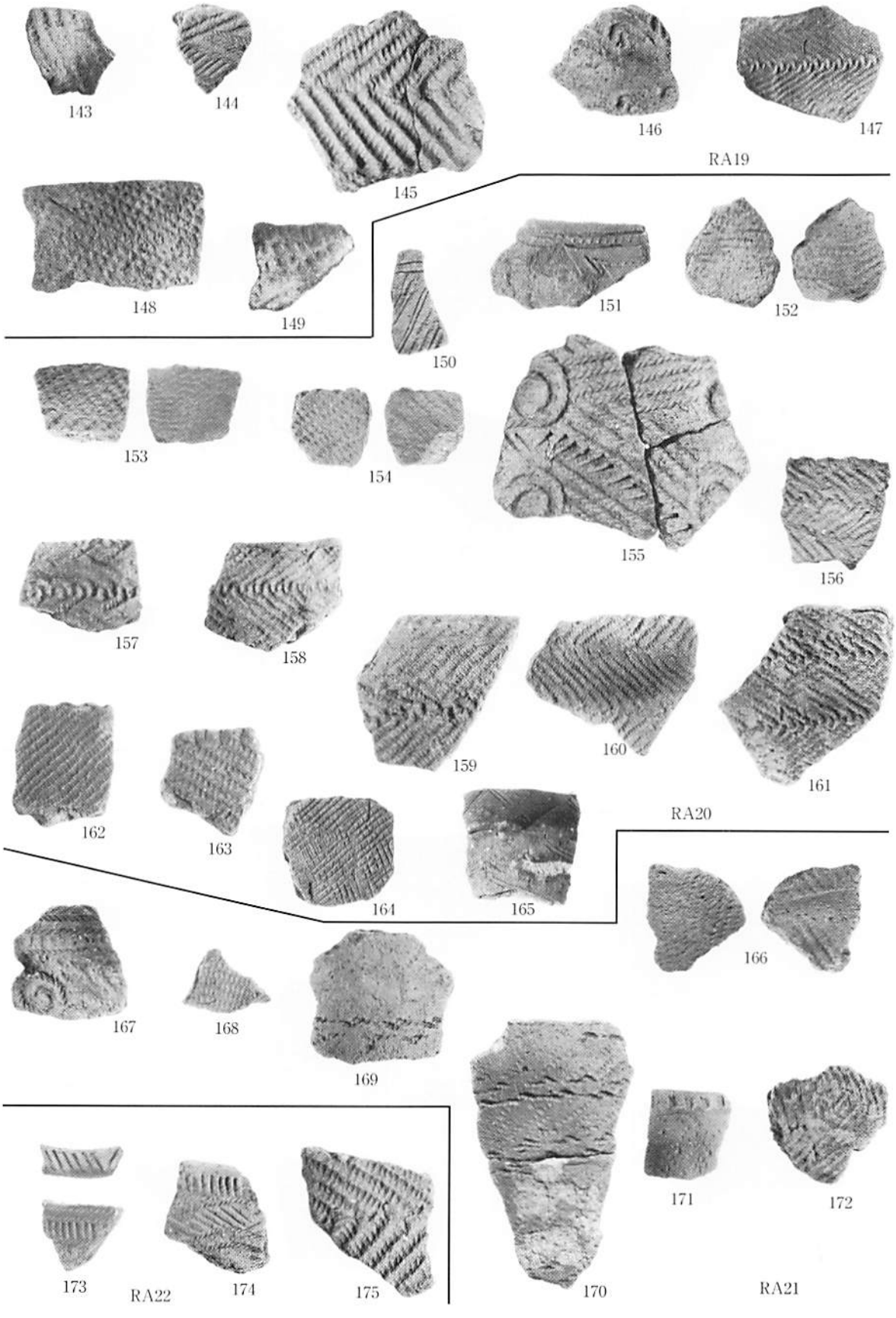
写真図版39　出土遺物（縄文土器 4）



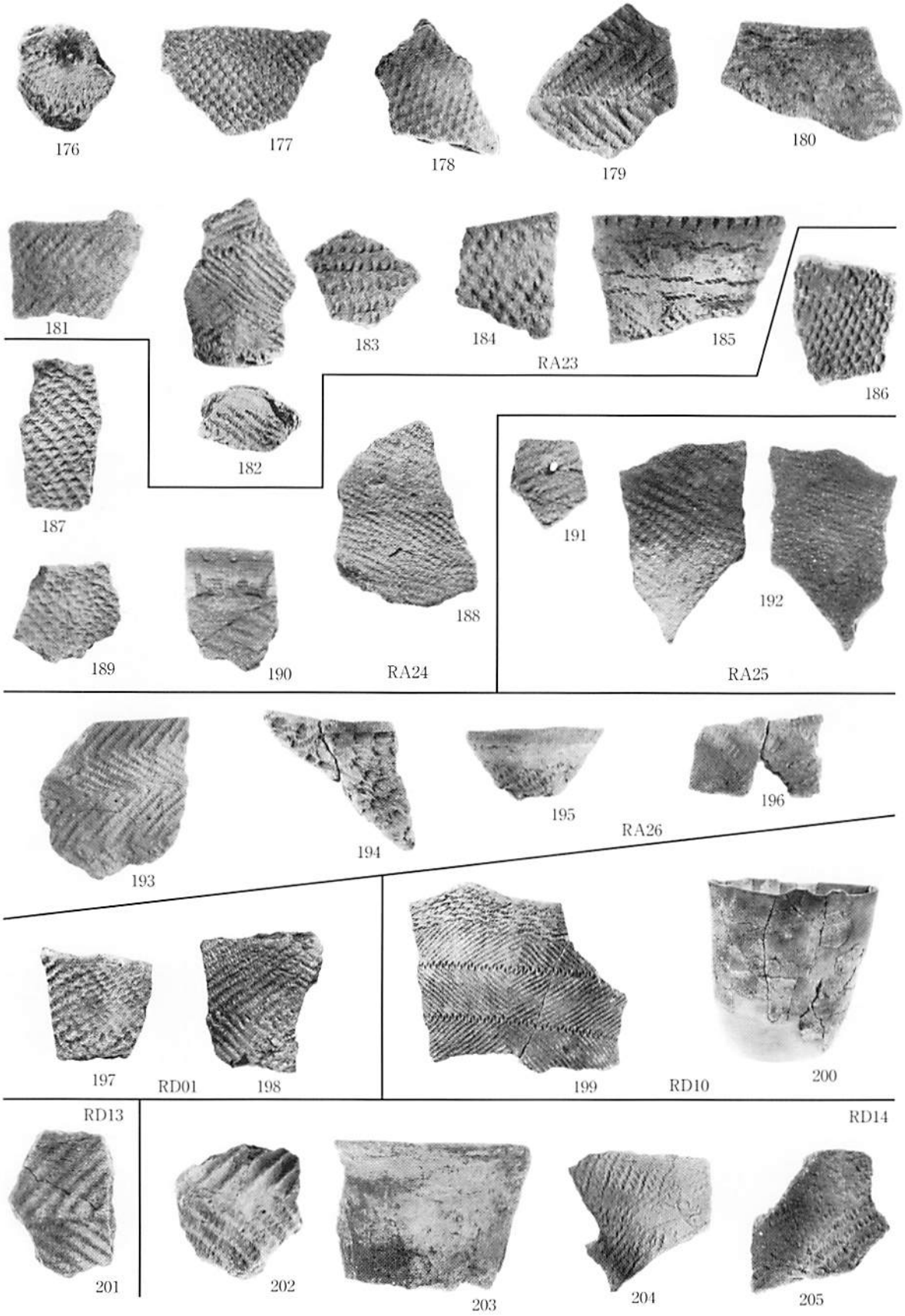
写真図版40　出土遺物（縄文土器 5）



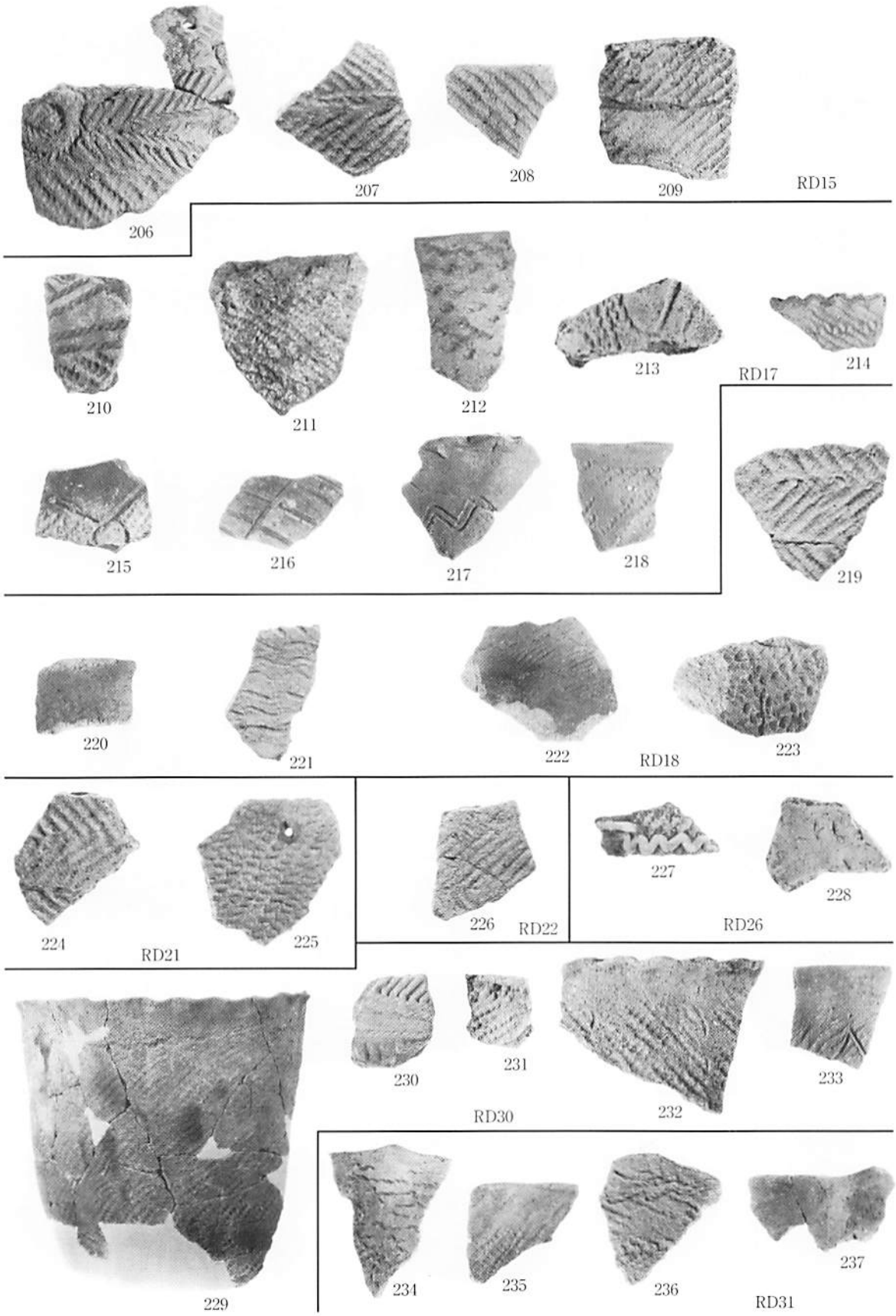
写真図版41　出土遺物（縄文土器 6）



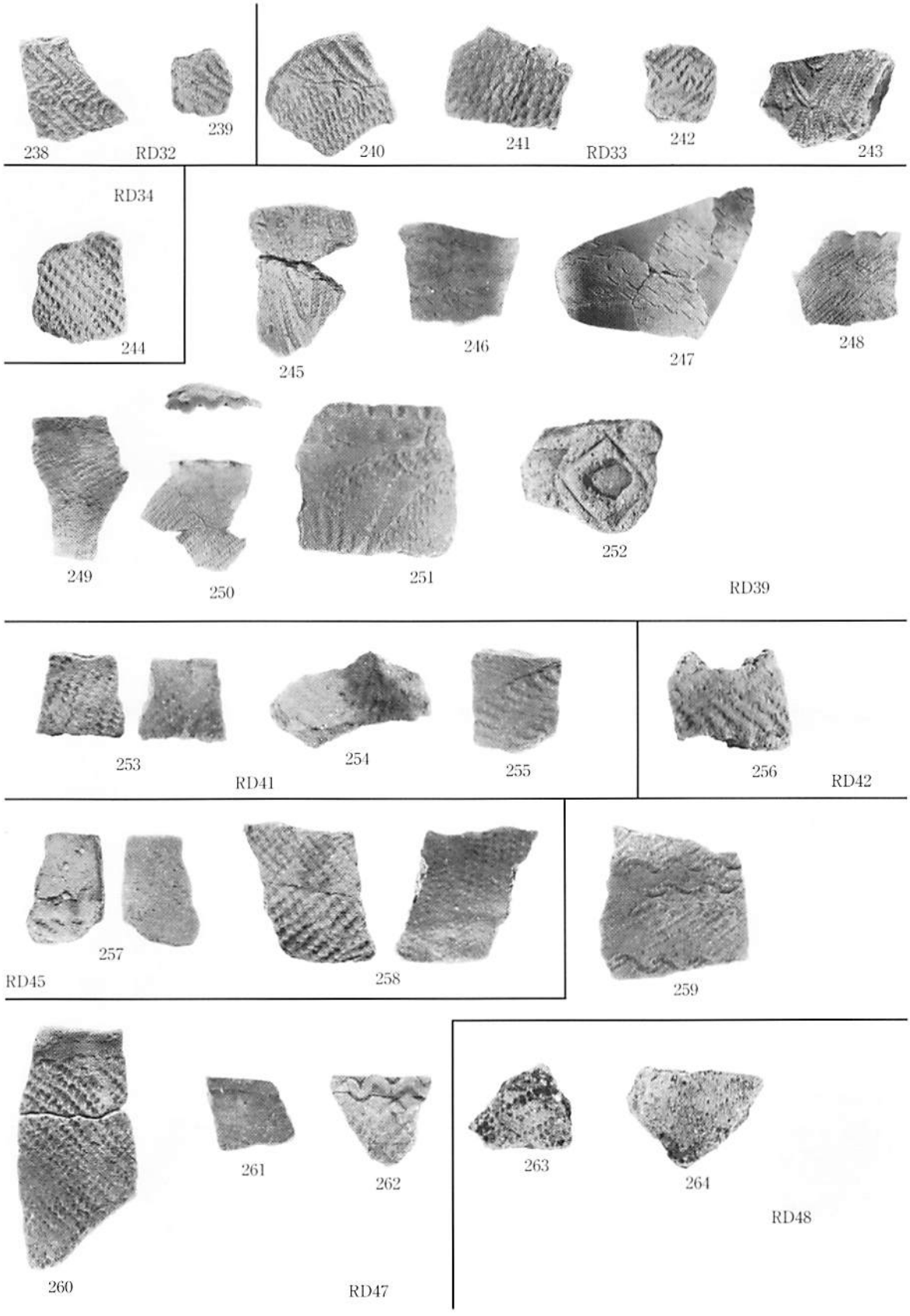
写真図版42　出土遺物（縄文土器 7）



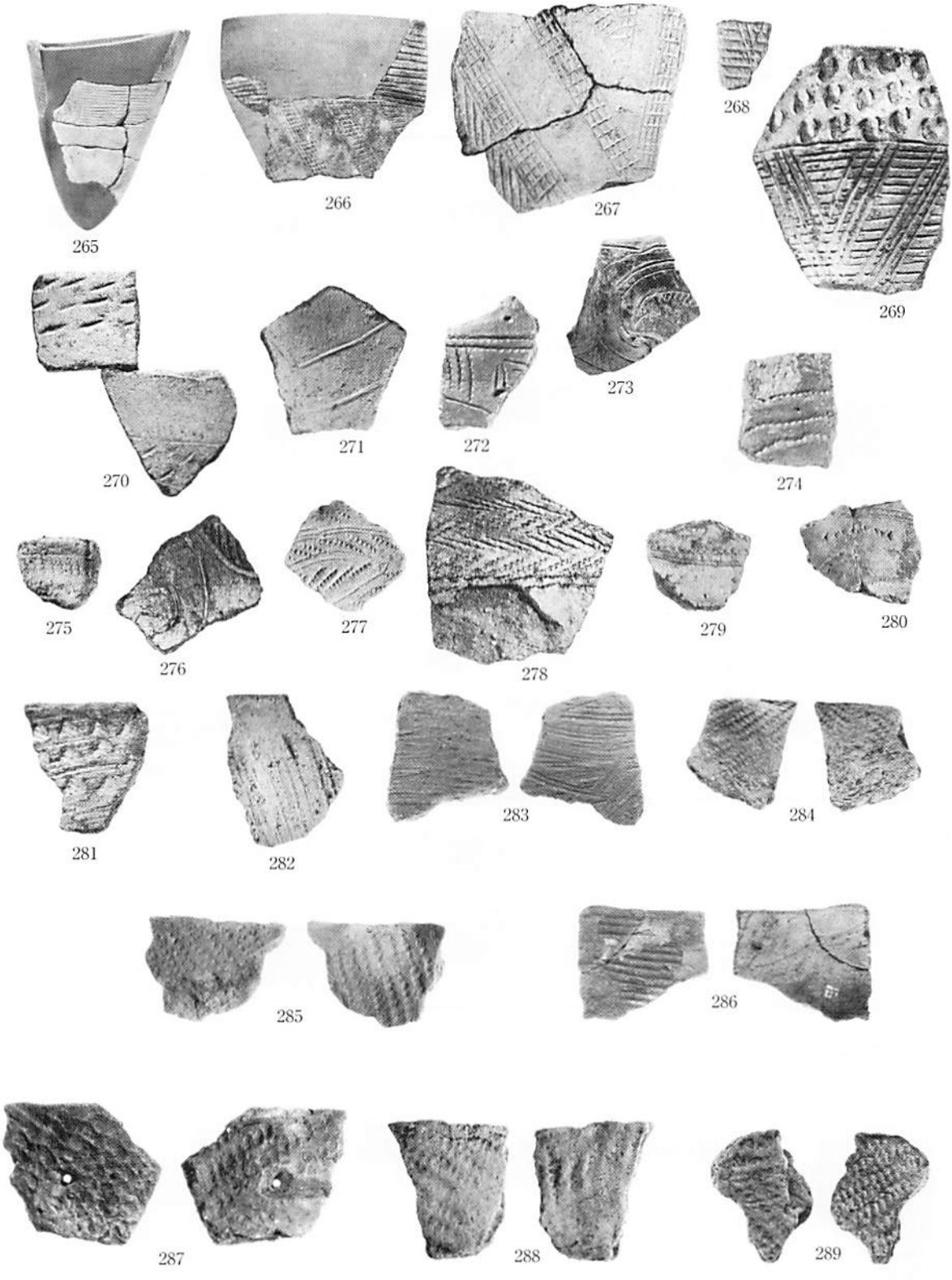
写真図版43　出土遺物（縄文土器 8）



写真図版44　出土遺物（縄文土器 9）

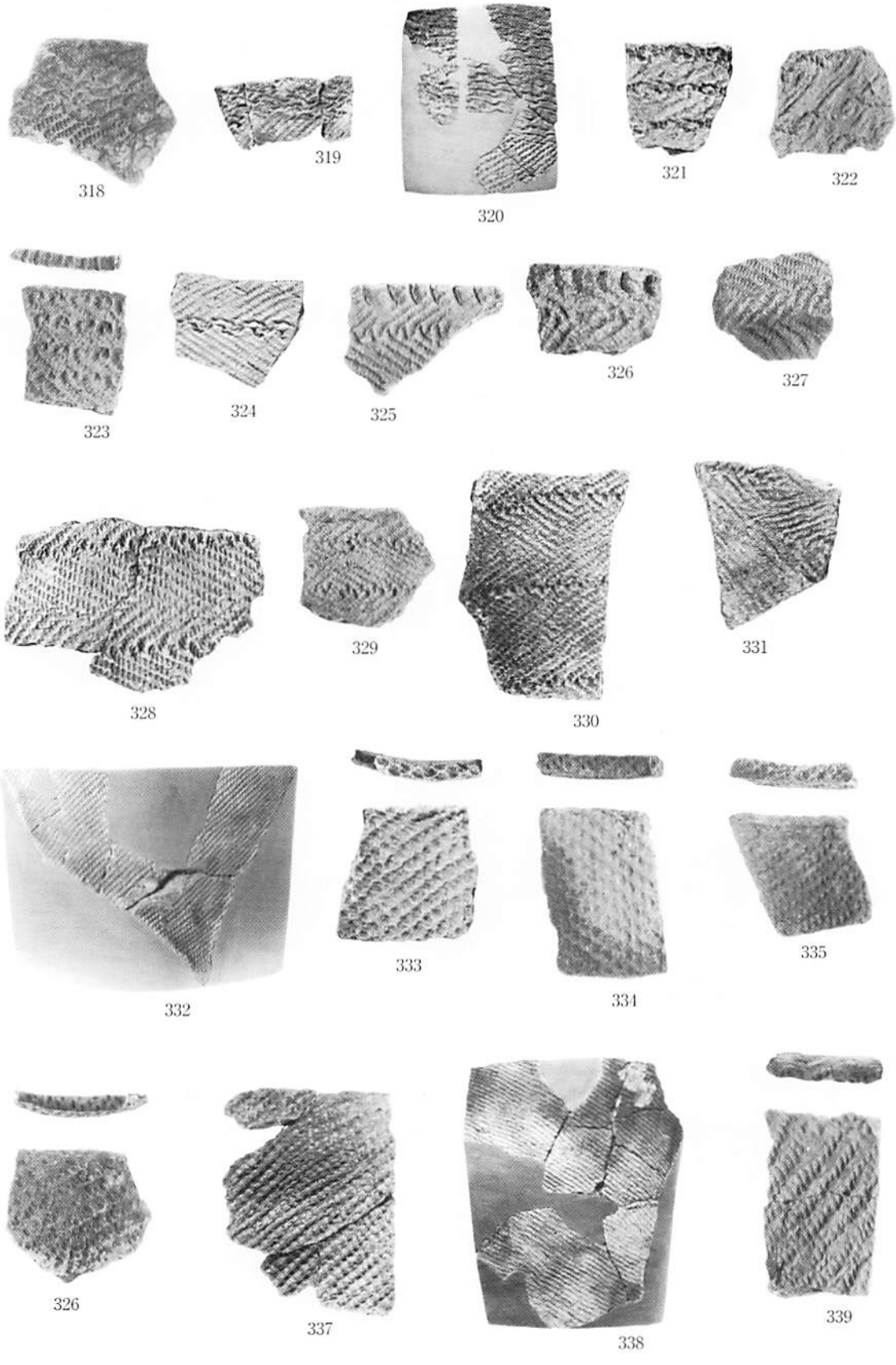


写真図版45　出土遺物（縄文土器 10）

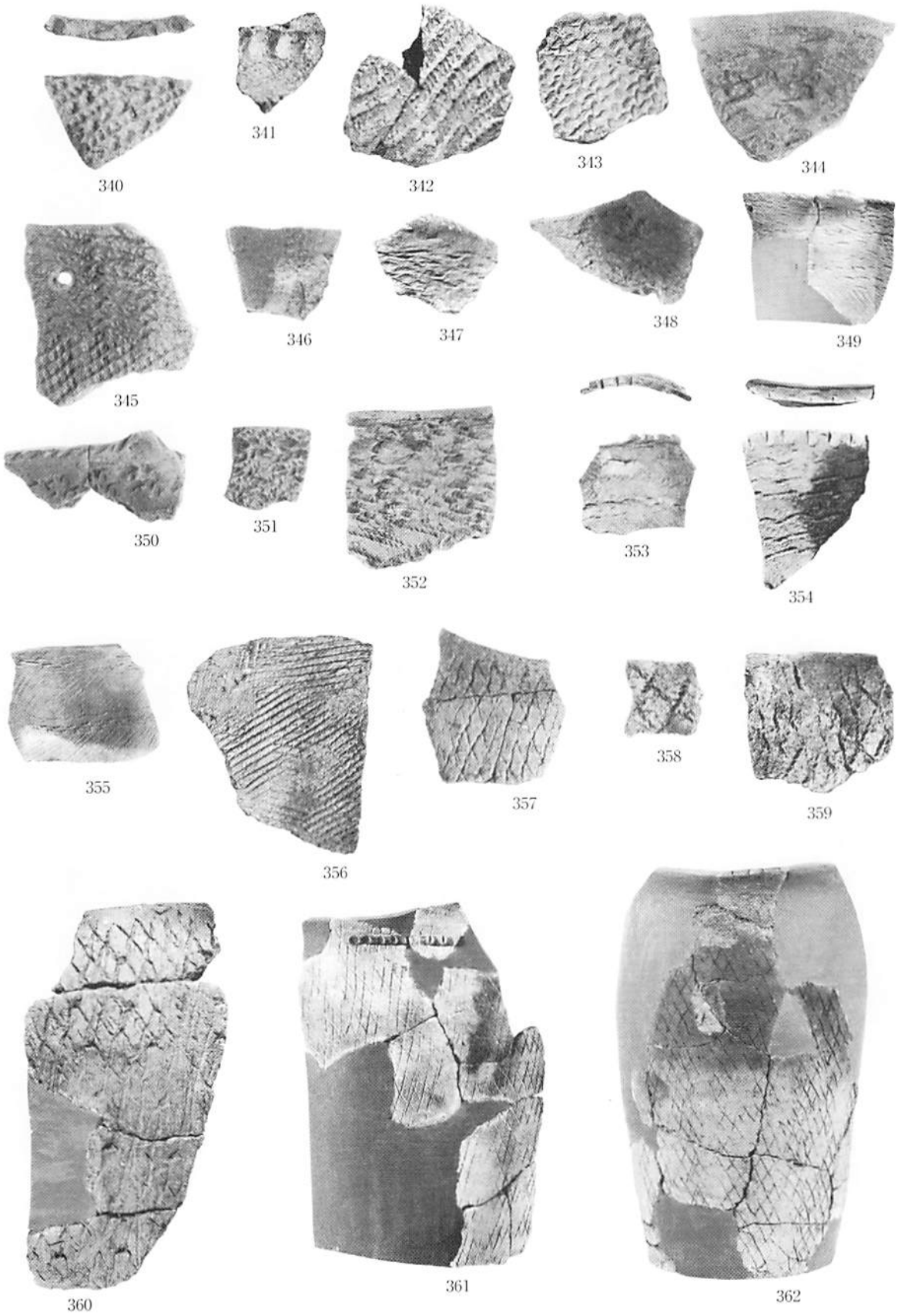


写真図版46　出土遺物（縄文土器 11）

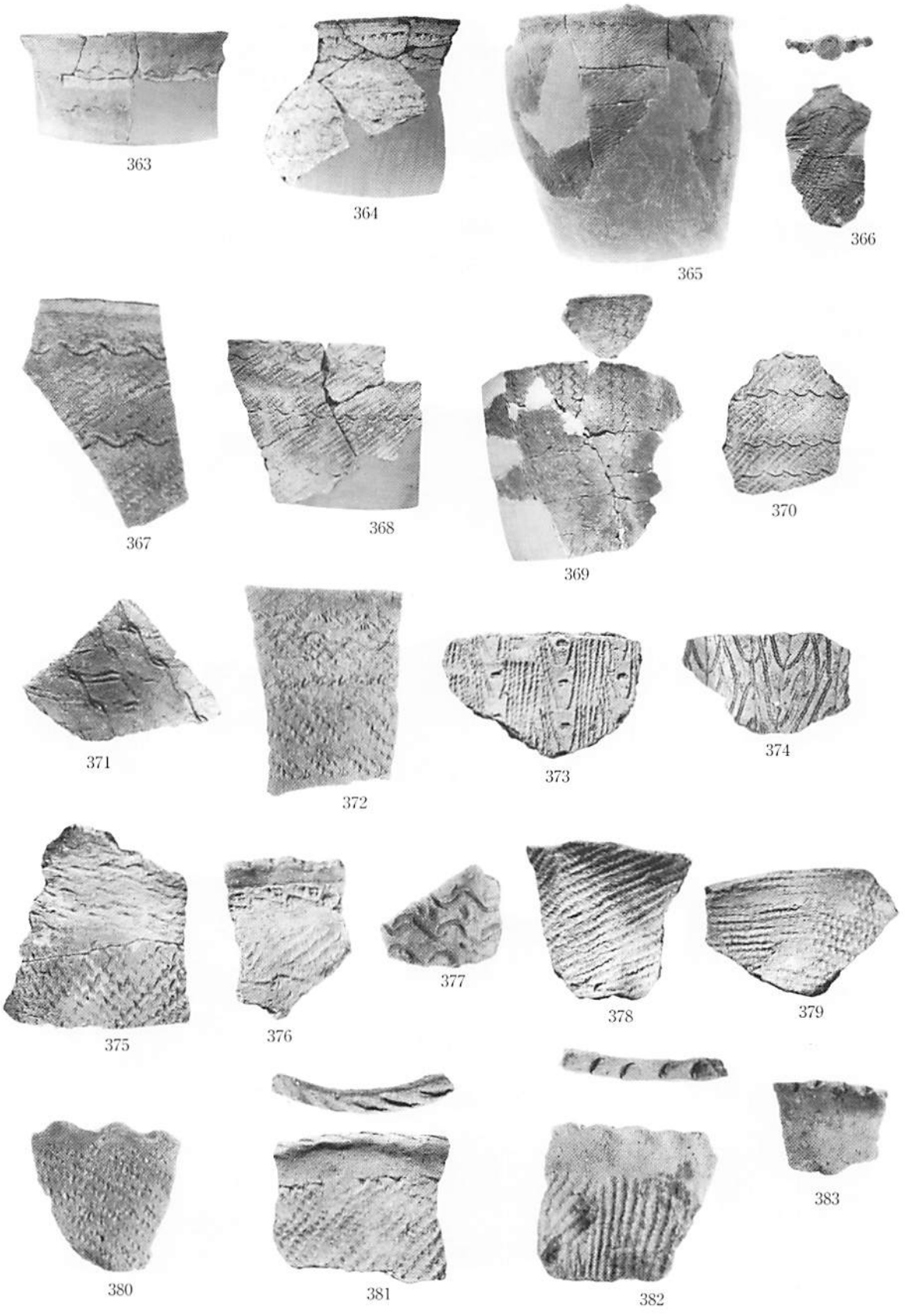
写真図版47　出土遺物（縄文土器 12）



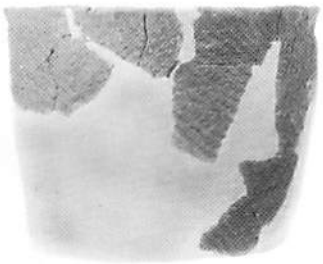
写真図版48　出土遺物（縄文土器 13）



写真図版49　出土遺物（縄文土器 14）



写真図版50　出土遺物（縄文土器 15）


384

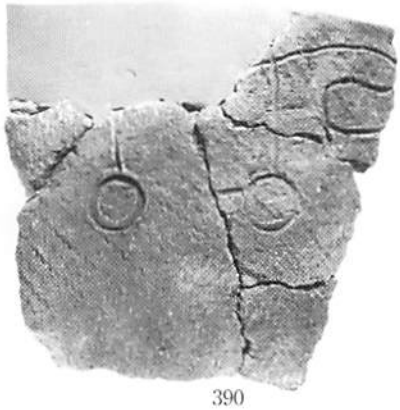
385

386

387

388

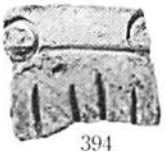
389


390

391

392

393


394

395

396

397

398

399

400

401

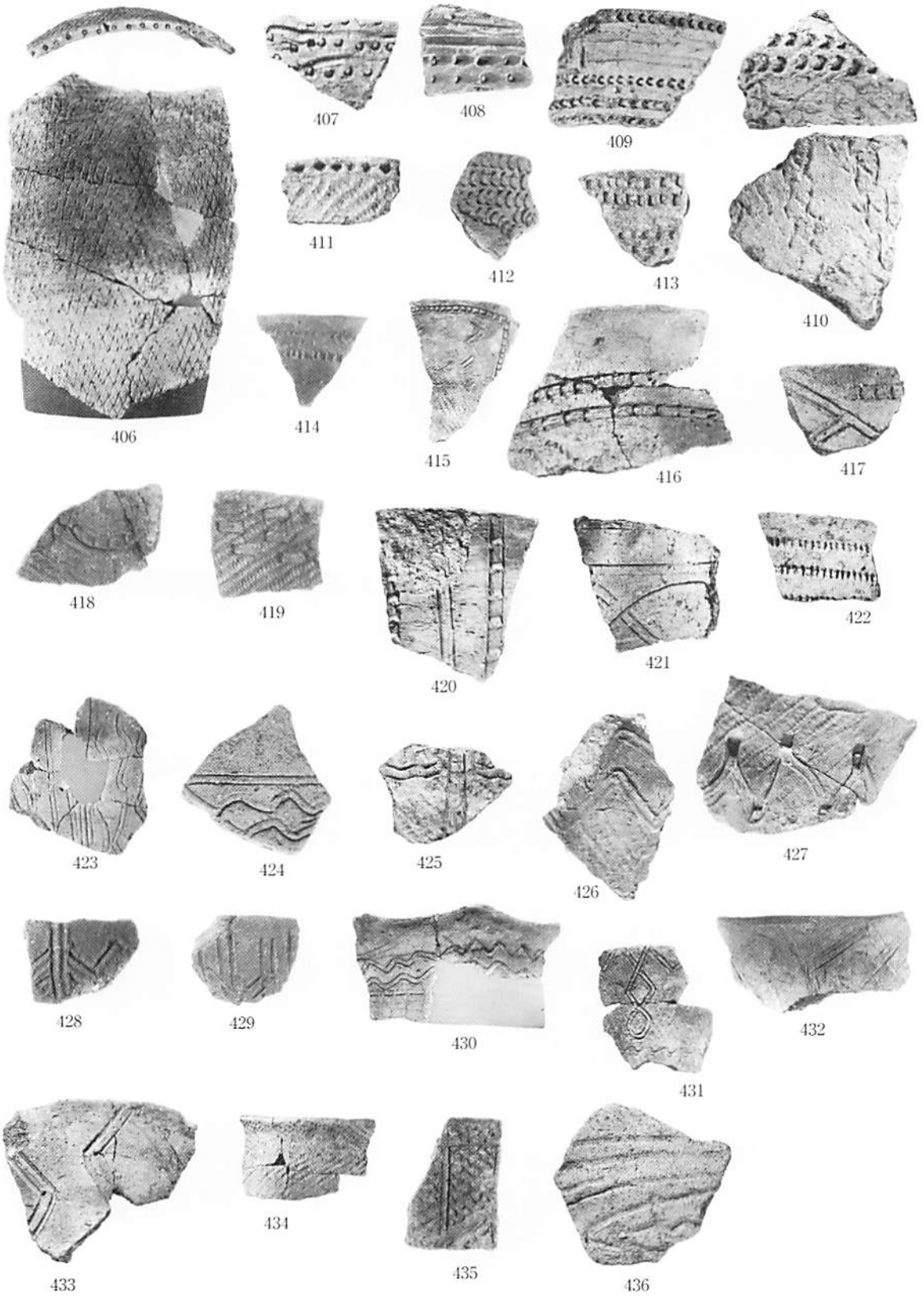
402

403

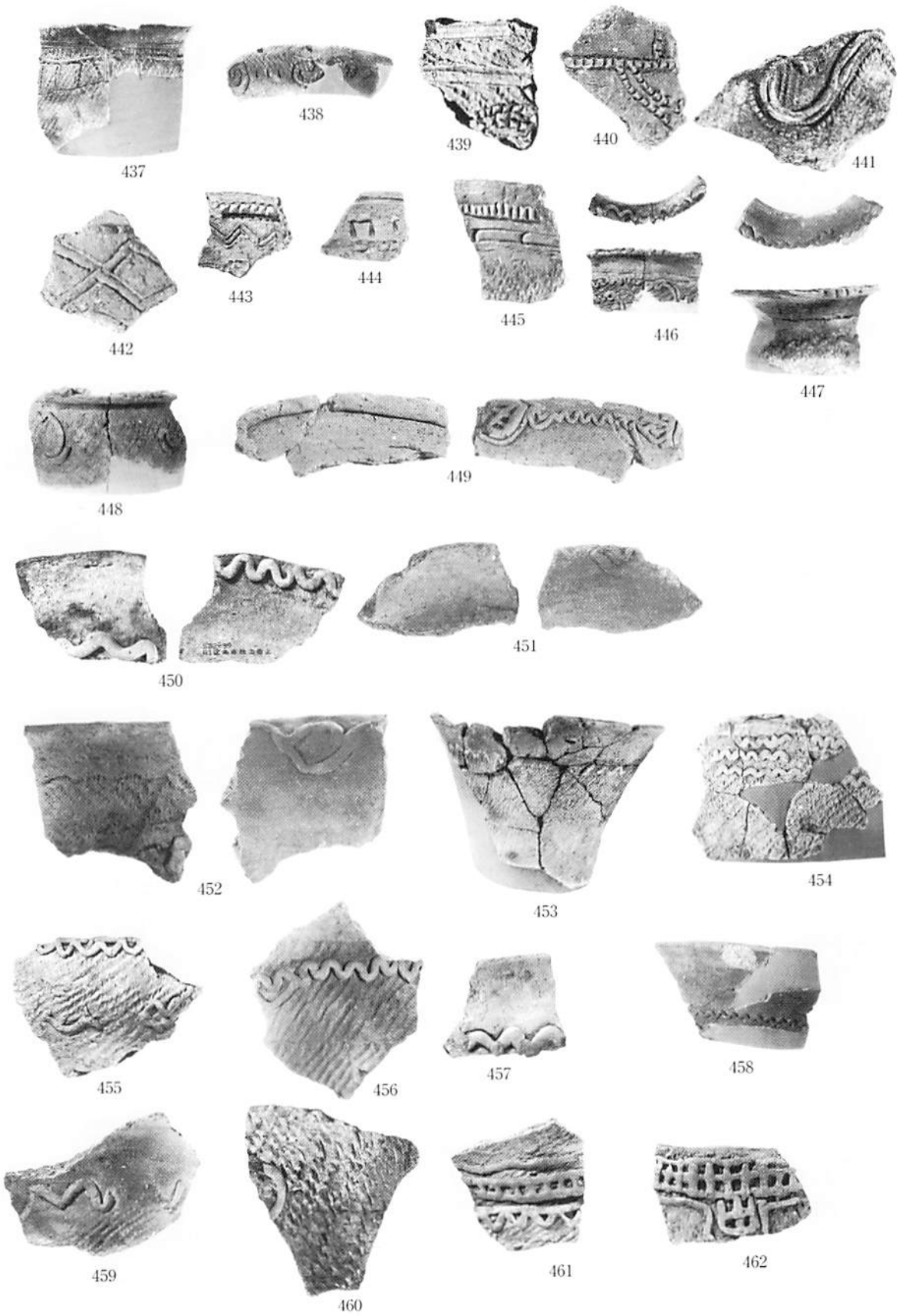
404

405

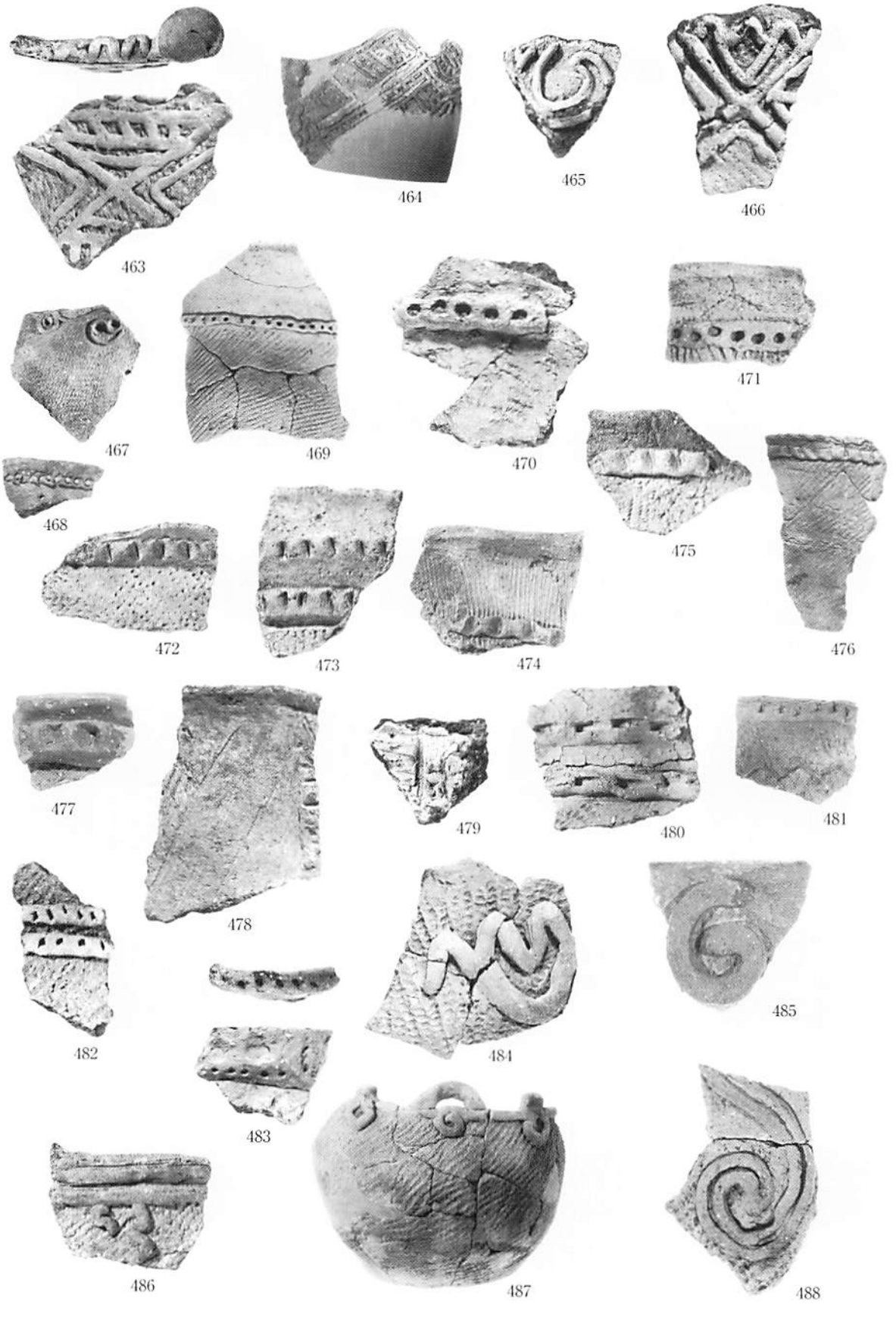
写真図版51　出土遺物（縄文土器 16）



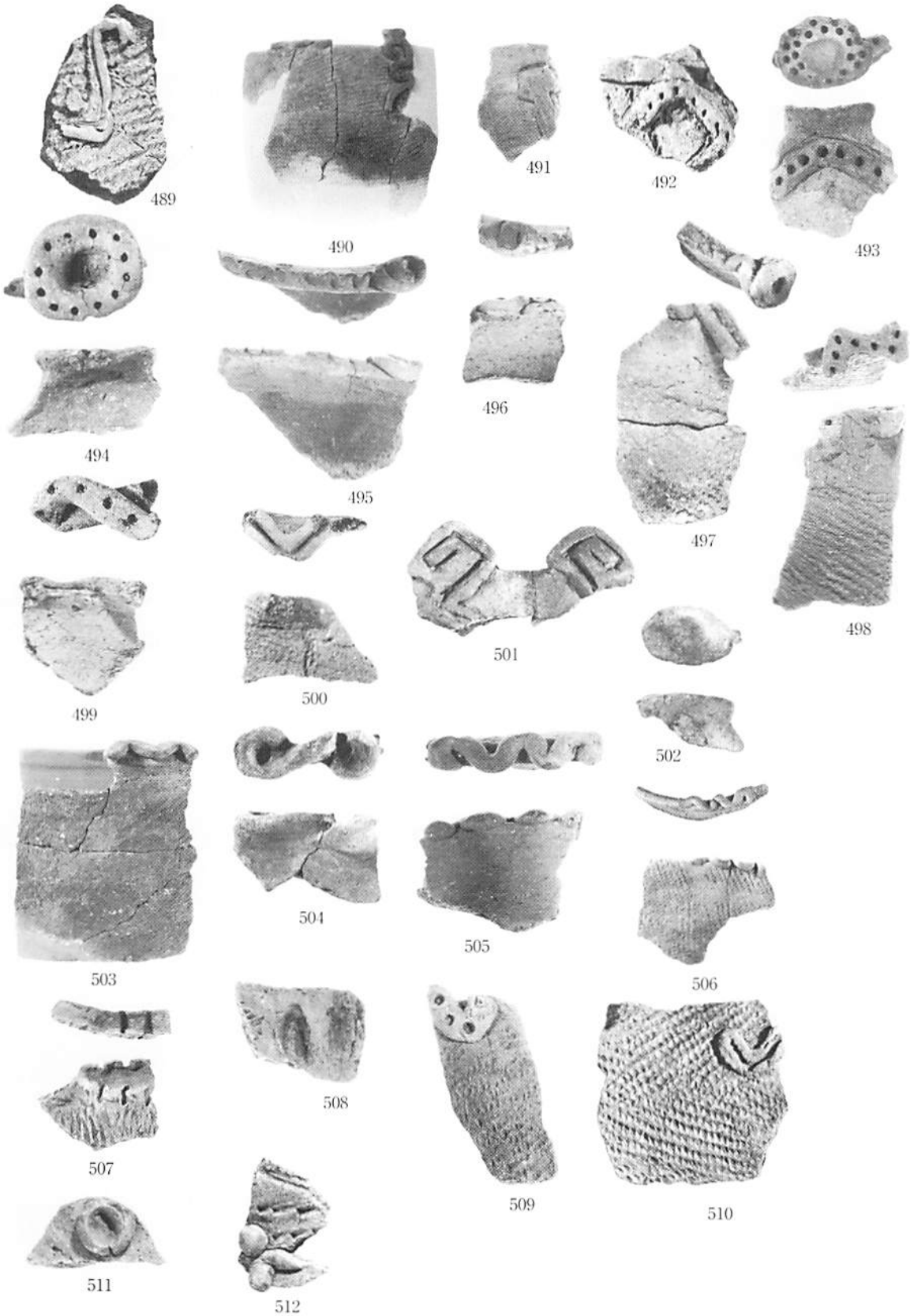
写真図版52　出土遺物（縄文土器 17）



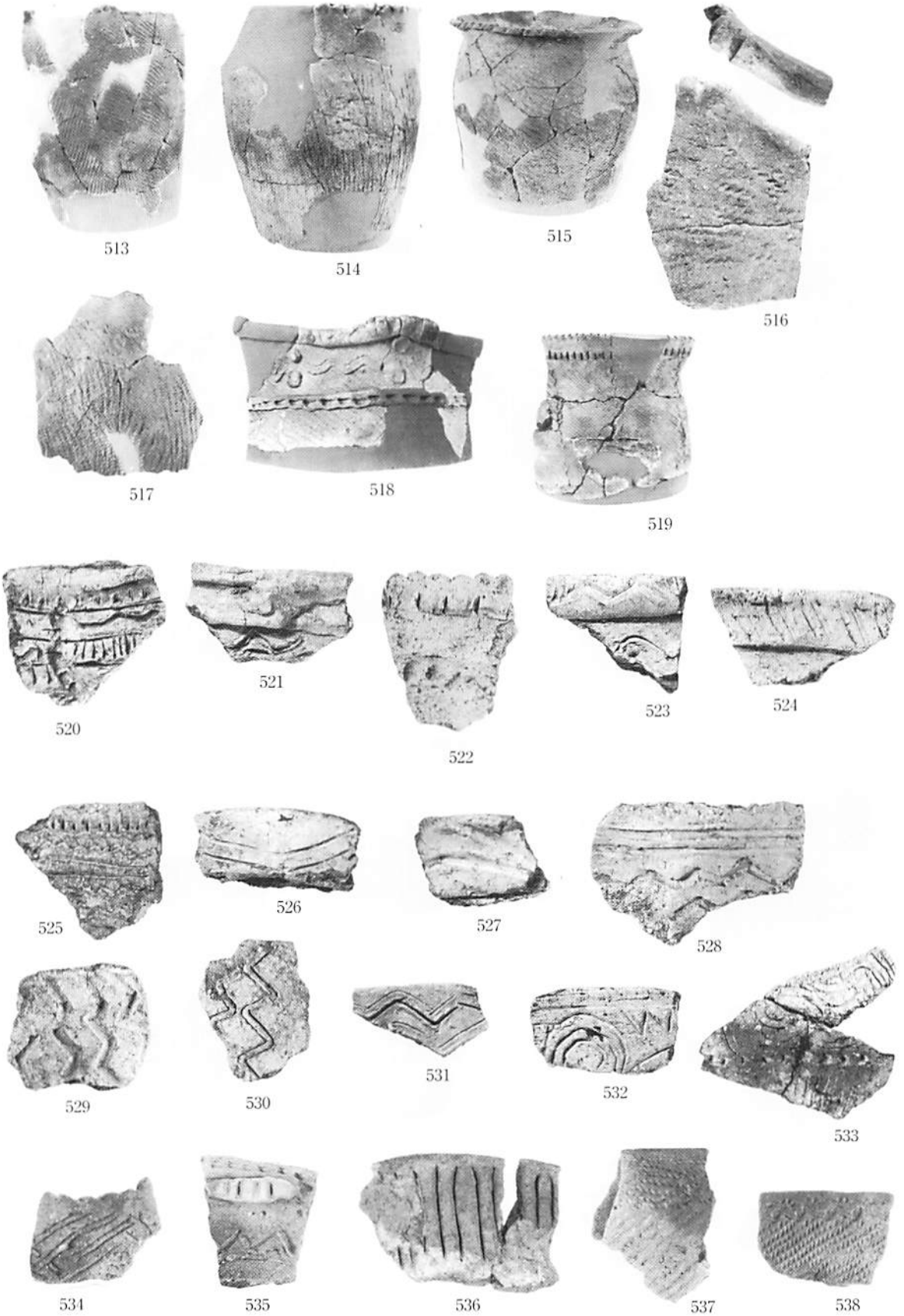
写真図版53　出土遺物（縄文土器 18）



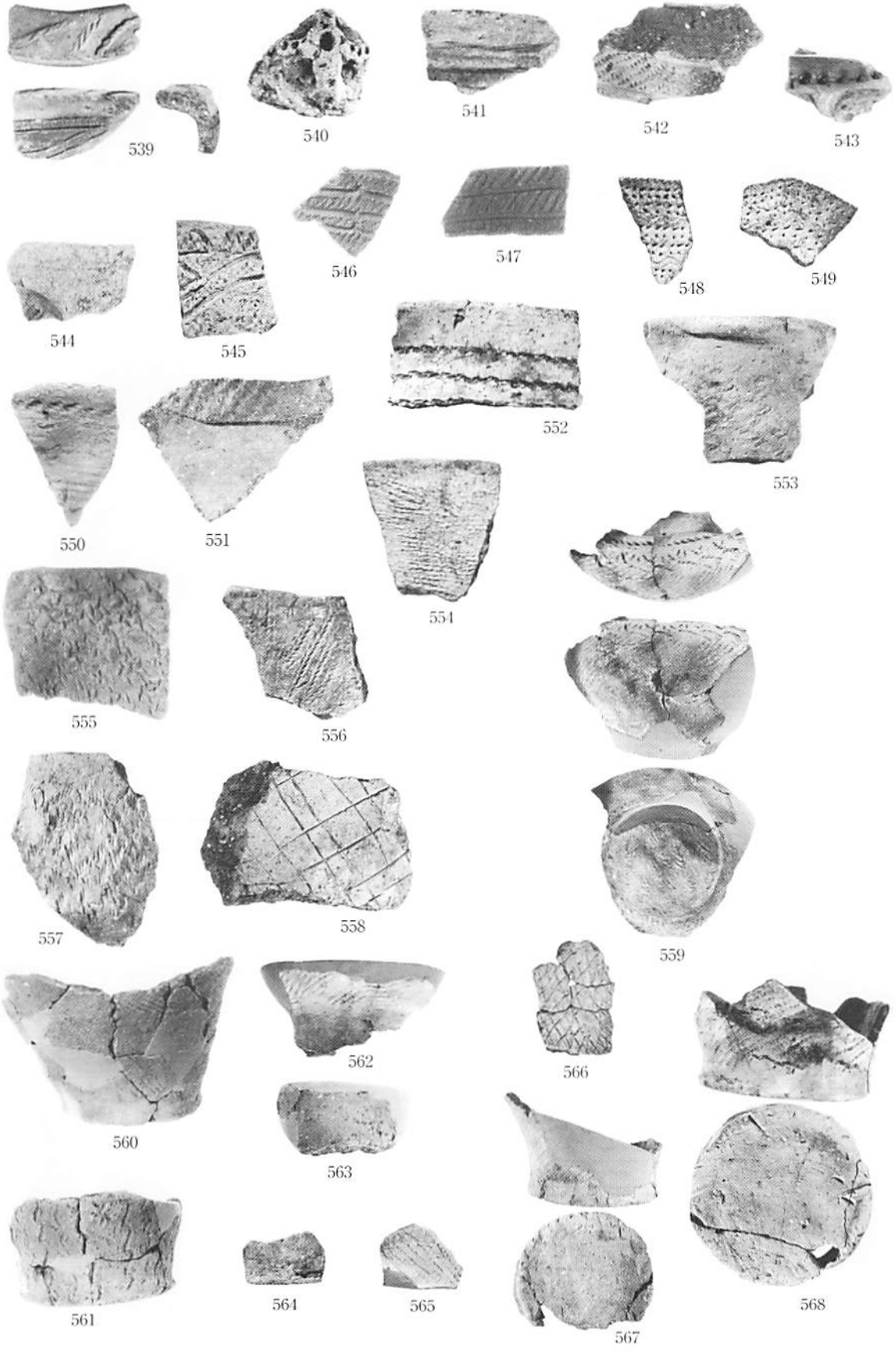
写真図版54　出土遺物（縄文土器 19）



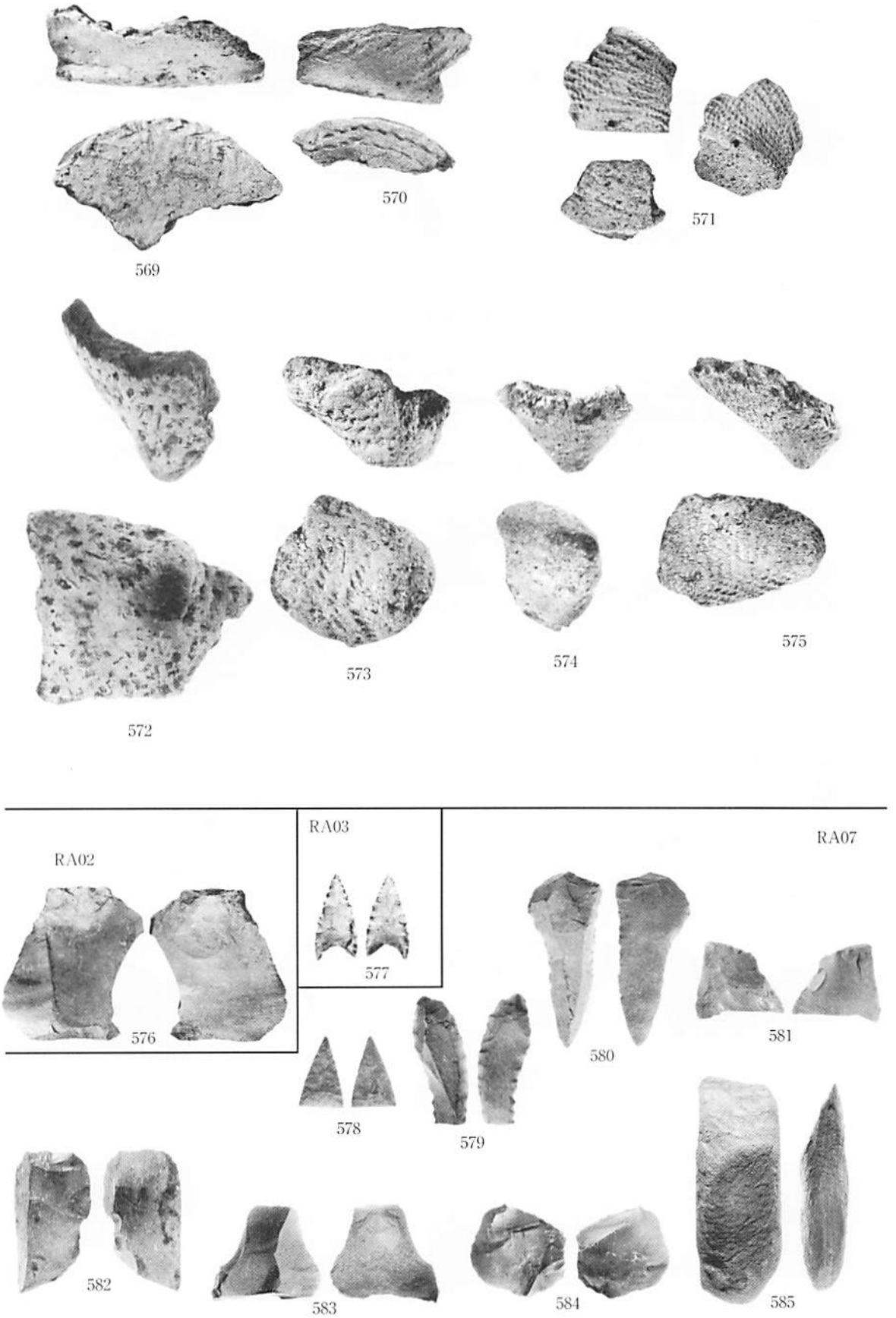
写真図版55　出土遺物（縄文土器 20）



写真図版56　出土遺物（縄文土器 21）

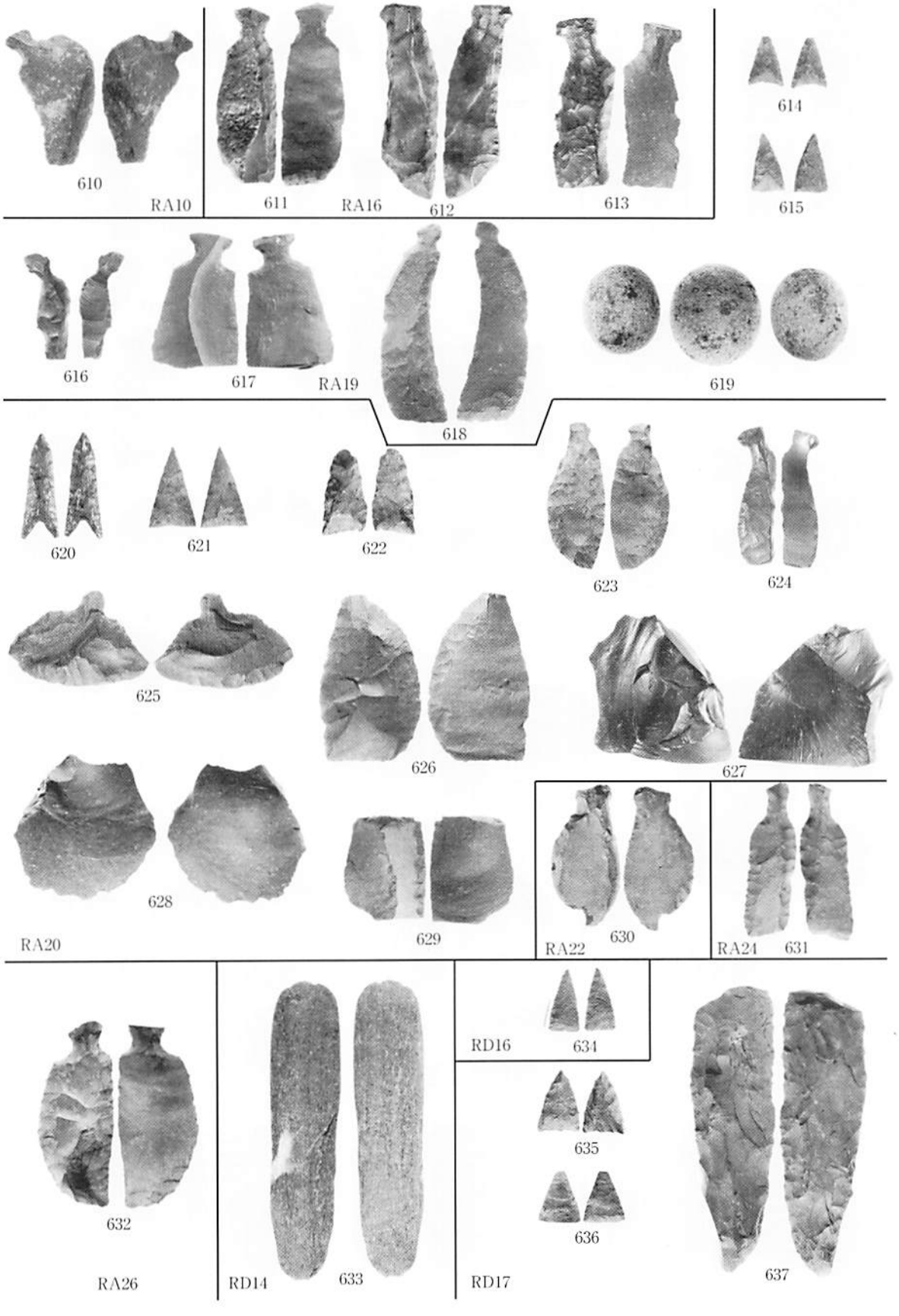


写真図版57　出土遺物（縄文土器 22）

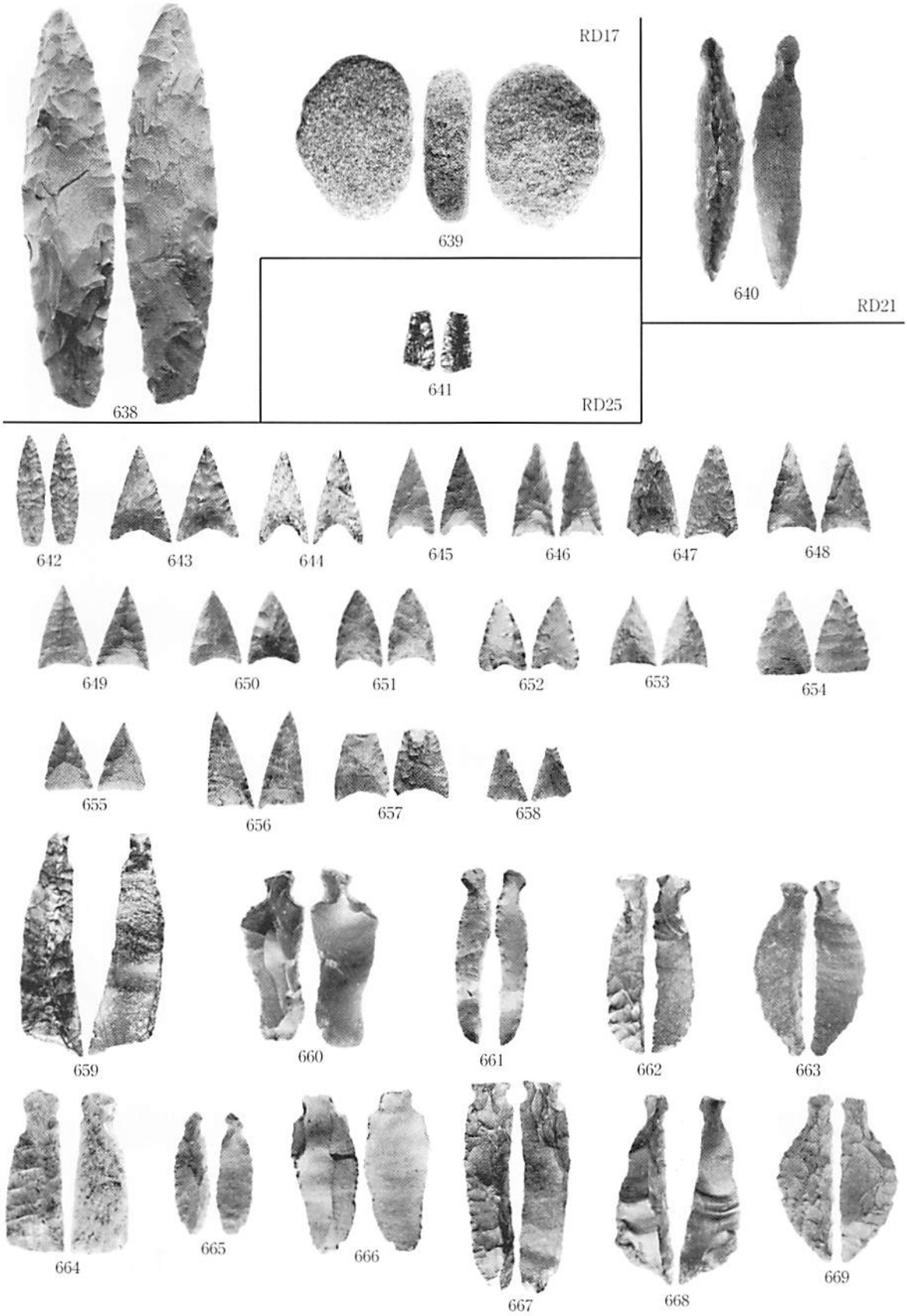


写真図版58　出土遺物（縄文土器 23・石器 1）

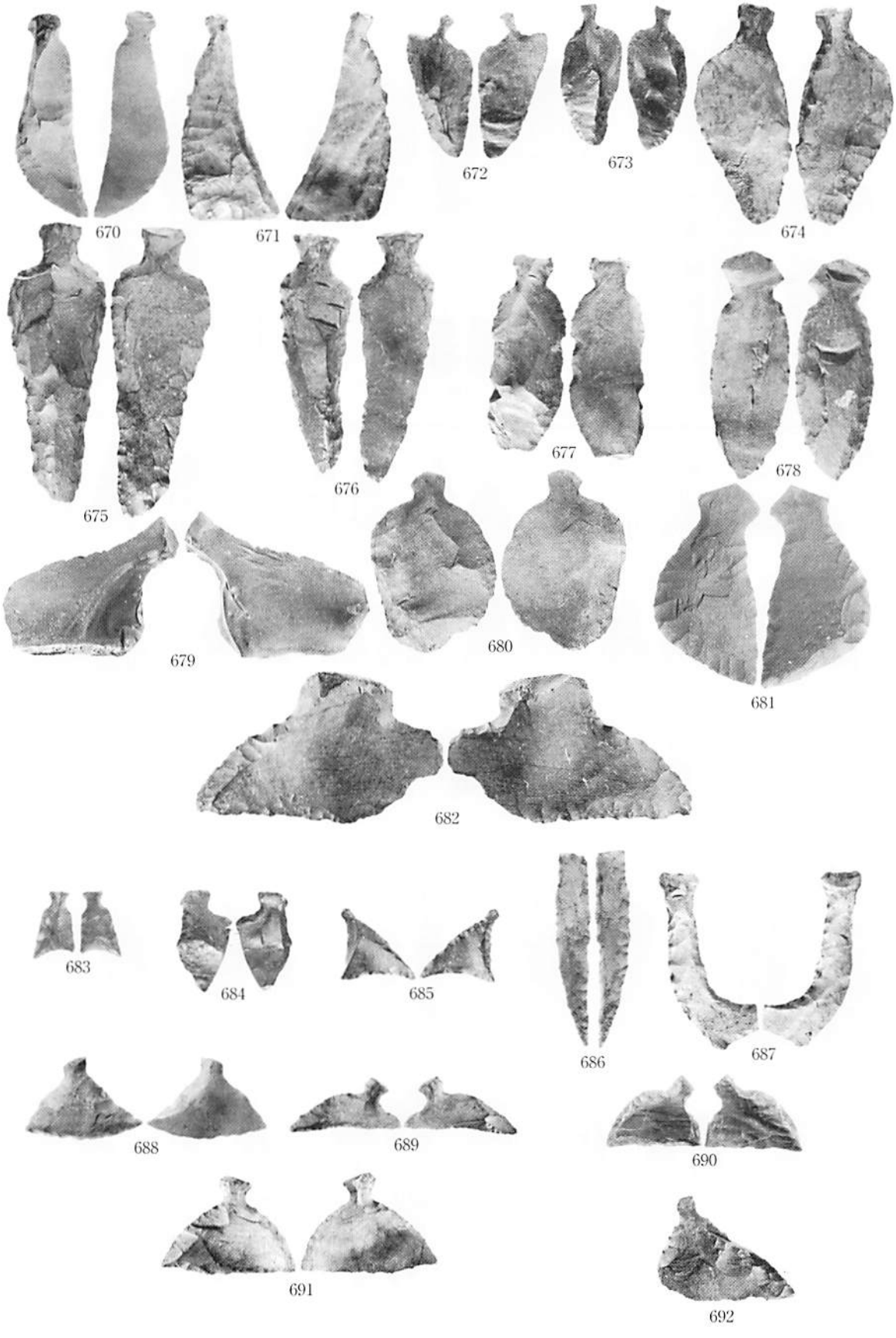
写真図版59　出土遺物（石器 2）



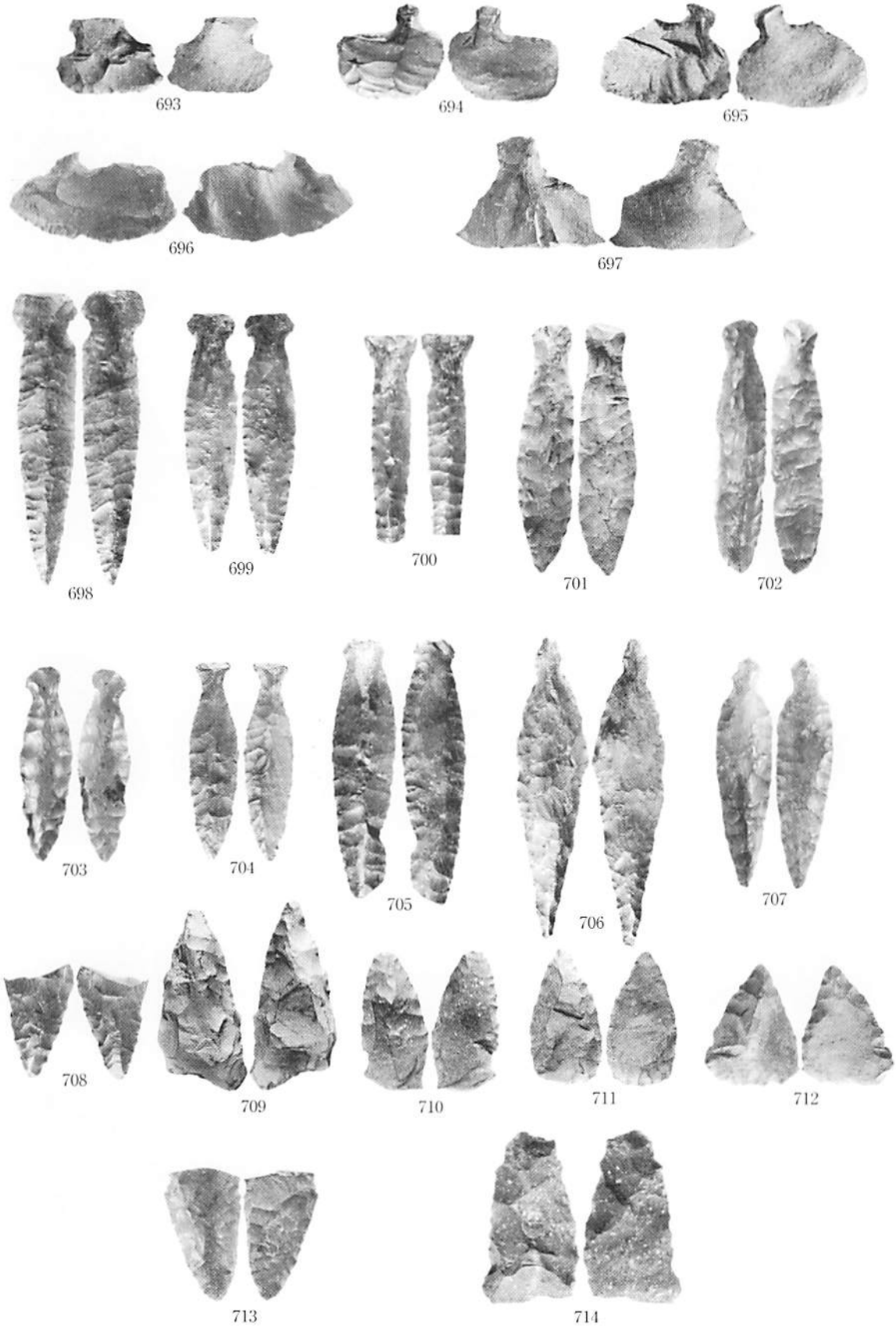
写真図版60　出土遺物（石器 3）



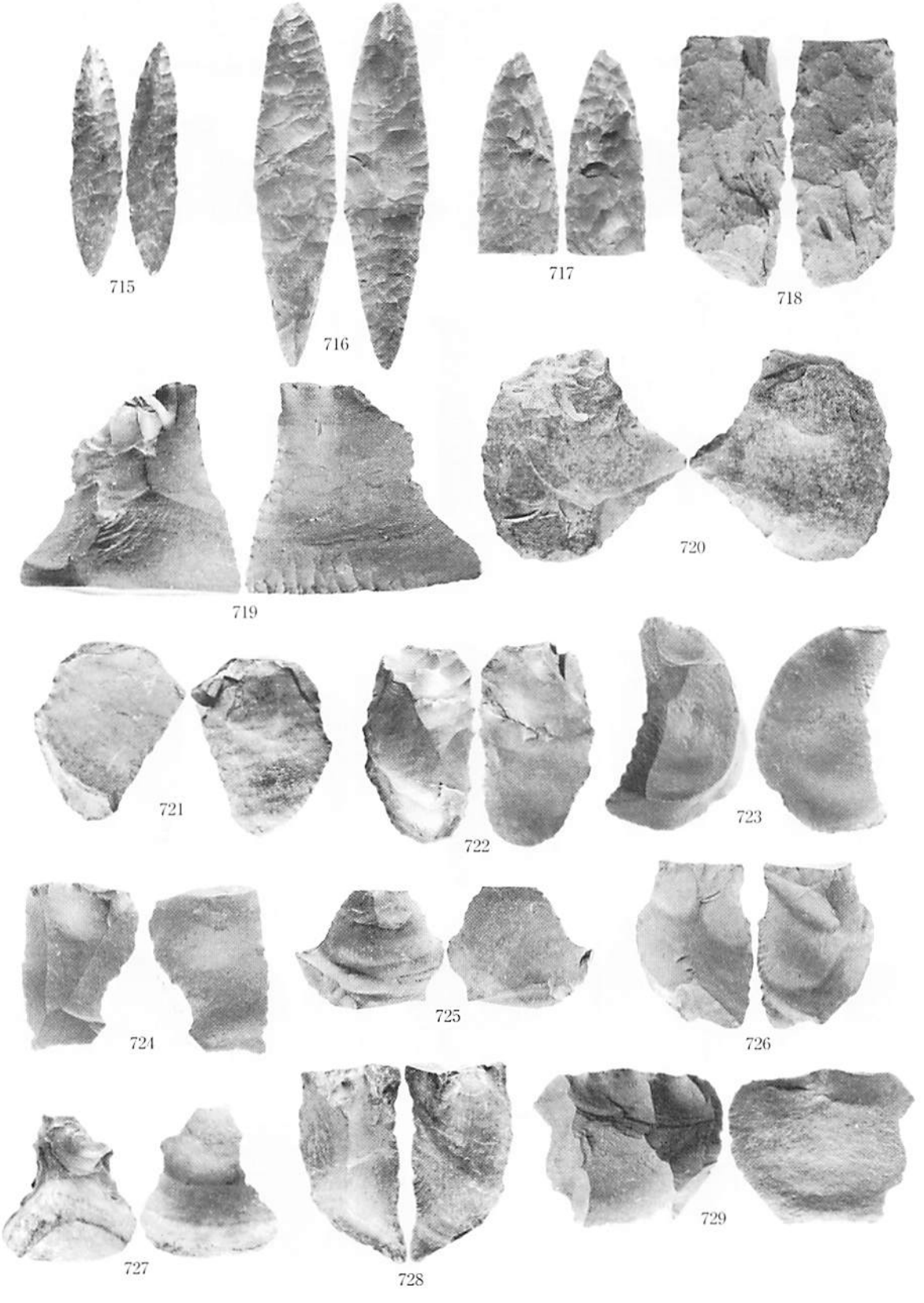
写真図版61　出土遺物（石器４）



写真図版62　出土遺物（石器５）



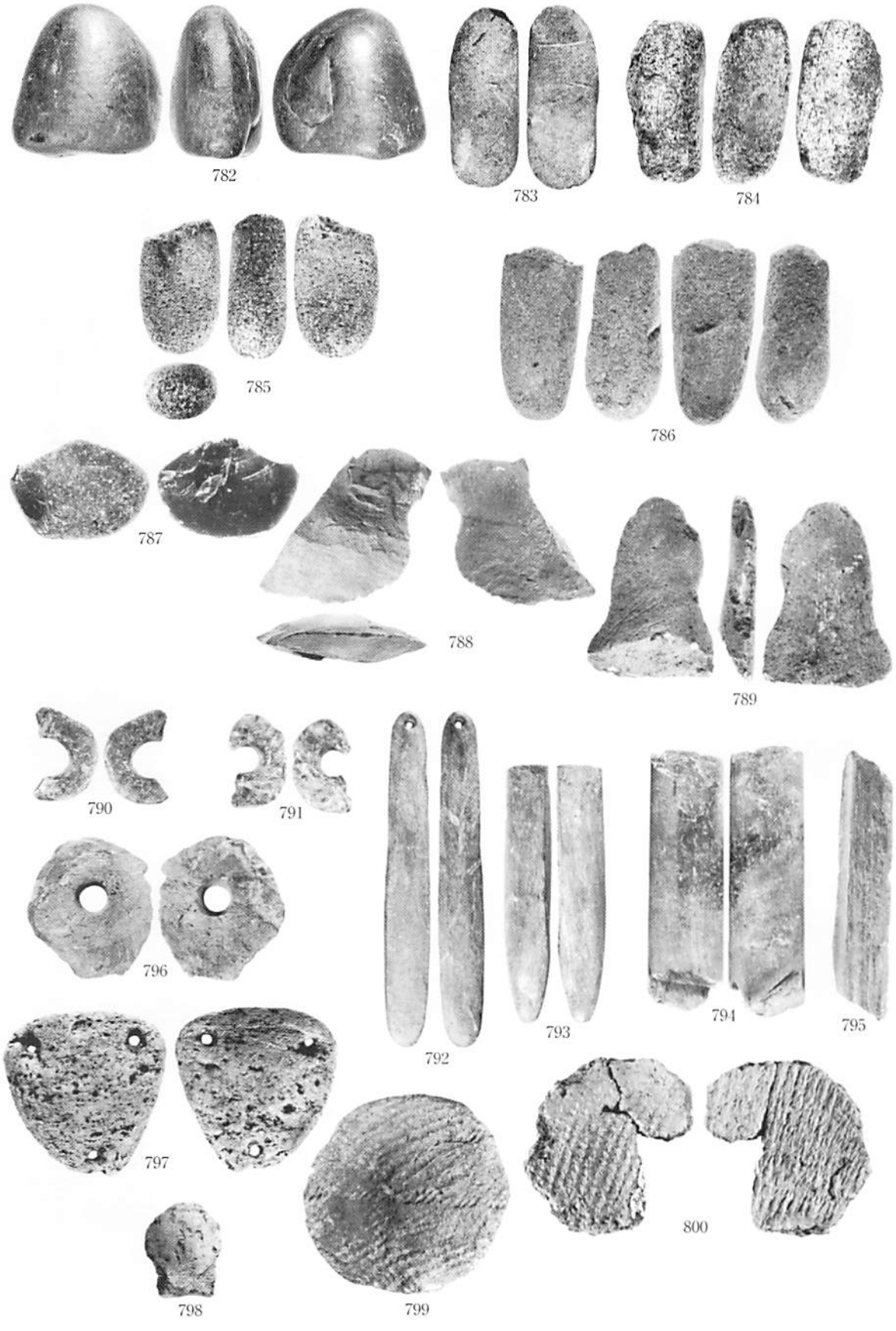
写真図版63　出土遺物（石器６）



写真図版64　出土遺物（石器７）

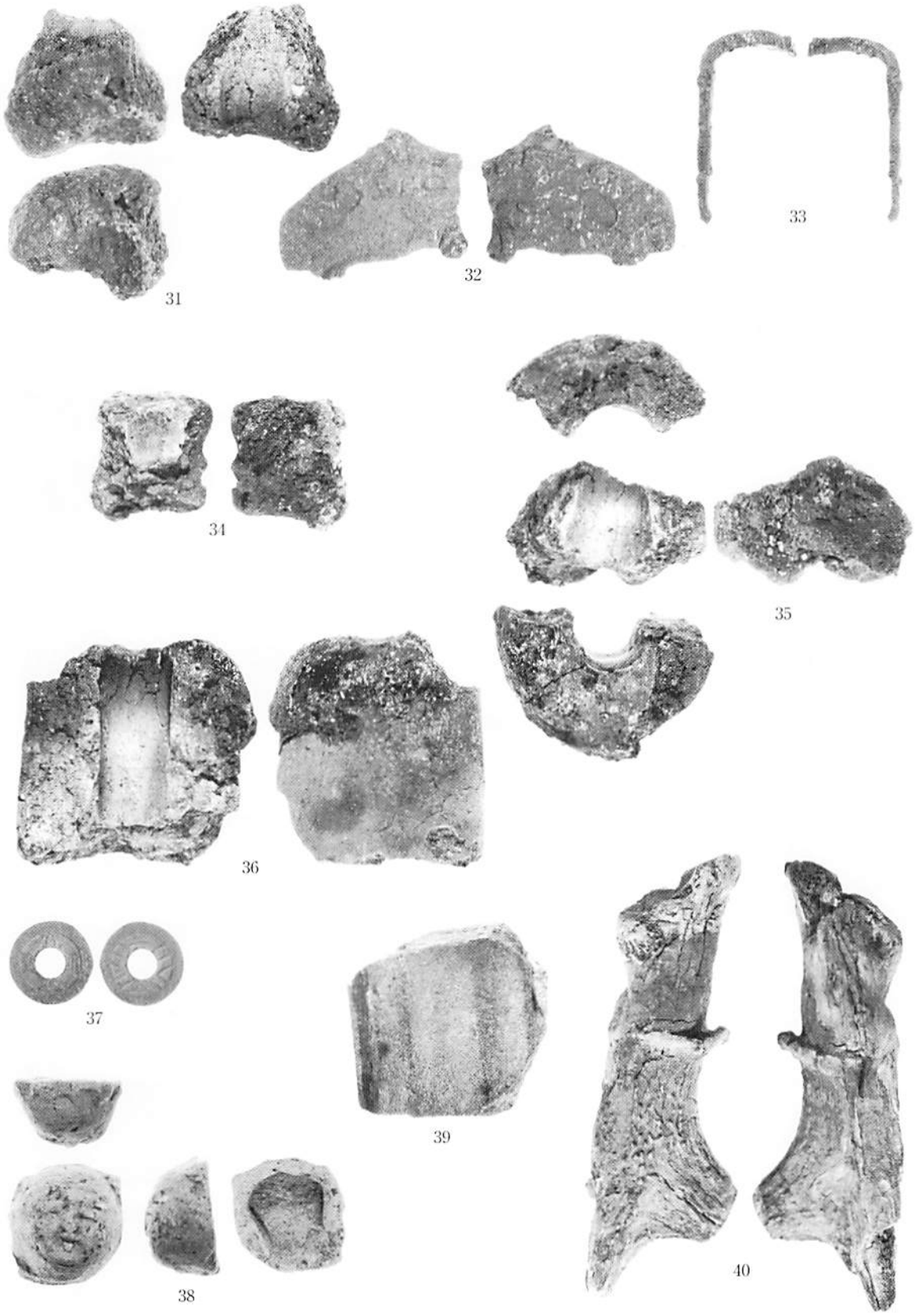
写真図版65　出土遺物（石器８）

写真図版66　出土遺物（石器９）



写真図版67　出土遺物（石器10・石製品・土製品）

写真図版68　出土遺物（　近世１　）



写真図版69　出土遺物（　近世２　）

写真図版70　出土遺物（　近世３　）

報告書抄録

ふりがな	さわだにいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	沢田2遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第396集
編集者名	鳥居達人　亀大二郎
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　TEL　019－638－9001
発行年月日	2002年3月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
沢田2遺跡	岩手県釜石市 栗林町第11地 割1番地1ほか	03211	MG31 －2270	39度 21分 05秒	141度 49分 47秒	19990816～ 19991030 20010806～ 20011114	1999年 1,460㎡ 2001年 2,116㎡	主要地方道釜石遠野線沢田地区緊急地方整備事業の施行に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沢田2遺跡	集落跡	縄文時代前期前葉から中近世	竪穴住居跡　27棟 土坑　47基 遺物包含層　1カ所	縄文時代中期中葉から前期後葉にかけての土器 貝殻沈線文土器 表裏縄文土器 上川名Ⅱ式土器 大木1～6式土器 石器・石製品・土製品 尖頭器　石鏃　石匙 装飾品 円盤形土製品など	礫面を壁にする前期中葉の大型の竪穴住居跡 前期前葉の集石土坑 蛇王洞Ⅱ式土器 諸磯式土器 黒曜石
	鍛冶跡	近世	鍛冶炉　6基 土坑　9基	鉄製品・陶磁器 釘・寛永通寶など	
		時代不明	掘立柱建物跡　2基		

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長	伊藤民也	副所長	高橋正儀

〔管理課〕

管理課長	韮沢正吾	嘱託	高橋照雄
管理課長補佐	山崎善光	〃	佐々木光重
〃	山岸直美	〃	加藤美代子
主査	立花多加志	〃	湯沢邦子

〔調査第一課〕

調査第一課長	佐々木勝
課長補佐	佐々木清文
〃	高橋義介
文化財専門員	小山内透
文化財調査員	中田迪
〃	飯森秀文
〃	赤石登
〃	吉田充
〃	亀大二郎
〃	小原眞一
〃	佐々木信一
〃	小笠原健一郎
〃	金野進
〃	小松則也
〃	岩渕計
〃	鳥居達人
〃	金子昭彦
〃	羽柴直人
〃	千葉正彦
〃	長村克稔
〃	星幸文
〃	佐藤あき子
〃	菊池貴広
〃	村上拓
〃	本多準一郎
〃	村木敬
〃	北村忠昭
〃	高瀬克範
〃	丸山浩治
〃	島原弘征
〃	中村絵美
期限付調査員	小林弘卓
〃	江藤敦
〃	菊池賢
〃	井上信介
〃	川又晋
〃	吉田真由美
〃	坂部恵造
〃	木村ひかり

〔調査第二課〕

調査第二課長	高橋與右衛門
課長補佐	中川重紀
文化財専門員	金子佐知子
文化財調査員	阿部眞澄
〃	飯坂一重
〃	阿部徹
〃	濱田宏
〃	安藤由紀夫
〃	高木晃
〃	佐藤淳一
〃	星雅之
〃	菅原靖男
〃	半澤武彦
〃	杉沢昭太郎
〃	溜浩二郎
〃	中村直美
〃	西澤正晴
〃	八木勝枝
〃	（阿部勝則）
期限付調査員	吉川徹
〃	北田勲
〃	吉田里和
〃	原美津子
〃	齋藤麻紀子
〃	駒木野智寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書396集

沢田2遺跡発掘調査報告書

一般県道釜石遠野線沢田地区緊急整備事業

印刷　平成14年3月8日
発行　平成14年3月15日

発　行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185
TEL (019) 638－9001
FAX (019) 638－8563

印　刷　河北印刷株式会社
〒020－0015　岩手県盛岡市本町通2丁目8－7
TEL (019) 623－4256
FAX (019) 623－0976

©(財)岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センター　2002